

A99
Z
28a



0010209000

0010209-000

A99-Z-28

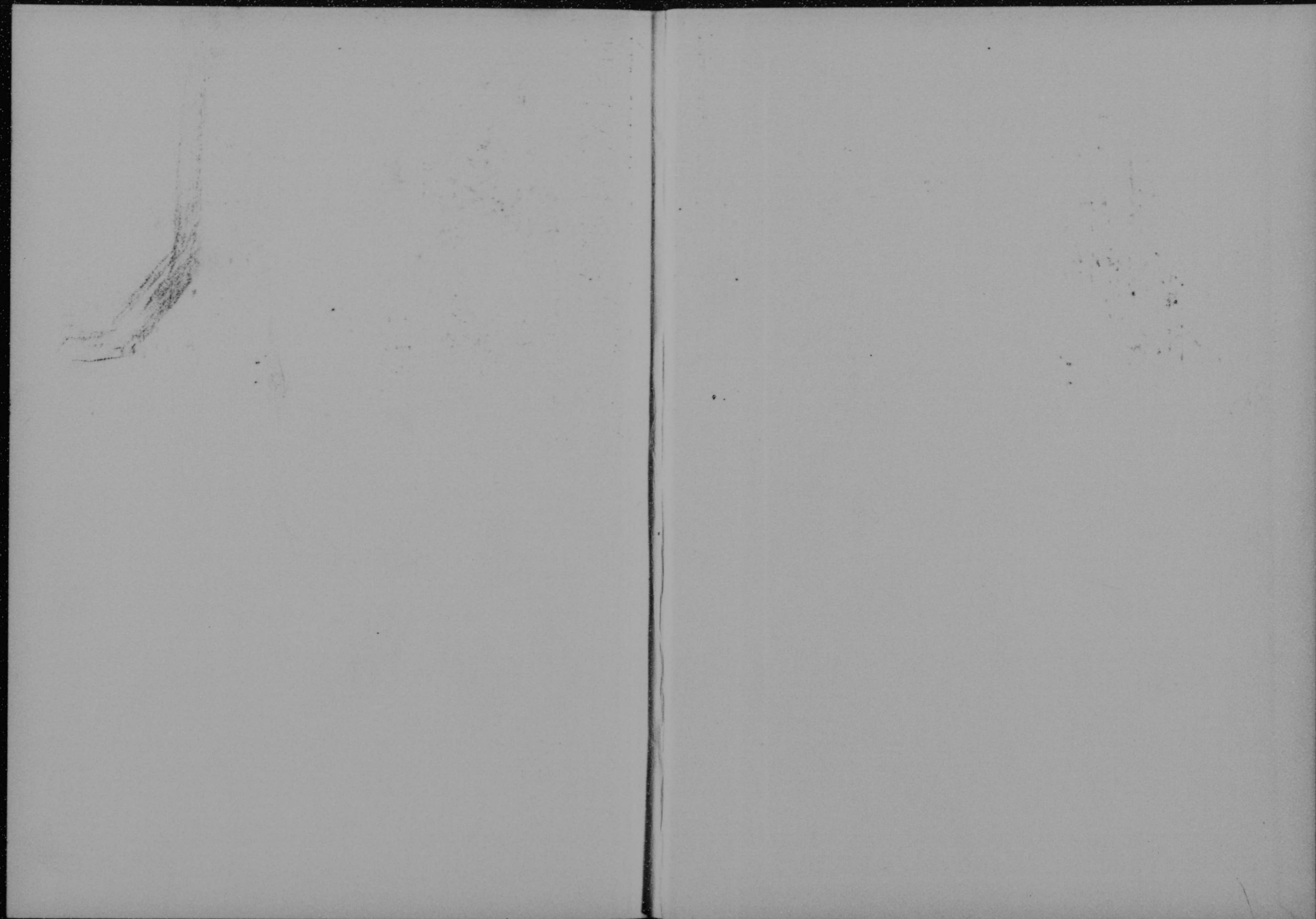
政府公表集

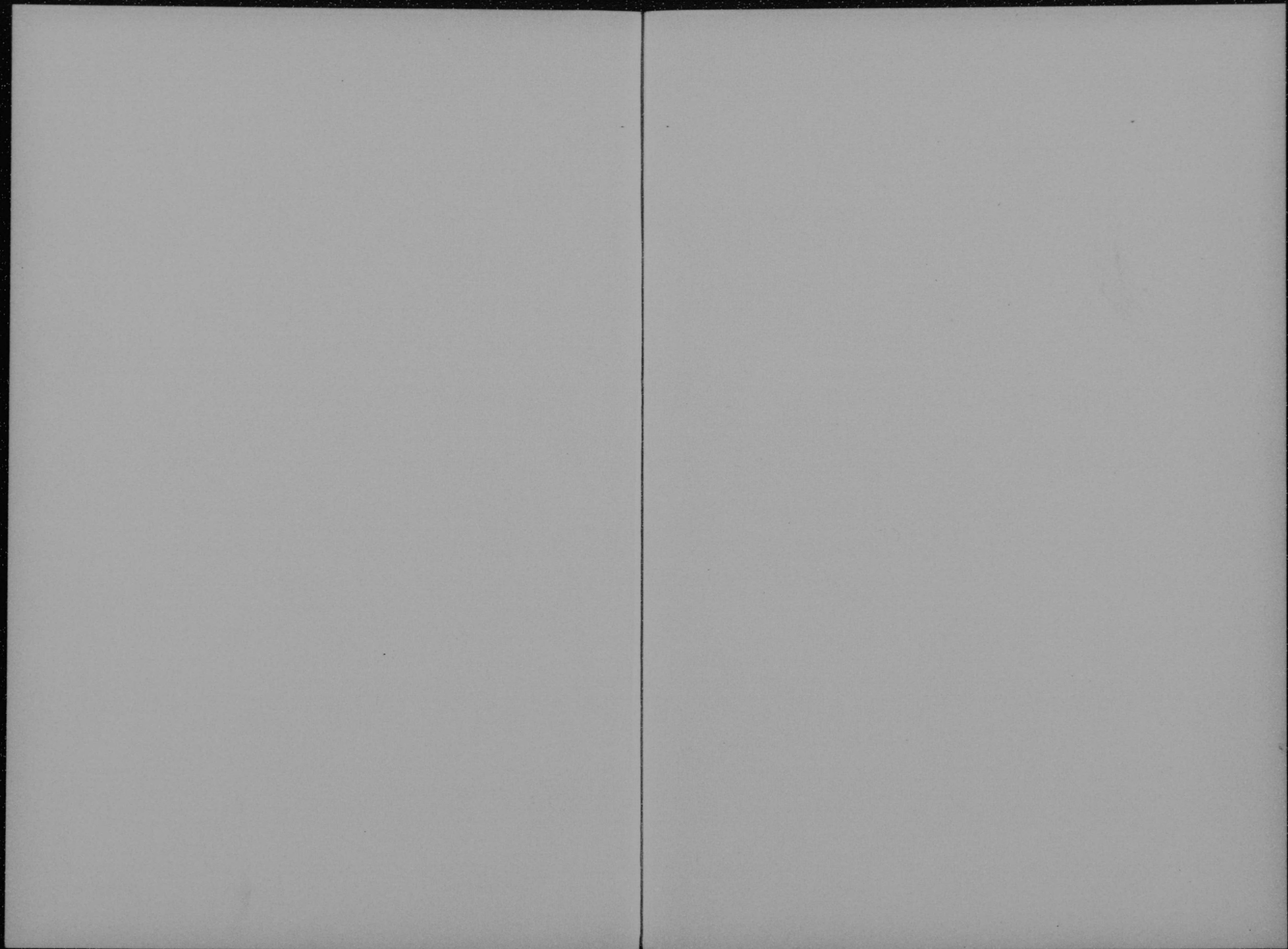
情報局

昭和18年度(7月-12月)

1945

ABJ





池 102

政府公表集

—對外關係—

昭和十八年度(七月—十二月)

情報局

昭和十八年度（七月—十二月）

政府公表集

—對外關係—

情報局

A99
28a



780589

詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝有朕ニ示ス
 朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戰ニ從事シ朕カ百僚有司ハ勵
 精職務ヲ奉行シ朕カ眾庶バ各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力ヲ擧ケテ征戰ノ目的ヲ達成
 スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ
 仰、東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ不顯ナル皇祖考不承ナル皇考ノ作述セル
 遠猷ニシテ朕カ拳々措カサル所而シテ列國トノ交誼ヲ篤クシ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ之亦帝
 國カ常ニ國交ノ要義ト爲ス所ナリ今ヤ不幸ニシテ米英兩國ト鬩端ヲ開クニ至ル洵ニ已ムヲ得サ
 ルモノアリ豈朕カ志ナラムヤ中華民國政府曩ニ帝國ノ眞意ヲ解セシ蓋ニ事ヲ構ヘテ東亞ノ平和
 ヲ攪亂シ遂ニ帝國ヲシテ干戈ヲ執ルニ至ラシメ茲ニ四年有餘ヲ經タリ幸ニ國民政府更新スルア
 リ帝國ハ之ト善隣ノ誼ヲ結ビ相提攜スルニ至レシメ茲ニ四年有餘ヲ經タリ幸ニ國民政府更新スルア
 兄弟尙未タ牆ニ相闕クヲ悛メス米英兩國ハ殘存政權ヲ支援シテ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名
 ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセムトス剩ヘ與國ヲ誘ヒ帝國ノ周邊ニ於テ武備ヲ増強シテ我ニ
 挑戰シ更ニ帝國ノ平和的通商ニ有ラムル妨害ヲ與ヘ途ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝國ノ生存ニ重大ナ
 ル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ回復セシムトシ經濟斷交ヲ敢テシ帝國ノ生存ニ重大ナ
 毫モ交讓ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシムテ此ノ間却ツテ益々經濟上軍事上ノ脅威ヲ増
 大シ以テ我ヲ屈從セシムトス斯ノ如クニシテ推移セムカ東亞安定ニ關スル帝國積年ノ努力ハ
 悉ク水泡ニ歸シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既ニ此ニ至ル帝國ハ今ヤ自存自衛ノ爲斷然起
 ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリ
 皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有朕ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シ
 テ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

昭和十六年十二月八日

各國務大臣副署

御名 御璽

凡例

- 一、本書ニハ昭和十八年一月乃至六月ニ引續キ七月乃至十二月ノ期間ニ於ケル帝國政府ノ對外關係ニ關スル發表及聲明並ニ當局者ノ談話、演說、祝辭、挨拶、祝電等凡テ對外問題ニ關スル主ナルモノヲ邦文及英文ヲ併セ採録シ、右ノ中演說、挨拶ノ類ヲ附録（其ノ一）トシ情報局第三部長ノ在京外國新聞記者會見ニ於ケル談話ノ主要ナルモノヲ附録（其ノ二）トシテ收録セリ。
- 一、邦文中之ニ對應スル英文アルモノニ就テハ邦文目次中標題ノ下ニ（英）ヲ以テ之ヲ示セリ。

昭和十八年度(七月—十二月)政府公表集(對外關係)目次

- 一、「ピブン」首相招宴ニ於ケル東條内閣總理大臣兼陸軍大臣挨拶……………(七月四日)……………一頁
- 二、第四回中央協力會議ニ於ケル東條内閣總理大臣大政翼賛會總裁挨拶……………(七月十四日)……………三
- 三、第四回中央協力會議ニ於ケル天羽情報局總裁挨拶(英六三)……………(七月十四日)……………六
- 四、「タイ」國宣傳局長一行ノ歡迎宴ニ於ケル天羽情報局總裁挨拶……………(七月十六日)……………一七
- 五、駐日「タイ」國大使主催「パイロット」宣傳局長一行招宴ニ於ケル天羽情報局總裁挨拶……………(七月二十七日)……………一九

- 六、最近ノ國際情勢(主トシテ米國ノ國內問題)ニ關スル情
報局第三部磯野對外報道課長放送……………(七月三十日)……二二
- 七、「ビルマ」獨立ニ際シテノ東條內閣總理大臣發「パー・モ
ウ」內閣總理大臣宛祝電……………(八月四日)……二九
- 八、「ウイチット」「タイ」國外務大臣歡迎晚餐會ニ於ケル
青木大東亞大臣挨拶……………(八月六日)……三〇
- 九、青木大東亞大臣主催晚餐會ニ於ケル「ウイチット」「タ
イ」國外務大臣挨拶……………(八月六日)……三一
- 一〇、「ウイチット」「タイ」國外務大臣招待晚餐會ニ於ケル
東條內閣總理大臣挨拶……………(八月九日)……三五
- 一一、東條總理大臣主催晚餐會ニ於ケル「ウイチット」「タイ」
國外務大臣挨拶……………(八月九日)……三七
- 一二、陸軍大臣、海軍大臣主催「タイ」國外務大臣一行招宴ニ
於ケル海軍大臣挨拶……………(八月十日)……四〇
- 一三、「ウイチット」「タイ」國外務大臣歡迎午餐會ニ於ケル

- 重光外務大臣挨拶……………(八月十一日)……四一
- 一四、重光外務大臣主催午餐會ニ於ケル「ウイチット」「タイ」
國外務大臣挨拶……………(八月十一日)……四二
- 一五、「マライ」四州及「シヤン」地方二州ノ「タイ」國領土編入
ニ際シテノ「ビブン」首相發東條首相宛謝電……………(八月二十日)……四四
- 一六、「マライ」四州及「シヤン」地方二州ノ「タイ」國領土編入
ニ際シテノ東條內閣總理大臣發「ビブン」總理大臣宛答電……………(八月二十一日)……四四
- 一七、第二回大東亞文學者大會開會式ニ於ケル天羽情報局總
裁挨拶……………(八月二十五日)……四五
- 一八、「ビルマ」國獨立慶祝日緬交換放送ニ際シテノ東條內閣
總理大臣挨拶……………(九月一日)……五一
- 一九、伊太利・パドリオ政府ノ無條件降伏ニ際シテノ堀情報局
第三部長放送……………(九月十日)……五三
- 二〇、「ラテン・アメリカ」人ニ對スル大東亞共榮圈建設理念
解明ニ關スル來栖大使放送……………(九月十七日)……五九

二二、日獨伊三國條約締結第三周年記念日ニ際シテノ「ヒツトラ」	總統宛東條內閣總理大臣祝電	（九月二十七日）……六三
二三、日獨伊三國條約締結第三周年記念日ニ際シテノ東條內閣總理大臣宛「ヒツトラ」	總統祝電	（九月二十七日）……六三
二四、「ラウレル」比島獨立準備委員長一行歡迎宴ニ於ケル東條內閣總理大臣挨拶	（英八〇）	（十月二日）……六七
二五、「デー・モン」「ビルマ」國特使歡迎宴ニ於ケル東條內閣總理大臣挨拶	（英八〇）	（十月二日）……六七
二六、「フィリピン」獨立ニ際シテノ東條總理大臣「ラウレル」大統領來往電	（英八〇）	（十月十四日）……七一
二七、「フィリピン」獨立ニ際シテノ東條內閣總理大臣「ラウレル」大統領交換放送	（英八四）	（十月十五日）……七二
二八、自由「インド」假政府承認ニ關スル天羽情報局總裁談話	（英八四）	（十月二十一日）……七六

二九、第八十三回帝國議會ニ於ケル內閣總理大臣演說	（英八八）	（十月二十六日）……七八
三〇、第八十三回帝國議會ニ於ケル東條陸軍大臣戰況報告	（英八八）	（十月二十六日）……八七
三一、第八十三回帝國議會ニ於ケル嶋田海軍大臣戰況報告	（英八八）	（十月二十六日）……九二
三二、第八十三回帝國議會ニ於ケル重光外務大臣答辯	（英九八）	（十月二十七日）……九八
三三、第八十三回帝國議會終了ニ際シテノ東條內閣總理大臣談話	（英九八）	（十月二十九日）……一〇四
三四、日華同盟條約締結記念交換放送ニ於ケル天羽情報局總裁挨拶	（英九八）	（十一月一日）……一〇五
三五、大東亞會議ニ於ケル各國代表演說	（英九八）	（十一月五日）……一〇八
日本國代表東條內閣總理大臣演說	（英九八）	（同）……一〇八
中華民國代表汪行政院院長演說	（英九八）	（同）……一一五
「タイ」國代表「ワンワイタヤコーン」內閣總理大臣代理殿下演說	（英九八）	（同）……一二二
滿洲國代表張國務總理大臣演說	（英九八）	（同）……一二七
「フィリピン」國代表「ラウレル」大統領演說	（英九八）	（同）……一三五

「ビルマ」國代表「バー・モー」內閣總理大臣演說……………	(同)	一四二
滿洲國代表張國務總理大臣ノ此ノ種會議開催方希望ニ 關スル發言……………	(同)	一五三
「ビルマ」國代表「バー・モー」內閣總理大臣ノ自由印度 假政府支援ニ關スル發言……………	(同)	一五三
自由印度假政府「ボース」首班ノ發言……………	(同)	一五七
日本國代表東條內閣總理大臣ノ「アンダマン」諸島及 「ニコバル」諸島歸屬ニ關スル發言……………	(同)	一六四
日本國代表東條內閣總理大臣閉會ノ挨拶……………	(同)	一六五
中華民國代表汪行政院院長ノ謝辭……………	(同)	一六七
三六、大東亞新聞大會ニ於ケル天羽情報局總裁挨拶……………	(十一月十七日)	一七一
三七、大東亞新聞大會午餐會ニ於ケル東條內閣總理大臣挨拶……………	(十一月十八日)	一七七
三八、日獨醫事協力ニ關スル諒解成立祝賀午餐會ニ於ケル重 光外務大臣挨拶要旨……………	(十一月二十四日)	一七九
三九、日獨醫事協力ニ關スル諒解成立祝賀午餐會ニ於ケル		

「スターマ」獨逸大使挨拶要旨……………	(十一月二十四日)	一八一
四〇、井口外務省調査官兼情報局情報官放送―日米交渉決裂 ノ日ヲ願ミテ……………	(十一月二十五日)	一八二
四一、大東亞共同宣言採擇ニ關スル大東亞會議事務局發表……………	(十一月六日)	一九〇
四二、日獨伊三國協定締結二周年記念午餐會ニ於ケル重光外 務大臣挨拶……………	(十一月十一日)	一九二
四三、日獨伊三國協定締結記念日ニ際シテノ重光外務大臣放 送(英一一四)……………	(十一月十一日)	一九三
四四、大東亞青少年總蹶起運動ニ於ケル天羽情報局總裁放送 (英一一〇)……………	(十二月二十二日)	二〇〇
四五、第八十四回帝國議會ニ於ケル東條陸軍大臣戰況報告……………	(十二月二十七日)	二〇八
四六、第八十四回帝國議會ニ於ケル嶋田海軍大臣戰況報告……………	(十二月二十七日)	二一四
四七、井口情報局第三部長放送―戰時外交一年ノ回顧ト展望……………	(十二月二十九日)	二一九

附錄(其ノ一)

一、東條內閣總理大臣兼陸軍大臣ノ「タイ」國訪問並ニ南方

軍政諸地域視察ニ關スル情報局發表(英一)	七月五日	二三一
二、大東亞戰爭完遂並ニ北部「マライ」四州等ノ「タイ」國領土編入ニ關スル日「タイ」共同聲明(英一)	七月五日	二三一
三、「タイ」國訪問ニ際シテノ東條內閣總理大臣兼陸軍大臣談	七月五日	二三一
四、東條內閣總理大臣兼陸軍大臣南方ヨリ歸着ニ關スル情報局發表	七月十二日	二三三
五、「タイ」國及南方軍政諸地域出張歸着ニ際シテノ東條內閣總理大臣兼陸軍大臣談	七月十二日	二三三
六、日獨間ニ於ケル著作物翻譯ノ容易且圓滑化ニ關スル情報局發表	七月十二日	二三六
七、駐伊日高大使「ムツソリーニ」統帥會見ニ關スル外務當局談	七月二十四日	二三六
八、中華民國ニ於ケル日本國臣民ニ對スル課税ニ關スル日本國中華民國間條約附屬協定及日華兩國全權委員間了解事項	七月三十一日	二三七
九、「タイ」國答禮使「ウイチット」外務大臣來訪ニ關スル情報局發表	七月三十一日	二四一
一〇、「ビルマ」獨立並ニ日本國「ビルマ」國間同盟條約締結ニ關スル情報局發表(英八)	八月一日	二四二
日本國「ビルマ」國間同盟條約	同	二四二
一一、「ビルマ」獨立ニ關スル帝國政府聲明(英九)	八月一日	二四三
一二、「ビルマ」獨立ニ際シテノ東條內閣總理大臣談(英一一)	八月一日	二四四
一三、「ウイチット」「タイ」國外務大臣ノ入京ニ關スル情報局發表	八月三日	二四六

- 一四、青木大東亞大臣中華民國訪問ニ關スル情報局發表……………(八月十九日)……二四七
- 一五、「タイ」國ノ領土ニ關スル日本國「タイ」國間條約ノ署名
調印ニ關スル情報局發表……………(八月二十日)……二四七
- 「マライ」及「シヤン」地方ニ於ケル「タイ」國ノ領土ニ
關スル日本國「タイ」國間條約……………(同)……………二四八
- 一六、第二次日米居留民交換實施ニ關スル外務當局談(英一四)……………(八月二十六日)……二四九
- 一七、外人記者團會見ニ於ケル天羽情報局總裁聲明要旨……………(八月三十日)……二五〇
- 一八、青木大東亞大臣ノ中華民國及滿洲國訪問歸着ニ關スル
情報局發表……………(九月五日)……二五一
- 一九、中華民國及滿洲國訪問完了ニ際シテノ青木大東亞大臣
談……………(九月六日)……二五二
- 二〇、伊太利「バドリオ」政府ノ無條件降伏ニ關スル帝國政府
聲明……………(九月九日)……二五五
- 二一、留日學生ノ處遇ニ關スル情報局發表……………(九月十日)……二五六
- 二二、「バドリオ」政府ノ背信ニ關スル日獨共同聲明(英一五)……………(九月十五日)……二五七

- 二三、「ムツソツリ」ニ統帥救出ニ關スル東條總理大臣「ヒ
ツトラ」總統間往復電報ニ關スル情報局發表(英二一)……………(九月二十三日)……二五七
- 二四、中華民國國民政府主席兼行政院院長汪精衛氏ノ入京竝
ニ歸國ニ關スル情報局發表(英二二)……………(九月二十三日)……二五八
- 二五、「ビルマ」國獨立祝賀行事ニ際シ帝國政府ヨリ「ビルマ」
國民ニ慰問金贈呈ニ關スル情報局發表(英二二)……………(九月二十五日)……二五九
- 二六、「シヤン」地方等ノ「ビルマ」國編入ニ關スル日本國「ビ
ルマ」國間條約調印ニ關スル情報局發表(英二三)……………(九月二十六日)……二五九
- 「シヤン」地方等ニ於ケル「ビルマ」國ノ領土ニ關スル日
本國「ビルマ」國間條約要旨……………(同)……………二六〇
- 二七、帝國政府ノ伊太利國「ファシスト」共和政府承認ニ關ス
ル情報局發表……………(九月二十七日)……二六一
- 二八、「ラウレル」比島獨立準備委員長一行來朝ニ關スル情報
局發表……………(九月三十日)……二六一
- 二九、「ビルマ」國特派大使「ラー・モン」氏ノ入京ニ關スル情
報……………(九月三十日)……二六一

報局發表表……………(十月十日)…二六二

三〇、「フィリピン」獨立並ニ日本國「フィリピン」國間同盟條約調印ニ關スル情報局發表……………(十月十四日)…二六一

三一、「フィリピン」獨立ニ關スル帝國政府聲明(英三〇)……………(十月十四日)…二六三

三二、自由「インド」假政府承認ニ關スル天羽情報局總裁談(英三二)……………(十月二十一日)…二六五

三三、自由印度假政府承認ニ關スル情報局發表(英三一)……………(十月二十三日)…二六七

三四、自由印度假政府承認ニ關スル帝國政府聲明(英三二)……………(十月二十三日)…二六七

三五、第二次日米居留民交換ニ關スル外務當局談……………(十月二十七日)…二六八

三六、日本國中華民國間同盟條約調印ニ關スル情報局發表(英三六)……………(十月三十日)…二六八

日本國中華民國間同盟條約要旨……………(同)…二六九

三七、日華同盟條約締結ニ關スル帝國政府聲明(英三九)……………(十月三十日)…二七二

三八、日華同盟條約締結ニ際シテノ東條內閣總理大臣談(英四一)……………(十月三十日)…二七三

三九、「ボース」自由印度假政府首班來朝ニ關スル情報局發表(英四三)……………(十月三十一日)…二七四

四〇、大東亞會議開催ニ關スル情報局發表(英二七五)……………(十一月五日)…二七五

四一、大東亞共同宣言採擇ニ關スル大東亞會議事務局發表……………(十一月六日)…二八〇

四二、日獨醫事協力方式決定ニ關スル情報局發表(英四八)……………(十一月二十四日)…二八二

四三、日獨文化協力關係ノ緊密化ニ關スル外務當局談……………(十一月二十五日)…二八三

四四、病院船「ブエノスアイレス」丸不法擊沈ニ關シ帝國政府ノ米國政府ニ提出セル抗議ニ關スル外務當局談(英五一)……………(十二月二十日)…二八三

附錄(其ノ二)

一、米國排日移民法實施第十九周年記念日ニ際シテノ堀情報局第三部長談(英一三五)……………(七月一日)…二八九

二、米國獨立記念日ニ際シテノ堀情報局第三部長談(英一三九)……………(七月四日)…二九三

三、英米側ノ「ローマ」爆撃其他ノ暴行ニ關スル堀情報局第三部長談(英一四七)……………(七月二十一日)…二九七

- 四、上海共同租界回收ニ關シ中國新聞記者團ニ對スル堀第三部長談……………(八月一日)……二九九
- 五、日米交渉決裂ニ關スル井口情報局第三部長談……………(十一月二十六日)……三〇〇
- 六、米英重慶三國「カイロ」會談ニ關スル井口情報局第三部長談(英一六四)……………(十二月九日)……三〇一

一、「ビブ」首相招宴ニ於ケル東條内閣總理大臣

兼陸軍大臣挨拶 (七月四日)

閣下並ニ各位

今回私ハ久シキニ亘ル念願ヲ達成シ貴國ヲ訪問スル機會ヲ得タル事ハ私ノ最モ欣快トスル所テアル。今夕ハ「ビブ」總理閣下ヨリ私共一行斯クモ御鄭重ナル御招待ヲ受ケ且只今ハ御懇篤ナル御挨拶ヲ頂キ厚ク御禮ヲ申上ケル次第テアル。旅程ノ關係上此度ハ皆様方ヲ御招待致ス事ノ出來マセン事ハ私ノ洵ニ遺憾トスル所テアツテ何卒御諒承ヲ願ヒ度イト存スル。今回ノ訪問ニ際シ「タイ」國 皇帝陛下ニ於カセラレマシテハ私及隨員一行ニ對シ特ニ格別ノ叙勳ノ御沙汰アラセラレ恐懼感激ニ堪ヘナイ次第テアル。扱貴國民ハ多年世局變轉ノ裡ニ毅然トシテ光輝アル獨立ト亞細亞民族トシテノ名譽ヲ保持セラレテ來タノテアル。偉大ナル指導者「ビブ」總理閣下カ身ヲ以テ全國民ヲ率ヒテ、國民精神ノ昂揚ト國力ノ充實トニ、國勢ノ伸張ト東亞ノ興隆トニ努力ヲ續ケラレテ來タノテアル。

而シテ大東亞戰爭勃發スルヤ「タイ」國ハ敢然トシテ多年ニ亘ル米英トノ複雜機微ナル關係ヲ一擲シテ帝國ト行ヲ共ニスルニ至ツタノテアル。爾來幾多ノ困難ヲ克服シツツ第一線ニ於テハ皇軍ト共同作戰ヲ實施スルハモトヨリ凡ル方面ニ全力ヲ傾倒シ、斷乎トシテ戰爭ノ完遂ニ精進シテ居ルノテアル。此ノ「タイ」國上下ヲ舉ケテノ御奮闘ト帝國ニ對スル御協力トニ對シテハ、私ハ豫ネテ大イニ感銘致シテ居ルノテアツテ此ノ機會ニ改メテ衷心ヨリ敬意ト謝意

トヲ表スル次第アル。

今回ノ滞在ハ極メテ短時日テアルカ「ビボン」總理閣下ト親シク懇談シ又貴國朝野ノ名士ト斯クモ和カナ熱國氣ノ裡ニ相會スル機會ヲ得タコトハ私ノ又特ニ幸トスル所テアル。曩ニ「ビボン」總理閣下トノ會談ニ於テ必勝ノ信念ト戰爭完遂ノ決意トヲ同シウスルコトヲ明カニシ且日「タイ」協力ノ新方式ニ關シ意見ノ一致ヲ見、以テ相互ノ理解ヲ一段ト深メタルコトハ私トシテハ本懐至極テアルノミナラス兩國ノ戰爭協力増進ノ爲ニモ御同慶ノ至リニ存スル次第テアル。オホ私ノ到着直前「タイ」國國民ノ生命トシテ又魂トシテ敬仰サレテキル佛舍利ヲ「タイ」國民ヨリ日本國民ニ贈呈サレタルコトハ兩國國民ノ精神的團結ヲ一層強化スルモノテアツテ、「タイ」國民ノ示サレタルユノ美シキ友情ニ對シテ私ハ心カラ感謝ノ意ヲ表スルモノテアル。

閣下竝ニ各位、大東亞ニ於ケル勝利、敵必滅ノ態勢ハ日ニ月ニ強化セラレ、豐富ナル資源ハ急速ニ戦力化セラレツツアルノテアル。此ノ趨勢ハ正ニ米英ノ死命ヲ制スルモノテアル。今ヨソ大東亞全民族カ愈々ソノ結束ヲ鞏固ニシ益々米英擊碎ノ一途ニ邁進スルノ秋テアル。斯クシテコソ大東亞ノ各國家各民族ハソノ存立興隆ノ爲大東亞戰爭ニ於イテ必スヤ勝利ノ榮冠ヲ獲得スルコトヲ私ハ信シテ疑ハナイノテアル。

大日本帝國ハ爾來「タイ」國ノ主權、領土ヲ尊重スルハ勿論、ソノ興隆ヲ切望スルモノテアツテ「ビボン」總理閣下ヲ首班トスル「タイ」國政府ノ施策ニ對シテ此ノ際更ニ協力援助ヲ強化セントスルモノテアル。

私ハ「タイ」國民カ此ノ上共大日本帝國ノ眞意ヲ理解シ、「ビボン」總理閣下ヲ中心ニ「タイ」國ノ國勢伸張ノ爲、大東亞戰爭完遂ノ爲、而シテ大東亞興隆ノ爲折角御健闘アランコトヲ切望シテ已マナイモノテアル。最後ニ臨ミ

閣下竝ニ各位ト共ニ杯ヲ舉ケテ「ビボン」總理閣下ノ御健康ヲ祝福シ併セテ日「タイ」共同ノ勝利ヲ祈念シタイト存スル。

二、第四回中央協力會議ニ於ケル東條內閣總理大臣

大政翼賛會總裁挨拶 (七月十四日)

本日、故ニ、第四回中央協力會議總會ヲ開催スルニ當リマシテ、一言、御挨拶申上ケマス。

大東亞戰爭勃發以來、既ニ一年七ヶ月、廣大ナル戦域ニ互リ、御稜威ノ下、皇軍將兵ハ、愈々、其ノ眞價ヲ發揮シ、赫々タル戦果ヲ加ヘツツアルノテアリマス。凡ユル困苦ヲ克服シ、身命ヲ抛ツテ、勇戦奮闘スル忠勇無比ナル陸海將兵ノ勞苦ハ、眞ニ、竝メナラヌモノカアルノテアリマシテ、我々國民ノ齊シク感謝措ク能ハサルトコロテアリマス。

此ノ間一死以テ國ヲ護ラレマシタル幾多純忠至誠ノ英靈ニ對シ、私ハ、國民諸君ト共ニ、謹シテ哀悼ト感謝ノ誠ヲ捧クルト共ニ、之等ノ方々ノ遺家族竝ニ傷病將兵各位ニ對シマシテ、衷心ヨリ感謝ト同情ノ意ヲ表スル次第デアリマス。

曩ニ、私ハ、中華民國、滿洲國及ヒ比島ヲ訪問致シ、此ノ度ハ亦「タイ」國竝ニ南方諸地域ヲ歴訪致シタノデアリマスルカ、大東亞ノ諸國家諸民族カ克ク帝國ノ眞意ヲ諒解シ、十億民衆ノ總力ヲ舉ケテ、米英擊碎ノ一途ニ集中シ、

帝國ニ對シテ、全面的ニ協力ヲ致シツアル實情ニ觸レ、又着々トシテ戰力化セラレツアル巨大ナル國防資源ノ狀況ヲ目撃シ、大東亞戰爭必勝ノ確信ヲ更ニ強ク致シタ次第デアリマス。此ノ秋ニ當リ、帝國ハ此等ノ諸國家諸民族ニ對シ、常ニ援助ト協力トヲ惜シマス、既ニ御承知ノ通り、逐次之方具體的措置ヲ執ツテ居ルノデアリマス。斯クテ大東亞戰爭必勝ノ態勢、大東亞新秩序建設ノ根基ハ、着々ト強化セラレツアルノデアリマシテ、洵ニ御同慶ニ堪ヘナイトコロデアリマス。

又歐洲ニ於キマシテハ、獨伊ヲ始メ、我カ盟邦諸國ハ、益々、帝國トノ結束ヲ固クシ、相呼應シテ共同ノ敵米英撃滅ニ向ツテ、邁進シテ居リマスルコトハ、慶ヒニ堪ヘナイトコロデアリマス。

正義ノ戰ヒノ下、大東亞十億ノ團結ノ前、我等ノ勝利ハ不動デアリマス。然シ乍ラ此ノ勝利ノ獲得ハ決シテ生易シイ仕事テハナイノデアリマス。一億國民ノ非常ナル努力ト犠牲トニ依ツテ始メテ此ノ大戰爭ハ勝ツノデアリマス。

今ヤ、戰局ハ、刻一刻ト緊迫ノ度ヲ加ヘ、國家ノ隆替ヲ決スル重大時機ニ直面シテ居ルノデアリマス。敵米英ハ、唯一ノ特ミトスル物質力ヲ擧ケテ反攻ノ擧ニ出テ、其ノ氣勢亦侮リ難キモノカアルノデアリマス。然シ乍ラ、斯クノ如キハ帝國ノ夙ニ豫期セル所デアリマシテ、何等恐ルルニ足ラナイノデアリマス。即チ大東亞必勝ノ態勢ノ下、廣ク戰局ノ全貌ヲ達觀シ、愈々戰意ヲ旺盛ニシ、不撓不屈、飽ク迄モ強靱性ヲ發揚シ、大東亞戰爭終局ノ勝利ニ向ツテ、堂々、邁進スルハカリデアリマス。

茲ニ於テカ、一億國民ハ、申ス迄モナク、鐵石ノ團結ノ下、國ノ内外ヲ問ハス、凡ユル障害ヲ突破克服シ、全力ヲ擧ケテ、一意、戰力ノ增強ニ邁進シナケレハナラスノデアリマス。

曩ニ政府カ臨時ニ帝國議會ノ開會ヲ奏請致シ、企業整備、食糧緊急増産等ニ關シ協賛ヲ得マシタノモ、一ニ戰局ノ下、寸時ヲ爭フ戰力增強ニ寄與セントスルモノデアリマス。

國內ノ總力ヲ擧ケテ戰力ノ增強ヲ圖ランカ爲ニハ、何ヨリ先ツ國民ノ一人一人カ躬ヲ以テ國難ニ當ラントスル氣魄ヲ昂揚セラルルコトヲ必要トスルノデアリマス。私情ヲ棄テテ敢然轉廢業セラルル方ニ對シ、私ハ衷心ヨリ敬意ト同情トヲ表スルト共ニ、此ノ曠古ノ重大戰局ニ臨ミ、一億國民カ相共ニ喜ンテ苦シミヲ頌タントスル強固ナル結束ノ下ニ、俱ニ各自ノ能力ノ最善ヲ發揮セラレンコトヲ切望シテ已マナイモノデアリマス。

此ノ戰爭ヲ勝チ拔ク爲ニハ、我々國民ノ一人一人カ、各種各樣ノ不便不足ハ寧ロ喜ンテ之ヲ引キ受ケ、アラユル困苦ニ耐ヘテ、戰ヒ拔カネハナラナイノデアリマス。素ヨリ、政府ハ、國民生活ノ確保ニ關シマシテハ、萬般ノ措置ヲ講セントスルモノデアリマスルカ、一億國民ハ、此ノ上共、生活ノ刷新、消費ノ節約、貯蓄ノ增強ニ努メ、如何ナル事態ニモ動セス、進ンテ質實剛健ニシテ、清新簡素ナル生活ノ實踐ニ、徹底致サネハナラナイノデアリマス。

今ヤ、振古未會有ノ重大時期ニ當リ、我々一億國民傳統ノ眞價ヲ發揮シ、輝カシキ國史ノ成跡ヲ彌カ上ニモ光輝アラシメ、延イテハ、大東亞千年ノ運命ヲ決スルハ、此ノ昭和ノ聖代ニ生ラ享ケタル我々ノ重大ナル責務デアリマス。皇國民タルモノ老幼男女ノ別ナク燃ユルカ如キ忠誠心ヲ振ヒ起シ、皇軍將兵ノ心ヲ心トシ、一人克ク五人分十人分ノ働キヲナシテコソ、眞ニ、戰力ノ飛躍的增強ハ達成セラルルノデアリマス。國家ノ求ムル所、戰爭ノ求ムル所ニ應ジテ、軍、官、民眞ニ一體トナリ、全力ヲ併セ發揮スルコトカ、取りモ直サス、聖業翼贊ノ光輝アル途トナルノデアリマス。

今次第四回中央協力會議開催ノ趣旨モ、實ニ、茲ニ存スルノテアリマシテ、國民諸君ノ逆ル熱意カ茲ニ凝集發揮サレ、戦力増強上、寄與スル所甚大ナルモノアルコトヲ、確信致スモノテアリマス。トウカ、各位ニ於カレマシテハ、本會議開催ノ趣旨ヲ深ク諒解セラレ、必勝國策ノ擧フ所ニ從ヒ、此上トモ、國內施策ノ滲透ニ努メラレ、又其ノ卓越スル識見ト豊富ナル體驗トヲ以テ時艱打開ノ爲積極的ニシテ具體的ナル方途ヲ考究セラレ、以テ、今次中央協力會議所期ノ成果ヲ擧ケラレンコトヲ、衷心ヨリ、切望シテ熹マナイ次第アリマス。

尙此ノ機會ニ一言致シタイト存シマスルカ、政府ハ、之等國內施策ノ徹底的滲透ト戰時地方行政ノ綜合強化ノ爲、全國九地區ニ、地方行政協議會ヲ設ケ、以テ戰時地方行政ヲ刷新シ、更ニ戦力ノ増強ニ、國民生活ノ確保ニ、萬全ノ措置ヲ講セントスルモノテアリマス。而シテ地方行政ノ問題タルヤ、殊ニ國民諸君ノ積極的ナル協力ニ俟ツ所、極メテ大ナルモノカアリマシテ、私ハ各地方ニ於テ指導先達ノ地位ニ在ラレル諸君ノ、此ノ上共格別ナル御協カヲ切望スルモノテアリマス。

以上開會ニ當リ、一言、所信ヲ申述ヘテ私ノ御挨拶ヲ終リマス。

三、第四回中央協力會議ニ於ケル天羽情報局總裁挨拶 (七月十四日)

本日、第四回中央協力會議ニ於テ、所感ノ一端ヲ述フル機會ヲ得マシタコトハ、私ノ誠ニ欣幸トスルトコロテアリ

マス。

昭和十四年、「ヨーロッパ」ニ於テ、獨逸ト英佛トノ間ニ戰爭カ初マリマスヤ、米國ハ此機會ニ乘シテ豫テカラ企ラシテ居タ世界制覇ノ野望ヲ遂ケンコトシテ、英國ヲ援助シ英國ノ旗色カ悪イニツレテ益々戰爭ニ深入リシ、一昨年八月ニハ「ルーズヴェルト」ハ、中立國ノ主權者タルニモ拘ラス交戰國ノ總理大臣タル「チャーチル」ト會合シテ、俗ニ大西洋憲章ト稱セラルル戰爭ノ結末ニ關スル協定サヘツクツタノテアリマス。

事實米國ハ、中立國テアリナカラ、交戰國以上ニ戰爭ニ參加シテキタノテアリマス。東亞ニ於イテモ、米國ハ、蔣政権ヲ援助シテ事實上交戰行爲ヲ爲シ、次テ日米交渉中ニハ日本人ノ資産ヲ凍結シ、又英、蘭等ト共ニ所謂對日包圍陣ヲ形成シ、次テ交渉ノ最後ノ段階ニ於イテハ三ヶ條件ノ威壓的要求ヲ提出シテ、日本ニ挑戰シタノテアリマス。

斯クテ日本ハ、遂ニ自存自衛ノ爲立タサルヲ得ナクナツタノテアリマス。米英ハ、何時カハ日本ノ興隆ヲ抑ヘムト好機ヲ待ツテ居タノテアリマスカ、コノ戰爭ニヨツテ日本ヲ滅ホサントシテ居ルノテアリマス。米國ノ指導者ハ日本ハ世界ヲ征服スル野心アリトナシ、日本ノ存在ハ太平洋ノ安全ヲ脅威シ、日本ハ「デモクラシー」ノ敵テアルトシテ日本撃滅ヲ叫ンテ居ルノテアリマス。

日本ニ大使ヲシテ居タ「ダルー」ハ、歸國以來自國民ヲ激勵スルタメニ日夜奔走シテ居リマスカ、彼ハ昨年九月其講演ノ中ニ、「征服ノ野望ニ驅ラレテ居ル日本國民ノ殘忍ナル決意ノ中ニハ、温情モナケレハ慈悲モナイ徹頭徹尾殘酷テアリ殘虐テアル。ソコニハ、米國ノ文明ヲ構成シテ居ル美シキ性格ハ全然見出シ得ナイ。コレヲ制スル道ハ只一

ツ、即チコレヲ全滅スルノミテアル」ト言ヒ、又「日本人カ國ノ爲ニ戦ヒ國ノ爲ニ死ストノ狂信的決意ハ、根本的ニ撲滅セネハナラナイ」ト言ヒ、更ニ昨年十二月十七日ノ放送ニヨレハ「ニューヨーク・ポスト」ハ、「ドル」カ「日本人ヲタシナメル唯一ノ道ハ彼等ヲ殺スコトニアル」ト言ツタ、ト報道シテ居ルノテアリマス。彼ハ日本ノ政策ヲ攻撃スルノミナラス日本人ノ國民性ヲ呪ツテ居マス。日本二十年モ居テ日本人間ニ多クノ友人ヲ有シ善ク日本人ノ國民性ヲ知ツテ居ル管ノ彼カカクノ如キ惡罵ヲ爲スハ、彼ノ本心ヲ物語ルノテアル乎、將又、戰爭目的ヲ知ラヌ米國人ヲ激動鼓舞スル爲ノ苦衷ニ出テ居ルノテアル乎、我々ハ今更之ヲ詮議スル必要モアリマセヌ。タタココニ看過シ難キハ彼ノ言葉ニヨツテ反映セラレタ米國人全體ノ感情テアリマス。即チ彼等米國人カ日本人ニ對シテ斯ノ如キ極端ナル憎惡ノ念ヲアラハスハ如何ニ彼等カ時局ヲ深刻ニ考ヘテ居ルカヲ意味スルノテアリマス。

次テ、米國側カ故意ニ日本ノ世界征服政策ヲ高調スルノハ米國自身カ世界征服ヲ敢行セントスル下心テアルト解セラレルノテアリマス。

元來所謂「デモクラシー」ハ米英ノ金科玉條テアリマス。米英ハ常ニ「デモクラシー」ノ基本ハ自由平等テアルト説イテ世界ノ同情ヲ得ントシテ居リマス。然シ彼等ノ「デモクラシー」ノ下ニ果シテ眞ノ自由平等アリヤ否ヤ、彼等ノ「デモクラシー」ハ米英人間ノ「デモクラシー」テアリマス。否米英人ノ中ニ於テモ、純粹ノ「アングロサクソン」ノ間ノミノ「デモクラシー」テアリマス。現ニ一部民族ニ對シテハ米英ノ國籍ヲ有スルト否トニ拘ラス自由ト平等トヲ認メテ居ナイ事ハ世界周知ノ事實テアリマス。

又米英ノ文明ノ基礎ハ物質ニアリマス。黄金カ政治モ輿論モ動カシ物質カ人倫ヤ道義ヲモ律シテ居ルノテアリマ

ス。人倫道義ヲ忘レテ物質ニ走ル世界ヲ作ルノカ果シテ人類ノ理想ト云フヘキ乎。彼等ノ謂フ所ノ神ノ攝理テアリマセウ乎、況ンヤ彼等カラ見レハ異民族タル亞細亞民族ノ如キハ、其ノ物質的要望ヲ満足セシムル擲取ノ對象以外ノ何モノテモナイノテアリマス。

現ニ米國ヲ初メ濠洲、新西蘭、加奈陀ノ如キ米英領域ノ開發ハ日本人及其他ノ亞細亞人ノ勤勞努力ニヨツタニ拘ラス其ノ開發カ進ムヤ米英人ハ是等亞細亞人ヲ排斥シテ居リマス。英國ハ自國人テアル印度人ヲ他ノ英國ノ領域ニ入國スルノヲ禁シ、米國ハ米國人タル黑人ヲ私刑ニ處シ、過日モ「デトロイト」ニ於テ、黑人ノ鬱憤カ爆發シテ暴動スラ起シテ居ルノテアリマス。

濠洲ハ、所謂白濠主義ヲ標榜シテ「アジア」人ヲ排斥シテ居リマス。アノ廣大ナル土地ヲ少數ノ英國人ニヨツテ占據シ、働カシテ樂ニ暮サントスル所謂「痴人ノ樂園」ヲ演出シテ居リマス。

最初ニ濠洲ニ乘リ込シテ支那人ノ如キハ、アラユル殘酷ナル手段ニヨツテ追放セラレテ居リマス。

一八五七年七月四日、「バツクランドリヴァー」ノ金鑛地ニハ「ヨーロッパ」人カ七百、支那人カ二千人居テ、金鑛ノ採掘ニ從事シテ居リマシタカ、英國人ハ支那人ノ排斥ヲ企テ暴徒ハ支那人ノ家屋ヲ燒キ拂ヒ、憐レムヘキ支那人ハ、少シハカリノ家具ヲ持ツテ逃レントシタカ、其ノ家具スラ全部ソノ附近ノ河ニ投ケ込ムノ餘儀無キニ至ラシメラレ其ノ河ハ家具ヲ以テ埋マリ、足ヲ濡ラサスシテ渡リ得タトイフコトテアリマス。コレハ濠洲ノ權威アル記録ニ殘ツテ居リマスカタソノ一例ニ過キマセヌ、ソノ殘酷ナル排斥史ヲ緝ケハヨクモアレホト殘酷ニ巧妙ニ且徹底的ニ排斥シタモノカナト痛憤セサルヲ得ナイノテアリマス。英國人ハ、先ツ支那人ヲ追放シ、次イテ日本人其他ノ「アジア」

人ヲ排斥シタノテアリマス。

然シ「アジア」民族ハ永久ニ米英ノ壓迫擄取ノ下ニ呻吟スルモノテハアリマセン。嘗テ「アジア」ハ世界ノ文化ヲ創建シ、世界ノ文明ヲ指導シタノテアリマスカ、其ノ後久シク眠ツテ居マシタ。然シ日本ハ先ツ覺醒シ、其ノ他ノ諸民族モ覺醒シマシタ。今ヤ「アジア」ノスヘテノ民族ニハ解放獨立ノ氣運カ盛上リ隨所ニ獨立ノ指導者カ驟起シタノテアリマス。

「ビルマ」ノ「バーモ」長官ハ、多年英國ノ壓制ト戦ヒ、久シク囹圄ノ人テアリマシタカ、今ヤ「ビルマ」獨立ノ爲ニ奮闘シツツアリマス。

過日「フィリッピン」獨立準備委員會ノ委員長ニナツタ「ラウレル」博士ハ大東亞戰爭勃發以來、日夜挺身比島獨立ノ爲ニ働イテ居タノテアリマスカ、本年六月五日、「マニラ」郊外ニ於テ兇漢ノ爲ニ狙撃セラレマシタ。然シ天ハ「フィリッピン」ノ獨立ニ與シテ居リマス。奇蹟的ニモ「ラウレル」氏ハ助カツテ捲土重來奮闘シテ居ルノテアリマス。同氏ノ外「ヴァルガス」氏ニセヨ、「ロハス」氏ニセヨ、其他ノ志士ニセヨ、何レモ同シ志ト熱トヲ持ツテ獨立ニ邁進シテ居リマス。

印度ノ「チャンドラ・ボース」氏ハ東京ニ於テ、意義深キ獨立ノ抱負ヲ述ヘマシタカ、其中ニ「長イ長イ間、印度及「ビルマ」ニ於ケル「イギリス」ノ牢獄ハ私ノ家テアツタ。然シ今ヤ印度國民、印度民族ニトリ自由ノ曙光ハ見エタ。斯クノ如キ機會ハ、ココ百年位ノ間再ヒ來ヌテアラウ。」ト言ツテ居リマス。

ボース氏ハ今ヤ印度近クニ乗出シテ同志ニ迎ヘラレ自由印度臨時政府結成ノ意圖ヲ發表シマシタ。英國ハ新ニ「ウ」ニ「ヴェル」將軍ヲ總督ニ任命シテ武斷壓迫ノ政治ヲ爲サントシテ居リマスカ、六月二十二日ノ「ロンドンタイムス」其他ニヨルモ印度ノ諸新聞ハ「ウエーヴェル」ノ任命ニ對シテ舉ツテ不平ヲ洩ラシ居ルトノコトテアリマス。壓制力勝ツ乎、獨立力勝ツ乎、シカシ最後ノ勝利ハ正義ニ在ルノテアリマス。

隣邦中華民國ノ覺醒ヲ促シタ國民黨ノ始祖孫文ハ大正十二年二月、廣東テ廣東政府ヲ組織シタ當時常ニ「日本人ト支那人トハ、日本ヤ支那ニ於イテハ争フコトカアツテモ、共ニ「アジア」人テアル。我々カ故國ヲ去ツテ、東、「カナダ」又ハ「アメリカ」ニ行キ、南、濠洲、「ニュージールランド」ニ行キ、西、南阿ニ行ツタトモハ、日本人ト支那人ニハ區別カナイ。共ニ「アジア」人タル爲ニ入國ヲ拒絕セラレテ居ル。之ニ反シ、英米人ハ「アジア」ニ迄侵略シテ、支那ノ如キハ事實英米ノ植民地同様テアル。支那人ハ彼等ノ奴隸テアル。我々ハ「アジア」人ノ「アジア」ヲツクル爲ニ一致シテ努力セネハナラヌ。」トイフコトヲ繰返シテ言ツテ居マシタ。誠ニ其通りテアリマス。

而シテ米英ノ態度ハ昔モ今モ何等變ラナイノテアリマス。

「チャーチル」ト「ルーズヴェルト」ハ所謂大西洋憲章ニ於テ民族ノ精神ヲ重ンスルカノ如キ聲明ヲ爲シテ居リマスカ、是ハ世ヲ欺瞞スル空言ニ過キサハ事實ノ證明スルトコロテアリマス。

嘗テ米國大統領候補者トシテ「ルーズヴェルト」ト争ヒ、開戦後ハ「ルーズヴェルト」ノ特使トシテ、「ヨーロッパ」ヤ「アジア」ニ使シタ共和黨ノ首領「ウイルキー」ハ、米英ハ何ノ爲ニ戰ツテ居ルカト反問シ、米國カ目的ナキ戰爭ヲ爲シツツアルヲ詰リ、「米英ハ自由ノ爲ニ戰ツテ居ルト言フカ印度ハ如何、英國ハ依然トシテ殆ト自治ヲ與ヘラレテ居ナイ幾多ノ植民地ヲ持ツテ居ル、然シ英國タケテハナク米國モ亦西印度ニ對シテハ獨立ノ約束ヲスラ與ヘテ

居ナイ。米國內ニ於テスラ帝國主義カ横行シテ居ル。」ト言ツテ居ルノテアリマス。

米英ハ何ノ爲ニ戰爭スル乎、米英ハ他國カラハ何等ノ脅威ヲ受ケテ居ナイ、米英人ハ世界ノ富源豐庫ヲ獨占シテ世界到ル所安居樂業シテ居リマス。戰爭スル必要ハ何處ニアリマス乎。コレハ獨リ「ウイルク」カ疑問ヲ起スノミナラス、一般米國人ノ疑問テアリマス。否世界ノ疑問テアリマス。シカシ夫レハ事實カ答ヘテ居リマス。ソレハ、「ルーズヴェルト」及「チャーチル」政權カ、日本ヲ滅ホシ、支那ヲ滅ホシ、「タイ」、「フィリピン」、「ビルマ」、印度ヲ壓迫シ、亞細亞人ヲ永久ニ奴隸ニセントスルノテアリマス。彼等ハ世界侵略ノ非望ヲ遂ケ、物質文明、黃金ノ世界ヲ作ラン爲ニ戰爭シテ居ルノテアリマス。コノ戰爭ニヨツテ軍ニ米英ノミナラス世界全體ニワタリ異民族壓迫主義、弱肉強食主義ヲ及ホサントシテ居ルノテアリマス。

ココニ於テ吾等ハ「アジア」ヲ米英ノ桎梏ヨリ解放シ新シキ正シキ世界ヲ作ラムカ爲ニ立チ上ツタノテアリマス。「ペーモ」、「ラウレル」、「ボース」等、亞細亞獨立ノ志士カ今日奮起シテ居ルノハ決シテ、一日一夜ノ附焼燬テハアリマセヌ。多年米英ノ壓迫ノ下ニ呻吟シタ、汗ト涙ト血トノ結晶カ今日ノ死闘トナツテ居ルノテアリマス。米英ハ獨立ノ志士ヲ壓迫スルコトカ出來ルテアラウ。然シ澎湃タル全「アジア」ノ解放ト獨立ノ精神ハ斷シテ是ヲ抑壓スル事ハ出來ナイノテアリマス。

今ヤ日本ハ「ビルマ」、「フィリピン」ノ獨立ヲ援ケ、印度民族ノ解放ヲ助ケ、又對支新政策ニヨツテ、眞ニ中國人ノ中國ヲツクルコトヲ助ケツツアリマス。カクテ滿洲國、中華民國、「タイ」國ハ漸次強化セラレ、「ビルマ」、「フィリピン」ハ近ク獨立シ、「インドネシア」ハ政治ニ參與シ印度モ亦解放セラレ而シテ是等ノ諸國、諸民族ハ互ニ

共存共榮ヲ目指シテ大東亞ノ建設ニ邁進シツツアルノテアリマス。亞細亞解放ノ黎明ハ、今ソ亞細亞ノ天地ニ訪レテ來タノテアリマス。

日本カ生キルカ死ヌカ、「アジア」カ解放セラレルヤ否ヤ、新シキ道義ノ世界カ出來ルヤ否ヤ、正ニ此戰爭コソハ天下分ケ目ノ戰爭テアリマス。

戰況ニツイテハ、何レ陸海軍當局カラ詳シクオ話カアルコトト思ヒマスカラ細カニハ申シ上ケマセヌカ、帝國ハ緒戰ニ於テ赫々タル戰果ヲ擧ケ、廣汎ナル領域ヲ占領シ、物心兩面ノ建設ヲ進捗強化シツツアリマス。「ヨーロッパ」方面ニ於テモ、獨、伊其ノ他ノ盟邦ハ、開戦後間モナク、殆ト「ヨーロッパ」大陸全部ヲ其ノ傘下ニ集メ其ノ陣容ヲ強化シマシタ。シカシ最近英米ハ反擊ニ出テ居リマス。

東亞ニ於テハ、米英ハ太平洋諸島ヲ島傳ヒニ我カ占領據點ノ奪回ヲ企圖シ、又潜水艦及ヒ飛行機ヲ以テ我カ船舶ヲ擊沈シテ東亞共榮圈ノ建設ヲ妨ケ、共榮圈ト日本本土トノ交通ヲ遮斷スルト同時ニ帝國ノ戦力消耗ヲ圖リ、更ニ進ンテ日本本土ノ空襲ヲ企テ、我國民ノ戰意ヲ喪失セシメントシテ居リマス。

斯クテ米英ハ今ヤ南、南太平洋、北、「アフリニューシヤン」ノ方面ヨリ反擊ニ出テ居リマス。

現ニ、敵米英ハ「アッツ」島、「ガダルカナル」及ヒ「レンドバ」方面ニ於テアレタケ莫大ナル損害ヲ受ケサルヲ得ナカツタニモ拘ラス執拗ニモ反擊ニ出テ、太平洋ヲ失ツタ全地域ヲ回復セントシテ居ルノテアリマス。更ニ米英ハ「ビルマ」方面ニモ降雨期去ラハヤカテハ再ヒ反擊シ來ルコトハ必然テアリマセウシ、又支那大陸ニ於テモ蔣政權ヲ籠絡シ對日攻勢ニ利用セント焦慮シテ居ルノテアリマス。

一方「ヨーロッパ」方面ニ於テハ、最近米英ハ北阿ヲ回復シテ地中海方面カラ伊太利ヲ攻撃シ「シシリ」ニ上陸作戰ヲ試ミ目下伺方面ニ於テ激戰中デアリマス。然シ「ムツソリ」首相ハ、疾クニ此敵側ノ作戰ヲ看破シ既ニ萬全ノ措置ヲ完了シテ戰爭完遂ノ決意ヲ明カニシテ居リマス。最近ノ情報ニヨレハ「イタリ」國民ハ上下一致シテ意氣軒昂、米英ノ反撃ヲ迎ヘ撃ツ用意カ出來テ居リ其ノ上獨逸軍モ亦伊太利軍ト協力、米英ノ侵入ニ對シテハ充分ノ準備ヲシテ居ルノデアリマス。

又「ヨーロッパ」ノ各方面ニ於テ獨逸軍カ其ノ強大ナル戦力ヲ隨時隨所ニ發揮スルハ疑ノ餘地無キ所デアリマス。米英ハ、北部「アフリカ」ニ於テ、多大ノ犠牲ヲ拂ツテヤウヤクソレヲ回復シマシタカ今後、恐ラクハ「ヨーロッパ」大陸ノ侵略ヲ企テル場合ココニ夥シキ人的物的ノ損害ヲ蒙ルコトハ明ラカデアリマス。

斯クノ如ク米英カ非常ナル犠牲ヲ覺悟シテ東西兩方面ニ於テ、日獨伊ニ對シテ反撃ニ出テタルハ深甚ナル注意ヲ要スル所デアリマス。

爾テ米英ノ國內状態ヲ見マシニ、戰爭遂行上幾多ノ弱點ヲ包藏シテ居ルノデアリマシテ米國ニ於テハ、「ルーズヴェルト」政權ハヒタスラ民心ノ懷柔ニ腐心シテ來マシタカ元來コノ戰爭ハ米國ニトツテハ名モナキ戰爭デアリ、正義ニ恃ル戰爭デアリマス。唯「ルーズヴェルト」ノ一派カソノ政權ヲ維持シ、世界ヲ制覇セントスル野望ニ出タル戰爭デアリマス。故ニ人的物的消耗カ累加スルニツレ、既ニ萌シテキル輿論ノ動搖ヲ激化シ、國內ノ紛淆ヲ招クノハ明カデアリマス。現ニ米國內ニ於テハ、鑛山、鐵道其他ノ罷業ガ續出シ又「インフレーション」ニヨル物價騰貴問題ニ直面スルナト幾多ノ社會問題ヲ惹起シテ政府ヘノ不平トナリ、コノ間ヲ縫ツテ政府部内ニハ「ワレイス」副大統領ト

「ジョーンズ」商務長官トノ抗爭、「デーヴィス」戰時食糧局長官ノ辭職ナトニ表ハレタル如ク内訌ハ漸次醜穢シ、又政府ト議會トハ屢々衝突シ國內ノ政權爭ヒハ次第ニ露骨ニナリツツアリマス。

只ココニ注意ヲ要スルハ我々ハ敵側カ常ニ誇張スル生産額ノ數字ニ惑ハサレテ徒ラニ怖ル必要ハナイカ、近頃米國カラ傳ヘラルル罷業ニ依ル生産減退又ハ「インフレーション」ニ依ル物價騰貴問題ヲ過大視シテ我方ニ於テ氣ヲ安メルカ如キハ深ク慎シマナケレハナラナイト云フコトデアリマス。

英國ノ國內事情ハ、米國ヨリ更ニ深刻デアリマシテ、食糧ハ漸次不足ヲ來タシ、戰線ノ擴大ニ伴ヒ徵用令ハ強化セラレテ可ナリ廣キ範圍ニマテ女子ヲ驅リ出スノ止ムナキニ至リ又常ニ獨逸空軍ノ脅威ニ曝サレテ居リマスカ彼等ハ永キ苦シキ試練モ今一息ト元氣ヲツケテ執拗ニ戰ツテ居ルノデアリマス。

私ハ二年前「イタリ」カラ歸朝以來屢々「此ノ戰爭ハ結局交戰國間ノ妥協ニ終リハシナイカ」トノ質問ニ接シマシタノニ對シ常ニ「現下ノ國際情勢ハ極メテ深刻デアル。結局此ノ戰爭ハ妥協ハナイ、一方カ倒レルマテ戰フテアラウ。」ト言ツテ參リマシタ。

米英ハ六ヶ月前ノ、「カサブランカ」會談以來「樞軸國ノ無條件降伏」ヲ標語トシテ居リマスカ、コレハ必スシモ宣傳テハナカラウ。眞ニ彼等ハ我等ニ對シ無條件降伏ヲ目指シテキルノデアリマス。

我々モ亦米英ノ無條件降伏ヲ期シテ居リマス。我々ハ先ツ米英ノ反撃ヲ擊推シ、更ニ米英ニ致命的打撃ヲ與ヘ、之ヲ降伏セシメント邁進シテ居リマス。然シ乍ラ、米英ハ戰意マダ衰ヘス、大ナル生産力ヲ頼ミトシテ突進シ、其勢侮ル可ラサルモノカアリマス。少シテモ油斷スレハ由々シキ結果ヲ生スルノデアリマス。

長レ多クモ、第八十二臨時帝國議會ノ開院式ヲ御詔書中ニ「時局洵ニ重大ナリ」ト仰出サレテ居リマス。内外ノ情勢ハ洵ニ重大テアリ現下ノ時期ハ、既ニ決戦段階ニアリマス。一刻ノ油断モセス、一瞬ノ隙モ見セス、敵ノ抗戦力ニ對抗シ、之ヲ撃摧セサレハ勝利ハ期シ難イノテアリマス。

我々ハ今靜カニ只今何處テ如何ニ敵ト戦ヒツツアルカヲ考フヘキテアリマス。我勇敢ナル將兵ハ太平洋ヨリ東亞ノ大陸ニ亘リアノ廣大ナル戦域ニ於テ毎日毎夜、激戦又激戦、敵ヲ挫クト共ニ我モ亦人ヲ失ヒ、物ヲ損シツツアルノテアリマス。我々ハ前線ニ於ケル我カ勇士カ何等後顧ノ憂無ク充分ニ勇敢ニ奮闘シ得ル様ニ、銃後ニ於テ準備シナケレハナリマセン。之カ我々ノ何ヨリノツトメテアリマス。ソレニハ、先ツ第一ニ戦力ノ増強ヲ計ラナケレハナラヌ。我々ハ生産ヲ増強シ、一臺ノ飛行機、一ケノ彈丸テモ多ク前線ニ送ラネハナラヌ。直接間接軍需ニ關係スル製造ハ勿論、其他一切ノ生産ヲ増加セネハナラヌ。食糧ヲ増産シテ自給自足ヲ計リ最早海外ニ頼ル考ヘヲ擲タネハナラヌ。夫カラ衣食住ヲ簡素ニシテ戦時生活ノ體制ヲ整ヘネハナラヌ。

特ニ戦争ノ過程ニアル一勝一敗ニ一喜一憂スルコトナク安易ナル勝利ニ醉ハス、些々タル挫折ニ氣ヲ落サス、常ニ最終ノ勝利ヲ確信シテ敢闘精神ヲ發揚セネハナラヌノテアリマス。殊ニ戦争カ進ミ時局カ深刻トナルニ從ツテ戦争ト共ニ政治外交ノ方面カ勤キ敵側ノ謀略宣傳ハ益々活潑トナルノテアリマスカ、我々國民カ之ニ打勝チ此戦争ヲ完遂スルニ足ル國民的意氣ヲ有スルカ否カカ戦争ヲ決定スル鍵トナルノテアリマシテ國民ノ意氣ノ緩ミアラハ終ニ勝チ拔クコトハ出來ナイノテアリマス。我々ハ此點モ充分ニ注意スル必要カアリマス。

私ハ以上簡單ナカラ今次大戦カ如何ニシテ起リシヤ、如何ナル意義ヲ有スルヤ、我々ハ日本國民トシテ、亞細亞民

族トシテ、將又世界ノ一員トシテ如何ニシテモ此大戦ヲ勝抜カサル可ラサル理由ハ何處ニアリヤ、現在ハ如何ナル狀勢ニ在ルヤ、此決戦段階ニ如何ナル覺悟ヲ以テ處スヘキ乎等ヲお話シテ積リテアリマス。我々ハ深く此等諸般ノ事情ヲ省察シテ前線ノ勇士ノ如ク死ヲ賭シテ戦ヒ拔キ以テ御褒襟ヲ安シ奉ラムコトヲ期シ度イト存シマス。

四、「タイ」國宣傳局長一行ノ歡迎宴ニ於ケル

天羽情報局總裁挨拶 (七月十六日)

閣下並ニ各位

今般「タイ」國政府宣傳局長「パイロート・チャイヤナム」閣下及同國新聞協會長「ブリチャーンサット」氏ノ御兩人カ情報局總裁タル私ノ招請ニ應シ遙々來朝セラレマシタコトハ私ノ最モ欣快トスル所テアリマス。本夕御一行ノ來訪ヲ機ニ聊カ歡迎ノ微意ヲ表スル爲茲ニ粗宴ヲ設ケマシタコト、戰時下公私御多用中ニ拘ラス斯クモ多數朝野ノ方々カ御列席下サイマシタコトハ、私ノ光榮トスル所テアリマシテ衷心ヨリ厚ク御禮申上クル次第テアリマス。此ノ機會ニ一言御挨拶ヲ申上ケタイト存シマス。

大東亞戰爭勃發シテ早クモ一年有半、此ノ間日「タイ」兩國ハ攻守同盟ヲ締結シ國交一段ト緊密ノ度ヲ加ヘ、「ピブン」總理閣下ヲ始メ「タイ」國ハ朝野ヲ舉ケテ東亞諸民族共同ノ大使命タル今次戦争遂行ニ協力セラルト共ニ、大東亞共榮國建設ノ重大ナル任務ヲ分擔セザレツツアルノテアリマシテ此ノ事ハ日「タイ」兩國ノ爲誠ニ御同慶ニ堪

へ無イ次第アリマス。

今回東條總理閣下カ「タイ」國ヲ訪問セラレ親シク「ピブソ」總理閣下ト會見ノ結果兩國ハ愈々其ノ協力態勢ヲ緊密化スルト共ニ、「タイ」國多年ノ宿望タル疆域六州ノ劃定ニ付意見ノ一致ヲ見マシタコトハ、兩國ノ精神的結合ノ如何ニ緊密鞏固ナルカヲ具體的ニ世界ニ顯示シタモノデアリマシテ、日「タイ」兩國ノ爲ニハ勿論我々共通ノ大理想タル大東亞共榮圈建設ノ爲ニ努力シツツアル亞細亞十億ノ民衆ノ爲ニモ寔ニ慶賀ニ堪ヘヌトコロデアリマス。此時ニ當リ多年「タイ」國政府ノ宣傳報道ノ重任ニ當ラレ現在其ノ首班トシテ益々日「タイ」親善關係増進ト共同戰爭完遂ノ爲ニ努力ヲ續ケテ居ラレル「バイロート・チャイヤナム」閣下並ニ操觚界ノ重鎮トシテ輿論ノ指導啓發ニ至大ノ貢獻ヲセラレツツアル「ブリチャームサット」氏御一行ヲ日本ニ迎ヘマシタコトハ殊ニ意義深キモノアリト信スル次第デアリマス。

申ス迄モナク今次戰爭開始以來武力戰ニ於テ敗退セル敵ハ主力ヲ宣傳戰ニ注イテ躍起ノ策動ヲ續ケテ居リマス。我方ニ於テハ既ニ必勝不敗ノ態勢ヲ整ヘタノデアリマスカ今後益々武力ニ於テ敵ヲ壓倒スルト共ニ宣傳戰ニ於テモ大東亞ノ各國ト緊密ナル連絡ノ下ニ武力戰ノ勝利ヲ速カナラシメナケレハナラヌノデアリマス。此ノ意味ニ於テ今回「タイ」國宣傳局長ヲ迎ヘマシタコトハ兩國宣傳陣ノ強化ノ爲内外ノ期待スル所頗ル大ナルモノカアルノデアリマス。又新聞通信事業ニ就キマシテハ日本カ比較的短期間ニ於テ目覺シキ進歩發展ヲ爲シタ跡ヲ尋ネ又刻下ノ大戰爭ニ際シテ日本ノ言論機關カ如何ニ全國民ノ對敵思想戰完遂ニ貢獻シテ居ルカ其ノ實際ヲ目撃セラレルナラハ裨益セラレル所少ナカラサルヲ信スルノデアリマス。

來朝ノ御一行ノ爲ニハ當情報局ハ勿論朝野關係各方面ハ孰レモ出來得ル限りノ御便宜ヲ取計ヒ度イト存シマス。何卒今次御訪日ノ好機ヲ十二分ニ活用セラレ、戰時下日本ノ物心兩方面ヲ充分觀察頂キマシテ我國ニ對スル理解ヲ更ニ一層深メラレ、御歸國ノ上ハ益々貴國言論思想界ノ正シキ指導ニ努メラルルト共ニ相携ヘテ大東亞建設ノ大業完成ノ爲ニ盡瘁セラレンコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス。

茲ニ來賓各位ト共ニ杯ヲ舉ケテ盟邦「タイ」國ノ隆昌ヲ祈リ併セテ御兩氏ノ御健康ヲ祝シ度イト存シマス。

五、駐日「タイ」國大使主催「バイロート」宣傳局長一行

招宴ニ於ケル天羽情報局總裁挨拶 (七月二十七日)

大使閣下、閣下並ニ各位

「デイレック」大使閣下カ今般「タイ」國宣傳局長及新聞協會長ノ御來朝ヲ機トシ、公務御多忙中ニ拘ラス今夕斯ク盛大ナ招宴ヲ催サレ私共ヲ御招待下サイマシタ御厚情ニ對シ厚ク御禮申上ケマス。

大使閣下カ東京ニ御着任後日夜ヲ分タス日「タイ」兩國ノ親善關係ノ増進及兩國ノ共同目的ノ達成ノ爲ニ不斷ノ努力ヲ傾注シテ居ラレマス事ハ、平素私共ノ感佩措ク能ハサル所デアリマス。又此ノ度「バイロート」宣傳局長並ニ「ブリチャームサット」新聞協會長ノ來朝ハ、大使閣下平素ノ御盡力ノ效果ヲ彌カ上ニモ増大セラレマシタコトハ、御招キ申上ケタ身トシテ此ノ上ノ喜ビハ有リマセン。御來朝ニ關シマシテハ大使閣下始メ大使館員各位カラ種々御協力

御援助ヲ賜リマシタコトニ對シ茲ニ改メテ厚ク御禮ヲ申上ケマス。

日「タイ」兩國ノ外交及思想宣傳ニ直接携ツテ居ル人々カ今夕此ノ機ニ一堂ニ相會シテ互ニ胸襟ヲ開イテ歡談シ得ルトイフ事ソレ自體カ東亞ノ興隆ト兩國ノ緊密ナル關係トノ具體的表現テアルコトハ、私カ指摘スル迄モナイ事柄デアリマス。日「タイ」兩國ハ同シ亞細亞民族トシテ正ニ血ヲ分ケタ兄弟ノ關係ニモ比スヘキデアリマシテ、過去ニ輝ヤカシイ歴史ト傳統トヲ持チ、現在共ニ其ノ全力ヲ合セテ東亞新秩序樹立ト共榮團建設トイフ共同理想ノ實現ノ爲ニ、武力鬭爭ニ將又思想戰ニ勇往邁進シ、又同シク輝ヤカシイ希望ト不動ノ信念トヲ以テ大東亞將來ノ繁榮ト幸福トヲ樹立シ、新シイ歴史ヲ創ル使命ヲ有シテ居ルノデアリマス。

大東亞戰爭ハ今ヤ愈々連續決戰ノ段階ニ入りマシタ關係上、思想戰ノ様相モ益々深刻ヲ加ヘテ參リマシタ。此ノ思想戰完遂上常ニ堅持スヘキ精神的目标トシマシテハ我國ノ先哲岡倉天心氏モ喝破セラレマシタ通り「亞細亞ハ一ナリ」ト云フ一語ニ盡キマス。

亞細亞ハ一ナリ、洵ニ斯クテコソ亞細亞ノ新シイ歴史ハ展開セラレ又舊イ文明ヲ基礎トシタ新シイ文明カ建設セラレ得ルノデアリマス。亞細亞ヲ分割分離シテ搾取スルコト、コレ實ニ從來ノ米英ノ亞細亞政策テアツタノデアリマス。前線ニアル陸海軍將兵ノ善謀勇戰ニ依リマシテ此ノ大理想實現ノ爲ニ必要ナル基礎ノ工事ハ完成セラレタノデアリマスカラ、職ヲ宣傳報道ニ奉スル人々ハ益々共同一致シテ此ノ戰場ノ戰果ヲ一層鞏固ナル精神ノ上ニ確立スヘキデアルト確信致シマス。

宣傳局長並ニ新聞協會長御兩氏ヲ遙々「タイ」國ヨリ御招待申上ケタ私ノ本旨モ實ニ茲ニアルコト御覽察ノ通りデアリマス。

アリマス。御兩氏ニ於カレマシテモ御滞在日數ハ短イノデアリマスカ、戰時下日本國官民カ如何ニ眞劍ニ各自其ノ職域ニ奉公シテ居ルカヲ御兩氏ノ高キ明察ニ依リ親シク見テ戴ケタコトト存シマス。

御兩氏御歸國ノ際ハトウカ親シク見聞セラレタ之等日本ノ印象ヲ貴國民ニ御紹介下サイマシテ、今後共日「タイ」兩國朝野ノ間ノ一層良キ諒解ト親善ノ爲ニ御盡力アランコトヲ祈ル次第デアリマス。

同時ニ是非御願致度キ點ハ「デイレツク」大使閣下カ平素日「タイ」親善ノ爲ニ御盡シニ爲ツテ居ル功績ハ著シキモノカアリ、日本國民ハ官民ヲ舉ケテ大使閣下ニ對シ尊敬ト親愛ノ念ヲ懷イテ居ル事實ヲ直接御傳達下サランコトデアリマス。

聊カ所感ヲ述ヘテ「デイレツク」大使閣下ノ御言葉ニ答ヘ同時ニ「バイロイト」、「ブリチヤヌサツト」御兩氏へ御挨拶ヲ申上ケタ次第デアリマス。

茲ニ杯ヲ拜借致シマシテ各位ト共ニ大使閣下及御兩氏ノ御健康ヲ祝シ同時ニ「タイ」國並ニ「タイ」國民ノ御隆昌ヲ祈念シ度イト存シマス。

六、最近ノ國際情勢（主トシテ米國ノ國內問題）ニ關スル

情報局第三部磯野對外報道課長放送（七月三十日）

獨「ソ」戰線ハ本月五日ヨリ活潑ト爲リマシタカ、其ノ後一進一退、稀ニ見ル熾烈ノ度ヲ加ヘテ居リマス。七月十

日開始セラレマシタ米英軍ノ「シシリ」島上陸ハ、米英軍カ急速ニ其陣地ヲ擴大致シマシテ、現在獨伊軍ハ「シシリ」島ノ東北地域ニ堅陣ヲ布キ敵ヲ邀ヘ撃ツテ居リマス。「ソロモン」、「ニューギニア」方面ニ於ケル彼我ノ決戦ハ日ニ激烈ノ度ヲ加ヘツツアリマス。又支那ヲ基地トスル米空軍ハ執拗ニ奮動ヲ續ケ、皇軍ノ鐵槌ヲ食ツテ居リマス。去ル二十五日ノ伊太利政變ハ今ヤ世界ノ視聽ヲ集メテ居リマス。伊太利新政府ハ既ニ明確ナル戰爭完遂ノ決意ヲ表明致シマシタ。然ルニ敵側ハ右政變ヲ以テ伊太利崩壞ノ第一歩ナリト爲シ、英米ノ首腦者ハアハ善クハ此ノ機ニ付込テ伊太利ヲ樞軸陣營ヨリ脫落セシメント虫ノ良イ考ヲ起シ、「チャーチル」ハ二十七日ニ、又「ルーズヴェルト」ハ二十九日ニ、夫々脅迫カマシイ誘ヒヲカケテ居ル様ナ實情、デアリマス。憲ニ世界ノ形勢ハ急速端倪ヲ許ササル變轉ヲ示シ、憲ニ一刻モ忽ニセス、總テノ戰場ニ於テ勝利ノ決戦ニ邁進スヘキ時期ナルヲ痛感スル次第デアリマス。是等諸情勢ニ付キマシテハ別ノ機會ニ御聽取アルコトト存シマシテ、今夜ハ當面ノ敵テアル米國ノ國內情勢ニ關シ暫ク檢討ヲ加ヘテ見タイト考ヘマス。

今日米國政府カ最モ頭ヲ悩マシテ居ル問題ハ所謂「インフレーション」デアリマス。

「インフレーション」ノ問題ハ、戰時何レノ國ニモ付キモノデアリマシテ、勿論米國ニ限ツタ問題テハナイノデアリマス。米國ニ於テハ先月末ニ閉テタ昨會計年度ノ決算ニ於テ七百二十二億弗ヲ消費シタト稱スル如キ尨大ナル軍事費ノ支出ト、急激ナル民需ノ抑壓ト云フ二ツノ事由ニヨツテ、其傾向カ特ニ顯著トナリ、英國側ノ報道ニ依リマスト、現在米國ニ於ケル購買力ト物資供給額トノ開キ、即チ浮動購買力トモ云フキモノカ四百五十億弗ト云フ巨額ニ達スルトノコトデアリマス。共ニ、其國內政治上ノ事由ト、國民全般ノ戰爭ニ對スル心構ヘカ我國ニ於ケル如クテ

ナイ爲有效適切ナ防止策ヲ講シ得ナイ點トニ、一層ノ弱味カアルノデアリマス。

云フ迄モ無ク、「インフレーション」防止策ノ第一歩トシマシテハ、國民所得ノ増大ヲ抑ヘルコトト物價ノ統制トデアリ、米國政府トシテモ一應ハ此ノ方策ヲ執ツテ來テ居ルノデアリマス。

所カ米國戰時内政上ノ二ツノ痛トモ云フヘキ勞働問題ト農村問題カ其對策ノ實施ヲ阻礙シテ居ル譯デアリマス。米國有力新聞ノ一ナル「クリスチャン・サイエンス・モニター」ハ勞働團體カ政府ヲ支配シ、農村議員團カ議會ヲ支配シテ居ルト批評シテ居リマス程、此ノ二ツノ勢力ノ米國內政上ニ及ホス影響ハ大ナルモノカアルノデアリマス。殊ニ「ルーズヴェルト」ハ之等ノ勢力ニ向ツテ政權維持ヲ計ツテ來タ經緯カアリ、其處ニ「ル」政權ノ困難カアル譯デアリマス。

先ツ農村問題ヲ見マスト、米國トシテハ國內ノ食糧確保ノ外他ノ與國ニ對シテ食糧ノ供給ヲ引受ケ、現ニ最近ノ發表ニ依レハ、一昨年三月貸與法成立以來本年三月末迄ニ食糧ノミテ十四億弗ヲ提供シタト稱シテ居ル程デアリマシテ、極力食糧増産ノ必要ニ迫ラレテ居リマスモノノ、同時ニ「インフレーション」防止ノ爲農產物價格ノ値上リヲ抑ヘル必要カアリマス。然ルニ今日米國ニ於テハ大農業者ノ利益ヲ代表スル議員連ハ農村議員團ト呼ハレル有力ナ團體ヲ組織シ、此ノ團體ハ食糧増産ノ爲ニハ農產物ノ値上ケヲ認メル必要アリト固執シ、其ノ勢力ヲ利用シテ政府ノ物價政策ヲ農產物ニ關スル限り骨抜きニセント畫策シ、之カ爲農產物價格ニハ一應ノ標準ハ定メラレマシタカ、融通性カアル爲次第ニ値上リヲ來シ、政府ノ「インフレーション」防止策上非常ナ障礙トナツテ居ルノデアリマス。

然ルニ農村議員團ハ昨年秋頃ヨリ更ニ農產物價格ノ吊上工作ヲ爲シ、本年一月「バンクヘッド」案ト稱セララル農

産物價引上ケ法案ヲ提出シ上下兩院ヲ通過シマシタノテ、流石ノ「ルーズヴェルト」モ四月二日拒否權ヲ行使シテ此ノ法律ヲ葬リマシタカ、此處ニ「ルーズヴェルト」ト農村議員團トノ正面衝突ヲ見ルニ至リマシタ。

「ルーズヴェルト」ハ右ノ法案ヲ拒否スルト共ニ、四月八日賃銀及物價ヲ昨年九月十五日ノ水準ニ釘付ケスル命令ヲ發シ、農産物價格ヲ其ノ水準迄引下ケル爲、補助金制ヲ採用スルコトトシ、從來補助金ヲ取扱ツテ居タ商品金融會社ヲシテ一部食糧品ニ對シ補助金ヲ與ヘ價格引下ケヲ行ツタノテアリマス。所カ、此ノ會社ノ存續期間カ六月三十日ヲ終ルノテ政府ハ其ノ延長法案ヲ議會ニ上程致シマシタカ、農村議員團ハ、補助金政策ハ小農ノ利益ハ保護スルカ大農業者ノ利益ヲ保護セス、從ツテ大規模増産ハ不可能アルトテ反對シ、補助金交付ヲ禁止スル條項ヲ附加シテ、上下兩院ヲ通過セシメタノテアリマス。其處テ「ルーズヴェルト」ハ斯クテハ農産物ノ價格騰貴ヲ來ストノ理由テ再度拒否權ヲ行使シマシタ。

此ノ拒否ニ遭ヒ議會ハ再審議シマシタカ、決定數タル三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ大統領ノ拒否ヲ覆スコトカ出來ス、結局會社ノ存續期限ヲ明年一月一日迄延長、會社ノ借入資金ヲ二十六億五千萬弗ヨリ三十億弗ニ増加シ其ノ差額三億五千萬弗ヲ政府カ食糧増産補助金トシテ使用スルコトヲ認メルニ至リマシタ。

斯テ農村議員團トシテハ一應政治的敗北ヲ蒙ツタ譯テアリマスカ、然シ其ノ主張ハ相當強硬テアリ、殊ニ本年度農産物收穫豫想ハ、六月一日農務省發表ニ依レハ、勞働力不足、水害、旱魃等ノ爲數年來ノ不作ト見ラレ、一方食糧ノ需要ハ益々増大スルノテアリマスカラ、補助金政策ノミテ解決シ得ルカ否カ、今後モ注目ニ値ヒスルモノカアリマス。

賃銀問題ニ關シマシテハ米國政府ハ戰時賃銀政策トシテ所謂「小鐵鋼樣式」ヲ採用シテ居リマス。之ハ元來「イ・エス・ステイール」以外ノ製鐵會社カ賃銀値上ケノ標準トシテ採用シタ方式テ、一昨年一月ヨリ一般日常品物價ノ停止カ行ハレタ昨年五月迄ニ至ル十七ヶ月間ノ生計費騰貴率ヲ一割五分ト認メ、賃銀引上ケハ此ノ範圍内テノミ許可スルト云フヤリ方テアリマスカ、政府ハ、本年四月八日ノ賃銀物價釘付令ニ依リ、此ノ方式ヲ法制化シタノテアリマス。然シ現實ニハ米國ノ生計費ハ昨年五月ヨリ更ニ昂進ノ一途ヲ辿ツテ居リ、殊ニ農産食糧品價格ノ騰貴カ甚クシイ爲、勞働界カ「小鐵鋼樣式」ニ不滿ヲ持ツニ至ツタノテアリマス。

シカシ實際上、昨年ノ上半期ニ於テハ參戰ノ興奮モアリ、罷業件數ハ著シク減少シタノテアリマスカ、下半年ヨリ本年ニカケテ物價騰貴ノ傾向カ著シクナルニ及ヒ、罷業カ激増シマシタ。然シ米國ノ二大勞働組合ハ、米國ノ參戰ト共ニ大統領ニ對シ戰爭中ハ罷業ヲ行ハスト云フ誓約ヲ爲シ、政府ノ戰爭遂行ニ協力スル方針ヲ執ツテ居ル爲、假令罷業ハアツテモ、コレ迄カ重大問題化スルコトハナカツタノテアリマスカ、豫テ「ルーズヴェルト」反對ヲ表明シテキタ「ジョン・ルイス」ハ約六十萬ノ組合員ヲ擁スル合同炭坑夫組合ヲ率キテ、本年五月一日總罷業ニ入り、翌日ニハ東部十一州ニ互リ五十萬ノ炭坑夫カ罷業スルトイフ情勢ヲ惹起シマシタ。政府ハ戰時勞働局等ヲシテアラナル罷業調停ノ爲ノ努力ヲシマシタカ「ルイス」ノ態度強硬テ讓ラス、交渉打開ノ爲ニ暫定的ニ二度程復業ハシマシタカ、罷業ノ大勢ハ容易ニ收マラス、結局六月二十二日ニ至リ「ルイス」ハ十月三十一日迄ヲ期限トシテ一應ノ休戰ニ入ルコトトナリマシタカ、復業成績必シモ芳シカラス、本月ニ入ルモ尙多少ノ罷業者カアル様ナ有様テアリマス。

此ノ三ヶ月ニ互ル罷業ニ依ツテ、米國産業殊ニ製鐵業ノ蒙ツタ損害ハ甚大テ、政府當局ノ發表ニ依レハ、此ノ間ノ

採炭損失量約二千三百萬噸ニ達スル由テアリマス。

斯様ナ罷業ニ關シ、米國議會ハ「ルーズヴェルト」ノ勞働對策ヲ生温シトシテ、罷業禁壓ヲ目的トスル戰時勞働爭議法ヲ立案シ、六月十二日一氣呵成ニ之ヲ通過シタノテアリマス。カ、**「ルーズヴェルト」**ハ、寧ロ徵兵法ヲ改正シテ現在ノ徵兵年齡制度四十五歳ヲ六十五歳ニ引上ケ、罷業參加勞働者ヲ兵役ニ徵集シ、工場炭坑等ニ強制的ニ就業セシメル方カ效果的テアルトシテ、六月二十五日右法案ニ關スル署名ヲ拒否シタノテアリマス。

然ルニ議會ハ上下兩院共法定ノ三分ノ二以上ノ投票ヲ以テ「ルーズヴェルト」ノ拒否ヲ覆ヘシ、戰時勞働爭議法案ヲ法律トシテ成立セシメタノテアリマス。

此ノ經緯ヲ見マスト、「ルーズヴェルト」ハ署名拒否ニ依リ一應勞働階級ノ非難ヲ回避シツツ、而モ爭議禁壓法ヲ成立セシメ、巧ミナ謀略テアルト見ル向キモアルノテアリマス。カ、然シ「ルーズヴェルト」カソノ拒否ヲ蹂躪セラレタコトハ矢張り議會ニ對スル明白ナ敗北ト言ヒ得ルノテアリマス。換言スレハ勞働階級ヲ重要ナ地盤トシテ、政權ヲ獲得シタ「ルーズヴェルト」ハ勢ヒ勞働者ニ媚態ヲ呈セサルヲ得ス、其ノ結果參戰後ノ勞働政策ハ主トシテ、勞働者ノ愛國心ニ訴ヘル如キ微温的ナモノテアツタニ對シ、戰時經濟ノ進展ニ伴フ物價騰貴ハ、「ルーズヴェルト」ノ勞働政策ノ行詰リヲ來サシメタノテアリマス。炭坑夫ノ罷業ハ十月末迄休戰ノ形ニアリマス。カ、炭坑以外ノ産業ニ於テモ隨所ニ險惡ナ貨銀値上ケノ要求空氣カアリ、罷業禁壓法ノアルニモ拘ラス現ニ罷業カ行ハレツツアリ、又續發スル可能性モ包藏セラレ居ルノテアリマス。

次ニ政府内部ノ抗爭カアリマス。「ルーズヴェルト」ハ參戰後山積スル戰時經濟問題ヲ處理セシムル爲、ヤタラニ

新官廳ヲ設立シマシタカ、之等官廳間ノ權限カハツキリシテ居ラヌ爲、官廳間ノ權限爭ヒニハ相當深刻ナルモノカアリ、屢々表面化シテ問題ヲ起シテ居リマス。カ、最近ノ事例ヲ見テモ、六月二十八日ニ食糧管理局ノ長官テアル「チェスター・デヴィス」カ辭職シマシタ。之モ其ノ原因ノ一半ハ食糧統制局ト物價統制局及ヒ經濟安定局トノ權限爭ヒニアツタコトハ辭職理由書ニ明テアリマス。

「デヴィス」ノ辭職以上ニ天下ニ醜ヲ晒シタノハ副大統領「ウオーレス」ト商務長官「ジョーンズ」トノ爭ヒデアリマス。副大統領兼經濟戰爭局ノ長官タル「ウオーレス」ハ、六月二十九日上院豫算委員會ニ對シ、復興金融會社社長タル商務長官「ジョーンズ」ノ怠慢ノ爲、經濟戰爭局ノ事業遂行カ阻害サレテキル旨ヲ聲明シマシタ。スルト「ジョーンズ」ハ經濟戰爭局ノ業績不良ハ經濟戰爭局自身ノ無能ニ依ルモノテアルトテ逆襲シ、此ノ間戰時動員局長官「バインズ」カ調停ニ入りマシタカ、兩者ノ軋轢ハ益々深刻化スルニ至ツタノテ、「ルーズヴェルト」ハ遂ニ本月十五日從來ノ經濟戰爭局ヲ廢止シ、其ノ權限ト復興金融會社ノ對外經濟活動ノ權限トヲ新設ノ經濟戰爭局ノ所管ニ移スコトトナシ、新經濟戰爭局長官ニハ敵産ノ管理ニ當ツテ居リマシタ「レオ・クロウリー」ヲ任命、茲ニ喧嘩兩成敗ノ型テ鬼カツイタ次第デアリマス。

其レト同時ニ「ルーズヴェルト」ハ各廳長官ニ對シ、「從來官廳間ノ意見對立ハ之ヲ公ニセス、自分ノ許ニ申出ツル様訓令シテ置イタニ拘ラス屢々官廳間ノ對立カ世界ニ喧傳セラレテ居ルカ、今後官廳間ニ不一致ヲ生シタ場合新聞ニ聲明ヲ出ス位ナラ辭職願ヲ提出セラレ度イ」ト官紀肅正ノ訓令ヲ發シタ位デアリマス。

斯ノ如キ米國ノ内情カ生産ニ影響スルノモ當然デアリマシテ、五月四日戰時生産局長官「ドナルド・ネルソン」ハ、

本年一月乃至三月ノ軍需生産狀況ニ關シ、「本年第一四半期ノ軍需生産ハ本年度全體ノ豫定額ノ一割八分ニ過キナカ
ツタ。從ツテ今後四半期毎ニ第一四半期ノ五割増ノ生産ヲシナケレハ豫定ノ増産計畫ハ實現シナイ」ト警告ヲ發シ、
更ニ本月六日ニ至リ、同人ハ五月及ヒ六月ニ於ケル生産量ハ豫定ニ達セス、憂慮スヘキモノカアルカ、之ハ罷業、勞
働者ノ缺勤、一般的勞働力不足ニ基クト共ニ國民ニ緊張味カ缺ケテ居ルカラテアルト稱シテ居リマス。

以上ノ如ク米國內ニハ種々ナ困難ナ問題カアリ、當局者モ手ヲ焼イテキルノハ事實デアリマスカ、サリトテ、「ル
ーズヴェルト」ノ人氣カカタ落ニナツタナドト考ヘタラ大間違ヒデアリマシテ、少クトモ戦争遂行ニ關スル限り十分
ノ指導力ヲ持ツテ居リ、此ノ點相手ニトツテ不足ハアリマセン。

唯「ルーズヴェルト」自身トシテモ、此ノ人氣ヲツナク爲ニハ相當ノ努力ヲシテ居リ、寧ロ人氣ヲ保ツ爲ニ作戰ノ
上ニモ無理ヲシテ居ル傾向モ窺ハレルノデアリマシテ、斯ク人氣取りノ犠牲ニナツテ無理ナ戦闘ヲサセラレテキル米
國兵コソイ面ノ皮トイハネハナリマセン。斯ル内政上ノ諸困難ハ、「インフレーション」トイヒ、勞働問題トイヒ、
戦争ノ重壓カ段々ト國民生活ニ浸透シテ來タコトカ根本原因デアリマシテ、國民力之ヲ苦ニシ初メタコト漸ク顯著ト
爲リ、政府當局モ之ヲ充分見抜イテ居ルト云フノカ現状ト見ラレマス。從ツテ米英殊ニ米國ノ最近ノ言論界ニハ、戰
争ノ局地的成功ヲ以テ、モウ山ハ見エタト爲ス樂觀論カ多ク、其ノ最モ好適ノ例ハ昨日ノ「ルーズヴェルト」ノ演說
デアリマス。此ノ演說ニ於テ「ルーズヴェルト」ハ米國民ニ對シ伊太利カ片附イタカラトイフ如キ印象ヲ與ヘツツ、
珈琲ノ配給ヲ良クスルトカ、更ニ戦後歸還兵ノ待遇ヲ保障スルトカ、戦争カ濟ンタ後ノコトニマテ無理ニ希望ヲ持タ
セルコトニヨツテ、國民ニ現在ニ於ケル戦争ノ影響タル困難ニ堪ヘ抜ク様ニ印象セシメントスル焦慮ト努力トノアト

カアリアリト見エルノデアリマス。

七、「ビルマ」獨立ニ際シテノ東條内閣總理大臣發

「バー・モウ」内閣總理大臣宛祝電 (八月四日)

御懇電ニ接シ感激ニ堪ヘス

茲ニ予ハ衷心ヨリ「ビルマ」國ノ獨立ヲ慶祝スルト共ニ多年英國ノ壓制ノ下飽ク迄モ「ビルマ」再建ノ爲ニ苦闘ヲ續
ケツツ克ク本日ノ歴史的記念ノ日ノ素地ヲ作レル「ビルマ」民衆ノ不撓不屈ノ精神ニ對シ滿腔ノ敬意ヲ表シ併セテ閣
下ヲ始メ「ビルマ」民衆ノ大東亞戦争勃發以來帝國ニ寄セラレタル御協力ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表スルモノナリ

今ヤ大東亞解放ノ戦ヒハ着々トシテ進展シツツアリ帝國ハ必勝ノ信念ヲ以テ愈々大東亞諸國家トノ提携ヲ緊密ニシ益
々歐洲盟邦ト相策應シテ共同ノ宿敵米英ヲ擊摧シ以テ道義ニ基ク新秩序ヲ建設セントス

茲ニ「ビルマ」國ノ獨立ニ際シ重ネテ祝意ヲ表スルト共ニ閣下ノ邊マシキ統率ノ下「ビルマ」國カ其ノ興隆ト大東亞
戦争完遂ノ爲最善ヲ盡サレンコトヲ切望シ閣下ノ御健康ヲ祈リ上ク

八、「ウイチット」「タイ」國外務大臣歡迎晚餐會ニ於ケル

青木大東亞大臣挨拶 (八月六日)

「タイ」國外務大臣閣下並ニ閣下及各位

今回我盟邦「タイ」國ノ外務大臣「ウイチット・ワタカン」閣下ヲ我國ニ御迎ヘスル機會ヲ得マシタコトハ、帝國政府及國民ノ頗ル欣快トスル所チアリマス。本夕ハ聊カ歡迎ノ意ヲ表シマスルト共ニ、帝國朝野ノ主ナル關係者ヲ御紹介申上ケマスル爲茲ニ粗宴ヲ設ケマシタル處、「ウイチット」外務大臣閣下御一行ヲ初メトシ、滿、支兩國ノ大使閣下其ノ他斯ク多數ノ閣下及各位ノ御來臨ヲ辱ウシ衷心ヨリ厚ク御禮申上ケル次第チアリマス。

「ウイチット・ワタカン」閣下ハ本年四月私カ「タイ」國ヲ訪問致シマシタルニ對スル答禮トシテ態々今回御來朝ニナツタノチアリマシテ、私ハ「タイ」國政府ノ此鄭重ナル御措置ニ對シ深ク謝意ヲ表スル次第チアリマス。私ノ「タイ」國訪問ノ際外務大臣閣下其ノ他「タイ」國政府當局ヨリ與ヘラレマシタル御歡待ト御厚意トハ私ノ終生忘レ得ナイ所チアリマシテ、私ハ此機會ニ更メテ深甚ナル謝意ヲ表明致シタイト存シマス。又當時「ビボン」總理大臣閣下初メ政府首腦ノ方々カ日「タイ」同盟條約ノ精神ニ徹シ帝國ト協力シテ飽ク迄モ大東亞戰爭ニ勝タントスル堅キ決意ヲ有セラルルコトヲ知り、又「タイ」國國民カ敵側ノ執拗ナル逆宣傳ニモ拘ラス「ビボン」首相指導ノ下ニ一致結束シテ難局打開戰爭完遂ニ向ツテ邁進シツツアル狀況ヲ目撃シテ深キ感銘ヲ受ケタ次第チアリマス。尙先般ハ「タ

イ」國民ノ尊崇篤キ佛舍利ヲ日本國民ヘ御贈リ頂キマシタカ、此ノコトハ「タイ」國民ノ日本國民ニ對スル絶大ナル厚意ト信頼ノ表徵テアルト存シマシテ、是亦感謝ニ堪ヘナイ次第チアリマス。

扱、帝國ノ「タイ」國ニ對スル態度、方針等ハ東條總理大臣及本大臣等ノ累次ノ聲明又ハ「タイ」側當局トノ會談ニ依リ既ニ充分御承知ノ通りチアリマスカ、要スルニ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメントスル宏遠ナル皇謀ニ遵ヒマシテ、「タイ」國ノ獨立ト主權トヲ尊重スルハ勿論更ニ進シテ同國カ大東亞共榮圈ノ樞要ナル一環トシテ興隆セムコトヲ希ヒ、其ノ國運ノ伸張ノ爲我方ニ於テモ能フ限りノ協力ヲ致サントスルニアルノチアリマス。帝國政府カ着々此方針ヲ實行ニ移シツツアリマスコトニ付テハ改メテ申上ケル必要カナイト存シマス。他方「タイ」國ノ側ニ於キマシテモ之ニ相呼應シ我方ニ對シ軍事上經濟上各般ニ互リ協力ノ實ヲ擧ケラレ以テ共同ノ戰爭ノ遂行ト共同ノ建設ニ向ヒ高難ヲ排シテ邁進セラレツツアルノチアリマシテ、兩國ノ結合カ愈々鞏固緊密ノ度ヲ加ヘツツアリマスコトハ、兩國ノ爲將又大東亞全體ノ爲メ同慶ニ堪エナイ所チアリマス。而シテ斯クノ如キ兩國ノ親善關係ノ確立ニ付キマシテハ曩ニハ「タイ」國外務副大臣トシテ又現在ハ外務大臣トシテノ「ウイチット・ワタカン」閣下ノ我國ニ對スル深キ理解ト非常ナル御盡力トニ負フ所頗ル大ナルモノカアルノチアリマス。此機會ニ於キマシテ深甚ノ敬意ト謝意ヲ表スル次第チアリマス。

帝國政府ト致シマシテハ遠路ノ賓客ニ對シ極力御歡待申上ケ度イト存シマスル方何分戰時下ノコトテ御座イマスノチ行届カサル點モアラウカト存シマス。此點御諒承ヲ願上ケル次第チアリマス。而シテ御滯在中我官民トノ御接觸ト各方面ノ御觀察トニ依リマシテ決戰態勢下ノ帝國ノ狀況ヲ御覽頂キ、殊ニ一億國民ヲ通シ飽ク迄モ今次戰爭ニ勝チ拔

カントスル牢固タル決意ノ澎湃タル點ニ充分御留意アラシコトヲ希望スル次第テアリマス。
終リニ臨ミ「タイ」國ノ隆昌ト外務大臣閣下ノ御健康トヲ祝スル爲乾杯致シ度イト存シマス。」

九、青木大東亞大臣主催晚餐會ニ於ケル「ウイチツト」

「タイ」國外務大臣挨拶 (八月六日)

大東亞大臣閣下、閣下並ニ各位

本夕ハ大東亞大臣閣下御主催ノ下ニ御多忙中ニモ拘ハラヌ日本ノ主ナル關係方面ノ方々ヲ初メトシテ、中華民國大使閣下並ニ滿洲國大使閣下御臨席ノ斯クモ盛大ナル御宴會ニオ招キテ受ケマシタコトハ私ノ非常ナル光榮テアリ又得難イ好機會テアルト存スル次第テアリマス。日本ノ要路ノ方々ニ御紹介下サイマスル御懇情ニ付キマシテハ、日「タイ」兩國ノ親善關係ヲ親密ナラシメルノミナラス、將來ノ亞細亞ノ運命ヲ發展サセルニ重大ナ貢獻ヲ爲ス好イ御考ヘテアルト存シマス。

「タイ」國政府及ヒ國民ハ四ヶ月前ノ大東亞大臣閣下ノ「タイ」國御訪問ヲ常ニ記憶シテ居ルノテアリマス。當時閣下ノ「タイ」國御訪問ハ如何ニ喜ハシイ實ヲ結ンタモノテアルカハ我々ノ周知ノ所テアリマス。我々ハ常ニ閣下ノコトヲ思ツテ居リマス。閣下ノ御人格ハ「タイ」國ニ於テ閣下ニ對スル尊敬及ヒ信頼ヲ生セシメタノテアリマス。閣下ノ御訪問ヲ受ケマシタ南方亞細亞ノ各國ニ於テモ同様ノ結果ノ生スルコトヲ確信致シマス。

「タイ」國ニ對スル日本ノ態度、方針等ニ付キマシテハ「タイ」國國民ノ凡テハ聲明、約束又ハ條約ニ依ラスシテ徹底的ニ了解シテ居ルモノテアリマス。日本ノ行爲コソ如何ナル言葉又ハ條文ヨリモ明カナ證據トナルノテアリマス。「マライ」ノ四州ハ血肉ヲ犠牲トシタ帝國陸海軍ノ大奮闘ニヨリ英國ヨリ取戻サレタモノテアルコトハ我々「タイ」國國民ノ周知ノ所テアリマス。右四州ヲ「タイ」國ノ領土ニ編入スルコトニ日本側カ好意ヲ示シテ下サイマシタコトハ最大ノ御厚情ト認メナケレハナリマセン。「マライ」ノ四州ヲ日本ノ贈物ト認メレハソレハ貴重ナ贈物デアリマス。即チ普通ノ場合ニ於テハ贈物ト申シマスモノハツマリ金錢又ハ勞力ニ依ツテ作ラレタモノデアリマス。ケレトモ右ノ「マライ」四州ハ帝國陸海軍ノ將兵ノ血肉ニヨツテ作ラレタ日本ノ贈物デアリマス。如何ナル物ヨリモ特ニ尊イ贈物ト考ヘナケレハナラヌノテアリマス。「タイ」國國民ノ凡テハ斯ル事實ヲヨク考ヘ日本ノ斯ル御恩ニ對シテ最大ノ感謝ヲ表スル次第デアリマス。

「マライ」ノ四州ニ「タイ」國カ施政ヲ行フ時ハ帝國ノ御恩ニ報ヒル爲記念物ヲ設立シ、又右領土ヲ取戻ス爲ニ尊イ生命ヲ失ツテ戰死ヲ遂ケラレタ勇士ノ御靈ハ同領土ノ護國神トシテ崇拜サレルコトヲ閣下ニ對シテ確言申シ上ケ度イト存シマス。

日「タイ」兩國ノ親善關係ノ確立ニ付キマシテ私ノ盡力ヲ御褒メ下サイマシタコトニ對シマシテ厚ク御禮ヲ申シ上ケマス。十年餘ノ間私ハ日「タイ」兩國間ノ親善關係並ニ協力關係ノ確立ヲ唯一ノ目的トシテ働イテ參ツタノデアリマス。何故ニ私カ主ナル親日家ナルカト時々質問サレマス。ソレニ對シテ私ノ唯一ノ答ヘハ即チ私ハ非常ニ「タイ」國ヲ愛スルカ故ニ親日家トナルノテアリマス。又、以前ヨリ日本ハ「タイ」國ニ對シテ何等ノ害モ與ヘタコトナ

ク、日本ハ昔以來現在ニ至ルマテ「タイ」國ニ對シテ凡ユル友情ヲ示シテ來タノテアリマスカラ、私ハ大イニ親日家テアリマス。而シテ將來ニ於テ「タイ」國ヲ發展セシメル唯一ノ道ハ兄弟ノ如ク日本ト協力スルコトテアリマス。コレ以上好イ方法ハ無イテアラウト存シマス。私カ斯ク申上ケマシタノハ即チ眞心ヲ以テ又心ヲ開イテ事實ヲアリノママ申上ケマシタコトハ閣下竝ニ各位ノ御了承下サツタコトト存シマス。私カ餘リニモ事實ヲ申上ケマシタト外交家ニ非難サレルカモ知レマセヌカ現在ノ重大ナ時局ニ於キマシテハ同盟國ハ互ニ眞心ヲ示サネハナラヌト申シマスノカ私ノ意見テアリマス。故ニ私ハ茲ニ隱スコトナク事實ヲ申上ケマシタノテアリマス。即チ私ハ非常ニ「タイ」國ヲ愛スルモノテアリマスカラ、大イニ親日家テアリマス。而モ「タイ」國ヲ愛シ「タイ」國ノ隆昌ヲ望ンテ居ル凡テノ「タイ」國國民ハ私ト同様ニ日本ヲ好マナケレハナラヌト確信致シマス。

「タイ」國ニ對シテ私自身ニ對シテ又ハ私ノ隨員ニ對シテ大ナル光榮ヲ御與ヘ下サイマシタ大東亞大臣閣下ニ對シマシテ厚ク御禮ヲ申上ケマス。私達一行ノ受ケマシタ歡迎振りハ最大ノモノテアリマシテ、永遠ニ我々ノ記憶ニ深ク殘ルノテアリマス。

終リニ臨ミ大東亞大臣青木一男閣下ノ御健康及ヒ御多幸ヲ祈リ、大日本帝國ノ勝利及ヒ御隆昌ヲ祝シテ乾杯致シ度イト存シマス。

一〇、「ウイチット」「タイ」國外務大臣招待晚餐會

ニ於ケル東條內閣總理大臣挨拶 (八月九日)

「ウイチット・ワタカーン」「タイ」國外務大臣閣下ノ本邦御來訪ニ際シ、本夕茲ニ閣下竝ニ御一行ノ閣下各位ニ對シ歡迎ノ微意ヲ表シ、歡談ノ機會ヲ得マシタルコトハ私ノ洵ニ欣幸トスル所テアリマス。

「ウイチット・ワタカーン」「タイ」國外務大臣閣下ハ先般青木大東亞大臣ノ「タイ」國訪問ニ對スル答禮ノ爲特ニ來朝セラレタノテアリマスルカ、是レ洵ニ日「タイ」兩國ノ親善關係日ニ月ニ緊密化スルヲ如實ニ示スモノテアリマシテ、帝國朝野ハ御一行ノ御來朝ニ對シ舉ケテ歡迎ノ意ヲ表スルモノテアリマス。

私ハ七月上旬「タイ」國ヲ訪問シ「ビブン」總理大臣閣下ヲ始メ「タイ」國官民ノ心カラナル御歡待ニ接シ、衷心ヨリ感謝致シテ居ルモノテアリ、又其ノ節「ウイチット・ワタカーン」閣下ニハ直接御會ヒシテ御話合ヒラスル機會モ得、舊知ノ間柄トシテ心カラ親シミヲ感シテ居ルモノテアリマス。此ノ機會ニ閣下ヲ通シテ私ノ「タイ」國訪問中寄セラレタル「タイ」國官民ノ御懇情ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表スルモノテアリマス。

御一行ノ方々ニハ遠路而モ當地ノ眞夏ノ御旅行ニモ拘ハリマセス、至ツテ御元氣ニ御多忙ナ御日程ヲ順調ニ進メテ居ラレマスルコトハ、何ヨリモ御目出度キ次第テアリマシテ、此ノ上共充分御來朝ノ目的ヲ達成セラレンコトヲ祈テ已マナイモノテアリマス。

今や世界ノ列強ハ各々其ノ興廢ヲ賭シテ曠古ノ大戦争ヲ戦ツテ居ルノテアリマス。多年米英ノ桎梏ヨリ大東亞ヲ解放スルノ大東亞十億民族ノ宿望ハ、大東亞戦争ノ完勝ニ依ツテノミ贏テ得ラレルノテアリマス。而シテ帝國ハ開戦勢頭獲得セル必勝ノ態勢ニ立チ大東亞十億民族ノ中核トナリ、大東亞ノ總力ヲ結集發揮シ而モ愈々歐洲盟邦諸國トノ提携ヲ緊密ニシ、東西相呼應シテ米英ヲ擊潰セントシテ居ルノテアリマス。此ノ世界的ニ一大轉換期ニ處シ、帝國ノ堅持スル三千年來傳統ノ必勝ノ信念ハ正ニ牢固タルモノカアリ、如何ナル困難モ克服シ、如何ナル障碍モ突破シテ、大東亞戦争完勝ノ日迄戦ヒ抜ク闘志ハ正ニ烈々タルモノカアルノテアリマス。私ハ御一行カ短時日トハ謂ヘ、戦フ日本ノ現實ノ姿ヲ目撃セラレ、我等ノ必勝ノ信念ト敢闘ノ氣魄トニ付感慨新タナルモノアルヲ信スルモノテアリマス。申シ上タル迄モナク「ウイチツト・ワタカイン」閣下ニハ藝術局長官時代ヨリ帝國トノ關係淺カラサルモノアリ、特ニ大東亞戦争勃發前後ヨリ今日ニ至ル迄ノ間ニ於テ、閣下ノ日「タイ」關係強化ニ致サレタル功績ハ洵ニ大ナルモノカアルノテアリマス。戦局愈々重大ニシテ日「タイ」提携緊密化ノ要益々切ナルモノアルトキ、今後此ノ上共「ビブン」總理大臣閣下ノ邊マシキ指導ノ下ニ閣下ノ御健闘ヲ祈ツテ已マナイ次第テアリマス。信義ニ生キル帝國ト致シマシテハ愈々「タイ」國ノ主權ヲ尊重シ、其ノ興隆ノ爲アラユル協力援助ヲ吝マサルモノテアリマスルカ、閣下御來朝ノ機會ニ更メテ帝國ノ眞意ヲ明カニスルト共ニ、「タイ」國ノ官民ヲ擧ケテ其ノ興隆ト共同ノ戦争目的達成ノ爲最善ヲ盡サレンコトヲ切望シテ已マナイ次第テアリマス。茲ニ杯ヲ擧ケマシテ「ウイチツト・ワタカイン」閣下並ニ御一行閣下各位ノ御健康ヲ祝シ「タイ」國ノ御隆昌ヲ祈リタイト存シマス。

一一、東條總理大臣主催晚餐會ニ於ケル「ウイチツト」

「タイ」國外務大臣挨拶 (八月九日)

總理大臣閣下、閣下並ニ各位

私ハ先ツ總理大臣閣下ニ對シマシテ本夕斯ノ如キ盛大ナル歡迎ノ宴ヲ御催シ下サレ又只今ハ御懇篤ナル御言葉ヲ賜リ洵ニ有難ク厚ク御禮申シ上ケル次第テアリマス。

今回私ノ貴國訪問ハ先般ノ青木大東亞大臣閣下御訪「タイ」ノ答禮ノ爲テアリマシテ私ハ茲ニ閣下ニ親シク御目ニ懸リ敬意ヲ表スルノ機會ヲ得マシタコトヲ衷心ヨリ欣快ト存スルモノテアリマス。何故ト申シマスルニ閣下ハ常ニ「タイ」國ニ對シ種々ノ御好意ヲ寄セラレ殊ニ「タイ」國國民ノ最大關心事テアリマス領土問題ニ付之カ「タイ」領編入方ヲ御取計下サレマシタカ故テ、「タイ」國民カ此ノ新領土編入ニ依リマシテ如何ニ欣ンテ居リマスカハ全ク筆舌ニ盡シ難イトコロテアリマス。

先程閣下ハ閣下カ「タイ」國訪問ノ御リ「タイ」國官民ヨリ受ケラレタル歡迎ニ付キ謝意ヲ述ヘラレマシタカ、私ハ如何ナル歡迎モ閣下ノ今回ノ御好意ニ對シマシテハ充分御答ヘ出來ナイコトヲ茲ニ申上ケルモノテアリマシテ、全ク如何程盛大ナル御歡迎ヲ致シマシテモ私共ノ胸裡ニアル感謝ノ念ハ充分表ハシ盡セナイト考フルモノテアリマス。閣下カ見受ケラレマシタル「タイ」國民ノ歡迎ヤ喜ヒハ丁度煙突ノ煙ノ立チ昇ル様ナモノテアリマシテ「タイ」國

民ノ心カラノ感謝ノ念ハ其ノ中ノ火ノ燦ニ燃ヘ立ツテ居ルノテアリ此ノ燦ハ外カラハ見えナイノテアリマスカ、眞ニ烈ト燃ヘ熾ツテ居ルノテアリマス。私ハ「タイ」國全體カ此ノ領土問題ニ付キマシテ只今申述ヘマシタ様ニ閣下カ受ケラレマシタ歓迎ハ丁度煙突ノ煙ノ様ニ只外見丈ノモノテアリマシテ、「タイ」國民ノ抱ク感謝ノ念ハ更ニ其ノ幾百幾千倍カ熱サレテ其ノ胸ノ中ニ燃ヘテ居リマスコトヲ茲ニ確言致ス次第テアリマス。ソウシテ何時カハ閣下ニ於カレマシテモ必ス「タイ」國民ノ抱ク此ノ感謝カ如何ニ熱烈ナモノテアルカヲ御認メニナラレルコトト存スルモノテアリマス。私ハ今次大東亞戰爭ニ於テ我々カ必勝ノ地位ニアルト言フコトニ付キマシテ全ク閣下ト同意見テアリマス。即チ大東亞戰爭勃發後僅カノ間ニ日本軍ハ未タ曾テ歴史ニ其ノ類ヲ見サル赫々タル大戦果ヲ收メ、更ニ日本軍ハ其ノ占領地ノ戰備ヲ強化シ必勝ノ地歩ヲ固メテ居ルノテアリマス。又前述占領地住民ハ良ク日本ノ眞意ヲ了解シ心カラ日本ト協力シツツアルノテアリマス。

今ヤ亞細亞民族ノ勝利ハ確固タル基礎ノ上ニ打立テラレ之ヲ搖カスコトハ至クノ困難事テアリマス。

敵側ニ於テモ此ノ事實ヲ良ク心得テ居リ彼等自身ニケ年現狀ノ儘放置スルニ於テハ之ヲ取戻スノニ五十年ヲ要スヘシト述ヘテ居ルノテアリマス。

若シ今ニシテ我々カ亞細亞建設ニ懸命ノ努力ヲ拂フナレハ敵側ハ幾十幾百年ヲ費スモ容易ニ之ヲ恢復シ得ナイコトヲ確信スルモノテアリマス。實際現在我々カ爲スヘキ仕事ハ多々有リ又多クノ困難ヲモ件フモノテアリマスカ若シ之ヲ三、四年努力ヲ續ケルニ於テハ我々ハ將來幾百年ノ間ニ互リ平和ニ恵マルルノテアリマス。

テアリマスカラ私ハ常ニ我々亞細亞民族ハ各自此ノ絶好ノ機會ニ其ノ全力ヲ傾ケテ各々其ノ責務ヲ果サネハナラヌ

ト考ヘテ居ルノテアリマシテ、若シ今ニシテ之ヲ怠ルトキハ幾百年先ニ於テモ之ヲ爲シ得ル機會ハ到來シナイノテアリマス。我々カ今進ンテ此ノ困難ト取組マサルコトハ我々ノ子孫ニ對シ數百年間ノ困苦ヲ與フルコトト同シテアリマス。

只今申シ述ヘマシタ様ニ趣旨ニ依リマシテ私ハ先程閣下カ申サレマシタ様ニ極力日本ト緊密ニ協力シテ行ク様ニ努力致スモノテアリマシテ、私ハ茲ニ「タイ」ト日本カ生死ヲ俱ニスルノ眞ノ友トシテ益々ソノ連繫ヲ緊密ニセントスルモノテアルコトヲ確言致スモノテアリマス。「ビブン」總理大臣閣下ニ於テモ最後ノ勝利獲得ノ爲戰爭完遂ニ出來得ル限りノ努力ヲ拂ハレル決心ヲ有サレテ居ルノテアリマス。

私ハ閣下ヲ首班ト致シマス日本政府ニ對シマシテ最上ノ歡迎ヲ與ヘラレマシタルコトヲ茲ニ深謝スルモノテアリマス。私ハ今回ノ訪日ニ依リマシテ日本カ眞ニ「タイ」國ニ對シテ好意ヲ寄セラレテ居ルコトヲ判リト識ルコトヲ得マシタ。

長クモ 天皇陛下ヲ始メ奉リ各官家、政府ノ各位並ニ國民ノ方々カ私共ニ對シ寄セラレマシタ御懇情ハ私共ノ衷心ヨリ欣ハシク存スルトコロテアリマス。私ハ必ス此ノ氣持ヲ「タイ」國官民ニ傳ヘルモノテアリマシテ「タイ」國官民モ私ト同様厚ク日本ノ御好意ヲ感謝スルコトト確信スルモノテアリマス。

終リニ臨ミマシテ私ハ皆様ト共ニ杯ヲ舉ケマシテ東條英機總理大臣閣下ノ御健康並ニ日本ノ勝利及御隆昌ヲ祈リ乾杯致シタイト存シマス。

一二、陸軍大臣、海軍大臣主催「タイ」國外務大臣一行 招宴ニ於ケル海軍大臣挨拶 (八月十日)

陸軍大臣ノ御同意ヲ得マシテ主人側ヲ代表シ一言御挨拶申上ケマス。

此ノ度「タイ」國外務大臣「ウイチット」閣下竝ニ御一行ノ御來邦ニ際シ本日茲ニ帝國陸海軍ノ名ニ於テ歡迎ノ意ヲ表スル機會ヲ得マシタコトハ私共ノ最モ欣快トスル所テアリマス。

抑々「タイ」日兩國ハ過去數百年ニ恆リ友好親善ノ關係ヲ續ケテ參リマシタカ今次大東亞戰爭ニ際シ更ニ攻守同盟ヲ締結シテ共同ノ敵撃滅ニ邁進スルコトトナリ兩國ノ提携眞ニ緊密トナリマシタコトハ大東亞ニ永遠ノ平和ヲ齎スヘキ新秩序建設上極メテ意義深キ重要事テアリ、「ウイチット」外務大臣閣下始メ貴國ノ指導者各位ニ對シ特ニ滿腔ノ敬意ヲ表スル次第テアリマス。

御承知ノ通り大東亞戰爭勃發以來帝國陸海軍ハ各方面ニ連戰連勝シ東亞ニ於テ多年積暴食慾ヲ悉ニ致シテ居リマシタ米、英、蘭ノ根據地ヲ覆滅シ其ノ勢力ヲ悉ク驅逐シ以テ必勝ノ基礎ヲ確立シタノテアリマス。今ヤ敵米英ノ反攻熾烈トナリ戦局ハ日々決戦ノ様相ヲ示シテ居リマスカ戦局ノ一張一弛ハ意トスルコトナク、内ニアツテハ國內ノ完全ナル戰時態勢下ニ着々戦力ノ増強ヲ圖リ、外ニアツテハ皇軍ハ必勝ノ信念ヲ以テ各方面ニ勇戰奮闘敵撃滅ニ邁進シツツアルノテアリマシテ、貴國ヲ始メ樞軸諸國ノ適切ナル作戰協力ヲ相俟テ最後ノ勝利ハ必スヤ我方ニアリト固ク確信

シテ居リマス。

今ヤ貴國ハ多年ノ宿望ヲ達成セララルコトトナリ又我カ占領地ニアツテハ御承知ノ通り最近「ビルマ」ハ獨立ヲ宣シ、「フィリッピン」亦速カラス獨立セントシテ居ルノテアリマシテ、大東亞ノ新秩序ハ着々建設ノ歩ヲ進メテ居リマス。スコトハ洵ニ御同慶ニ堪ヘマセヌ。

茲ニ開戦以來「タイ」國軍カ帝國陸海軍ト協同勇戰奮闘セラレタルニ對シ深甚ナル敬意ヲ表シマスルト共ニ貴國方面ニ作戰中ノ帝國陸海軍ニ對シ貴國政府竝ニ官民一同ヨリ賜ハレル絶大ナル御好意ト御便宜ニ對シ厚ク御禮申上ケマス。

茲ニ盃ヲ舉ケマシテ「ウイチット」外務大臣閣下竝ニ御一行各位ノ御健康ヲ祝シ乾盃致シ度イト思ヒマス。

一三、「ウイチット」「タイ」國外務大臣歡迎午餐會 ニ於ケル重光外務大臣挨拶 (八月十一日)

外務大臣閣下竝ニ各位

本日茲ニ盟邦「タイ」國外務大臣「ウイチット・ワタカオン」閣下竝ニ御一行ノ御光來ヲ得マシタコトハ本大臣ノ最モ欣快トスル所テアリマス。

東亞ニ於ケル我盟邦「タイ」國ハ偉大ナル指導者ノ下ニ自主獨立ノ國運益々隆盛ニ赴キ、大東亞ノ建設及世界正義

ノ實現ニ向ツテ帝國ニ全幅ノ協力ヲセラレ共同ノ戰ニ從ツテ居ラルルノテアリマス。今日此ノ同盟國ノ外務大臣ヲ東京ニ御迎ヘシテ親シク御懇談ノ機ヲ得マシタコトハ、自分ノ平素ノ念願カ達セラレマシク譯テアリマシテ衷心喜ビニ堪ヘナイ次第デアリマス。

「ウイチット」外相閣下ニ於カレテハ過去ニ於テ日「タイ」兩國ノ親善ノ爲メニ永ク盡瘁セラレ「ウイチット」夫人モ約十年前「タイ」國藝術團ヲ率ヒラレ日「タイ」親善旅行ノ爲メ來訪セラレタカ、其ノ當時示サレタ「タイ」國ノ藝術ハ吾人ノ印象ニ今尙残ツテ居ル所デアリマス。

而シテ今日ハ主賓「ウイチット」外相ノ恰モ四十六回ノ御誕辰日ニ當ツテ居ルトノコトヲ茲ニ「タイ」國ノ偉大ナル前途ヲ祝シ外相並ニ御一行歓迎ノ爲メニ乾杯スルニ當リ併セテ外相ノ御誕辰ヲ祝シ得ルコトハ自分ノ最モ欣快トスル所デアリマス。

一四、重光外務大臣主催午餐會ニ於ケル「ウイチット」

「タイ」國外務大臣挨拶 (八月十一日)

外務大臣閣下並ニ各位

本日茲ニ斯クモ盛大ナル歡迎ノ宴ヲ御催シ下サレ、又只今ハ私ノ誕生日ニ際シマシテ御祝辭ヲ賜リ洵ニ有難ク厚ク御禮申シ上ケル次第デアリマス。

本日ハ丁度私ノ滿四十五年ノ誕生日デアリマシテ此ノ日ニ日本帝國外務大臣閣下ヨリノ御招宴ニ臨ムコトヲ得マシタコトハ私ノ生涯ニ於ケル特筆スヘキコトデアリマシテ深ク光榮ト存スルコトデアリマス。

今回東京ニ參リマシテ始メテ閣下ト相識ル機會ヲ得タノデアリマスカ、閣下ノ御名聲ハ豫テ拜承致シテ居リマシタトコロデアリマシテ、私ハ閣下カ外務大臣ニ御就任ノ報ニ接シマシテ非常ニ欣ハシク存シタノデアリマス。何故カト申シマスルニ閣下ハ私ト同様外務省ニ育ツタ典型的ナ外交官テアルカ故デアリマシテ私ハ私ノ責務デアリマス日「タイ」兩國親善關係緊密強化ニ付キマシテモ閣下ト充分協力シテ行キ得ルコトヲ確信スルモノデアリマス。

先程閣下カ申サレマシタ通り日「タイ」友好關係ハ非常ニ緊密デアリ又日ニ月ニ之カ強化セラレテ行クコトヲ信シテ疑ハヌモノデアリマス。之ト言フノモ日「タイ」兩國民カ相互ニ良ク理解シ信賴シ會ツテ居ルカ爲デアリマス。若シ亞細亞諸民族カ協力一致打ツテ一丸トナリ敵ニ當ルナラハ勝利ハ必ス我々ノモノトナルノデアリマス。私ハ東京ニ於キマシテ色々日本ノ實狀ヲ觀マシテ日本ノ國力ノ強大ナルコトヲ感シ最後ノ勝利ハ我々ノモノトアルトノ信念ヲ益々深ムルモノデアリマス。之ハ戰意ノ昂揚ノ意味カラ言ツテ居ルモノテハナク眞ニソウテアルト確信致シテ居ルモノデアリマス。

只今ハ又閣下ヨリ私及私ノ妻ニ對シ御懇篤ナル言葉ヲ賜リ、深ク感謝ノ意ヲ表スルモノデアリマス。私ハ日「タイ」兩國ノ親善關係強化ノ爲並ニ亞細亞ノ興隆ノ爲、出來得ル限りノ努力ヲ致シマスコトヲ茲ニ確信スルモノデアリマス。

終リニ臨ミマシテ日本帝國外務大臣閣下ノ御健康ヲ祝シ併セテ日本ノ御隆盛ヲ祈リ乾杯致シタイト存シマス。

一五、「マライ」四州及「シヤン」地方二州ノ「タイ」國領土

編入ニ際シテノ「ビブン」首相發東條首相宛謝電 (八月二十日)

「マライ」四州及「シヤン」地方二州ノ「タイ」國ヘノ併合ヲ日本國ニ於テ承認セラレタル「マライ」並ニ「シヤン」地方ノ「タイ」國領土ニ關スル條約カ本日調印セラレタル機會ニ當リ本大臣ハ「タイ」國政府並ニ「タイ」國人民ノ名ニ於テ閣下ニ對シ熱誠ナル感謝ノ意ヲ表ス
本條約ハ日本國カ「タイ」國ニ對シテ示サレタル友好的且誠實ナル精神ノ象徴ニシテ「タイ」國人民ハ之ニ對シ深甚ナル感謝ヲ捧ケ必ス之ニ酬イントスルモノナルコトヲ確信ス
本大臣ハ條約カ幸ニ日「タイ」兩國間ニ現存スル親密ナル友好關係ヲ一層緊密ナルモノトスルヲ確信シ茲ニ閣下ニ向テ「タイ」國人民カ其兄弟ト仰ク日本國民ト共ニ最終ノ勝利ヲ獲得スルニ至ル迄協同ノ戰爭ヲ遂行スヘキ確固タル決心ヲ有スルモノナルコトヲ重ネテ確言スルノ光榮ヲ有ス

一六、「マライ」四州及「シヤン」地方二州ノ「タイ」國領土編入ニ

際シテノ東條內閣總理大臣發「ビブン」總理大臣宛答電 (八月二十一日)

「マライ」及「シヤン」地方ニ於ケル「タイ」國ノ領土ニ關スル日本國「タイ」國間ノ條約ノ調印ニ當リ御鄭重ナル謝電ニ接シ感激ニ堪ヘス又最終ノ勝利ヲ獲得スル迄飽ク迄モ共同ノ戰爭遂行ニ邁進スヘキ「タイ」國民ノ牢固タル決意ヲ更メテ拜承遺義ニ基ク大東亞建設ノ爲洵ニ御同慶ニ堪ヘサル所ナリ

今次條約ノ成立ハ三千年來傳統ノ帝國ノ信義ノ表裏ニシテ此ノ機會ニ帝國ハ愈々「タイ」國トフ同志ノ提携ヲ緊密ニシ益々大東亞ノ諸國家諸民族ノ結束ヲ強化スルト共ニ歐洲盟邦諸國ト相呼應シテ共同ノ宿敵米英ヲ擊摧シ究極ノ完勝ヲ獲得センコトヲ深ク期スル次第ナリ

一七、第二回大東亞文學者大會開會式ニ於ケル

天羽情報局總裁挨拶 (八月二十五日)

昨年明治節ノ佳日ヲトシマシテ所モ同シ本帝國劇場ニ於テ開催セラレマシタ第一回大東亞文學者大會ハ參加各國代表ノ御熱意ニヨリ非常ナル成功ヲ收メタノテアリマスカ、其後引續キ皆様ノ御努力ノ結果早クモココニソノ第二回ノ大會ヲ迎ヘ皆様ニ所感ノ一端ヲ申上ケル機會ヲ得マシタコトハ寔ニ私ノ欣幸ト存スル所テアリマス。

申ス迄モナク大東亞ハ今ヤ戰爭ノタタナカニ在リマス。開戰以來皇軍ハ米、英、蘭ノ廣大ナル領域ヲ占領シ着々物心兩面ニワタル建設ヲ進捗シツツアリマス。此戰果ト此建設トニヨリ大東亞ハ政治的、經濟的、思想的、文化的ニ結合シ、繁榮シ、而シテコノ中ヨリ偉大ナル大東亞ノ文學カ生レ出ツルノテアリマス。

抑々コノ大東亞戰爭ハ米英ノ侵略主義カラ起ツタノデアリマス。

實ニ最近三百年ノ東亞ノ歴史ハ米英ノ貪婪極マリナキ侵略ノ歴史デアリマシタ。米英ハヒトリ東亞資源ノ經濟的獨占ノミナラス、其完全ナル政治的支配ヲモ目指シ、東亞ノ解放ヲ念願トスル日本ノ進路ヲ常ニ遮斷シ來ツタノデアリマス。

加之一昨年ノ日米交渉ニ於テ米英ハ此重大使命ヲ擔フ日本ヲスラ抹殺セントシテ挑戰シ來ツタノデアリマス。今ニシテコノ「アジア」ノ斷エサル侵略者ヲ撃タスンハ「アジア」ノ諸民族ハソノ鐵鎖ヨリ永久ニ解放サレルトキカナイノデアリマス。即チコノ戰爭ハ日本自ラノ存立ヲ全ウスルト共ニ、進ンテハ我輩國ノ精神タル八紘爲宇ノ大理想ニ基キ「アジア」ノ諸民族ヲシテ各々其所ヲ得シメントスルモノデアリ、更ニ之ヲ根幹トシテ正シキ世界平和ノ實現ヲ圖ラントスルモノデアリマス。獨伊兩國モ亦吾等大東亞諸民族ト全クソノ理想ヲ同シクシ目的ヲ同シウシテ戰ツテ居ルノデアリマス。

然ルニ敵米英ハ如何デアリマセウ乎。

元來米英ハ「デモクラシー」擁護ノ爲ニ戰フト云ツテ居リマス。事實米英ハ「デモクラシー」ヲ金科玉條トシ之ニヨツテ同志ヲ作り中立國ヲ戰爭ニ引込マントシテ居ルノデアリマス。而モ彼等ノイフ「デモクラシー」ハ米英人ノタメノミノ「デモクラシー」デアリ、彼等ノ利己的立場ヲ擁護セントスル僞善的美辭ニスキナイノデアリマス。

今彼等ノ中國ニ對スル態度ヲ見マスルニ米英ハ重慶政權ヲ使喚シテ日本ト戰ハシメ、東亞ノ二大民族カ相共ニ傷ツク專ラ狙ツテ居ルノデアリマス。日華兩民族カ深刻ニ相戰フコト程米英ノ希フモノハナイノデアリマス。然シ幸ニモ

中國人ノ中ニモ其人アリ、汪精衛氏ヲ中心トスル國民政府ハ逸早く誕生シテ日本ト提携スルニ至リ、我方モ亦中國ニテ有セシアラニル特權及ヒ利權ヲ列強ニ先ンシテ返還シ、眞ニ中國人ノ中國ノ建設ニ協力シテ居リマス。而シテ今ヤ多數ノ中國人ハ米英ノ陰謀ヲ看破シ、日本ト共ニ新シキ東亞ノ建設ニ邁進シツツアルノデアリマス。タタ重慶政權ハ米英ニ臨ラサレ未タニ迷夢ヨリ醒メナイノデアリマスカ、米英ハ重慶ヲ單ニ當面ノ道具ニツカツテキルノニスキス彼等ノ中國人ニ對スル態度ニハ何等ノ誠意ヲモ認メラナイノデアリマス。例へば中國人ハ米英ノ領域ニハ未タニ入國モ、居住モ、歸化モ、制限或ハ禁止セラレテ居ルノデアリマス。尤モ米國議會議員中ニハ戰爭中タケテモ重慶ノ機嫌ヲ執ル必要カアルト認メタノカ、支那移民制限ヲ緩和シ又ハ歸化法ヲ廢棄スル法案ヲ提出シタ者モアリマシタカ、本年六月七日米國下院移民委員會ハコノ法案ヲ否決致シマシタ。

ソノ後モ中國人ノ入國制限ヲ緩和スル法案カ提出セラレタノデアリマスカ之モ亦總テ否決セラレテ居リマス。ソコテ七月十三日「ニューヨークタイムズ」ハ社説ニ於テ「米國議會ハ支那人問題ニ對シテハ過去六十年間何等ノ進歩ヲ示サスヤハリ支那人ヲ劣等人種ナルカノ如クニ取扱ツテ居ル。議會ハ米國ノ軍隊ノ犧牲ヲ輕減センカ爲ニ本問題ヲ再考スルヲ要スル。」ト論シテ居リマス。元來右ノ支那移民制限緩和法案モ、中國人ヲ愛スル爲ニ提出セラレタルモノテハナクシテ、只戰爭中重慶ヲ引キツケテ置ク爲ニ一時ノ便宜トシテ案出セラレタモノデアリマシテ、タトヘコノ法案カ通過シテモヤカテ必要カナクナレハ、弊廢ノ如ク棄テラレルノハ過去ノ事例ニ徵シテモ明ラカデアリマス。

又米英ノ誇ツテ居ル一昨年ノ所謂大西洋憲章モ矛盾撞着ノ多イコトハ既ニ各方面テ指摘セラレテ居リマスカ、其中ニ於テ米英ハ此戰爭ニヨリ領土ノ擴張ヲ企テナイト言ツテ居ルニモ拘ラス、本年二月十三日米國海軍長官「ノック

ス」ハ「米國ハ戰後太平洋ノ諸島ヲ占領スヘシ」ト言明シテ居リマス。又同憲章ノ中ニ在ル所謂民族自決ノ精神モ印度問題テ行詰ツテ居ルノデアリマス。「ルーズヴェルト」ノ使トシテ歐亞ヲ一巡シタ大統領候補者「ウィルキー」カ歸國後書イタ「一ツノ世界」ノ中ニ「コノ大戰爭ハ解放ノ戰爭テアル。「アジア」人ハ到ル所モハヤ外國ノ支配ノ下ニ生活スルコトハ堪ヘラレヌト確信シテ居ルカ、此時ニ我々米國人カ印度問題ニ對シテ沈黙シテ居ル事其レ自體カ既ニ我々カ東洋ニ於テ蓄ハヘタル好感ヲ急速ニ喪失シツツアルモノテアル。東亞ノ人々ハ我々ノ曖昧ナル態度カラ我々カ果シテ自由ヲ擁護スルカ否カラ疑ツテ居ル。」ト述ヘテ居リマス。英國ノ前印度總督「リンリスゴ」ハ今月初メ印度ヲ去ルニ臨ミテ、議會テ述ヘタ訣別ノ辭ノ内ニ「印度ノ問題ハ一九三五年ノ法令ニ依ツテ決定セラルヘク、即チ地方的自治制ト聯邦制（フェデレーション）トテアル」ト云ツテ、獨立問題ニ對シテハ一顧モ與ヘテ居リマセン。本月五日「ロンドンタイムス」、「デリー」特電ニヨレハ印度教徒國家主義派（「ヒンズー・ナシヨナリスツ」）及ヒ回教聯盟（「モスレムリーグ」）等ハ之ニ對シテ猛烈ナル攻撃ヲ加ヘ或ハ印度ト英國トノ關係ハ今日程惡化シタコトハ無イト述ヘ或ハ英國ノ政策ハ各民族社會（コンミニユニテイ）ト黨派（パーティー）トノ對立ヲ激化シテキルト痛論シテ居リマス。

同情スヘキ印度人ハ多年英國ノ壓制ノ下ニ在ルノミナラス、同胞ノ關係ニアル他ノ英國ノ植民地カラモ苛酷ナル差別待遇ヲ受ケテ居リマス。即チ最近ニモ自由平等ヲ口癖ニシテ居ル「スマツツ」將軍ノ南亞聯邦政府ハ印度人ノ權利自由ヲ制限シタ爲ニ印度國內ニ熾烈ナル反響ヲ呼ビ起シテ居リマス。「ロンドンタイムス」ニ依レハ七月初旬「デリー」ニ於テ南阿ニ抗議スル大會カ開カレテ南阿ニ對スル報復手段カ議セラレ、本月五日印度上院ニ於テモ同様ニ南阿

ニ對スル報復問題カ議セラレ、或ハ南阿トノ通商ヲ杜絶セシムヘシトカ、或ハ印度ニ勤務スル南阿人ヲ追拂フ可シトカノ激論カ出テ居ルノデアリマス。

今ヤ印度獨立ノ志士「チヤンドラボース」氏ノ逞シキ印度獨立運動ハ着々ト歩武ヲ進メツツアリマス。ナホ印度内ノ印度民族ハ政治的、經濟的ニ壓迫セラレソノ文化モ文學モ亦英國ノ桎梏ノ下ニ呻吟シテ居ルノデアリマス。我々ハ來ルヘキ大東亞文學者大會ニハ新ラシク獨立セル「ビルマ」ノ代表者ヲ迎ヘ又恐クハ將ニ獨立セントスル「フィリッピン」ノ代表者ヲモ迎ヘルコトカ出來ルノデアリマセウ。全印度民族カ獨立ヲ完ウシソノ代表者ヲ此ノ會ニ迎フル日モ亦近キニアルヲ確信シテ居リマス。

元來米英ハ日本ヲ始メ東亞諸國ヲ脅威シ來ツタトイフ事實コソアレ、反對ニ彼等カ日本ニヨツテ脅威サレタトイフ事ハタタノ一度モナイノデアリマス。又彼等ハソノ本國並ニ植民地テ、常ニ日本及東亞民族ヲ壓迫、排斥シ來ツタ事ハアツテモ、米英人ハ東亞ノ如何ナル地ニ於テモ常ニ橫暴ヲ極メ唯ノ一度テモ壓迫ヲウケタトイフヤウナ事實ハナイノデアリマス。夫ニモ拘ハラズ彼等ハコノ戰爭ヲ挑ンタノミナラス、更ニ戰禍ヲ擴大セントシテキルノデアリマシテ、實ニソノ標榜セル平和主義ハソノ内包スル侵略主義ノ假面タツタ事カ遺憾ナク暴露サレテキルノデアリマス。畢竟スルニ米英ノ本心ハ東亞ヲ侵略シ東亞ヲ搾取シ、其政治、經濟ノミナラス思想、文化ヲモ壓迫シ、進ンテ世界制覇ヲ夢ミテ居ルノデアリマス。巧ニ表面ヲ糊塗シテ居ルノテヤカテハ其馬脚ヲ露ハササルヲ得ナイノデアリマス。

大東亞ニ於キマシテハ日、滿、華ハ勿論「タイ」、「ビルマ」、「フィリッピン」其他大東亞諸民族トノ間ニモ道義ヲ以テ貫カレタ誠實ナル盟約カアルノデアリマシテ、其ノ間少シノ相刺モナク對立モナイノデアリマス。今般「タイ」、

「ビルマ」、佛印、「フィリッピン」其ノ他東亞諸民族ノ代表者カ出席出來ナカツタ事ハ遺憾デアリマスカ、日滿華三國ノ文學者カ此ノ一堂ニ會合セラレマシタコトハ誠ニ意義深イモノカアリマス。

本大會ハ幾多重要ナル使命ヲ持ツテ居リマスカ、常ニ銘記スヘキハ「アジア」ノ共同建設デアリマス。今ヤ大東亞戰爭カ起リ、「アジア」ノ侵略者米英ノ勢力ハ悉ク大東亞ヨリ驅逐セラレ、政治的、經濟的方面ノミナラス、思想的、文化的方面ニ於テモ本來ノ「アジア」ノ榮光カ新シク輝キ出サントシテキルノデアリマス。大東亞ノ建設ハ大東亞文學ノ創造ヲ伴ヒ、又大東亞文學ノ創造ハ大東亞民族ノ結束ヲ齎スモノデアリマス。正ニ大東亞ノ建設ト大東亞文學ノ創造トハ相互ニ因果關係ニ在ルノデアリマス。勿論大東亞ノ國國ニハ夫々ノ文學カアリマスカ、私ハ各國文學ノ特質ハ充分ニ之ヲ活カシ、之ヲ深メ乍ラ更ニ雄大ナル構想ト優秀ナル技術トヲ備ヘタ大東亞ニ想應シイ大文學ノ出現ヲ期待スルモノデアリマス。

今ヤ武力戰酣デアリマスカ同時ニ文化戰モ亦武力戰ニ劣ラス酣トナリツツアリマス。

由來文學ハ經世憂國ノ眞情ノ發露デアリマス。大東亞戰爭ノ完遂、大東亞ノ建設ト云フカ如キ劃期的時代ニ於キマシテハ當然雄渾無比ナル大文學カ現ルヘキテアルト思ヒマス。トウカ各位ニ於カレマシテハ其ノ偉大ナル筆硯ヲ以テ大東亞文學ノタメ御奮闘アランコトヲ期待スル次第デアリマス。

茲ニ第二回大東亞文學者大會ノ開催ヲ祝賀シ、遠來ノ代表者ヲ御歡迎申上ケ併セテ參會者諸君ノ御健康ヲ祈ル次第デアリマス。

一八、「ビルマ」國獨立慶祝日緬交換放送ニ際シテノ

東條內閣總理大臣挨拶 (九月一日)

「ビルマ」國國民諸君、今日諸君ニ對シテ斯ノ如ク呼ビカケ得マスコトハ私ノ最モ喜ヒト致ス所デアリマス。

昨年日本軍カ英國軍及蔣介石軍ヲ追ツテ「ビルマ」ノ領域ニ進出シテ以來、彼等ヲ「ビルマ」ノ地域ヨリ完全ニ擊攘シテ終フ迄ノ間ニ於テ更ニ其ノ後今日迄ノ間ニ於テ「ビルマ」國國民諸君ノ我軍ニ對シテ寄セラレタル絶大ナル好意ト眞摯ナル協力トニ對シマシテハ、現地ノ軍ハ固ヨリ日本國民ハ齊シク心カラ感謝致シテ居ル次第デアリマス。

「ビルマ」ノ獨立ハ實ニ 御稜威ノ下皇軍ノメサマシキ活躍ト其ノ尊キ犠牲トヲ土臺トシテ諸君カ諸君ノ血ヲ以テ購ツタモノデアリマス。私ハ茲ニ一世紀ニ亘ル反英闘爭殊ニ第三次英緬戰爭以來五十有餘年ノ間ノ獨立運動ヲ通シテ祖國ノ爲ニ殉シラレタル幾多「ビルマ」ノ先達ノ英靈ニ對シテ謹ンテ其ノ冥福ヲ祈ルト共ニ、今次ノ戰爭ニ我軍ト協力シテ祖國ノ爲ニ殫レラレタル「ビルマ」ノ人々ニ對シマシテ心カラナル敬弔ノ意ヲ表スルモノデアリマス。

「ビルマ」國ハ茲ニ名譽アル獨立ヲ回復セラレ我々ト志ヲ同シクスル諸國家諸民族ノ祝福ヲ受ケツツ華々シク門出ラシタノデアリマスカ、同時ニ敵米英ニ對シ宣戰ヲ布告シ、我國ト同盟ノ誓ヲ結ンテ大東亞戰爭完遂ノ決意ヲ表明セラレタノデアリマス。大東亞ノ民族ヲ解放シテ東亞ヲ本然ノ姿ニ復シ、茲ニ道義ニ基ク新シキ共榮圈ヲ建設スルハ申ス迄モナク大東亞戰爭ノ目的デアリマス。「ビルマ」國ノ獨立ハ實ニ此ノ目的達成ニ一歩ヲ進ムルモノデアリマス。

申ス迄モナク此ノ共同目的ノ達成ハ決シテ簡單ナモノテハナイノテアリマス。數世紀ニ互ツテ世界ヲ制覇シテ來タ英國ト自ラ世界ノ覇者ヲ以テ任スル米國トヲ擊碎シテ此ノ目的ヲ達成スルハ決シテ生易シイ仕事テハナイノテアリマス。然シ乍ラ此ノ仕事ハ萬難ヲ排シテ成シ遂ケナケレハナラナイノテアリマス。我々ハ祖國ノ光榮ヲ守ル爲ニ而シテ大東亞ノ興隆ヲ招來スル爲ニ更ニ世界正義ヲ具現スル爲ニ敵米英ヲ屈服セシムルノ日迄不退轉ノ決意ヲ以テ戦ヒ拔カナケレハナラナイノテアリマス。

今ヤ 御稜威ノ下緒戦ノ大戦果ニ依リ大東亞戦争完勝ノ基礎ハ築キ上ケラレ、爾來大東亞十億ノ民族ハ共同ノ宿敵米英ヲ擊摧セントシテ相結束シ無限ニ包藏セラルル大東亞ノ資源ハ一日ト戦力化セラレテ居ルノテアリマス。我々ハ此ノ大東亞ニ於ケル人ト物トノ總力ヲ愈々結集發揮シ必勝不敗ノ態勢ヲ益々強化擴充シテ大東亞解放ノ此ノ大戦争ヲ必ス勝チ拔カントシテ居ルノテアリマス。

「ビルマ」國國民諸君、私ハ諸君カ共ニ戰ツテ名譽アル祖國ノ獨立ヲ得ラレタ愛國ノ至誠ト勇氣トニ對シマシテ重ネテ滿腔ノ敬意ヲ表スモノテアリマス。大東亞ノ共榮圈ノ建設ハ斯クシテ我々大東亞民族ノ熱情ト氣魄トニ依ツテ完成シテ行クノテアリマス。

盟邦「ビルマ」國國民諸君、日本國民ハ新シイ此ノ兄弟國ニ對シテ至誠ト友情ト理解トヲ以テ全幅ノ支援ヲ送ラントシテ居ルノテアリマス。

茲ニ帝國ハ新シキ盟邦「ビルマ」國ト共ニ扶ケ合ヒ共ニ勵マシ合ヒ大東亞解放ノ爲ニ烈々タル闘志ト必勝ノ確信トヲ以テ戦争完勝ノ最後ノ日迄戦ヒ拔カントヲ誓ヒ私ノ御挨拶ヲ終ル次第テアリマス。

一九、伊太利バドリオ政府ノ無條件降服ニ際シテノ

堀情報局第三部長放送 (九月十日)

御承知ノ通り「イタリア・バドリオ」政府ハ九月八日米英ニ對シ無條件降服ヲ致シマシタ。此ノ行爲ハ(昭和十五年九月二十七日)日獨伊三國條約(第三條)ニ基テ相互援助規定及(昭和十六年十二月十一日)日獨伊間單獨不講和協定ノ違反テアリ、從テ又日獨兩國ニ對スル實質的敵對行爲ト稱スヘキモノテアリマス。

今回ノ事件ハ、地中海方面ノ戦況カ「イタリア」ニ不利ナルニ乘シテ、米英カ活潑ナ國內攪亂ノ謀略戰ヲ行ヒ、「イタリア」國內ノ一部反戦及ヒ「ファツシヨ」分子ヲシテ主戰論者タル「ムツソリーニ」一派ヲ倒シ、「バドリオ」ヲ中心トスル反戦分子ヲ操縦シテ、「イタリア」國民ノ犠牲ニ於テ、戦争ヲ中止セシムルニ成功シタ實例テアリマシテ、其全戦局ニ及ホス影響ノ問題ハ暫ク措クモ、米英ノ執拗巧妙ナル謀略宣傳ノ一例トシテ、其經過ハ特ニ注意ヲ要スルモノナリト考フルノテアリマス。

「イタリア」カ今次世界大戦ニ参加致シマシタノハ「フランス」崩壞直前ノ昭和十五年六月十日テアリマスカ、「イタリア」ハ「ドイツ」ト良ク提携シテ「バルカン」、「アフリカ」及ヒ地中海方面ニ於テ活動シ、「アフリカ」ニ於テハ一時ハ相當ノ成績ヲ擧ケタノテアリマスカ、地中海ニ於ケル海軍及空軍力ノ不足ハ海外派遣軍ニ對スル補給ノ圓滑ヲ缺クニ至リ、昭和十七年十一月八日、「アフリカ」ニ於ケル佛軍ノ裏切り行爲ニ依リ米英軍カ北「アフリカ」ニ上陸

又「エチプト」ノ英軍モ時ヲ同シクシテ攻勢ニ轉シ、此頃ヨリ「アフリカ」ノ獨伊軍ハ形勢不利トナリ、本年五月中旬ニハ「チュニジア」ヲ放棄スルノ止ムナキニ至リ、「シシリー」島及「イタリア」本土ハ米英侵入ノ危険ニ晒サレルニ至ツタノテアリマス。

以上ノ如キ情勢ニ直面シテ、「イタリア」國民及軍隊ノ間ニ厭戰氣分ヲ生スルニ至ツタノテアリマス。逸早ク此ノ氣運ヲ察シタ米英ハ伊本土ノ空爆ヲ強化スルト共ニ直ニ猛烈ナル謀略戰ニ訴ヘ初メタノテアリマス。其ノ第一歩ハ、昭和十七年十一月二十九日、米英軍北阿上陸後「チャーチル」ノ行ツタ演説テ、「イタリア」國民ハ長期且潰滅的空爆ニ曝サレ様トシテ居ルカ、之ハ唯一人ノ人間カ「イタリア」ヲ戰争ニ卷キ込シタカラテアル」トテ暗ニ「ムツソリーニ」攻撃ヲ開始シ、「チュニジア」戰終了後ハ新聞「ラジオ」ヲ擧ケテ對伊謀略戰ヲ行ヒ、五月二十五日、「チャーチル」ハ「ワシントン」ニ於テ「イタリア」國民ハ宜シク其ノ指導者達ヲ芟除シテ聯合國ノ慈悲ニ縋ルヘキテアル、然ラサレハ、「イタリア」國民ニ對シ徹底的空爆ヲ行フテアラウ」ト對伊威嚇ヲ繰返ヘシ、六月十一日ニ「ルーズヴェルト」ハ、「反樞軸國ハ最後ノ勝利確保迄「ムツソリーニ」首相及其ノ軍隊ニ對シ飽ク迄容赦ナキ戰争ヲ繼續スル決意テハアルカ、「イタリア」ハ再ヒ「イタリア」國民ニ歸屬セシメラレルモノテアツテ、「イタリア」國民カ「ドイツ」及ヒ「ファシスト」政權ヲ放逐シタナラハ、其ノ欲スル形態ノ政府ヲ組織スル自由ヲ容認スルモノテアル」ト述ヘ、又米英軍カ「シシリー」島上陸後ノ七月十六日ニハ、「ルーズヴェルト」、「チャーチル」兩名ノ聲明ヲ發表シ、「イタリア」カ生キ殘ル唯一ノ希望ハ聯合國ノ壓倒的ナ軍事力ニ名譽アル降服ヲ行フコトテ、若シ「イタリア」國民カ依然トシテ「ファシスト」政權ヲ存續セシムルナラハ、「イタリア」國民ハ自ラ選シタ所ニ從ヒ其ノ結果ヲ甘受セ

ネハラナヌ」トシ、更ニ七月十七日、英空相「シンクレア」ハ、「我々ハ「ムツソリーニ」首相竝ニ其ノ一派トハ斷シテ交渉スルコトハ出來ナイカ、「イタリア」國民ニ對シテハ我々ハ何等ノ敵意モナイ、「イタリア」國民ヲシテ「ファシズム」ヲ掃蕩サセ、自由ト民主主義ノ傳統ヲ復活セシメヨ、然ラハ「イタリア」國民ハ歐洲社會ニ於テ、正當ナル地位ヲ再ヒ獲得スルテアラウ」ト演説シタノテアリマス。

斯ノ様ニ米英ノ謀略宣傳ハ、何レモ米英ノ敵トスル所ハ「イタリア」國民テナク「ファシスト」政權テアリ、之サヘ無ケレハ寛大ナ條件テ「イタリア」ト和平ヲ結ビ得ルノテアルトテ、以テ「イタリア」國民ニ反戰反「ファシスト」氣分ヲ醸成セシメタ上「イタリア」ノ内部崩壞ヲネラツタモノテアツテ、其見エ透イタ「カラクリ」ハ我々ニハ底迄解ルノテアリマス。惱メル「イタリア」及ヒ氣ノ弱イ分子ノ中ニハ之ヲ額面通り受け入レルモノカ出來テ來タノハ遺憾至極ト云ハナケレハナリマセヌ。

即チ「イタリア」人ハ本來ナラハ斯ル古イ敵側ノ奸策ニ乘ル筈テハナイト思ハレルノテアリマス。目前ノ甘言ニ迷ハサレタモノモアリ、他方又打チ續ク不利ナル戰局ト七月十九日ノ「ローマ」大爆撃ト云フ如キ大キナ衝擊ニ直面シタ事モ手傳ヒ、國內反戰分子及ヒ反「ファシスト」分子ノ和平ヲ希望スル聲カ漸次高マルニ至リ、「ムツソリーニ」首相及ヒ「ファシスト」黨ヲ處分セントノ陰謀ヲ廻ラス者ヲ生シ、之等分子ハ「ファシスト」黨内部ノ軟弱派トモ通謀、政變ヲ策スルニ至ツタノテアリマス。「ムツソリーニ」首相ハ、「シシリー」戰局ニ鑑ミ、七月十九日「ヒットラー」總統ト會見シ、萬已ムヲ得サレハ一時南部「イタリア」ヲ拋棄スルコトアルモ飽ク迄米英ト抗戰セントノ決意ヲ固メタ模様デアリマス。之ニ對スル反戰分子ノ策謀ハ既ニ遙ニ進捗シテ居リ、遂ニ「ムツソリーニ」首相ノ辭職、

「バドリオ」内閣ハ、其後約一ヶ月半、口ニ對米英抗戰ヲ呼號シ乍ラ、實ハ何ントカシテ少シテモ歩ノ良イ降服條件ヲ受ケムモノト努力シ來タツタモノト思ハレルノデアリマス。尤モ既ニ此氣分ヲ察知シタ米英ハ以前ノ甘言ハ素ヨリ之ヲ無視シ、無條件降服ノ一點張りテ押シ通シ、此米英ノ謀略ノ前ニ無力ナ「バドリオ」政府ハ「イタリア」國家及ヒ國民ノ前途ヲ眞面目ニ考ヘルコト無ク、遂ニ九月三日米英軍ノ本土上陸ヲ期ニ、米英ノ要求スルカ儘ニ無條件降服ヲ内約シ、八日ニ至ツテ之ヲ發表、茲ニ「バドリオ」政府ハ公然日獨伊三國同盟及單獨不媾和ノ盟約ヲ裏切りタルノミナラス敵側ト通シテ我方ニ不利ナル行動ニ出テ、遂ニ背信ノ醜名ヲ永ク歴史ニ曝スコトトナツタノデアリマス。以上述ヘタ通り、「バドリオ」政府ハ米英ノ走狗ト化シマシタカ、「イタリア」カ樞軸陣營ヲ脱落スルコトノ可能性ハ夙ニ「チニニシア」戰終了頃ヨリ察知セラレテ居タ所テアリ、且「ムツソリーニ」首相辭職事件ニ依リ益々其ノ傾向カ明瞭トナツテ居タノデアリマスカラ、之ニ對シ日獨兩國殊ニ「ドイツ」カ歐洲方面ニ於テ萬全ノ措置ヲ講シテ居タコトハ申ス迄モ無イ所テアリマス。

「ドイツ」トシテハ以前ヨリ米英軍カ「イタリア」本土ニ上陸作戰ヲ行フ場合ニハ、補給ノ關係上、南「イタリア」ニ於テ強ヒテ米英ト争フコトナク、北「イタリア」ノ天險ニ依ツテ之ヲ防衛スル方針ヲ定メ、之ハ先ニ述ヘタ通り、七月十九日、「ヒットラー」、「ムツソリーニ」兩巨頭ノ會見ニ於テ意見ノ一致ヲ見タ所テアルトサヘ傳ヘラレテ居リマス。之カ爲カ「ムツソリーニ」首相辭職後「ドイツ」ハ北「イタリア」其ノ他ノ要所ヲ固メテ歐洲要塞ノ防衛ニ遺憾無キヲ期シテ居ツタ模様デアリマス。

傳ヘラレル所ニ依レハ、既ニ北「イタリア」ニハ新タニ「ファシスト」國民政府カ出來タトノコトデアリマシテ、米英ノ謀略ト「バドリオ」政府ノ裏切り行爲ニ憤懣ヤル方無キ「イタリア」ノ健全ナル國民カ此ノ新政府ノ下ニ馳セ參シ、「ドイツ」ト協力飽ク迄米英ト戰フヘキコトモ容易ニ想像シ得ル所デアリマス。

殊ニ歐洲ニ於ケル獨軍ノ堅陣ヲ仔細ニ觀察檢討シテ見マスト、「バドリオ」政府樞軸陣營脱落ノ如キハ左迄氣ニ病ム程ノコトテ無イコトハ誰ニモ了解出來ルコトデアリマス。

然シ乍ラ、サレハト云ツテ、「イタリア」ノ降服カ歐洲ノ戰局ニ全然影響無シト斷スルカ如キハ素ヨリ私ノ同意スル考方テハアリマセヌ。第一休戰條件ノ内容モ未タ判然トハシテ居リマセン。從テ敵側カ如何ノ程度ニ「イタリア」本土ヲ軍事基地トシテ利用シ得ルヤ、又「イタリア」海軍及ヒ商船ノ歸屬ノ問題、「バルカン」方面ニ在ル「イタリア」派遣軍ノ處分ノ問題等茲數日ノ經過ヲ俟タナケレハ全然未知數ノ問題カ多々殘ツテ居リマス。又「イタリア」降服ノ政治的影響トカ、心理的影響トカ云フ問題ニ到ツテハ可ナリ深甚ノ注意ヲ以テ之ヲ研究スヘキ諸點モアリマシ、又敵側カ之ニ依テ自國ノ志氣昂揚ニ利用スル宣傳的效果モ可ナリ大ナルモノアルハ見逃カセナイ事實デアリマス。

更ニ我々カ最モ戒心セネハナラヌコトハ本事件ヲ契機トスル米英ノ謀略宣傳ノ活潑化デアリマス。兎ニ角敵ハ之ニ依ツテ謀略的宣傳ノ味ヲ含メタノデアリマスカラ、調子ニ乗ルコトノ好キナ米英ハ「日獨モ此ノ手テ」ナトト思ヒ上ツタ考ヲ起コサヌトモ限リマセヌ。此ノ點ニ關聯シテ第一次歐洲大戰當時ヲ顧ミマスト、一九一八年一月米大統領「ウイルソン」ハ所謂十四ヶ條ノ平和條件ヲ提示シ、其ノ理想主義的内容ヲ以テ「ドイツ」内部ノ反亂分子ヲ誘惑シ、次テ「ドイツ」政府カ右條件ヲ受諾スル意志ヲ示シタ時「ドイツ」ニ民主主義的政府カ出來サル限

リ和平ノ困難ナルコトヲ示唆シ銃後ノ擾亂ヲ計リ遂ニ「ドイツ」ニ革命ヲ誘致シ共和政府ヲ作ラシメテ之ト休戰條約ヲ締結シテ「ドイツ」ノ武装ヲ解除シタ後媾和會議ニ於テハ例ノ十四ヶ條ハ全ク無視シ「ドイツ」ニ非常ナ苛酷ナ條件ヲ強ヒタルコトハ御承知ノ通テアリマス。此ノ時「ドイツ」國民ハ愕然トシテ米英ノ眞意ヲ覺ツタノテアリマス。カ、既ニ米英ノ謀略ニ依ル國內分裂ノ爲ト抗戰セントシテモ武器ヲ奪ハレテ居タタメ、涙ヲノンテ屈辱ニ甘ニスル他無カツタノテアリマス。

今回ノ「バドリオ」政府降服ノ經過モ之ト大體同様テ、先ツ寛大ノ條件ヲ以カシテ反戰分子ヲ釣リ、次テ之等ヲシテ「フアシスト」政權ヲ倒サシメ戰意ヲ全ク失ハシタ後、之ニ無條件降服ヲ強ヒタノテアリマス。

或ル意味ニ於テ、「バドリオ」一派ハ美事ニ敵ノ此ノ古イ手ニ引キ掛ツタノテアリマス。カ、之等裏切り者一派ノ落チ行クヘキ運命ハ從來ノ歴史ニ徴シテ自ラ明テアリマス。

現在東亞ノ戰局カ愈々熾烈ノ度ヲ加ヘルニ從ヒ、武力戰ニテハ到底日本ニ勝チ味ノ無イ米英カ最後ノ手段トシテ謀略戰ヲ強化スヘキコトハ當然豫想セラレルノテアリマス。

素ヨリ一億一心火ノ玉トナツテ居ル我々日本人ニ斯様ナ謀略カ效ヲ奏スヘシトハ考ヘラレマセヌカ、誰ニモ心ノ隙ハアリ得ルモノテアリ、油斷ハ絶對ニ禁物テアリマス。

然ラハ我々ハ武力戰ニ於テ敵ノ反攻ヲ破摧スルト共ニ、謀略戰ニ對シテモ充分對處セネハナリマセヌ。

「イタリア」ノ我方陣營カラノ脱落カ此一億一心ノ強化ニ役立つスレハ、ソレコソ禍ヲ轉シテ福トナスモノト云ハナケレハナリマセヌ。

二〇、「ラテン・アメリカ」人ニ對スル大東亞共榮圈建設理念

解明ニ關スル來栖大使放送 (九月十七日)

「ラテン・アメリカ」人諸君

約一世紀半ノ昔諸君ノ祖先カ「ラテン・アメリカ」解放ノ爲ニ戰ツタカ如ク我々ハ今大東亞解放ノ爲ニ戰ツテ居ルノテアル。從テ光輝アル南米獨立戰爭ノ英雄「シモンボリーバル」、「サンマルチン」、「オヒギンス」、「スケレ」等ノ名ハ、其ノ古戰場タル「フィン」、「チャカブコ」、「アヤクチヨ」、「マイブ」等ノ名ト共ニ、吾々ノ胸ニ燃ユルカ如キ「インスピレーション」ト、力強イ勝利ノ自信ヲ呼起シツツアルノテアル。南米獨立戰爭ハ植民地ノ封鎖ト東縛トニ反抗スル自由ノ戰テアリ中世紀ノ暗黒ト守舊トニ對スル近世ノ光明ト進歩トノ戰テアツタ。

十八世紀ノ終頃ヨリ先ツ歐羅巴ニ起リ次テ南米大陸ニ及ンタ此ノ民族解放ノ大潮流ハ今ヤ東亞ニ押寄せ來ツタ。大東亞十億ノ民族ハ會テ南米諸國民カ各其ノ獨立ノ爲ニ戰ツタト同シ精神ニ燃ヘテ彼等ノ解放ノ爲ニ大東亞戰爭ヲ戰ヒツツアルノテアル。

諸君、英米モ會テハ彼等ノ解放ト自由ノ爲ニ戰ツタノテアル。然シ彼等ノ自由ヲ愛スル精神ハ彼等ノ覇權確立ト共ニ化石シテ了ツタ。然ルニモ拘ラス英米ハ今尙世界ノ自由ノ闘士ト自任シ之ヲ宣傳シテ居ルカ、單ニ東洋ニノミツイテ見テモ果シテ彼等ハ大東亞諸民族ニ自由ヲ與ヘタテアラウカ。

「フィリッピン」ヲ見ヨ。「フィリッピン」獨立ノ志士「アギナルド」ハ米國ヨリ獨立ノ約束ヲ與ヘラレテ米國ヲ援ケテ西班牙ニ對シテ戰ツタノテアルカ、米西戰爭カ終ルヤ獨立ノ約束ハ一片ノ反故トサレ剩サヘ彼及ヒ獨立ノ志士一派ハ米國ヨリ迫害サレタテハナイカ。「フィリッピン」國民ノ獨立及自尊心ハ武力ニヨル壓迫ト弗ノ魔藥ニヨリ殆ント麻痺セシメラレ、元來東洋人トシテノ文化ヲ核心トシ之ニ「カトリック」文化及「ラテン」文化ノ美點ヲ攝取シタ比島在來ノ文化ハ失ハレテ將ニ米國ノ一植民地ト化セントシタノテハナイカ。

支那ヲ見ヨ。米國ハ常ニ支那ノ友人ヲ以テ任シツツモ今尙一片ノ支那人排斥法ヲスラ改メ得ナイノテアル。即チ英米ノ愛スルノハ支那ノ領土ト資源トテアツテ支那人ヲハナイノテアル。從テ彼等ハ支那カ多年冀望シ來ウタ列國トノ平等的地位ヲ日本ノ協力ニヨツテ獲得シタ今日ニ於テモ飽ク迄重慶ヲシテ日本ニ戰ハシメル事ニヨツテ出來得ル限り支那ヲ疲弊セシメ戰後再ヒ支那ニ對シ帝國主義的君臨ヲ敢テセント企圖シツツアルノテアル。

更ニ又「ビルマ」ヲ見ヨ、ソシテ印度四億ノ民ヲ見ヨ。彼等ハ數百年ノ間英國ノ壓政下ニ呻吟シテキタノテアル。英米ノ欲スル處ハ要スルニ全東亞ヲ永久ニ印度化セントスルノテアル。此事實ハ種メテ最近ニ到ル迄否寧ロ現在ニ於テスラ種々ノ美名ニヨツテ迷彩セラレタ米英帝國主義ノ何物テアルカニツイテノ痛切ナ經驗ヲ有スル「ラテン・アメリカ」諸國ノ最モヨク理解スル所テアラネハナラヌ。

日米國交ノ歴史ヲ見ヨ。過去三四十年間ニ亘ツテ「挑發」、「プロボケーション」ト壓迫ヲ加ヘ來ツタノハ米國テアツテ斷シテ日本テハナカツタ。最近ノ日米交渉ニ於テモ米國ハ日本ヲ經濟的ニ絞殺セント圖ツタ。之ハ經濟戰爭ノ宣言テナクテ何テアラウ。然ルニ日本ハ最後ノ瞬間迄平和的妥結ノ爲ニ凡ユル手段ヲ盡シタ末ニ最後ノ關頭ニ追ヒ込

マレテ敢然トシテ米國ノ壓迫ヲ排撃シ獨立國トシテノ權威ヲ守ランカ爲ニ立ツタノテアル。ソシテ今ヤ日本自身ノ運命ハ勿論大東亞諸民族解放ノ達成カニ此ノ戰爭ノ歸結如何ニ懸リ居ル事ヲ自覺シテ國ヲ擧ケテ闘ツテキルノテアル。日本ノ建國ノ理想ハ全世界ノ各民族カ一大家族ノ如ク秩序ト調和ノ内ニ自由、平和、繁榮、進歩ヲ遂ケルニ在ルノテアル。

大東亞共榮圈ノ理想ハ大東亞ヲ世界ヨリ隔離セントスルモノニ非スシテ對等ノ地位ニ於テ世界ニ協力セシメントスルモノテアル。

今日日本ノ採リ居ル對支政策ハ究極ニ於テコノ理想ニ立脚シテキルノテアル。支那ハ最近ニ上海ノ租界ヲ回復シ阿片戰爭以來始メテ自己ノ家ニ於ケル主人トナルコトカ出來タノテアツテ支那四億ノ民心ハ今ヤ翕然トシテ支那解放ノ運動ニ集ツテキルノテアル。「フィリッピン」、「ビルマ」ニ於テハ戰爭ノ破壞カ修復サレ政治的經濟的建設カ着々進行シツツアリ、「ビルマ」ハ既ニ去ル八月一日獨立ヲ遂ケ「フィリッピン」又近ク獨立ノ運ヒトナツテキル。

印度ニ於テモ反英氣分ハ益々全印ニ漲リ、「チヤンドラ・ボース」ノ徹底的抗英獨立運動ハ印度四億ノ民ノ胸ニ不滅ノ聖火ヲ點シツツアルノテアル。

此等東亞民族ノ澎湃タル意氣ト努力トハ要スルニ多年ノ鬱積セル此等諸民族ノ渴翹カ日本ノ勝利ニヨリ堰ヲ崩サレ奔ハシリ出テタモノテアツテ今後如何ナル國カ如何ニ試ミ様トモ此大勢ヲ逆轉サセル事ハ出來ナイノテアル。

諸君「シモン・ボリーバル」ノ創意ニ基ク汎米主義ハ我等ノ大東亞共榮圈ノ如ク平和ト進歩、自由ト獨立ヲ理想トスルモノテアツタ。然ルニ米國ハコノ汎米主義ヲ自國ノ世界制覇政策實現ノ具トシテ米國ノ爲ニ「ラテン・アメリカ」

諸國ヲシテ世界ト戰ハシメントシテキルノテアル。米國ハ所謂貸與法ヲ利用シテ此等諸國ヲ弗ノ束縛ノ下ニ置カントスルト共ニ更ニ又此等諸國カラ日獨伊ノ經濟的利益ハ勿論與國タル英國ノ權益ヲモ驅逐セントシツツアルノテアル。米國ニ於テハ今次戰爭ノ目的カ不明テアルト叫ハレテキルカ事實ハ不明ニ非スシテ眞ノ目的ヲ宣明シ得ナイノテアル。

諸君、米國ノ戰爭目的ノ一ハ、過去ニ於ケル米國自身ノ短見我利のナル經濟政策ノ結果「ケンタツキー」ノ山中ニ集積シ米國自身ノ「インフレーション」ヲ脅威シツツアル金ヲ世界ニ再分布シ、之ニヨツテ彼自身ノ「インフレーション」ヲ脱レルト同時ニ、此金ニ物ヲ云ハセテ經濟的世界制覇ヲ計ラントスルニ在ツテ「モーゲンソー」ノ通貨案ハ即チ之ヲ目標トシタモノテアル。米國ノ「ブライアン」ハ曾テ金本位問題ニツキ「人類ヲ黄金ノ十字架ニ架ケテ磔殺スヘカラス」ト叫ビタルカ、米國ハ今ヤ全世界ヲ米國製ノ金ノ十字架ニ架セントシツツアルノテアル。「ラテン・アメリカ」諸國カ此政策ニ追隨スル事ニヨツテ得ルモノハ要スルニ米國ノ「從順ナル從僕」トナル事タケテアラウ。從テ將來諸君ハ再ヒ獨立ノ爲ニ戰フカ米國ノ經濟的帝國主義ノ前ニ無條件ニ降服スルカ二者一ヲ撰ハナケレハナラヌ時カ來ルテアラウ。然シ諸君、我々ハ敢テ米洲ノ問題ニ干涉スル意志ヲ有シナイ。日本カ「ラテン・アメリカ」ニ何等ノ異圖ナキコトハ日本政府力屢々聲明シタ處テアルト同時ニ地圖ヲ一見レ、何人ニモ了解シ得ル處テアル。

日本カ「ラテン・アメリカ」諸國ニ求ムル處ハ單ニ之ニ對應シタ態度ヲ採ラン事タケテアル。即チ日本カ敢テ米洲ノ問題ニ干與セサル如ク米洲諸國カ東亞ノ問題ニ干與セサル事ヲ求ムルニ過キナイ。換言スレハ「ラテン・アメリカ」諸國カ汎米主義本來ノ面目ニ返リ之ト根本趣旨ヲ同フスル大東亞地域ニ共榮圈ヲ創設セントスル我等ノ理想ニ完全ナル理解ヲ示ス事ヲ求ムルニ過キナイノテアル。

「ラテン・アメリカ」人諸君、若シ我々ノ此ノ極メテ當然ナル希望カ實現セラレタル曉ニ於テハ東亞ト米洲ノ間ニ永遠ノ平和ヲ望ミ得ルノテアツテ、又其ノ平和ノ内ニ米洲ト東亞ノ自由且獨立ナル各民族カ夫々全人類ノ恒久的繁榮ト幸福ノ爲ニ全幅的ニ貢獻スルコトカ出來ルノテアル。

二二、日獨伊三國條約締結第三周年記念日ニ際シテノ「ヒットラー」

總統宛東條內閣總理大臣祝電 (九月二十七日)

日獨伊三國條約締結第三周年記念日ニ當リ余ハ閣下ノ御健闘ヲ祈ルト共ニ光輝アル貴國軍隊ノ勇戰敢闘ニ對シ深甚ナル敬意ヲ表スルモノナリ日獨兩國民ノ逞マシキ傳統ノ精神ト多年鍊成セラレタル不屈不撓ノ闘志ハ既ニ敵ヲ壓倒スルモノニシテ自存自衛ノ爲將又世界新秩序ノ建設ノ爲邁進スル正義ノ戰ニ我等ハ愈々究極ノ勝利ノ確信ヲ深ウスルモノナリ茲ニ日獨兩國愈々提携ヲ強化シ飽ク迄モ戰ヒ拔カンコトヲ堅ク期スルモノナリ

二二、日獨伊三國條約締結第三周年記念日ニ際シテノ

東條內閣總理大臣宛「ヒットラー」總統祝電 (九月二十七日)

日獨兩國民ノ緊密ナル提携及ヒ兩國民ノ共通ノ目的ヲ莊嚴ニ表明シタル歷史的條約ノ第三周年記念日ニ當リ余ハ閣下

ニ對シ愈々光輝アル日本軍ノ今後ノ勇戰奮闘ト其ノ御成功トヲ衷心ヨリ祈ルモノナリ余ハ今次ノ世界史ノ共同戰爭ノ終局ノ勝利ヲ確信スルモノニシテ公正ナル新秩序ヲ建設セントスル三國條約ノ理想ハ必スヤ實現セラレ茲ニ歐洲並ニ東亞ノ民族ニ福祉ノ招來ヲ信シテ疑ハサルモノナリ

二三、日獨伊三國條約締結第三周年記念日ニ際シテノ

重光外務大臣放送 (九月二十七日)

本日三國同盟條約締結第三周年記念日ニ當リ「ラジオ」ヲ通シテ貴大臣(「リッペン」獨外務大臣)ト交換放送ヲ行フコトハ私ノ最モ光榮トスル所デアリマス。

樞軸同盟ノ企圖スル所ハ宇内ニ正義ヲ布カントスルニアリマシテ、正ニ世界ノ大道ヲ歩ムモノデアリマス。其ノ精神ハ如何ナル事變ニ遭ツテモ微動タモスルモノテハナイデアリマス。英米カ如何ニ狡智ト奸計トヲ以テ「パドリオ」政權ノ背信行爲ヲ誘惑スルトモ、樞軸同盟ノ存在ハ嚴トシテ動カスヘカラサルモノデアリ、同盟條約ハ炳トシテ日月ノ如ク樞軸終局ノ勝利ヘノ途ヲ照シテ居ル次第デアリマス。「ヒトラー」總統ノ熱烈ナル友情ハ「ムツソリーニ」首相ノ奇蹟的ナル救出ニ成功ヲ齎シマシタ。「ムツソリーニ」首相ハ今日同盟締結ノ記念日ヲ以テ新共和「フアシスト」伊太利ノ元首ノ地位ニ就カレルコトトナリマシテ、帝國モ盟邦獨逸ト共ニ直ニ同政府ヲ承認致シマシタ。斯クシテ新伊太利ハ、再ヒ「ムツソリーニ」首相ノ下ニ、英米ニ依リ強制セラレタル所謂無條件降伏ノ破滅ト不名譽カラ救

濟セラレ、光輝アル將來ノ展開ヲ見ルコトハ期シテ俟ツヘキモノカアリマス。

我々ハ國家民族トシテ將亦世界組織ノ構成分子トシテ他ノ國及ヒ他民族ト相共ニ生存スル當然ノ權利ヲ有スルノデアリマス。此ノ固有ノ生存權自身カ現實ニ脅威セラレルニ至ツテ、我々ハ遂ニ劍ヲ執ツテ起ツタノデアリマス。自衛ノ爲ノ此ノ戰爭ヲ飽迄勝利ニ向ツテ戦ヒ拔ク堅キ決心ヲ致シタ所以ハ全ク茲ニアルノデアリマス。敵ハ我々ノ生存ヲ否認シ、軍事上政治上經濟上凡ユル手段ニ訴ヘテ、我々ヲ抹殺セント試ミテ居ルノデアリマス。現ニ敵ハ其ノ戰爭目的ハ彼等カ恣ニ支配シ得ル世界組織ヲ再現センカタメニ樞軸諸國ヲ根本的ニ破碎スルニアリト公然聲明シテ居ルノデアリマス。

過去三年ノ間樞軸同盟ハ能ク苛烈ナル試鍊ニ耐ヘ、其ノ建設的的使命ヲ果シテ參ツタノデアリマス。樞軸國ハ敵ノ反攻ヲ邀ヘ、東ニ於テモ又西ニ於テモ假借ナク之ヲ隨所ニ擊破シツツアリマシテ、大獨逸帝國ハ歐洲ニ於ケル同盟諸國ト共ニ歐洲大要塞ヲ擁護シ、敵ノ擊滅ヲ期シ勇猛果敢ナル攻撃精神ヲ發揮シテ居リマシテ、帝國亦豫テ期待セル敵ノ反抗ヲ大東亞ノ各方面ニ於テ邀擊粉碎シツツアル狀況デアリマス。斯クテ同盟條約ノ目的タル世界正義ノ實現ハ我々ノ輝カシキ勝利ニ依ツテ成就サルヘキハ何等疑ヒテ容レサル所デアリマス。帝國ノ目的ハ東亞ノ天地ニ正義ノ建設ヲ行ヒ相協力シテ安定ト繁榮トヲ齎ラサントスルニアルノデアリマス。此事理タルヤ正義ニ即スル天ノ道デアツテ、東亞民族當然ノ要求デアリマス。我々ハ今日此崇高ナル目的達成ノ爲ニ國運ヲ賭シツツアル次第デアリマス。

帝國ノ生存ヲ否認セントセル英米等ノ諸國ハ多年「アジア」ヲ侵略シテ之ヲ其ノ植民地若クハ半植民地トシテ苛酷ナル搾取ヲ擅ニシ來ツタノデアツテ、分割シテ支配セントスルハ彼等ノ常套政策デアリマス。我々ノ生存權ノ擁護

ハ、東亞ヲ英米ノ侵略ヨリ解放シ、其搾取ヨリ救済スルコトト一致スルノテアリマシテ、我々ハ先ツ此ノ侵略搾取ノ勢力排除ニ成功セネハナラヌノテアリマス。英米ハ未タニ既往ノ夢ヲ棄テス、「アジア」支配ノ舊態勢ヲ恢復セント欲シテ、帝國ニ對シ挑戰反撃シツツアリマスカ、我陸海軍ノ勇戰奮闘ハ其野望ヲ完全ニ封シテ居ルノテアリマス。「アジア」ヲ解放シ、大東亞諸國家諸民族カ相協力シ相提携シ共存共榮ノ新天地ヲ建設セントスルハ、我々共通ノ目的テアリマス。中華民國ハ解放セラレ建設セラレ、而シテ「アジア」ニ復歸セネハナリマセヌ。「タイ」國ハ自主獨立ノ強國トシテ發展シナケレハナリマセヌ。「ビルマ」モ「フィリッピン」モ完全ニ成立シ、印度モ亦獨立ノ榮譽ヲ與ヘラルヘキテアリマス。斯クテ「アジア」民族ハ各々其ノ所ヲ得ルコトニナラネハナリマセヌ。實ニ今次ノ戰爭ハ一面世界正義ノ爲メノ戰爭テアルト共ニ他面又「アジア」復興ノ爲メノ戰爭テアリマシテ、「アジア」ノ各國各民族ハ此一戰ヲ歐洲樞軸國ト共ニ勝チ拔キ、以テ其ノ脅威セラレタル生存權ヲ確保セネハナラヌノテアリマス。

帝國カ東亞ニ於テ勇戰シツツアル精神ハ正ニ以テ大獨逸帝國及ヒ其他ノ歐洲同盟諸國カ歐洲ニ於テ力戰シツツアル精神テアリマス。歐亞ニ於テ國際正義ヲ建設セントスル樞軸同盟ノ大目的ハ樞軸終局ノ勝利ニ依テ達成セラルベキハ既ニ明々白々テアリマス。終リニ臨ミ獨逸國總統閣下ト貴大臣ノ御健康ヲ祝スルト共ニ獨逸國民ノ繁榮ヲ祈リマス。

二四、「ラウレル」比島獨立準備委員長一行歡迎宴ニ於ケル

東條內閣總理大臣挨拶 (十月二日)

本夕茲ニ比島獨立準備委員長「ラウレル」閣下、比島行政府長官「バルガス」閣下、比島獨立準備副委員長「アキ」ノ「閣下御一行ヲ御招キ申上ケテ一言御挨拶ヲ申シ述フルコトヲ得マシタルコトハ私ノ洵ニ欣快トスル所テアリマス。

御一行ニハ長途ノ御旅行ニモ拘ラス、又氣候ノ激變ニモ拘ラス、至極御元氣ニ見受ケラレ、殊ニ「ラウレル」閣下ニハ其ノ後ノ御經過モ頗ル御順調ノ様子ヲ拜シテ洵ニ喜ヒニ堪ヘナイ次第テアリマス。再度ノ比島訪問ニ依リ「マニラ」ニ於テ御懇情ヲ受ケマシタル私カ、舊知ノ友タル御一行ヲ今回帝都ニ御迎ヘ致シマシテ、此ノ上モナキ懷シサヲ感スルモノテアリマス。

御一行ニハ本日特ニ 天皇陛下ニ拜謁ノ光榮ニ浴セラレ、又昨日ハ勳章贈與ノ榮ニ浴セラレタノテアリマスカ、皆様方ノ感激ノ程ヲ御察シ致シマシテ、私ハ衷心ヨリ其ノ光榮ニ對シ慶祝ノ意ヲ表スルモノテアリマス。

「ラウレル」閣下ニハ當初司法部長官トシテ、次テ内務部長官トシテ比島ノ秩序ノ恢復及治安維持ノ重責ニ任シ、更ニ本年六月衆望ヲ擔ツテ委員長ニ任命セラレ、比島獨立準備ノ大業ニ邁進セラレテ居ルノテアリマスカ、此ノ間不幸兇漢ノ爲重傷ヲ負ハレマシタノニモ拘ラス、毫モ屈スルコトナク愈々熱烈ニ皇軍ニ協力シ新比島建設ニ精進シ此ノ度

衆望ヲ荷ツテ大統領候補者ニ推舉セラレタノデアリマス。

又「バルガス」閣下ニハ皇軍カ「マニラ」ニ入城スルヤ一身ノ危害モ顧ミス大「マニラ」市長トシテ直ニ我カ軍ニ協力セラレ、我カ軍政ノ施行セラルルヤ比島行政長官トシテ比島側最高行政者タル責任ノ下ニ行政ノ實施ニ方リ以テ軍政ノ滲透ニ努力セラレ、次テ新比島奉仕團結成セラルルヤ其ノ總裁トシテ克ク全比島民衆ヲ結集シテ新比島建設ニ盡瘁セラレテ居ルノデアリマス。

又「アキノ」閣下ニハ内務部長官トシテ比島ノ治安維持ニ任シ次テ新比島奉仕團ノ副總裁トシテ危害ヲ顧ミス挺身地方ニ遊説シテ民衆ノ啓蒙、匪族ノ轉向ニ努力セラレ更ニ副委員長トシテ比島獨立準備ニ精進セラレテ居ルノデアリマス。

以上ノ方々ノ烈々タル愛國的指導ノ下、比島全民衆ノ努力ニ依ツテ茲ニ新シキ比島ハ米國ノ羈絆ヲ完全ニ脱却シテ其ノ獨立ノ實現ヲ見ント致シテ居ルノデアリマス。萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シムル帝國ノ肇國ノ精神ハ、今ヤ比島ノ天地ニ具現サレントシテ居ルノデアリマス。比島民衆ノ爲將又大東亞民族ノ爲洵ニ御同慶ニ堪ヘナイ次第デアリマス。

今ヤ内外ノ情勢ハ愈々決戰の様相ヲ呈シ敵米英ノ反撃モ執拗ニ繰リ返ヘサレツツアリマス。帝國ハ之ニ對處致シマシテ、愈々大東亞十億ノ力ヲ擧ケテ敵ノ反抗ヲ擊推スルト共ニ歐洲盟邦諸國トノ提携ヲ更ニ緊密化シ、東西相呼應シテ新シキ世界秩序ノ建設ヲ目指シテ敢闘ヲ續ケテ居ルノデアリマス。世界平和ノ禍根交除ノ牢固タル決意ヲ以テ飽ク迄モ勝チ抜カントシテ居ルノデアリマス。今ヤ大東亞ニ於キマシテハ滿洲國、中華民國、泰國及「ビルマ」國ヲ始メ

十億民族ノ結束愈々固ク、更ニ茲ニ新シキ比島ノ生成ヲ加ヘマシテ其ノ結束ハ益々鞏固トナリ、我等ハ帝國必勝ノ確信ヲ更ニ堅ク致シテ居ルノデアリマス。

新シキ比島ノ指導者タル皆様方ニハ此ノ帝國不動ノ決意ト確乎タル信念トヲ篤ト御了解下サツテ、御歸リノ後ハ此ノ上共比島ノ獨立完成ノ爲、道義ニ基ク大東亞ノ建設ノ爲盡瘁ノ程ヲ祈ツテ已マヌ次第デアリマス。

此ノ度ノ御來訪ニ方リマシテハ時日ノ餘裕モ少ク御多忙ノ事トハ存シマスカ出來得ル限り戰時下日本ノ有リノ儘ノ姿ヲ御覽ニナリ、之ヲ比島民衆諸君ニ御傳ヘアランコトヲ希望スルモノデアリマス。

茲ニ杯ヲ擧ケマシテ皆様方ノ御健康ト今後ノ御活躍トヲ祈リ度イト存シマス。

二五、「テー・モン」「ビルマ」國特使歡迎宴ニ於ケル

東條内閣總理大臣挨拶 (十月十二日)

今夕茲ニ「ビルマ」國特派大使「テー・モン」閣下御一行ニ對シ歡迎ノ意ヲ表シ併セテ其ノ勞ヲ嚮フ機會ヲ得マシタルコトハ私ノ最モ欣幸トスル所デアリマス。

御一行ニハ長途ノ御旅行ニモ拘ラス又氣候ノ激變ニモ拘ラス至極御健勝ニ御見受ケ致シマスルコトハ何ヨリノコトト御喜ビ申上ケル次第デアリマス。

「テー・モン」閣下ニハ帝國ニ對スル新生「ビルマ」國民擧ケテノ感謝ノ意ヲ表明センカ爲特派大使トシテ來朝セラ

レ、本日 天皇陛下ニ對シ奉リ國書捧呈ノ儀ヲ滯リナク濟マセラレマシタルコトハ御目出度キ限りテアリマシテ、茲ニ私ハ衷心ヨリ慶祝ノ意ヲ表スルモノテアリマス。

「デー・モン」閣下ハ當初醫學ヲ修メラレ後政界ニ入り幾多ノ要職ニ就カレ其ノ間只管「ビルマ」ヲ英國ノ桎梏ヨリ解放センコトヲ念願トシテ行動セラレタノテアリマス。大東亞戰爭勃發直前閣下ハ議會ニ於ケル英國彈劾ノ演說ノ爲當局ノ壓迫ヲ受ケ難ヲ「メイミヨ」ニ避ケタノテアリマス。皇軍一度「メイミヨ」ノ地ニ達シマスルヤ閣下ハ身ヲ以テ皇軍ニ協力シ「ビルマ」國ノ誕生育成ニ盡瘁セラレテ今日ニ及シタノテアリマス。

私ハ茲ニ閣下ノ多年英國ノ壓制ニ抗シ「ビルマ」國獨立ノ闘ヒヲ續ケラレタル氣魄ト、大東亞戰爭勃發以來帝國ニ寄セラレタル協力トニ對シマシテ深ク敬意ト謝意トヲ表スル次第テアリマス。

今ヤ戰局ハ愈々決戰段階ニ突入セル秋、「ビルマ」國民諸君ハ「バー・モウ」國家代表ノ逞マシキ指導ノ下アラユル不自由ト困難トヲ突破シテ第一線ニ立ツテ一路大東亞戰爭完遂、大東亞建設ノ共同目的ニ向ツテ邁進シテ居ルノテアリマス。「ビルマ」國民諸君ノ此ノ御健闘ニ對シマシテハ我々ハ滿腔ノ敬意ト感謝トヲ表シテ居ルモノテアリマス。大東亞ヲ米英ノ羈絆ヨリ解放スヘキ正義ノ師ノ進ム所之ヲ遮リ得ルモノハナイノテアリマス。究極ノ勝利ハ必ス我等大東亞十億ノ民衆ノ上ニ輝クノテアリマス。帝國ハ此ノ必勝ノ信念ヲ以テ而モ今日迄ニ獲得セル必勝ノ態勢ニ立ツテ大東亞ノ中核トナツテ飽ク迄モ米英擊攘ノ一路ヲ突進シテ居ルノテアリマス。

大東亞十億ノ民衆ノ運命ハ一ニ此ノ戰爭ノ歸趨ニ係ツテ居ルノテアリマス。「ビルマ」ノ獨立完成モ亦然ルコト勿論テアリマス。帝國ハ茲ニ大東亞戰爭完遂ノ決意ヲ新ニスルト共ニ「ビルマ」國民諸君カ此ノ上共帝國ト相協力シ最

大ノ力ヲ致シテ「ビルマ」國ノ獨立完成ト國運ノ隆昌ノ爲將又新シキ大東亞ノ建設ノ爲勇戰奮闘セラレンコトヲ切望シテ已マナイモノテアリマス。而シテ私ハ此ノ際「ビルマ」國民諸君カ今尙英國ノ羈絆ノ下ニ塗炭ノ苦ヲ重ネツツアル隣邦印度四億ノ民衆ニ對シ率先民族解放ノ範ヲ示サレンコトヲ祈念シテ已マナイモノテアリマス。

茲ニ閣下ノ御來訪ヲ感謝シ杯ヲ舉ケテ「ビルマ」國ノ隆昌ト閣下ノ御健康トヲ祈リタイト思ヒマス。

二六、「フイリピン」獨立ニ際シテノ東條總理大臣

「ラウレル」大統領來往電 (十月十四日)

「ラウレル」大統領來電

「フイリツピン」獨立宣言ノ此ノ輝シキ日ニ當リ余ハ「フイリツピン」全國民ヲ代表シ衷心ヨリ閣下ニ敬意ヲ表ス尙余ハ貴國民ニ對スル我カ「フイリツピン」國民ノ熱誠ナル友情ト深厚ナル謝意ヲ併セ表明ス。

而シテ我カ「フイリツピン」國民ハ大東亞共榮圈構成ノ一員トシテ永久ニ結合サレムコトヲ確ク期スルモノナリ

東條總理大臣答電

御懇電ヲ深謝ス

「フィリッピン」ノ獨立成リ遂ニ多年ノ宿望ヲ達成セラレタルハ洵ニ同慶ノ至リニ堪ヘス
 茲ニ帝國政府及陸軍ヲ代表シ深甚ナル祝意ヲ表ス
 貴國ノ前途固ヨリ多事ナルヘシト雖モ貴下ノ烈々タル氣魄ハ克ク之ヲ突破シテ帝國ト相携ヘ洋々タル前途ヲ開拓セラ
 ルヘキヲ確信シテ疑ハス
 而シテ帝國ハ愈々貴國ト緊密ニ提携シ以テ聖戰ニ邁進スルト共ニ「フィリッピン」國ノ健全ナル發展ニ協力センコト
 ラ期ス

二七、「フィリッピン」獨立ニ際シテノ東條內閣總理大臣

「ラウレル」大統領交換放送 (十月十五日)

東條總理大臣挨拶

昭和十八年十月十四日「フィリッピン」國ハ獨立ヲ宣言シ大東亞共榮圈ノ一員タル完全ナル獨立國トシテ光輝アル
 其ノ第一歩ヲ踏ミ出シ、「ホセ・ペー・ラウレル」閣下ハ全國民ノ輿望ヲ荷ウテ初代大統領ニ就任セラレタノテアリ
 マス。

再度「フィリッピン」ヲ訪問致シマシタル私ハ此ノ光榮アル日ヲ迎ヘラレタル「フィリッピン」一千八百萬民衆ノ

歡喜カ如何ニ大ナルカニ想到致シマシテ茲ニ衷心ヨリ慶祝ノ意ヲ表スルモノテアリマス。

顧ルニ四十有餘年前「ホセ・リサル」氏ヲ始メ幾多ノ志士ノ活動ニ依リ「フィリッピン」ハ將ニ獨立ヲ獲得セン
 トシタノテアリマス。當時米國ハ「フィリッピン」ノ獨立ヲ約束シテ居リナカラ一度「スペイン」ヨリ「フィリッピ
 ン」ノ割讓ヲ受クルヤ、忽チニシテ其ノ態度ヲ變シ「フィリッピン」義勇軍ノ勇士ヲ攻撃シ遂ニ「フィリッピン」ノ
 民衆ヲシテ米國ヘノ忠順ヲ誓ハシメタノテアリマス。

爾來四十有餘年「フィリッピン」民衆ハ隱忍自重、先ツ自治ヲ、次イテ獨立ノ約束ヲ米國カラ獲得シタノテアリマ
 スルカ、米國カ與ヘルト稱シタ獨立ナルモノノ内容カ米國自體ノ經濟的利益擁護ノ爲「フィリッピン」民衆ヲ欺瞞セ
 ントスル單ナル手段ニ過キナカツタコトハ、私カ此處ニ多言ヲ要スル迄モナク「フィリッピン」國民諸君ノ最モ克ク
 知ツテ居ラルル所ト信スルノテアリマス。

而シテ米國ハ其ノ物質文明ヲ以テ「フィリッピン」民衆ヲ欺瞞麻痺セシメツツ他面比島ヲ以テ東亞ヲ壓迫擄取スル
 基地トナシ、飽クナキ世界制覇ノ野望ヲ逞ウセントシツツアツタノテアリマス。

此ノ間ニ處シ帝國ハ平和ノ裡ニ東亞ノ安定ヲ確保セント隱忍久シキニ且リ努力シ來ツタノテアリマスルカ、東亞擾
 亂ノ禍根芟除ノ爲一昨年十二月八日遂ニ干戈ヲ執ツテ起ツノ已ムナキニ至ツタノテアマリス。皇軍一度進ムヤ 御後
 威ノ下忠勇ナル皇軍將兵ノ善謀勇戰ニ依リ比島ニ蟠居セル米國ノ勢力ハ一朝ニシテ掃蕩セラレタノテアリマス。

爾來二年ニ至ラスシテ諸般ノ準備ハ完成シ茲ニ「フィリッピン」人ハ東洋人トシテノ自覺ニ立ツテ新ナル構想ノ下
 ニ多年ノ念願タル眞ノ獨立ヲ獲得スルノ機會ヲ與ヘラルルニ至ツタノテアリマス。「フィリッピン」ノ爲將又大東亞

ノ爲洵ニ御同慶ニ堪ヘナイ次第テアリマス。

惟フニ凡ソ一國ノ創成ハ決シテ容易ノ業テハナイテアリマス。況ンヤ未曾有ノ大戦争ノ眞只中ニ於ケル新「フィリッピン」國ノ生成發展ハ蓋シ尋常ノ努力ヲ以テシテハ完成セラルルモノテハナイテアリマス。併シナカラ「フィリッピン」國一千八百萬全民衆ノ燃ユルカ如キ愛國ノ熱意ハ必スヤ之ヲ完成スヘキコトヲ私ハ信シテ疑ハナイテアリマス。

素ヨリ「フィリッピン」ノ獨立ハ大東亞戦争ノ完遂ニ依ツテノミ完遂スルモノテアルコトハ申ス迄モナイ所テアリマス。帝國ト致シマシテハ此ノ上共「フィリッピン」國ノ發展興隆ノタメニ全幅ノ支援ヲナサントスルモノテアリマスルカ、「フィリッピン」國民諸君モ亦「ラウレル」大統領閣下指導ノ下ニ今後愈々「フィリッピン」國ニ相應ハシキ剛健進取ノ氣風ヲ養ヒ大東亞民族ノ眞ノ姿ニ立チ還ルト共ニ自國ノ防衛及戰時態勢ノ確立ニ全力ヲ致シ、以テ大東亞共榮圈ノ一環タル獨立國トシテ大東亞ノ建設ノ爲帝國及大東亞ノ諸國ト緊密ニ協力セラレンコトヲ切望シテ已マナイモノテアリマス。

今ヤ大東亞ニ於ケル諸國家ハ帝國ト緊密ナル協力ノ下ニ大東亞ヲ解放シ道義ニ基ク世界ヲ建設スヘキ共同ノ目的達成ニ邁進シテ居ルノテアリマス。而シテ今新ニ「フィリッピン」共和國カ誕生シ大東亞諸國家ノ一員ニ加ハツタノテアリマス。洵ニ力強キ限リテアリマス。

帝國ハ愈々此等諸國家ト相携ヘテ俱ニ倚リ俱ニ信シ以テ萬邦共榮ノ大理想ヲ達成スヘク挺身努力致サンコトヲ固ク期シテ居ル次第テアリマス。

茲ニ友邦「フィリッピン」共和國ノ記念スヘキ獨立ニ際シ遙カニ慶祝ノ意ヲ表スルト共ニ「フィリッピン」國今後ノ御發展ヲ祈リマシテ私ノ挨拶ヲ終リマス。

「ラウレル」大統領挨拶

閣下私トモハ昨日萬事滞リナク「フィリッピン」獨立ヲ宣言シ「フィリッピン」共和國ノ樹立式ヲ完了イタシマシタ。

我々比島民永年ノ夢テアリ、最高ノ抱負テアリマシタ「フィリッピン」ノ獨立ヲ遂ニ達成セラレマシタコトハヒトヘニ大日本帝國ノ御仁慈ノ賜テアリマス。

私ハココニ閣下並ニ大日本國民ニ對シマシテ「フィリッピン」獨立ノ許與ニ對スル全比島民ノ深キ感謝ノ意ヲ表スルモノテアリマス。

殊ニ大日本帝國陸海軍ノ全ク私心ナキ御努力、御援助ニヨリマシテ獨立達成ニ至ルマテノ凡ユル豫備的處置カ遺憾ナク講セラレマシタコトハ誠ニ感謝ノ他アリマセン。

私ハ特ニ深厚ナル謝意ヲ表シマスルト共ニ目下大日本帝國ニヨツテ進行セラレテ居リマスル大東亞被壓迫諸民族ノ解放トイフ神聖ナル大業ニ對シマシテ今後一層ノ協力ヲ捧クルノ決意ヲイヨイヨ固クスルモノテアリマス。

「フィリッピン」共和國ノ前途ニハ幾多ノ困難カ横タハツテアリマスルカ、私トモハ大東亞共榮圈ノ有爲ナル一環タルヘク又世界ニ於ケル自由國家社會ニソノ所ヲ得ントスル希望ニ燃エテ勇往邁進セントスルモノテアリマス。

私ハ閣下ノ御健康ヲ祈リ申シ上ケマスト共ニ末永ク御健闘アランコトヲ祈リ申上クル次第デアリマス。
ツキニ千八百萬ノ比島民ニ於キマシテモ閣下ノ御統率ニ對シマシテ有難ク感謝シテアルトコロデアリマシテココニ
比島國民ニ代リマシテ閣下ニ對シ衷心敬意ヲ表スルモノデアリマス。

二八、自由「インド」假政府承認ニ關スル天羽情報局總裁談

(十月二十一日)

十月二十一日、「スペース・チャンドラ・ボース」氏ヲ首班トスル自由印度假政府ハ東亞諸民族ノ興望ヲ擔ツテ雄々
シク誕生シタ。抑モ印度ノ獨立ハ全印度民衆ノ宿望デアリ、世界全體ノ待望デアツタ。

大東亞ニ於テハ、曩キニ久シク英帝國ノ侵略ト擄取ノ下ニ呻吟シテ居タ「ビルマ」ハ獨立シ米國ノ經濟的帝國主義
ノ下ニ其固有ノ民族的特質ノ發揚ヲ抑壓セラレテ居タ「フィリッピン」モ亦、純然タル東亞ノ一國トシテ獨立シタ
カ、茲ニ又、自由印度假政府ノ樹立ヲ見ルニ至リ、一段ノ光彩ヲ添ヘタ。十七世紀初頭英國カ、印度ニ侵略ノ手ヲ伸
シテ以來英國ハ、印度人ヲ壓迫シ擄取ヲ恣ニシ、印度人ノ犠牲ニ於テ英國人ハ飽食暖衣シ來ツタノテアル。然シ印度
人ハ漸次反抗ノ氣勢ヲ醸成シ殊ニ日露戰爭以來印度ノ獨立ヲ獲得セントスル要望ハ益々熾烈トナツテ來タノテアル。

前世界大戰ニ於テ英國政府ハ、戰後印度ニ自治權ヲ附與スヘシトノ好餌ヲ以テ印度人ノ人的物的資源ヲ極度ニ利用
シタノテアルカ、戰後英國ハ其ノ約束ヲ弊履ノ如ク擲ツタノミナラス、代價トシテ印度ニ與ヘタモノハ極端ナル壓迫

ト「アマリツサー」ニ於ケル無辜ノ印度民衆數千名ノ大虐殺トデアツタ。

今次大戰ニ於テモ英國ノ印度ニ對スル強壓ハ益々加ハリ、印度人ハ無理ニ徵集セラレテ常ニ最前線ニ立タサレ、本
年六月英國政府發表ノ數字ニ依ルモ、開戰以來ノ英帝國兵員損耗數五十萬ノ内印度軍ノ損害ハ、其二割タル十萬ニ上
ルトノコトデアリ、又多額ノ軍費負擔及多量ノ軍需物資供出ニ依リ、現在印度ハ惡性ノ「インフレーション」ト強度
ノ物資不足ニ悩マサレテ居ル。又目下「ベンゴール」州其ノ他ニ於テハ、英國ノ惡政ニヨリ所謂人爲的饑饉ヲ起コシ
日々多數ノ餓死者ヲ出シテ居ルト言フ悲惨ナ報道カ、英米方面ニモ流布セラレ新聞ノ論議トナリ英國議會ノ問題トナ
ツテ居ル。

而モ、英國ノ印度ニ對スル壓制ハ益々強化セラレ、昨年八月以來、其ノ傾向ハ愈々顯著トナリツツアル。米英ノ戰
争目的タル所謂大西洋憲章中ニハ民族自決ノ原則アルモ、印度ハ遂ニ顧ラレス米英ノ欺瞞政策ハココニモ曝露セラレ
タ。斯クテ印度ノ自由ハ英國ニ懇願スルコトニ依ツテハ絶對ニ與ヘラレス、武力ヲ以テ英國ヲ印度ヨリ驅逐スル外ナ
キ状態トナツタ。天下ノ志士ハ英國ノ暴壓ニ對シテ限り無キ義憤ヲ感シテ居タノテアル。

「ボース」氏ハ夙ニ印度獨立ノ爲ニ闘ツテ居タカ、一昨年七月印度ニ於テ英國官憲ニ捕ヘラルルヤ印度民衆ハ「ハル
タル」ヲ行ツテ英國ニ抗議シタ。其ノ後彼ハ印度ヲ逃レ獨逸ニ於テ研鑽ヲ重ネ、印度獨立ニ付畫策スル所カアツタ
カ、本年六月突如本邦ニ來朝シ更ニ南方ニ渡ツテ印度獨立聯盟ヲ強化シ印度國民軍ヲ組織シ着々獨立ニ歩ヲ進メ今回
機愈々熟シテ自由印度假政府ヲ創設シタ。右假政府ハ今後印度ニ於テ眞ニ解放セラレタル全印度ノ政府ニ生成發展ス
ル輝シキ運命ヲ荷ツテ居ルモノデアル。

此ノ印度國民軍ハ獨立ノ熱意ニ燃エ祖國ニ殉セントスル決死ノ青年ヨリ成ルモノテアルカ、此ノ軍隊カ印度本土ニ向ツテ祖國解放ノ進撃ヲ開始スルトキハ正ニ全印度カ幾世紀ニ亙ル英國ノ桎梏ヨリ解放セラルル秋テアル。

萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメ、兆民ヲシテ悉ク其ノ塔ニ安ンセシムル我カ驛國ノ大理想ノ下ニ帝國政府ハ印度ノ獨立ニ對シテハ、其ノ衷心ヨリノ同情ト有ユル援助トヲ惜マサルコトヲ表明シ來ツタノテアルカ、今般印度假政府ノ成立ハ獨立印度完成ノ爲至大ノ意義ヲ有スルコトヲ確信シ、帝國政府ハ本二十三日同政府ヲ承認シ其ノ目的達成ノ努力ニ對シ有ユル支援ヲ與フヘキコトヲ再確認シタノテアル。

英國ハ、之ニ對抗スル爲必スヤ印度ニ對スル壓迫ヲ加重シ或ハ印度人ニ對スル懷柔政策ヲ助長スルテアラウ。然シ英國ノ印度ニ對シテ與ヘントスル所ハ畢竟桎梏ノミテアル。我々ハ此ノ桎梏ヲ排センカ爲起ツタ。印度人亦厥起シタ。日本ト印度、共ニ戰ヒ共ニ勝抜カン。我々ハ印度假政府代辯者ノ言明シタル如ク獨立後ノ印度ニ對シ何等政治的經濟的野心ヲ有スルモノテハナイ。其ノ念願トスル所ハ唯印度民衆ノ福祉増進ノミニアル。而カモ其ノ念願達成ノ日ハ必スヤ近ク來ルヘキヲ確信シテ疑ハヌノテアル。

二九、第八十三回帝國議會ニ於ケル內閣總理大臣演說

(十月二十六日)

本日開院式ニ當リマシテハ特ニ優渥ナル 勅語ヲ賜ハリ洵ニ恐懼感激ニ堪ヘナイ次第デアリマス。私ハ諸君ト共ニ

謹ンテ 聖旨ヲ奉戴シ全力ヲ擧ケテ決戰下重大ナル職責ノ遂行ニ當リ速ニ戰爭目的ヲ達成シ、以テ 聖慮ヲ安ンシ奉ランコトヲ深ク期スルモノデアリマス。

大東亞戰爭勃發以來正ニ二年ニ垂ントシ、皇軍將兵ハアラユル困難ヲ克服シテ 御稜威ノ下敵ノ執拗ナル反攻ヲ擊摧シ戰果ヲ擴大致シテ居ルノデアリマス。私ハ諸君ト共ニ皇軍將兵ノ善謀勇戰ト言語ニ絶スル勞苦トニ對シマシテ心カラ感謝ノ意ヲ表スルモノデアリマス。而シテ此ノ機會ニ於キマシテ私ハ又諸君ト共ニ護國ノ華ト散ラレタル勇士ニ對シ謹ンテ敬弔ノ誠ヲ捧ケ、戰傷病將兵ノ速カナル再起奉公ノ日ヲ祈念シ、更ニ遺族ノ方々ニ對シマシテ衷心ヨリ同情ノ意ヲ披瀝スルモノデアリマス。一方銃後ニ於キマシテハ國民諸君ハ或ハ其ノ子ヲ或ハ其ノ兄弟ヲ前線ニ送りツツ専ラ力ヲ戦力ノ増強ニ傾倒シ、將兵ヲシテ何等後顧ノ憂ナクシテ縱横ニ其ノ戦力ヲ發揮セシメンコトヲ只是レ努メテ來ラレテ居ルノデアリマス。此ノ間ニ於ケル國民諸君ノ擧ケラレタル功績ト又嘗メラレタル勞苦ノ如何ニ大ナルカニ思ヒヲ致シ、私ハ茲ニ諸君ト共ニ國民諸君ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表スルモノデアリマス。

現下ノ戦局ヲ大觀致シマスルニ、緒戰ニ慘敗ヲ喫セル敵米英ハ帝國ヲ中核トスル大東亞ニ於ケル人的結束ト其ノ豐富ナル資源ノ戦力化トニ依ツテ帝國ノ戦力カ急速ニ擴充シツツアル事實ニ直面シテ愕然トシ帝國ニ一大反撃ヲ加ヘ以テ速ニ帝國ヲ壓倒センコトヲ決意スルニ至ツタノデアリマス。

斯クテ敵米英ハアラユル危険ヲ冒シ手段ヲ選ハスシテ反攻ノ舉ニ出テ戦鬪ハ日ニ日ニ熾烈ノ度ヲ加ヘテ居ルノデアリマス。

而シテ彼等カ猪突猛進ヲ敢テシツツアル此ノ機ニ乘シ、帝國ハ彼等ニ猛撃ヲ加ヘテ敵ノ戦力ヲ破碎シ、勝利ヘノ途

ヲ確保セントシテ居ルノテアリマス。此ノ緊迫セル情勢ニ對處シ、我々國民ノ果スヘキ責務ハ只一途ニ戦力ヲ急速ニ増強スルニ在ルノテアリマス。敵米英ニ痛撃ヲ加フヘキ必勝ノ戦力ヲ最モ敏速ニ而モ間斷ナク整備シテ以テ遺憾ナク前線ノ要求ヲ充足スルニ在ルノテアリマス。此ノ責務タルヤ決シテ生易シイモノテハナイノテアリマス。從來ノ考ヘ方從來ノ行キ方テハ到底成シ遂ケ得ナイモノテアリマス。一億國民悉クカ眞ニ一切ノ犠牲ヲ放擲シ一切ノ行キ懸リヲ擲ツテ渾身ノ力ヲ傾倒シテコソ始メテ果シ得ルモノテアリマス。而モ戦局ノ推移ハ我々ニ寸刻ノ猶豫モ與ヘテ居ラナイノテアリマス。

曩ニ政府カ「現情勢下ニ於ケル國政運営要綱」ヲ決定シタル所以ハ實ニ茲ニ存スルノテアリマス。而シテ今回議會ノ召集ヲ奏請シテ時局ニ關シ緊急ナル諸議案ノ御審議ヲ願フコトト致シマシタ所以ノモノモ實ニ茲ニ存スルノテアリマス。

政府ノ今回行ハントスル國政運営刷新ノ眼目トスル所ハ統帥ト國務トノ關係ヲ愈々緊密化シテ雄渾活潑ナル戰爭指導ノ遂行ヲ圖リ、又戰爭完遂ノ一翼トシテ機敏潑刺タル對外施策ヲ行フト共ニ、此等ニ即應シ國內諸般ノ態勢ヲ劃期的ニ強化セントスルニ在ルノテアリマス。而シテ國內態勢強化ノ目標トスル所ハ官民ヲ舉ケテ不屈不撓軍需生産ノ急速増強特ニ航空戦力ノ躍進的擴充ヲ圖リ、之ヲ中心トシテ帝國ノ決勝態勢ヲ徹底的ニ強化セントスルニ在ルノテアリマス。

今コソ一億國民悉クカ總員戰鬪配置ニ就キ官民一人一人カ新ラシク生レ變ツタ氣魄ヲ以テ文字通り完勝ノ一點ニ總力ヲ集中シナケレハナラナイ秋テアリマス。

此ノ信念ノ下ニ政府ト致シマシテハ決心ヲ新ニシ從來ノ官廳ノ傳統行キ懸リ等ニ一切拘泥スルコトナク苟クモ必要ナル施策ハ思ヒ切ツテ強力ニ之ヲ斷行スルコトニ決意シタノテアリマス。

國內態勢強化ノ具體的方策ニ付キマシテハ屢次之ヲ發表致シテ參リマシタカ、其ノ重點トスル所ハ行政運営ノ決戰化、國民動員ノ擴大及國內防衛態勢ノ強化ニ在ルノテアリマス。而シテ此等ノ方途實行ノ基本的措置トシテ、政府ト致シマシテハ、愈々民心ノ作興ヲ圖ルト共ニ國論統一ノ爲ニハ萬全ノ處置ニ出ツヘキハ勿論ノコトテアリマス。

以上ノ趣旨ニ基キ政府ハ急速ニ國內態勢強化方策ノ實行ニ着手致シタノテアリマス。

政府ハ先ツ行政運営ノ決戰化方策トシテ農商省、軍需省、運輸通信省ノ設置ヲ始メトシテ行政機構ノ整備ヲ行ヒ再ヒ其ノ職員ノ大中縮減ヲ圖リ又官廳事務ノ刷新ヲ圖ルト共ニ豫算ヲ徹底的ニ單純化スルコトニ方針ヲ決定致シタノテアリマス。

國民動員ノ擴大ニ付キマシテハ學生等ニ對スル一般徵集猶豫ノ停止及徵集徵用ノ範圍ノ擴大普遍化等ニ對スル措置ヲ急速ニ進メ、又之ニ關聯シ教育ニ關スル戰時非常ノ措置ヲ定メタノテアリマス。

國內防衛態勢ノ強化ニ付キマシテハ國內防衛行政ノ統一的運営ヲ期シテ新ニ防空總本部ヲ設置スルコトトシ、更ニ帝都及重要都市ニ於ケル人員、施設ヲ疎開スル方針ヲ定メタノテアリマス。

今ヤ國內態勢ノ徹底強化カ最モ迅速ニ最モ力強ク實行セラルルヤ否ヤハ正ニ大東亞戰爭ノ成否ヲ決スヘキモノト考ヘルノテアリマス。此ノ見地ニ基キマシテ政府ト致シマシテハ既ニ決定セル事項ノ今後ノ運営ニ付キマシテモ又新ニ着手スヘキ幾多ノ事項ニ付キマシテモ飽ク迄モ強靱果斷ナル態度ヲ以テ臨ミ、必ス之カ成果ヲ舉ケ以テ作戰上ノ要求

ヲ充足センコトヲ固ク期シテ居ル次第テアリマス。未曾有ノ重大戦局下政府ハ愈々國民諸君ノ心カラナル協力ヲ切望シテ已マナイモノテアリマス。

帝國カ自存自衛ノ爲已ムニ已マレスシテ立ち上リ、一切ノ障礙ヲ破碎シテ速ニ禍根ヲ芟除シ、以テ大東亞ヲ解放セントスル此ノ正義ノ大戦争ニ於テ究極ノ勝利ノ我ニ歸スヘキハ我等ノ信シテ疑ハサル所テアリマス。而モ開戦以來ノ作戦ノ経緯ニ鑑ミ又現實大東亞ニ於ケル情勢竝ニ彼我攻防ノ大勢ヲ遠觀致シマスル秋、我等ハ愈々必勝ノ信念ヲ堅クスルモノテアリマス。況ンヤ戦局ノ現段階ヲ轉機トシテ一億官民悉ク戰鬪配置ニ就キ、愈々決意ヲ新ニシテ一切ヲ大君ノ御爲ニ捧ケマツリ、眞ニ總力ヲ米英擊摧ノ一點ニ集中スルコトナレル以上、我等ノ前途ニハ只勝利アルノミテアリマス。

翻ツテ歐洲ノ形勢ヲ見マスルニ、伊太利ニ於ケル「バドリオ」一派ノ恥ヲ知ラサル裏切り行爲ハ我等ノ洵ニ遺憾トスル所テアリマス。然シ乍ラ彼等ノ此ノ行爲ハ徒ラニ伊太利國民ヲシテ歸趨ニ迷ハシメ塗炭ノ苦ミニ陥ラシムル結果ヲ招來セルニ過キナイノテアリマシテ、之ニ依リ樞軸國ノ必勝ノ態勢ニハ微動タモスル所ハナイノテアリマス。

而シテ「ヒトラー」總統ノ機敏適切ナル處置ニ依リ今ヤ「ムツソリーニ」統帥ハ再ヒ同志ノ伊太利人ヲ糾合シテ政府ヲ樹立シ、日獨兩國ト愈々力ヲ戮セテ依然米英ノ擊摧ニ邁進スルニ至ツタノテアリマス。日獨兩國ハ直ニ新政府ヲ承認致シタノテアリマスルカ、私ハ衷心ヨリ「ムツソリーニ」統帥ノ再起ヲ慶祝スルト共ニ今後ノ健闘ヲ祈ツテ已マナイモノテアリマス。

今ヤ獨逸ハ歐洲戦局ノ新局面ニ處シ異常ナル決意ノ下ニ周到ニシテ大規模ナル國內總動員ヲ敢行シ、歐洲ニ於ケル

確固タル態勢ニ立ツテ新ニ縱横ノ作戦ニ出テントシテ居ルノテアリマス。帝國ハ盟邦獨逸カ此ノ新作戦ニ於テ臆テ所期ノ戦果ヲ收メ帝國ト相携ヘテ米英ヲ屈服セシムル日ノ近カラシムコトヲ期待シ之ヲ確信スルモノテアリマス。

一方大東亞ノ情勢ヲ見マスルニ多年米英ノ野望ニ塗炭ノ苦シミヲ重ネ來ツタ大東亞ノ諸國家、諸民族ヲ宿敵米英ノ桎梏ヨリ解放セントスル大事業ハ極メテ堅實ナル歩ミヲ以テ着々トシテ其ノ基礎ヲ築キ上ケテ居ルノテアリマス。曩ニ「ビルマ」ハ獨立シ、今又「フィリッピン」共和國ノ獨立ヲ見ルニ至ツタノテアリマス。帝國カ國際信義ノ上ニ立ツテ約束セル所ハ常ニ必ス現實ノ姿トナツテ顯ハレテ參ツテ居ルノテアリマス。是レ實ニ八紘爲宇ノ盛國ノ大理想ノ顯現ニ外ナラス帝國ノ最モ本懐トスル所テアリマス。

今ヤ滿洲國ニ於キマシテハ畏クモ 皇帝陛下御躬ヲ率先御垂範遊ハサレ、國民上下一致力強キ躍進ノ歩ヲ進メ帝國トノ交誼日ニ敦キヲ加ヘ帝國ニ對スル物心兩面ニ亘ル協力洵ニ大ナルモノカアルノテアリマス。茲ニ帝國ハ滿洲國ノ渝ラサル協力ニ感謝スルト共ニ其ノ健全ナル發展ニ更ニ一段ノ力ヲ致サンコトヲ固ク期スルモノテアリマス。

中華民國ニ付キマシテハ、本年初頭以來帝國カ既定ノ方針ニ從ヒ租界ノ還付ヲ始メ幾多ノ案件ノ具體的措置ヲ急速ニ進メテ居リマスルコトハ御承知ノ通りテアリマス。而シテ日華基本條約ノ根本的ナル改訂ニ付キマシテモ近ク之カ具體化ヲ見ルノ運ヒニ至ツテ居ルノテアリマス。先般汪主席兼行政院院長來朝セラレ私ハ膝ヲ交ヘテ日華兩國ノ共同戦争遂行ノ方途ニ付忌憚ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ、完全ナル意見ノ一致ヲ見ルニ至ツタノテアリマス。

汪主席以下中國ノ官民カ愈々帝國ノ眞意ニ共鳴シ、「中國人ノ中國」ノ理想達成ノ爲將又大東亞十億民衆ノ解放ノ爲邁進セントセル烈々タル氣魄ニ對シマシテハ私ハ更メテ茲ニ衷心ヨリ敬意ヲ表スルモノテアリマス。此ノ秋ニ當リ

兄弟尙本藩ニ相関キ中國更生ノ雄圖ニ參與シ得ス、延イテハ大東亞民族共同ノ大事業ニ行ヲ共ニシ得サル重慶政權下ノ民衆ニ對シマシテハ私ハ洵ニ同情ノ念ニ堪ヘサルモノカアルノデアリマス。

「タイ」國ニ付キマシテハ先般北部「マライ」ノ四州及「シヤン」ノ二州「タイ」國ノ領土ニ編入スルノ措置ヲ了シタノデアリマス。

今ヤ日「タイ」兩國ノ關係ハ日ニ日ニ敦キヲ加ヘ「タイ」國ノ帝國ニ對スル協力ニ對シマシテハ帝國ノ深ク感謝スル所デアリマス。而シテ帝國ト致シマシテハ此ノ上共「タイ」國ノ興隆ノ爲全幅ノ力ヲ致サンコトヲ深ク期シテ居ル次第デアリマス。

「ビルマ」國ハ去ル八月一日目出度クモ獨立致シタノデアリマス。嘗テ英國ノ野望ノ爲空シク其ノ生命ヲ奪ハレタル「ビルマ」ハ英國ノ重ナル壓制ニ呻吟スルコト多年而モ大東亞戰爭勃發スルヤ驟然トシテ起チ上リ帝國ニ全幅ノ協力ヲ寄セテ參ツタノデアリマス。而シテ今ヤ「ビルマ」民衆ノ多年ノ宿望ハ達セラレ其ノ獨立ハ茲ニ實現致シタノデアリマス。私ハ諸君ト共ニ此ノ機會ニ更メテ「ビルマ」國ノ獨立ヲ祝シ今後ノ潑刺タル發展ヲ祈ルト共ニ「ビルマ」國カ大東亞防衛ノ第一線ニ於テ愈々帝國ト相携ヘテ健闘ヲ續ケラレンコトヲ切望シテ已マナイ次第デアリマス。而シテ帝國ト致シマシテハ今後益々「ビルマ」國ノ興隆ノ爲更ニ協力援助ノ勞ヲ致サンコトヲ固ク期スルモノデアリマス。去ル十月十四日我々ハ「フィリッピン」共和國獨立ノ目出度キ日ヲ迎ヘタノデアリマス。茲ニ「フィリッピン」ハ四百年ニ亘ル他民族ノ支配ヨリ脱シ、特ニ最近四十年ニ及フ米國ノ欺瞞ト壓制下ヨリ解放セララルニ至ツタノデアリマス。今ヤ千八百萬ノ比島民衆ハ「ラウレル」大統領ノ逞マシキ統率ノ下ニ「比島人ノ比島」ヲ建設スルト共ニ帝國

ト相結ンテ大東亞戰爭ノ完遂竝ニ道義ニ基ク大東亞ノ建設ニ大イニ寄與セントシテ居ルノデアリマス。帝國ハ「フィリッピン」國民ノ此ノ大事業カ順調ニ進展センコトヲ祈念スルト共ニ其ノ完成ノ爲アラル協力ヲ致サンコトヲ茲ニ更メテ深ク期スル次第デアリマス。

曩ニ私ハ本議場ニ於テ「マライ」「スマトラ」「ジャワ」「ボルネオ」「セレベス」等ニ於ケル原住民ノ民度ニ應スル政治參與ニ關シ聲明スル所カアツタノデアリマスルカ、爾來之カ具體的措置ハ極メテ順調ニ進メラレテ來タノデアリマス。而シテ此等民衆ハ大東亞戰爭完遂ノ爲帝國ニ對シ愈々協力ノ實ヲ發揮致シテ居ルノデアリマス。此ノ機會ニ於テ私ハ更メテ此等民衆ニ對シ心カラ感謝ノ意ヲ表スルト共ニ其ノ福祉増進ノ爲此ノ上共更ニ一段ノ力ヲ致サントスルモノナルコトヲ更メテ表明スルモノデアリマス。

萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンセシムル我カ鑒國ノ大理想ハ以上申述ヘマシタル如ク歩一步實現セラレテ居ルノデアリマス。多年米英蘭ノ蹂躪ニ委セ其ノ搾取ニ苦シンテ居リマシタル東亞ハ今ヤ大東亞ノ爲ノ大東亞トナリ道義ニ基ク新シキ世界建設ノ先驅トシテ力強ク發足シテ居ルノデアリマス。

翻ツテ印度四億ノ民衆ハ依然トシテ英國ノ彈壓ノ下ニ又最近ニ於テハ米國ノ野望モ加ハリ言語ニ絶スル苦惱ヲ續ケテ居ルノデアリマス。

今ヤ英國ノ虐政ト英米軍ノ暴戾トハ彼等ト印度民衆トノ軋轢乖離ヲ愈々激化セシメ深刻ナル社會混亂ヲ惹起シ、其ノ結果遂ニ印度ニ於ケル空前ノ饑饉ヲ持チ來ラスニ至ツタノデアリマス。

而モ其ノ慘狀ハ日ニ月ニ惡化ノ度ヲ加ヘテ居リマスルコトハ英米ノ自ラ認メテ居ル所デアリマス。

斯クテ印度ニ於テハ志アルモノハ悉ク牢獄ニ投セラレ無辜ノ民衆ハ總テ餓エニ泣ク、是レ正ニ世界ノ悲劇テアリ人類共同ノ痛恨事テアリ我々ノ斷シテ放置シ得サル所テアリマス。

八六

此ノ秋ニ當リ印度ノ志士「スバス・チャンドラ・ボース」氏ノ下ニ憂國ノ印度人ハ祖國解放ノ爲ニ結束シテ起チ上リ、去ル十月二十一日印度假政府ノ樹立ヲ見ルニ至ツタノテアリマス。茲ニ於テカ帝國ハ直ニ二十三日同政府承認ノ意志ヲ表明致シタノテアリマシテ、今後帝國ハ同政府ヲ飽ク迄モ支援シ印度ノ獨立ト解放ノ爲ニハアラユル力ヲ致サントノ決意ヲ本議場ヲ通シ中外ニ聲明シ得ルハ我々ノ洵ニ欣ヒトスル所テアリマス。

蓋シ印度ノ完全ナル獨立ト自由ト而シテ印度四億民衆ノ永遠ノ繁榮コソハ帝國ノ衷心ヨリ念願スル所テアリマス。而モ此ノ帝國ノ目指ス所ハ大東亞全民族ノ心カラナル協力ヲ得ルハ勿論更ニ全世界ノ人士ノ志ヲ得ルモノナルコトヲ私ハ信シテ疑ハナイモノテアリマス。而シテ私ハ此ノ澎湃タル印度解放ノ氣運ト逞マシキ大東亞民族ノ協力トハ必スヤ印度ニ其ノ獨立ト自由ト繁榮トヲ齎ス日ノ遠カラサルコトヲ確信スルモノテアリマス。

以上重大戦局ニ臨ム政府ノ所信ヲ披瀝致シタノテアリマスルカ、トウカ諸君ニ於カレマシテハ政府ノ決意ヲ篤ト了解セラレ、此ノ上トモ愈々心カラナル協力ヲ賜ハリマスルト共ニ今回政府提出ノ豫算案、法律案ニ付キマシテ何卒御審議ノ上速ニ協賛ヲ與ヘラレンコトヲ切望スル次第テアリマス。

三〇、第八十三回帝國議會ニ於ケル東條陸軍大臣戰況報告

(十月二十六日)

前回本議場ニ於キマシテ報告致シマシタ以後ニ於キマスル作戰一般ノ推移ニ付キマシテハ、大本營發表ニ依リ御承知ノ如ク、今ヤ敵ノ本格的總反攻ヲ邀ヘマシテ、各方面共ニ戰況愈々激烈ト相成ツテ居ルノテアリマス。以下其ノ狀況ニ付キマシテ報告致シタイト存シマス。第一ニ北東方面ニ付テ申上ケマス。「アツツ」島ニ於ケル山崎部隊ノ壯烈鬼神ヲ泣カシムル戰鬪ニ付キマシテハ、前回本議場ニ於キマシテ詳細御説明致シタ次第テアリマスルカ、「キスカ」島ニ在リマシタ部隊ハ、自主的ニ撤退セシムルコトニ決セラレ、七月二十九日、何等敵ノ妨害ヲ受クルコトナク、一兵ヲモ剩サス撤退シ、新任務ニ就カシメラレテ居リマス。敵ノ制空制海權下、斯クノ如キ行動力成功致シマシタル所以ノモノハ、御稜威ノ下、海軍ノ決死的協力ト山崎部隊英靈ノ加護トニ依ルモノテアリマシテ、米軍力、我カ「キスカ」部隊ノ撤退後、全ク之ヲ察知スルコトナク、約二週間餘ニ互リ依然トシテキスカ島ニ對シ相次イテ爆撃、銃砲撃ヲ加ヘ、八月十五日ニ至リマシテ漸ク同島ニ上陸シマシタルコトハ、敵側ノ公式發表ニ依リ明カテアリマス。「キスカ」部隊撤退後、幌筵島ニ對シ敵機力來襲致シマシタコトハ、其ノ都度大本營ヨリ發表セラレタ通りテアリマスルカ、敵ノ來襲延機數ハ約三十機テアリマス。之ニ對シ我カ方ハ、其ノ約半數ヲ擊墜シ、其ノ残りノ少クモ三分ノ一ニ損害ヲ與ヘ、米國自ラ極メテ高價ナル試ミテアツタコトヲ認メテ居ルノテアリマス。第二ニ「ニューギニア」、「ソロ

八七

モン」方面ノ狀況ニ付テ申上ケマス。「ニューギニア」方面ニ於キマシテハ、我カ一部隊カ本春以來「サラモア」南方地區ニ於テ優勢ナル敵ト相對シテ居ツタノデアリマスルカ、六月三十日ニ至リ、敵ノ一部隊ハ「サラモア」東南方地區ニ上陸シ來リ、我カ先遣部隊ハ寡兵克ク勇戰奮闘、之ヲ拒止致シテ居ツタノデアリマス。然ルニ敵ハ更ニ九月四日及同二十二日、ソレト「ラエ」及「フィンシハーフェン」附近ニ有力ナル一部隊ヲ上陸セシメマシタカ、此ノ方面我カ陸海航空部隊ハ、相協力シテ之ヲ攻撃致シマスルト共ニ、各方面ノ我カ地上部隊亦渾然一氣トナリ、目下「フィンシハーフェン」方面ノ敵ヲ攻撃激戰中デアリマス。先程入手致シマシタル情報ニ依リマスルト、敵ノ遺棄屍體約二千、鹵獲火砲十四門、銃器多數ノ戰果ヲ擧ケテ居リマス。尙「サラモア」及「ラエ」附近ニ於テ勇戰中デアリマシタ我カ部隊ハ、敵ニ大打撃ヲ與ヘ、十月中旬「ラエ」北方地區ニ集結ヲ完了、又「マダン」南方地區ノ我カ部隊ハ、「ラム」河上流右岸地區ニ進出セル敵ト、十月上旬以來交戰中デアリマス。「ニューギニア」及「ソロモン」方面ニ於キマスル敵航空勢力ハ、第一線機約千二百機、後方約千八百機デアリマシテ、敵ノ戰法ハ、先ツ其ノ優勢ナル航空兵力ヲ以テ確實ニ制空シ得タル地點ニ上陸シ、飛行基地ヲ急速ニ設置シ、更ニ之ヲ根據トシテ制空範圍ヲ擴大シツツ、一步々作戦ヲ進メテ來テ居ルノデアリマス。而モ敵ハ上陸後、我カ地上部隊ノ勇戰ヲ恐レテ、其ノ地上兵力ヲ以テスル力攻ヲ避ケ、専ラ兵力ヲ増強スル一方、其ノ優勢ナル航空機及艦艇ヲ以テ我カ後方補給ノ遮斷ヲ行ヒ、我カ地上第一線戦力ノ低下ヲ待ツテ攻撃ヲ執ルヲ例ト致シテ居リマス。之ニ對シマシテ陸軍航空部隊ハ、海軍航空部隊ト協力シ、或ハ遠ク敵航空基地ヲ攻撃シ、或ハ近ク直接地上部隊ノ戰闘ニ協力スルト共ニ、我カ後方根據地及輸送船團ノ掩護ニ任スル等、連續不斷ノ戰闘ヲ致シテ居リマス。最近ニ於ケル航空戰闘ノ戰果統計ヲ見マシテモ、我カ損害一機ニ

對シ、敵ハ常ニ數倍ヲ擊墜破セラレテ居ルノデアリマス。而シテ我カ航空部隊將兵ノ敢闘ト其ノ戰技ノ卓越トハ、常ニ局部ノ戰闘ニ於テ赫々タル戰果ヲ收メテ居ルノデアリマス。而シテ我カ地上部隊亦不屈不撓、有ラユル困難ヲ克服シ、常ニ寡ヲ以テ衆ニ當リ、皇軍ノ本領ヲ遺憾ナク發揮致シテ居ルノデアリマス。六月以降「ニューギニア」方面ニ於テ敵ニ與ヘマシタル損害ハ、擊墜セル敵飛行機約五百、擊沈セル敵艦艇十八隻、輸送船約四十隻、舟艇約五十隻以上、地上戰闘ニヨリ敵ニ與ヘタル損害ハ、少クモ一萬二千名ヲ超エ、鹵獲火砲、銃器多數デアリマス。申ス迄モナク此ノ方面ノ作戦ハ、炎熱瘴癘、不毛ノ地域ニ於テ行ハレテ居ルノデアリマシテ、彼我共ニ「マラリヤ」、「 Dengue」熱、其ノ他幾多ノ惡疫ヲ征服シナケレハナラナイハカリテナク、現地物資ハ殆ト皆無ニ近ク、補給ハ悉ク追送ニ依ラネハナラスノデアリマス。從ヒマシテ我カ第一線將兵ノ勞苦ハ想像ニ餘リアル所デアリマスルカ、敵ノ苦惱亦極メテ大デアリマシテ、俘虜ノ言其ノ他ヲ綜合致シマシテモ、敵第一線將兵ハ生活ニ惱ミ、惡疫患者ノ外、精神病患者サハ續出シ、長期間第一線ニ從軍シ得ナイモノノ如ク、敵ノ損害、特ニ人的損耗ハ極メテ大ナルモノカアルノデアリマス。「ソロモン」方面一般ノ情況ニ付キマシテハ、後刻海軍大臣ヨリ報告セラレルコトト存シマス。第三ニ南方方面ニ付テ申上ケマス。「ビルマ」正面ニ於キマスル所ノ航空作戦逐次激化ノ傾向ニアリマスコトニ付キマシテハ、既ニ御承知ノコトト存シマスルカ、六月以後雨季ニ入りマシテモ、敵機ノ來襲ハ大ナル變化ヲ示サス、毎月ノ來襲延機數ハ約一千機ノ多キヲ數ヘ、九月ニ入りマスルヤ、更ニ千六百機ニ増加シ、終始激烈ナル戰闘ヲ繼續シテ居ル次第デアリマス。此ノ方面ニ於ケル敵航空勢力ハ、第一線機約一千機内外ト判斷サレマスルカ、其ノ戰法ハ、主トシテ我カ後方補給遮斷ニ重點ヲ置クト共ニ、後方擾亂ノ目的ヲ以テ屢々市街地ノ盲爆ヲ行ツテ居リマス。我カ陸軍航空部隊ハ

「ビルマ」、佛印、「タイ」、「マライ」ノ極メテ廣汎ナル地域ニ互リ、寡兵克ク常時不斷ノ防空ニ任シ、又「ベンガル」灣、或ハ「スマトラ」、「ジャワ」島南方海上ノ全域ニ互リマシテ哨戒任務ニ服シ、又機ヲ見テ西北濠洲方面ノ攻撃ニ任シテ居ル次第アリマス。又我カ軍ハ雲南省方面ノ重慶軍ニ對シ、其ノ意表ニ出テ、十月中旬突如進攻ヲ起シマシタカ、敵ノ有力ナル一部隊ヲ怒江正面ニ包圍シテ、重慶直系軍ニ大打撃ヲ與ヘ、目下尙戰鬪續行中デアリマス。「ビルマ」ノ反攻ハ、敵カ屢々呼號シテ居ル所デアリマシテ、今ヤ其ノ兆候カ逐次濃化シツツアリマスルカ、軍ハ愈々此ノ方面ノ防衛態勢ヲ強化シ、滿ヲ持シテ次期作戰ニ備ヘテ居ルデアリマス。其ノ他南方全般ニ於ケル治安ノ良況ニアリマスルコトハ御同慶ニ堪ヘヌ所デアリマス。第四ニ支那、滿洲方面及内地ノ狀況ニ付テ申上ケマス。在支敵空軍ハ、米支合計約三、四百機ト判斷セラレマスカ、中核ヲ成スモノハ有力ナル長距離爆撃機ヲ有スル米軍デアリマシテ、我カ本土攻撃ヲ企圖シツツアリマスルコトハ申ス迄モナイコトデアリマス。軍ハ、七月以來重慶、衡州、零陵、建甌、寶慶、桂林、昆明等、相次イテ敵策動ノ根據地ヲ攻撃シ、之ニ大打撃ヲ與ヘ、其ノ企圖ヲ破碎シ、以テ我カ本土防衛ノ第一線ヲ形成シテ居ルデアリマスルカ、今後尙一瞬ノ偷安ヲ容ササル狀況デアリマス。七月下旬以後、此ノ方面ノ我カ航空戰果ハ、擊墜破敵機約二十四機、擊沈破船舶十八隻、軍事施設ノ破壊多數、我カ損害約四十機デアリマス。支那ニ於ケル地上作戰ハ、各方面共不斷ノ討伐ヲ實施中デアリマスルカ、敵ノ戰意ハ、重慶ノ呼號ニ反シ逐次低下シ、我カ對支施策ノ進捗ト相俟ツテ、俘虜若シクハ歸順者ノ數ハ頗ル増加シテ居ルデアリマシテ、軍ハ愈々潑刺タル對敵壓迫ヲ繼續シ、以テ敵ノ戰意破碎ニ邁進シテ居ル次第デアリマス。滿洲方面ニ於キマシテハ靜謐ヲ保ツテ居リマシテ、其ノ護リ磐石デアリマスルコトハ從來ト變化ナイ所デアリマス。次ニ各方面ヨリスル我カ本土ノ攻撃

ニ對シマシテハ、前述ノ如ク各方面第一線ニ於キマシテ、敵ヲ積極的ニ制壓シ、又備ヲ整ヘマシテ、我カ本土ノ防衛ニ當ツテ居リマスルコト共ニ、内地ニ在リマスル防衛部隊亦日夜ヲ分カタス警戒ニ任シテ居リマスルコトハ皆様ノ常ニ御覽ノ通りデアリマシテ、本土防衛ノ完璧ヲ期シ、一意其ノ任務ニ邁進シテ居ル次第デアリマス。第五ニ南方占領地ニ於キマスル軍政ノ狀況ニ付説明ヲ致シマス。短時日テハアリマスルカ、先般私カ觀察致シマシタル結果ニ依リマシテモ、南方占領地ノ軍政ハ引續キ順調ナル進展ヲ續ケテ居リマシテ、特ニ治下諸民族ハ我カ相次ク公明正大ナル施策ニ浴シ、克ク帝國ノ眞意ヲ解シテ嬉々トシテ各々其ノ分ニ應ジテ大東亞戰爭ノ完遂ニ協力致シテ居リマス。即チ「ジャワ」、「スマトラ」等ニ於キマシテハ、原住民ノ防衛義勇軍志望者相續キ、各種産業ノ復舊開發、木造船ノ建造ニ於キマシテモ、進シテ積極的ニ事業ニ從事シ、又治安カ極メテ良好ニ保タレアルコト等、何レモ此ノ原住民ノ心ヨリノ協力ヲ如實ニ示スモノト考ヘテ居リマス。而シテ現下ニ於キマスル軍政ハ、決戰即應ノ態勢整備ヲ重點ト致シマシテ、特ニ警備機構ノ強化、交通通信ノ整備、重要生産施設ニ對スル防空設備ノ改善、現地自給力ノ強化等ニ意ヲ用ヒテ施策中デアリマシテ、現地自給力強化ニ關シマシテハ、兵器ノ修理、兵器材料ノ現地自給モ、其ノ範圍ヲ擴大シテ居リマスルノミナラス、逐次製鐵、伸鐵、「セメント」製造施設ノ建設移駐等ヲ實行シツツアリマスルノテ、生活必需物資生産施設ノ建設ト相俟ツテ、現地ノ自給力ハ一段ト向上シ來ルモノト確信致シテ居リマス。以上各方面ノ戰況竝ニ占領地軍政ニ付テ御説明致シタノデアリマスルカ、之ヲ要シマスルニ、各方面ノ狀況ヲ通シ今日最モ緊要ナルモノハ、航空戰力ノ增強デアリ、制空權ノ擴大デアリマス。御承知ノ如ク、現下戰局ノ歸趨ハ、制空權ノ掌握如何ニ依ルコト絶大デアリマスルカ、特ニ東亞ニ於ケル地勢ノ特質、就中我カ當面スル現戰況ハ、此ノ關係ヲ如實ニ示シテ居

ルノテアリマス。既ニ申述ヘマシタル如ク、我カ航空部隊ハ常ニ局部ノ戰術的戰鬪ニ於キマシテハ有利ナル戰果ヲ得テ居ルノテアリ、且又我ハ有利ナル航空戰略態勢ヲ保持シテ居ルノテアリマシテ、更ニ之カ戰力増強ヲ圖ルコトニ依リ、必勝ノ道ハ自ラ明カナノテアリマス。軍ト致シマシテハ、愈々皇國獨得ノ戰法ヲ研究致シマスルト共ニ、量ニ於テモ有ラユル工夫ヲ擬ラシ、兩々相俟ツテ米英航空勢力ノ擊滅ヲ期シテ居ル次第テアリマス。各位ニ於カレマシテモ、航空戰力ノ劃期的増強ニ關シマシテ、此ノ上共全幅ノ御協力ヲ切望致ス次第テアリマス。戰局ノ前途ニハ、固ヨリ幾多ノ困難ヲ豫想セラレマスルカ、我ノ苦痛ニ更ニモ増シ敵ノ苦痛ノ大ナル事ヲ銘肝シ陸軍トイタシマシテハ、御後威ノ下密ニ海軍ト協力シ、愈々必勝ノ信念ヲ確持シ必勝ノ施策ヲ盡シ現戰局ニ對應シテ、將來ノ積極作戰ノ準備ニ邁進セン事ヲ期スルモノテアリマス。終リニ臨ミ、右戰場ニ於テ戰沒セラレマシタル幾多ノ尊キ英靈ニ對シ、謹ンテ敬弔ノ誠ヲ捧ケマスルト共ニソノ御遺族ニ對シマシテ深ク御同情ヲ申シ上ケ又常ニ熱誠渝ラサル國民各位ノ御後援ニ對シ厚ク御禮ヲ申シ上ケル次第テアリマス。

三一、第八十三回帝國議會ニ於ケル嶋田海軍大臣戰況報告

(十月二十六日)

本年六月本議場ニ於テ説明致シマシタ以後ニ於ケル海軍作戰ノ概要ニ付テ申上ケマス。

大東亞戰爭開始以來精銳ナル我カ陸海軍部隊カ西太平洋及ヒ「インド」洋ニ互ツテ築キ上ケマシタ帝國ノ優位ナル

戰略態勢ハ引續イテ強化セラレ、全域ニ互ル我カ軍不斷ノ果敢ナル作戰ニ依リマシテ隨所ニ敵ヲ擊碎シテ居リマス。敵モ亦各方面ヨリ相次イテ執拗ナル反擊ニ出テ、戰局ハ全般ニ於テ熾烈ナル決戰ノ様相ヲ示シ、戰機極メテ重大テアリ、帝國海軍ハ御後威ノ下、陸軍部隊ト緊密ナル協同ヲ以チマシテ、廣大ナル戰域ニ互リ旺盛ナル攻撃精神ヲ以テ敵兵力ノ捕捉殲滅ニ努メテ居リマス。此ノ期間ニ於ケル主ナル作戰ヲ大別致シマシテ、「インド」洋方面、北太平洋方面、南太平洋方面ノ順序ニ是カ大要ヲ説明致シマス。

先ツ「インド」洋方面ニ於キマシテハ、陸軍部隊ノ「ビルマ」方面ノ作戰ニモ呼應シ、占領地周邊ノ備ヘヲ益々固ムルト共ニ、潜水艦及ヒ航空機ヲ以テ進ンテ敵ノ後方ヲ攻撃攪亂シ、速ク「アフリカ」東岸ニ互リ、所要海域ノ制御ニ任シテ居リ、又近ク十月十二日我カ航空部隊ハ長驅「セイロン」島及ヒ「インド」東岸「マドラス」ヲ急襲シ、船舶及ヒ軍事施設ヲ爆碎致シマシタ。更ニ濠洲西北岸方面ニ對シマシテハ、有力ナル航空部隊ヲ以テ、屢々「ポートドゥーウィン」、「ブロックスクリーク」及ヒ「ドライスデール」等、敵大型機ノ巢窟タル要地ニ大規模ナル空襲ヲ加ヘ、敵機合セテ五十九機ヲ擊墜擊破シマシタ外、軍事施設ニ多大ノ損害ヲ與ヘマシタ。是等ノ攻撃ニ於キマシテハ、敵ノ警戒モ極メテ嚴重テアリマシテ、到ル處壯烈ナル空中戰ヲ展開シ、中ニハ攻撃目標ニ至ル途上、敵機トノ交戦ニ依リ片舷機ノミトナリ、尙ホ能ク豫定ノ攻撃ヲ續行シ、見事ニ目的ヲ達成シ長途歸還シタモノモアリマス。

次ニ北太平洋方面ニ於キマシテハ、曩ニ「アッツ」島ニ於キマスル壯烈ナル戰鬪カアリ、將兵ノ士氣愈々振ヒ、引續キ彼我活潑ナル作戰カ行ハレマシタカ、「キスカ」島守備ノ帝國陸海軍部隊ハ、七月下旬全ク敵ノ意表ヲ衝イテ全兵力ヲ撤收シ、何等敵ノ妨害ヲ受クルコトナク新任務ニ就キマシタ、九月十二日敵飛行機北千島ニ來襲致シマシタ

カ、精銳ナル我カ陸海軍部隊ハ、之ヲ邀撃シテ忽チ其ノ大半ヲ擊墜シ、次イテ十月十四日、我カ海軍航空部隊ハ、長驅「アツツ」島ヲ急襲シテ、敵軍事施設ヲ爆破炎上セシメ、斯クシテ帝國北方ノ護リハ儼トシテ確保セラレテ居リマス。

轉シテ南太平洋方面ニ於キマシテハ、引續キ激烈ナル戰鬥カ行ハレ、特ニ彼我航空戰ハ極メテ熾烈テアリマシテ、六月十六日、「ルンガ」沖航空戰ノ如キ、我カ海軍航空部隊ハ勇猛ナル戰鬥ニ依リ、敵輸送船七隻ヲ屠リ、敵ノ反攻準備ニ大ナル打擊ヲ與ヘタノテアリマスルカ、敵ハ益々兵力ヲ増派シ、六月末日ヨリ「ソロモン」群島及ヒ「ニューギニア」ニ於テ、逐次反撃ヲ進メテ參リ、茲ニ彼我ノ有力部隊至近ニ對峙シ、一層苛烈ナル戰鬥ヲ交ユルコトトナツタノテアリマス。

即チ六月三十日、敵有力部隊「ソロモン」群島中部ノ「レンドバ」島ニ對シ、次イテ七月五日「ニューギニア」島ニ對シ、ソレゾレ上陸シテ參リマシタ。爾來同方面ハ、陸海空ニ互ル壯烈ナル戰場トナリ、帝國海軍部隊ハ陸軍部隊ト極メテ緊密ナル協力ノ下ニ、晝夜連續此ノ敵ニ果敢ナル攻撃ヲ反復スルト共ニ、敵艦艇、飛行機及ヒ輸送船ニ大ナル打擊ヲ與ヘマシタ。此ノ間我カ陸軍部隊及ヒ海軍陸戰隊ハ、前人未到ノ密林ヲ戰場トシ、惡疫ヲ克服シ、連日多數敵機ノ空爆下ニ於テ終始勇戰奮闘、隨所ニ果敢ナル攻撃ヲ加ヘテ敵上陸部隊ヲ擊碎シ、又海軍航空部隊之ニ呼應シテ優勢ナル敵ノ空襲ヲ反撃シ、其ノ上空警戒、地上砲火ヲ冒シツツ敵艦船及ヒ揚陸地點ノ攻撃竝ニ敵航空部隊ノ制壓ニ努メ、更ニ進テ敵ノ後方基地竝ニ速ク「バニコロ」島、「フナフチ」島、「カントン」島方面敵ノ補給基地ニ痛撃ヲ加ヘマシタ。又此ノ間我カ水雷戰隊ハ附近海面ニ於キマシテ、屢々敵ノ有力ナル海上部隊ヲ強襲シ、「クラ」

灣夜戰、「コロンパンガラ」島沖夜戰ヲ初メ、相次ク海戰ニ於キマシテ敵巡洋艦及ヒ驅逐艦各々六隻ヲ擊沈シ、輸送船其ノ他ノ艦艇五隻ヲ擊沈破致シテ居リマス。是等ノ損害ニ苦慮シタ敵ハ、七月中旬以後益々同方面兵力ノ増強ニ努メマシテ、八月十五日ニハ有力ナル部隊ヲ以テ「ベララベラ」島ニ上陸シマシタノテ、海軍部隊ハ直チニ之ニ反覆猛撃ヲ加ヘ、敵艦船、飛行機ニ甚大ナル損害ヲ與ヘタノテアリマス。

斯クテ「ニューギニア」島方面ノ戰場ハ、彼我部隊互ニ交錯シテ愈々激烈ヲ加ヘ、我カ軍ノ勇戰奮闘ニ依リ、敵ノ損害ハ洵ニ甚大ナルモカアリマシタカ、十月初旬ニ至ツテ、此ノ方面ノ我カ部隊ハ之ヲ集結スルコトトナリ、殆ト敵ノ妨害ヲ受クルコトナク、ソレトノ之ヲ附近ノ基地ニ撤收致シマシタ。

「ニューギニア」東部方面ニ於キマシテモ、戰鬥ハ同様ニ苛烈ヲ極メ、彼我近距離ニ對峙シテ、終始活潑ナル作戰ヲ續ケテ居リ、我カ海軍陸戰部隊ハ陸軍部隊ト密接ニ協同シテ、瘴癘困苦ノ下、敵ノ擊滅ニ努メテ居リマス。又九月四日敵輸送船團ニ依ル「ホボイ」附近上陸作戰ニ伴ツテ起リマシタル此ノ方面航空戰ハ、壯烈ヲ極メタモノテアリマシテ、同日此ノ輸送船團ニ對スル我カ陸海軍航空部隊ノ協同攻撃、同十二日海軍航空部隊ノ「モロベ」灣敵在泊艦船ニ對スル攻撃、竝ニ十月十二日ヨリ十五日ニ互ル同方面ノ敵在泊艦船及ヒ陸上軍事施設ニ對スル攻撃等、何レモ多大ノ戰果ヲ收メ、特ニ九月二十二日「クレテン」岬沖ニ於キマシテハ、寡勢克ク敵ノ輸送船團ニ肉薄シ、雷撃ヲ決行シテ、同時ニ我ニ六倍スル敵ノ戰鬥機ト壯烈ナル空中戰ヲ交ヘ、一舉ニ敵巡洋艦三隻、驅逐艦二隻、及ヒ輸送船一隻ヲ擊沈シ、敵機十四機ヲ擊墜シテ居リマス。

斯クテ九日以後、此ノ方面ニ於テ擊沈シマシタモノ合セテ輸送船十八隻、巡洋艦四隻、驅逐艦二隻、又擊破炎上セ

シメマシタモノ輸送船二十一隻、巡洋艦、驅逐艦各々四隻、其ノ他小艦艇多數ニ上ツテ居リマス。

次ニ潜水艦戦ニ付テ申上ケマス。我カ潜水艦部隊ハ常ニ廣大ナル海域ニ互リ、勇敢ナル作戦ヲ行ツテ居リマシテ、六月以來今日マテニ敵ノ船舶二十隻、約十七萬八千トンヲ撃沈シマシタ外、七月二十日「サンクリストバル」南方海面ニ於キマシテ、敵ノ「サンフランシスコ」型巡洋艦一隻、又九月十二日「ニューブリデス」東方海面ニ於キマシテ乙級巡洋艦一隻、更ニ十月三日南太平洋ニ於キマシテ驅逐艦二隻ヲ、何レモ撃沈致シテ居リマス。又大東亞各海域ニ於ケル敵ノ潜水艦ニ對スル我カ掃蕩作戰モ、非常ナル苦心ノ中ニ極メテ活潑ニ行ハレ、廣キ海域ニ互ツテ風浪寒暑ヲ冒シ、見エサル敵ヲ相手トシテ、日夜防備竝ニ護送任務等ニ從事シテ居リマス。是等艦艇及ヒ航空部隊カ七月以降四箇月間ニ確實ニ撃沈致シマシタ敵ノ潜水艦、合計二十二隻ニ上ツテ居リマス。

斯クテ全作戦ヲ通シマシテ前回説明以後四箇月間ニ、海軍部隊ノ擧ケマシタ戦果ヲ綜合致シマスルト、艦船ノ撃沈シマシタモノ巡洋艦十七隻、驅逐艦十八隻、潜水艦二十二隻、輸送船七十隻約三十二萬トン其ノ他艦艇七十三隻テアリマシテ、其ノ他ニ撃破シタモノ多數ニ上リマス。之ニ對シテ我カ方ノ喪失シマシタモノハ驅逐艦六、其ノ他艦艇十二隻テアリマス。

飛行機ニ於キマシテハ、撃墜撃破シマシタモノ千六百十三機ニ上リ、我カ方ノ喪失四百十五機テアリマシテ、航空戦ノ如何ニ苛烈ナルカヲ示シ、戦局ノ大勢之ニ負フ所極メテ大ナルモノカアリ、今尙ホ晝夜ヲ分タス激烈ナル航空戦カ展開サレテ居リマス。

寡兵克ク敵ノ優勢ニ當リ、是カ撃滅ヲ期スル我カ將兵ノ苦心ハ、洵ニ並マナラスモノカアリマスルカ、烈々タル攻

撃精神ト百千鍊磨ノ術力トヲ以チマシテ、飽クマテ滅敵ノ信念ニ燃エテ居ルノテアリマス。

敵ハ斯クノ如ク多大ノ損害ヲ受ケナカラ、只管之ヲ國民ニ秘匿シ、一方我カ軍ノ損害ニ付キマシテハ、徒ラニ荒唐無稽ノ數字ヲ示シテ居リマスルカ、何レ遠カラス其ノ真相ハ知レ渡ルモノト思ヒマス。

今ヤ戦局ハ愈々深刻ヲ加ヘ、激戦各方面ニ行ハレテ、帝國陸海軍部隊ハ隨所ニ其ノ眞價ヲ發揚シ、武威ヲ中外ニ輝カシテ居リマスルカ、敵亦其ノ戦力ヲ傾倒シテ各方面ヨリ反攻ノ態勢ヲ進メテ居リマシテ、以上ノ外既ニ九月以來、敵機動部隊ハ相次イテ南島島、「ギルバート」方面及ヒ大島島ニ來襲シ、倉皇トシテ我カ捕捉ヲ逃レ去リマシタカ、今後更ニ各方面ニ反撃ノアルコトハ必然テアリ、一層苛烈ナル戦闘隨所ニ起リ、聊カモ油斷ヲ許サヌ狀況テアリマシテ、今ヤ國ヲ擧ケテ來ルヘキ決戦ニ備ヘ、文字通り總員戰鬪配置ニ就クヘキ重大ナル秋ト存スル次第テアリマス。海軍ト致シマシテハ、多年鍊磨ノ實力ノ滿ヲ持シ、隨時敵ヲ邀ヘ撃ツノ態勢ヲ愈々固メテ居リマシテ、全將兵常ニ聖旨ヲ奉體シ、益々旺盛ナル士氣、強靱不屈ノ精神ヲ以テ、勇戦奮鬪誓ツテ敵軍ヲ撃滅シ、以テ戦争最終ノ目的ヲ達成シ、上 聖明ニ應ヘ奉ランコトヲ固ク期シテ居リマス。

終リニ臨ミ、壯烈君國ニ殉セラレマシタル幾多忠勇ナル將兵ニ對シ、茲ニ衷心哀悼ノ誠ヲ捧ケ、其ノ遺家族ニ對シマシテ、深厚ナル同情ノ意ヲ表シマス。

三二、第八十三回帝國議會ニ於ケル重光外務大臣答辯

(十月二十七日)

大東亞建設ハ勿論大東亞圏域ノ内ニアリマスル諸民族、諸國家ノ自發的ナル協力ト云フコトカ基礎ニナルノテアリマス。隨ヒマシテ各民族、各國家カ自發的ニ喜ンテ自分ノ爲ニ協力スルト云フ風ニ持ツテ行ク爲ニハ、度々公表致サレテ居ルマスル所ノ帝國ノ精神、即チ平等ニシテ互惠ノ觀念ヲ以テ總テ之ニ接シテ行キ、各民族、各國家ノ要望ヲ十分ニ達成セシメルト云フコトカ根本ニナルノテアリマス。即チ左様ナ要望ヲ達成セシメナカツタ從來ノ國際關係ハ之ヲ打破シテ行ク、即チ是カ大東亞「アジア」ノ解放テアリマス。左様ニ致シマシテ、互ニ和親協力ノ關係ヲ以チマシテ、一家族トシテ親和ノ境域ヲ拓イテ行クナラハ、必ス大東亞各構成分子ハ自覺ヲ致シマシテ奮起シテ建設ノ聖業ニ協力スルコトト考ヘルノテアリマス。併シナカラス様ナ精神ハ勿論我カ盛國ノ大精神テアリマシテ、是ハ單ニ大東亞タケニ獨占的ノモノテハ無論ナイノテアリマシテ、世界ニ向ツテ古今東西ニ對シテ何人モ承服スル立派ナ天下ノ公道テナケレハナラヌノテアリマス。左様ナ點ニ於キマシテハ今述ヘラレマシタ諸點ノ如キハ最モ其ノ内容ニ富ムモノト考ヘル次第テアリマス。ソレラノコトニ付テ具體的ニ政策ヲ進メテ參リマスコトハ、今内閣總理大臣ノ答ヘラレタ通り、政府ニ於テモ十全ノ對策ヲ講シテ居ル譯テアリマス。左様ナ心構ヘテ以テ政策ヲ進メテ行キタイト考ヘテ居ル次第テアリマス。

今次ノ世界大戰ハ、英米カ乘出シテ來タ最モ大キナ謂ハハ帝國主義的ノ戰爭テアルノテアリマシテ、世界ノ大部分ヲ自分ノ植民地トシテ制御セントスルノカ、實ハ彼等ノ政策テアルノテアリマス。「ヨーロッパ」ニ於ケル諸國家モ「アジア」ニ於ケル諸民族モ、皆彼等ハ自分ノ所ニ集マツテ來ルノテアルト、當然ニ考ヘテ居ルノテアリマス。御承知ノ通りニ、彼等ハ、重慶ハ既ニ當然彼等ノ手先トシテ、東亞全體ニ謀反ラスルモノト考ヘ、「インド」ハ永久ニ彼等ノ搾取ニ甘ンスル、而シテ「フィリピン」モ亦永久ニ彼等ノ驅使シ得ヘキモノト考ヘテ居ル。英國ハ其ノ世界植民地ノ維持ヲ目的ト致シマシテ、歐洲ニ於ケル傳統的勢力均衡政策ヲ運用シテ、戰爭ヲ挑發シタノテアリマス。今次ノ戰爭ニ依ツテ彼等ハ遠ク「アラブ」、「スラブ」、「インド」方面ニ於テモ、「アジア」民族ノ支配ノ手ヲ益々鞏固ニセント考ヘテ居ル。ソレノミナラス更ニ再ヒ「ビルマ」ニ對スル把握ヲ回復シテ、進ンテ支那及ヒ東亞全體ニ對スル支配的地位ヲ回復致サントシテ、目下焦慮シテ居ルヤウナ状態テアリマス。

例ヘハ米國ハ今度ノ戰爭ヲ利用致シマシテ、其ノ世界的帝國ノ建設ノ野望ヲ實現セントシツツアルヤウナ状態テアリマス。南北「アメリカ」ニ於ケル其ノ勢力ノ擴張ハ、「モンロー」主義ノ變型テアルト云ツテ、之ヲ辯明シテ居ル譯テアリマス。今回ノ戰爭ニ依ツテ更ニ海ヲ越エテ大西洋方面ニ於テモ、北ノ方ニ於テモ、又直接「ヨーロッパ」ヲ支配シ得ル北「アフリカ」、西「アフリカ」方面、更ニ「アジア」方面其ノ他ニ於テモ、「アメリカ」ハ着々其ノ世界帝國建設ノ地歩ヲ固メントシツツアル譯テ、恰モ英帝國ノ地位ヲ取ツテ代ラントスルヤウニ見エル部分モアルノテアリマス。東ノ方ニ於テハ「フィリピン」ヲ出來ルナラハ再ヒ回復シテ、東亞制壓ノ本據ト成シ、太平洋ヲ支配セント企テテ居ルカノ如クテアリマス。

斯クノ如クニシテ、世界ヲ米英及ヒ其ノ追隨國ノ勢力下ニ置クコトカ彼等ノ眞意テアルコトカ、戰爭ニ依ツテ益々明カニナツテ來タノテアリマス。彼等ノ子弟ハ遙カニ其ノ本國ヲ離レテ、南北太平洋ニ於テ、將又西南アジア方面ニ於テ、赤道直下ノ「ソロモン」群島ニ於テ、又無人ノ「ニューギニア」ニ於テ、彼等ノ最モ恐カツテ居ル敵、即チ我カ忠勇無双ノ陸海ノ精銳テアル其ノ敵ト死闘ヲ繰返シテ居ル。彼等ハ何故ニ瘴癘未開ノ地ニ懸軍萬里、其ノ子弟ヲ犧牲ニシテ敵ノ砲彈ニ曝シテ居ルカ、何ノ爲ニ大軍ヲ派シテ東亞ヲ東亞人ノ手カラ奪ハントスルノテアルカ、言フマテモナク、其ノ世界的植民帝國ヲ回復シテ、又新クニ建設ヲシテ、其ノ野望ヲ達セントスルモノテアルコトハ明カテアリマス。彼等ハ此ノ野望ヲ他ノ民族ノ犧牲ニ於テ、而シテ相手方ノ敵ニ對シテハ、彼等ノ所謂無條件降伏ヲ強ヒルマデニ、徹底的ニ斯様ナ野望ヲ遂行シテ行カウ、斯ウ言ツテ居ルノテアリマス。是等ノ言葉ハ彼等自身ノ野望ヲ最モ能ク天下ニ示シテ居ル譯テアリマス。而モ斯様ナコトヲヤツテ居ル其ノ勢力自身ハ、實ハ曾テ帝國ヲモ他ノ東亞諸國ト同様ニ植民地トシヨウトスルヤウナ、不逞ナ心ヲ持ツテ來タ其ノ同一ノ勢力テアルノテアリマス。帝國カ肇國以來ノ我カ善隣友好ノ精神ヲ、所謂對支新政策ノ實施ニ依ツテ愈々鮮明ニ致シテ參リマシテ以來、英米ノ「アジア」ニ對スル政策ハ、トウヤラ不思議ニモ表面的ニ變化ヲ見ツツアルヤウナ有様テアリマス。彼等ハ最近世界ヲ支配スル數國ノ大國ノ中ニ重慶支那ヲモ加ヘテ、サウシテ數國テ世界ヲ支配セントスルヤウナコトヲ頻リニ言ツテ居ルノテアリマス。重慶支那ヲ加ヘテ居ルト云フ斯様ナヤリ方ハ、從來彼等ノ殆ト夢想タモシナカツタコトテ、戰爭遂行ニ伴ツテ凡ユル手段ヲ以テ重慶ノ甘心ヲ買ツテ、之ヲ説得シテ東亞ニ反抗セシメント焦ツテ居ルマトハ明カテアリマス。彼等ハ「アジア」入ヲ以テ「アジア」ヲ制御セントスル傳統的政策ヲ拋棄スルコトハ出來ナイト見エルノテアリマス。帝國

カ、中國ハ中國人ノ主義ノ下ニ新政策ヲ遂行シテ、幾多ノ施策ヲ實施ニ移シマスルヤ、彼等ハ重慶ト交渉ヲ致シマシテ、名義上ノ不平等條約撤廢ノ空手形ヲ出シタ。前回大戰ノ終リニ「パリ」會議カ開カレマシテ、平和ノ理想境ヲ將來作り出サウ、斯ウ云フコトテ各國ノ代表者カ皆集マツタノテアリマス。其ノ時ニ我カ代表者ノ提案致シマシタ所ノ、是コソ世界ニ通スル正義テアル人種平等待遇ノ主義、之ニ對シテ參列者大多數ハ同意ヲ致シタノテアリマスカ、英米ハ之ニ反對シテ此ノ立派ナ政策ヲ弊履ノ如ク捨テテ顧ミナカツタ、ソレ程彼等ハ人種差別ノ觀念ニ深イノテアリマスルカ、不思議ニモ、戰爭遂行ト共ニ、支那人ニ限ツテハ移民法ノ改訂ヲ行ツテ、重慶ニ對スル甘言ノ表徴トスルモノノ如クテアリマス。長イ間約束セラレタ「フィリピン」ノ獨立ハ、米國カ「フィリピン」ヲ占領シテ居ル間ハ凡ユル口實ノ下ニ之ヲ遷延シテ、恰モ無期延期ノ觀カアツタノテアリマスルカ、然ルニ戰爭ノ形勢カ變リマシテ、米國軍隊カ「フィリピン」カラ追ヒ退ケラレテ、而シテ「フィリピン」ノ獨立ハ帝國ノ手ニ於テ直チニ準備セラレ、又今日實現シタノテアリマス。即チ日本ノ政策ハ今總理ノ御説明ノ通り寧ロ不言實行ヲ重ンスル政策テアリマス。然ルニ「アメリカ」ハ其ノ行ヒ得ヘキ時ニ行ハナカツタ政策ヲ、遽カニ日本ト競爭スルカノ如ク「ルトズヴェルト」ハ急ニ比島獨立ヲ速カニ實現シ得ルノ權限ヲ議會ニ要求シタト報道サレテ居ルヤウナ狀況テアリマス。是カ彼等ノヤリ方テアリマス。東亞ハ即チ東亞人ノ奮起ニ依ツテノミ救フコトカ出來ルノテアリマス。英國ノ「アジア」侵略ノ歴史ハ御承知ノ通り既ニ久シイモノテアリマス。英國ハ「インド」ニ對シ其ノ抑壓力ノ弱イ間ニハ幾度カ空虛ノ約束ヲ致シマシテ一時ヲ糊塗シテ參リマシタ。然ルニ抑壓力ヲ再ヒ回復スルニ及ンテ約束ハ破棄セラレテ顧ミラレナカツタ有様テアリマス。此ノヤリ方ハ前回ノ大戰ノ時ニモ亦今回ノ戰爭ニ於テモ揆ヲ一ニスルノテアリマス。恐ラク「チャンド

ラ・ポース」氏ノ奮起ニ依リマシテ、「インド」假政府カ成立シタ今日、或ハ英國ハ又復重慶ニ與ヘタト同シヤウナ何等カノ空證文ヲ「インド」ニ供與スルノテハナイカト思ハレル次第デアリマス。「インド」カ其ノ東洋ノ本然ノ姿ニ復歸スルノハ「インド」人自身ノ自覺ト奮起トニ依ルコトカ最モ捷徑デアルコトハ明カナ事實デアリマス。英米ノ野望ハ前述ノヤウニ既ニ明瞭デアリマシテ、今次ノ戰爭ニ依ツテ世界ニ於ケル其ノ霸權ヲ確立シ、「アジア」ニ於ケル其ノ植民地的支配ヲ回復セントスルニアル譯デアリマス。東亞ハ英米人カラ見レハ侵略及ヒ擄取ニ好都合ナ植民地的地域デアルカモ知レマセヌ。併シ之ヲ吾々カラ見レハ東亞ハ東亞人ノ郷土デアリ故郷デアリ又本據デアルノデアリマス。吾々ハ此ノ本據ヲ護リ、此ノ郷土ヲ飽クマテモ防禦シナケレハナラヌト考ヘルノデアリマス。此ノ戰爭ハ米英カ日本ヲ政治的ニ經濟的ニ將又武力的ニモ抹殺セントスルニ發シタ次第テ、帝國ニ取ツテハ自存自衛ノ戰爭デアリマシテ、帝國ニシテ若シ東亞ノ防衛ヲ他ノ東亞人ト共ニ果シ得ナカツタラハ、日本カ大國トシテ其ノ姿ヲ無クスルノミナラス、東亞民族ハ永遠ニ自主獨立ノ機會モナイ、即チ彼等ハ東亞ノ精神の故郷ニ復歸シ得サルノミナラス、遂ニ米英ノ植民地トシテ去勢セラレ擄取セラルルノ外ハナイ。東亞及ヒ東亞人ニ取リマシテハ此ノ戰爭ハ民族覺醒ノ鬪争デアリマシテ東亞復興ノ聖戰デアリマス。是カ爲ニ東亞カ毅然トシテ起ツテ、此ノ大事業ニ全部協力セントスルコトニ相成ツテ居リマスルノハ蓋シ當然ノ歸結デアリマス。

支那ハ既ニ支那人ノ手ニ歸シツツアルノデアリマス。又「タイ」國ハ英國ニ奪ハレタル其ノ古來ノ領土ヲ回復シタノデアリマシテ、「ビルマ」モ比島モ獨立シ、自由「インド」ハ奮起シタノデアリマス。茲ニ東亞復興ノ黎明ハ到來シタノデアリマス。吾人ハ東亞ナル吾人ノ郷土ヲ侵略ヨリ護リ、擄取ヨリ救ヒ、之ヲ共同ノ繁榮ニ導カネハナラヌノ

デアリマシテ、是カ吾人ノ戰爭目的デアリマス。

而シテ大東亞各國ノ自主獨立ヲ基礎トスル共存共榮ノ大東亞建設ハ平等互惠ノ主義ニ依ツテ和親協力關係ヲ樹立スルコトニ依ツテ可能トナルノデアリマス。勿論東亞ハ大イニ覺醒シ奮闘シナケレハナラヌノデアリマス。其ノ爲ニ固有ノ傳統ヲ重シ、文化ヲ發揚シ、東亞ニ復歸シテ東亞自體ノ自信ヲ取返サナケレハナラヌト思フノデアリマス。併シナカラ東亞ハ決シテ排他的テハナイ。東亞共存共榮ハ世界平和ノ一部分デアリマシテ、之ヲ侵略スル者ニ對シテハ斷然東亞保衛ノ鐵槌ヲ加フルモノデアリマスケレトモ、東亞ヲ理解スル者ニ對シテハ之ヲ歡迎スルニ吝カテナイノデアリマス。否、東亞ハ世界ニ向ツテ平和發展ニ貢獻セントスルモノデアリマシテ、無論斯様ナコトハ建設ノ根本觀念デアルノデアリマス。此ノ崇高ノ理想アルカ爲ニ吾人ハ勝利ニ向ツテ絶對ノ確信ヲ有シ、此ノ戰爭ヲ必要アラハ最後ノ一人マテ戰ヒ抜ク決意ヲ持ツテ居ル次第デアリマス。

今日ノ戰爭ハ深刻重大デアリマス。吾人ハ凡ユル力ヲ結集シテ之ヲ内外ニ用ヒナケレハナラヌ。戰爭ノ勝敗ハ是カラデアリマス。一ニ吾人ノ將來ノ努力如何ニ懸カル次第デアリマス。今次戰爭カ今申ス通りニ吾人ニ取リマシテハ我カ東亞ト云フ郷土ヲ護リ通サナケレハナラヌ死活ノ戰爭デアルノデアリマスカ、敵米英ニ取リマシテハ世界制覇ノ侵略戰デアルト言ツテモ差支ナイノデアリマス。由來正義ニ反スル侵略的植民地戰爭カ勝ヲ制シタト云フコトハ其ノ例非常ニ稀デアリマシテ、自分ノ記憶スル所ニ依レハ、支那ニ對スル阿片戰爭カサウテハナカツタカト思フ。此ノ阿片戰爭ノ何物デアルカ、又其ノ如何ニ正義ニ反シテ居ルモノデアルカト云フコトハ申スマテモナイコトデアリマス。「アメリカ」ハ困難ナ長期ノ戰爭ノ後ニ「イギリス」カラ漸ク獨立シ得タ歴史ヲ持ツテ居ルノデアリマス。是モ「ア

「メリカ」ハ獨士ヲ護ルト云フ精神ニ依ツテ成功ヲ致シテ居リマス。勝敗ノ原因ハ唯單純ナ兵器ノ數テモナケレハ、物資ノ量テモナイコトハ「アメリカ」人自身カ能ク承知ラシテ居ルノテアリマス。此ノ點ニ於キマシテ我カ皇軍ノ威カ、國民精神ノ發揚モ其ノ意義ハ實ニ茲ニ存スルノテアリマス。我カ大東亞政策ハ今日御承知ノ通りニ實行セラレ、徹底セラレ、戰爭ト共ニ完遂セラレルノテアリマス。今ヤ大東亞ハ解放セラレ、獨立シ、東亞民族ハ何レモ其ノ要望ヲ達成シテ、將來ニ對スル希望ニ滿チテ居ルノテアリマス。彼等ノ世界ニ對スル要求ハ平等互惠ノ主義ニ依ル共存共榮以外ノ何物テモナイノテアリマス。今日東亞ハ協力シ、援助シ、善隣親和ノ環境ニ於テ飽ク迄「アジア」ノ解放ト東亞ノ復興トヲ目指シテ世界ヲ革正スヘク、此ノ神聖ナル鬭争ノ戰爭ヲ戰ヒ抜カントシテ居ルノテアリマス。是カ東亞全部ノ姿ト考ヘル次第デアリマス。御質問ノ點ニ對シテ聊カ對外方面ニ對スル東亞ノ姿ヲ説明シ、又所見ヲ述ヘテ御答ト致ス次第デアリマス。

三三、第八十三回帝國議會終了ニ際シテノ東條內閣總理大臣談話

(十月二十九日)

本日閉院式ヲ舉行セラレ第八十三回帝國議會ハ茲ニ終了シタ。

今回ノ議會ハ大東亞戰爭以來將ニ二年ニ垂ントシ、戰局愈々苛烈ナル時期ニ開會セラレタノテアルカ、貴衆兩院トモ克ク現下時局ノ要求ニ即應シ、一切ヲ捧ケテ戰爭完遂ヲ期スル一億國民ノ不拔ノ決意ト不動ノ結束トヲ其ノ儘議場

ニ反映シ、慎重ニ而モ敏速ニ協賛ノ重責ヲ果サレタコトハ洵ニ同慶ニ堪ヘナイ。

本議會ヲ通シテ現情勢下ニ處スル帝國ノ國策ハ中外ニ闡明セラレ、之ニ基ク具體的諸方策ハ一億總集ノ下ニ急速且ツ強力ニ展開具現セラルコトトナツタ。而シテ今ヤ其ノ歴史ヲ一新シ創建ノ雄圖ニ燃ユル大東亞十億ノ諸國家諸民族ハ物心ヲ擧ケテ固ク帝國ト相結ビ、米英擊滅ト大東亞ノ爲ノ大東亞建設トニ邁進セントスル意氣烈々タルモノアリテ、全東亞鐵桶ノ布陣益々強靱ヲ加フ。内外ノ情勢斯クノ如ク我カ必勝ノ信念愈々固シ、茲ニ帝國ハ更ニ歐洲ニ於ケル盟邦諸國トノ提携ヲ緊密ニシ、東西相呼應シテ飽ク迄モ共同ノ宿敵米英擊擯ニ邁進スルノ決意ヲ新ニスル次第デアル。

今回協賛ヲ經タル豫算案及法律案ニ付テハ御裁可ヲ經テ政府ハ直チニ實施ニ移スノミナラス其ノ決戰的運営ヲ行ヒ必ス所期ノ成果ヲ收メンコトヲ期スルト共ニ、國民諸君カ急速ニ總員戰鬪配置ニ就キ、凡ユル時艱ヲ超克シ、此ノ上トモ只一途ニ戰力ノ飛躍的増強ニ挺身シ、以テ作戰ノ要求ヲ充足セラレンコトヲ深く願ツテ已マナイ次第デアル。

三四、日華同盟條約締結記念交換放送ニ於ケル天羽情報局

總裁挨拶 (十一月一日)

宇宙ハ常ニ動キ世界ハ常ニ變リツツアル。然シ現在ノ東亞程大キク明ルク動キツツアル例ハ尠イ。恰モ惡魔ノ跳梁シタ暗夜ノ天地ニ旭光一閃黎明ヲ告ケル感カアル。

米英ノ多年ニ亘ル東亞侵略ハ世界人類ノ歴史上ノ一大汚點テアツタカ、今ヤ大東亞自存自衛ノ戰爭カ起リ、大東亞ハ米英ノ桎梏ヨリ解放セラレ各國各民族ニヨル大東亞ノ建設ハ着々進捗ヲ見ツツアル。

隣邦中華民國ハ由來同文同種、善隣扶助ノ關係ニアルカ日華關係ヲ攪亂シ、日華ヲシテ相闘ハシメ、以テ双方ヲ傷ケ倒サントスルノカ米英ノ政策テアル。昭和十二年支那事變勃發スルヤ密ニ北叟笑ミシハ米英テアリ又、米英ニ踊ラサレシモノハ今日ノ重慶ニ居ル人々テアツタ。斯クテ中國ハ舉ケテ所謂抗戰ニ狂奔シタカ其中ニ國父孫文ノ遺訓ヲ奉シ亞細亞ノ使命ニ目醒メテ起ツタノカ汪精衛氏テアツタ。汪氏ハ其ノ同志ト共ニ和平建國ノ大旗ノ下ニ日本ト相携ヘテ東亞新秩序ヲ建設セントシ國民政府ヲ樹テ、昭和十五年三月南京ニ遷都シ次テ同年十一月三十日日華基本關係條約ノ調印ヲ了シ、同時ニ日滿華共同宣言ヲ以テ三國ノ緊密ナル聯繫ヲ中外ニ證明シタノテアル。

爾來ココニ滿三年、國民政府ニヨル中國復興ノ大業ハ着々トシテ進捗シ日華基本條約ハ凡有ル事態ニ即應シテ、非凡ナル指導力ヲ發揮シ來ツタノテアルカ、特ニ昭和十六年十二月大東亞戰爭勃發シ東亞ノ狀勢カ新段階ニ入ルニ及ヒ名實共ニ大東亞建設ノ支柱トナツタノテアル。而シテ大東亞ニ於テハ「ビルマ」、「フィリピン」相繼イテ獨立ヲ完成シ、印度假政府ノ成立アリ更ニ其他ノ諸民族亦政治參與ノ段階ニ進ミ大東亞ノ事態ハ日ヲ遂ウテ本然ノ姿ニ復シツツアル。此ノ如キハ勿論大東亞各國各民族ノ盛り上ル熱情ノ發露ニ外ナラヌカ、一方之カ後楯トシテ日滿華三國カ堅キ盟約ニ依ツテ結ハレ、確乎不動ノ中核ヲ成シテ居タ事實ニカツケラレタコトハ深ク銘記セネハナラヌ。

然シ其ノ後情勢ノ變化ハ更ニ日華兩國關係ニ飛躍的ナル展開ヲ齎シタ。大東亞戰爭カ勃發シ次テ國民政府ノ對米英宣戰アリ中國ノ大東亞建設ニ對スル責任ハ更ニ重加セラレタカ、我邦ハ基本條約ノ規定ニ準據シテ或ハ專管租界ノ返

還、共同租界及ヒ公使館區域回收ニ對スル協力、或ハ治外法權ノ撤廢等着々對華新政策ヲ實施シ來リ、國民政府モ亦我カ政策ニ呼應シテ極力國內狀態ノ改善ニ努力シ其成果誠ニ刮目スヘキモノカアツタ。

其處テ新事態ニ即應スル爲ニ基本條約ヲ根本的ニ改訂シテ今回ノ同盟條約ノ締結ヲ見ルニ至ツタ次第テアル。

新同盟條約ハ(一)自主獨立ノ相互尊重(二)道義ニ基ク大東亞建設並ニ安定確保ノ爲ノ協力(三)互惠ヲ基調トスル經濟提携(四)戰爭狀態終了時ニ於ケル既成事項ノ調整及ヒ撤兵等簡潔ニシテ力強キ表現ニ盛ラレ、正ニ大東亞建設並ニ亞細亞復興ノ大憲章トモ謂フヘキテアル。

中國ノ國父孫文ノ生前私ハ廣東ニ於テ屢々同氏ト大亞細亞主義ヲ談シ、「亞細亞人ノ亞細亞」ヲ語ル機會ヲ得タカ、其際同氏ハ中國ハ國內ヲ改造シテ眞ニ自主獨立ノ國家ト成サネハナラヌト同時ニ、日本モ進ンテ所謂不平等條約ヲ廢棄シテ日支ノ渾然タル融和ヲ實現セシメタイト、熱情ヲ吐露シタノテアル。彼ノ言々句々ハ、今尙切々トシテ私ノ耳朶ヲ打ツノテアル。當時汪主席モ蔣介石モ孫國父ノ左右ニ在リ、現在南京及ヒ重慶ニ在ル幾多ノ要人モ亦彼ノ下ニ在ツテ國父ノ大亞細亞主義ノ教訓ヲ遵奉シテ居タノテアルカ、不幸ニシテ其ノ後一部ノ者ハ之ニ背キ今尙米英ニ頼ツテ東亞ヲ奴隸ノ境地ニ陥レシメントシテ居ル。

然シ所謂不平等條約ハ日支兩國間ニ於テハ今ヤ全ク解消セラルルニ至ツタ。國民政府ハ日本ト共ニ東亞ヲ守リ、東亞ヲ再建スル爲ニ戰ツテ居ル。地下ニ在ル孫文ノ感慨ハ果シテ如何テアラウ乎。

惟フニ一方ニ於テ大規模ニシテ苛烈ナル戰爭ヲ遂行シ乍ラ、他方ニ於テ大東亞建設ヲ進メルコトハ寔ニ偉大ナル構想ニ基クモノテアルカ、同時ニ容易ナラヌ事業テアル。然シ我々ハ必勝ノ信念ヲ以テ此ノ戰爭ニ勝チ拔キ、大東亞ヲ

米英ノ極格ヨリ解放シ、以テ大東亞ノ平和ヲ確保シ、進ンテ道義ニ基ク新シキ世界ヲ建設セント努力シテ居ル。

日華同盟條約締結ヲ見タルコノ機會ニ當リ私ハ日華關係ノ劃期的展開ニ對シテ心カラ慶祝スルト共ニ日華兩國國民方新同盟條約ノ條章ヲ遵奉シ愈々其ノ結束ヲ固クシ相携ヘテコノ偉業ノ完成ニ邁進スルコトヲ期待スルモノテアル。

三五、大東亞會議ニ於ケル各國代表演說 (十一月五日)

日本國代表東條內閣總理大臣演說

本代表ヨリ、主催國ト致シマシテノ御挨拶ヲ申述ヘ、併セテ帝國政府ノ所見ヲ開陳致シタイト存スルノテアリマス。

大東亞戰爭完遂ト大東亞新秩序建設ノ方針ニ關シマシテ隔意ナキ協議ヲ遂クル爲、今般大東亞會議開催方ヲ提議致シマシタル處、幸ヒ關係各國ノ衷心ヨリノ御賛同ヲ得マシテ、茲ニ大東亞各國代表トシテ各閣下ノ御參集ヲ見マシタルコトハ、主催國ト致シマシテ最モ欣幸トシ、又深く感謝ノ意ヲ表スル所テアリマス。尙御來朝中ノ自由印度假政府首班閣下ノ御陪席ヲ得マシタルコトハ、是亦洵ニ欣幸ト存スル所テアリマス。

惟フニ英帝國ハ、過去數世紀ニ亘リ侵略ト征服トニ依ツテ、地球上ニ廣大ナル領土ヲ獲得シ、而シテ其ノ優越的地位ヲ飽ク迄モ維持セントシテ、世界各地ニ於テ他國ヲシテ相互ニ對立抗爭セシメテ來タノテアリマス。他方米國

ハ、歐洲ノ動亂常ナキ情勢ニ乘シテ、米大陸ニ覇權ヲ確立スルニ止マラス、概ネ米西戰爭ヲ契機ト致シマシテ、太平洋及ヒ亞細亞ニ爪牙ヲ伸ハスニ至リ、遂ニ第一次世界大戰ヲ轉機ト致シマシテ、英帝國ト共ニ世界制覇ノ野望ヲ逞シウシ來ツタノテアリマス。而シテ今次ノ世界戰爭勃發後ニ於キマシテハ、米國ハ更ニ飛躍シテ、北「アフリカ」、西「アフリカ」、大西洋、濠洲、近東、進ンテ印度方面ニ對シマシテモ、逐次其ノ魔手ヲ伸ハシ、英帝國ノ地位ニ取ツテ代ラントシテ居ルノテアリマス。

米英ノ平素唱道致シマスル國際正義ノ確立ト世界平和ノ保障トハ、畢竟歐洲ニ於キマスル諸國家ノ分裂抗爭ノ助長ト、亞細亞ニ於ケル植民地的搾取ノ永續化トニ依ル、利己的秩序ノ維持ニ外ナラナイノテアリマス。而シテ亞細亞ニ於ケル米英ノ遣リ方ヲ見マスルニ、彼等ハ政治的ニ侵略シ、經濟的ニ搾取シ、更ニ教育文化ノ美名ニ匿レテ民族性ヲ喪失セシメ、相互ニ相衝突セシメテ、其ノ非望ノ達成ヲ圖ツタノテアリマス。斯クテ亞細亞ノ諸國家諸民族ハ、常ニ其ノ存立ヲ脅威セラレ、其ノ安定ヲ攪亂セラレ、民生ハ其ノ本然ノ發展ヲ抑壓セラレテ今日ニ至ツタノテアリマス。彼等ノ呼號スル門戶開放、機會均等主義モ、東亞ヲ植民地視スル根本觀念ニ發シタルモノテアリマシテ、實ハ彼等カ東亞侵略ノ非望ヲ遂ケンカ爲ノ便宜手段ニ過キナイノテアリマス。彼等ハ自國ノ領土内ニ於テハ、東亞ノ諸民族ニ對シテ常ニ門戶ヲ閉鎖シ、機會ヲ不均等ナラシメ、交易ヲ阻礙シツツ、只管彼等ノミノ利己的繁榮ヲ追及シタノテアリマス。

洵ニ米英兩國ノ懷ク世界制覇ノ野望コソハ、人類ノ災厄、世界ノ禍根ト謂フヘキテアリマス。

願ミレハ東亞ノ諸國家諸民族ノ間ニ於テ、解放ノ義舉ノ起ツタコトハ、一再ニ止マラナカツタノテアリマスルカ、

或ハ米英ノ暴戾飽クナキ武力的彈壓ニ依リ、或ハ彼等ノ異民族統御ノ常套手段テアル所ノ惡辣極マル離間策ニ依リ、多クハ失敗ニ歸シタノテアリマス。此ノ間ニ在リテ日本ノ興隆ハ米英ニ取リマシテハ最モ好マシカラザルモノトナツタノテアリマス。茲ニ於キマシテカ、彼等ハ一方ニ於テ事毎ニ日本抑壓ノ態度ニ出ツルト共ニ、他方ニ於キマシテハ日本ト東亞ニ於ケル爾他ノ諸國家諸民族トノ離間ヲ策スルコトヲ以テ、彼等ノ東亞政略ノ要諦トスルニ至ツタノテアリマス。蓋シ東亞ノ隸屬化ヲ維持スル爲ニハ、東亞ニ於テ何レカノ國カ強國トシテ勃興致シマスルコトモ、又東亞ノ諸國家諸民族ノ團結スルコトモ、彼等ニ取リ、其ノ最モ不利トスル所テアルカラテアリマス。而シテ斯クノ如キ米英ノ東亞隸屬化ノ野望ハ、特ニ最近數年間ニ於テ愈々惡質露骨トナツテ參ツタノテアリマス。即チ蔣政權ヲ使喚シテ、日華兩國ノ國交ヲ阻碍シ、其ノ極、遂ニ不幸ナル支那事變ノ勃發ニ至ラシメ、之カ解決ニ對シテモ有ラユル手段ヲ弄シテ其ノ妨碍ヲ策シタノテアリマス。而シテ今次歐洲戰爭勃發後ニ於キマシテハ、戰爭ノ必要ニ藉口シテ平和的通商ヲ妨碍シ、更ニ進ンテ其ノ本質ニ於テ戰爭ト異ナラサル所ノ經濟斷交ノ手段ニ懇ヘ、他面東亞ノ周邊ニ於テ武備ヲ増強シ、以テ我ニ屈從ヲ強ヒント試ミ、東亞ノ安定ハ根柢ヨリ重大ナル脅威ヲ受クルニ至ツタノテアリマス。斯クノ如キ米英ノ態度ニ拘ラス、帝國ハ、只管禍亂ノ東亞ノ天地ニ波及スルコトヲ避ケント欲シマシテ、隱忍自重、最後迄平和的交渉ニ依ツテ時局ノ收拾ヲ圖ツテ參ツタノテアリマス。然ルニ米英ハ、何等反省互讓ノ態度ニ出テス、却テ益々脅喝ト壓迫トヲ強化シテ、帝國ノ存立ヲ危殆ニ瀕セシメタノテアリマス。帝國ハ遂ニ自存自衛ノ爲、斷然起ツテ東亞ニ對スル挑戰ニ應スルノ已ムナキニ至リ、茲ニ一切ノ障碍ヲ破碎シテ、東亞永遠ノ平和確立ノ爲、國運ヲ賭シテ征戰ニ邁進スルコトトナツタノテアリマス。

大東亞戰爭開始セラレマスルヤ、帝國陸海軍ハ、善謀勇戰、開戰後半歲ナラスシテ克ク東亞ノ全地域ヨリ米英ノ侵略勢力ヲ驅逐掃蕩致シタノテアリマス。大東亞各國ハ、或ハ宣戰ヲ布告シテ共ニ戰ヒ、或ハ緊密ニ戰爭完遂ニ協力シツツアリマシテ、今ヤ大東亞諸民族ノ自覺ト熱情トハ澎湃トシテ太東亞ノ天地ニ漲リ、内ニ於キマシテハ各國相信シ、相和シ外ニ對シマシテハ米英ノ反攻ヲ擊擯シテ、自存自衛ヲ全ウシ、以テ大東亞永遠ノ安定ヲ確立スル爲、勇躍邁進シツツアルノテアリマス。

惟フニ、今次ノ戰爭ハ大東亞ノ全民族ニ取リマシテハ實ニ其ノ興廢ノ岐ルル一大決戰テアリマス。此ノ戰ニ勝チ抜クコトニ依リマシテ、始メテ大東亞ノ諸民族ハ、永遠ニ其ノ存立ヲ大東亞ノ天地ニ確保シテ、共榮ノ樂ヲ偕ニ致シマスルコトカ出來ルノテアリマス。洵ニ大東亞戰爭ノ完遂コソ大東亞新秩序建設ノ確立ヲ意味スルモノテアリマス。素ヨリ米英ハ、其ノ特ミトスル物質的戰力ヲ擧ゲテ大東亞ニ反攻ヲ繰返スコトハ當然テアリマス。大東亞ノ諸國家ハ、其ノ全力ヲ盡シテ之ヲ徹底的ニ破碎シ、更ニ彼等ニ痛撃ヲ加ヘ、以テ戰爭ヲ完遂シテ、大東亞永遠ノ安定ヲ確保シナケレハナラナイノテアリマス。此ノ秋ニ當リマシテ、帝國ハ緒戰ニ獲得セル戰略的優位ニ立ツテ、雄渾ナル作戰ヲ續行シテ居ルノテアリマス。而シテ國內ニ於キマシテハ此ノ雄渾ナル作戰ニ呼應致シマシテ、愈々國內態勢ヲ整備シ、特ニ最近之カ決戰化ヲ圖リ、眞ニ一億一心、必勝ノ確信ノ下ニ強靱ナル闘志ヲ以テ、飽ク迄モ此ノ大戰爭完遂ニ邁進致シテ居ルノテアリマス。

茲ニ各位ニ依ツテ代表セラレマスル所ノ大東亞諸國モ亦帝國ト策應シ其ノ全力ヲ擧ケテ宿敵米英ノ反抗ヲ擊擯シ、以テ大東亞永遠ノ安定ヲ圖ラントスル決意ノ鞏固ナルモノアルコトヲ私ハ確信スルモノテアリマス。

次ニ大東亞ノ建設ニ關スル帝國政府ノ基本的見解ヲ申述ヘタイト存シマス。

抑々世界各國カ各々其ノ所ヲ得、相倚リ相扶ケテ、萬邦共榮ノ樂ヲ借ニ致シマスルハ、世界平和確立ノ根本要義デアルト信スルノデアリマス。而シテ特ニ關係深キ諸國カ互ニ相扶ケテ各自ノ國礎ニ培ヒ、共存共榮ノ紐帶ヲ結成スルト共ニ、他ノ地域ノ諸國家トノ間ニ協和借樂ノ關係ヲ設定致シマスルコトハ、世界平和確立ノ最モ有效ニシテ且實際の方途デアルト申サネハナラヌト存スルノデアリマス。

大東亞ノ各國カ、有ラユル點ニ於テ離レ難キ緊密ナル關係ヲ有シマスルコトハ、否定シ得サル事實デアリマシテ、斯カル關係ニ立ツテ、大東亞ノ各國カ協同シテ大東亞ノ安定ヲ確保シ、共存共榮ノ秩序ヲ建設致シマスルコトハ、各國共同ノ使命デアルト確信スルノデアリマス。

大東亞ニ於ケル共存共榮ノ秩序ハ、大東亞固有ノ道義的精神ニ基クヘキモノデアリマシテ、此ノ點ニ於テ、自己ノ繁榮ノ爲ニハ不正、欺瞞、搾取ヲモ敢テ辭セサル米英本位ノ舊秩序トハ、根本的ニ異ナルモノデアリマス。

大東亞各國ハ互ニ其ノ自主獨立ヲハ尊重シツツ、全體トシテ親和ノ關係ヲ確立スヘキモノデアリマス。相手方ヲ單ニ手段トシテ利用スル所ニハ、親和ノ關係ヲ見出スコトハ出來ナイノデアリマス。親和ノ關係ハ、相手方ノ自主獨立ヲ尊重シ、他ノ繁榮ニ依ツテ自ラモ繁榮シ自他共ニ其ノ本來ノ面目ヲ發揮スル所ニノミ生シ得ルモノト信スルノデアリマス。

由來大東亞ニハ優秀ナル文化カ存シテ居ルノデアリマス。殊ニ大東亞ノ精神文化ハ、最モ崇高、幽玄ナルモノデアリマス。今後愈々之ヲ長養醇化シテ廣ク世界ニ及ホスコトハ、物質文明ノ行詰リヲ打開シ、人類全般ノ福祉ニ寄與ス

ルコト尠カラサルモノアリト信スルノデアリマス。斯カル文化ヲ有シマスル各國ハ、相互ニ其ノ光輝アル傳統ヲ尊重致シマスルト共ニ、各民族ノ創造性ヲ伸暢シ、以テ大東亞ノ文化ヲ益々昂揚セネハナラヌト考フルノデアリマス。

更ニ大東亞ノ各國ハ、民生ノ向上、國力ノ充實ヲ圖ル爲、互惠ノ下ニ緊密ナル經濟提携ヲ行ヒ、協同シテ大東亞ノ繁榮ヲ増進スヘキモノト信スルノデアリマス。大東亞ハ米英多年ノ搾取ノ對象トナツテ來タノデアリマスルカ、今後ハ經濟的ニモ自主獨立相倚リ相扶ケテ其ノ繁榮ヲ期サナケレハナラヌト思フノデアリマス。

斯クノ如クニシテ建設セラルヘキ大東亞ノ新秩序ハ、排他的ノモノテハナク、廣ク世界各國トノ間ニ、政治的ニモ、經濟的ニモ、將又文化的ニモ積極的ニ協力ノ關係ニ立チ、以テ世界ノ進運ニ貢獻スヘキモノデアリマス。口ニ自由平等ヲ唱ヘツツ、他國家、他民族ニ對シ抑壓ト差別トヲ以テ臨ミ、他ニ門戶開放ヲ強ヒツツ、自ラハ龐大ナル土地ト資源トヲ壟斷シ、他ノ生存ヲ脅威シテ顧ミス、世界全般ノ進運ヲ阻碍シテ來マシタ米英從來ノ遣り方トハ全ク趣ヲ異ニシテ居ルノデアリマス。

道義ニ基ク大東亞ノ新建設ハ、現ニ戰塵ノ眞只中ニ在ツテ着々トシテ實現ヲ見ツツアルノデアリマス。然ルニ米英側ノ印度ニ對シマスル遣り口ハ果シテ如何デアリマセウカ、今ヤ英國ノ彈壓ハ、日ニ月ニ其ノ度ヲ加ヘ、又最近ニ於テハ米國ノ野望モ加ハリ、彼等ト印度民衆トノ軋轢乖離ハ愈々激化シ、印度四億ノ民衆ハ言語ニ絶スル苦惱ヲ續ケテ居ルノデアリマス。特ニ最近之ニ依ツテ招來セラレタル空前ノ飢饉ハ、米英自ラモ之ヲ認ムル所デアリマス。

斯クテ印度ニ於キマシテハ志アル者ハ悉ク牢獄ニ投セラレ、無辜ノ民衆ハ總テ飢エニ泣イテ居ルノデアリマス。是正ニ世界ノ悲劇デアリ、人類共同ノ痛恨事デアリ、義憤ニ燃ユル我々大東亞民族ヲ斷シテ放置シ得サル所デアリマ

ス。時ナル哉、「スパス・チャンドラ・ボース」氏ノ驟起スルアリ、之ニ呼應シテ内外ノ印度人士ハ起テ上リ、玆ニ印度假政府ノ樹立ヲ見、印度獨立ノ基礎ハ現ニ成ツタノデアリマス。帝國ハ曩ニ印度獨立ノ爲、有ラユル協力ト支援トヲ致スヘキコトヲ中外ニ闡明致シタノデアリマス。大東亞ノ諸國家モ亦齊シク印度獨立完成ノ爲、心カラナル協力ヲ寄セラルルコトヲ私ハ確信致スモノデアリマス。米英カ所謂大西洋憲章ニ依ツテ標榜セル所ト、現ニ印度ニ對シテ實際ニ執リツツアル事實トヲ、彼等ハ如何ナル論理ニ依ツテカ之ヲ調和セントスルモ、ソレハ不可能ノ事デアルト存スルノデアリマス。併シナカラ吾人ハ今更彼等ノ矛盾ヲ見テ驚クモノテハナイノデアリマス。全世界ノ人々ハ今日迄米英ノ表面ニ掲クル美シキ看板ト、其ノ肚裏ニ包藏スルモノトノ矛盾ヲ、餘リニ多ク見セツケラレ、欺瞞ト偽裝ト迷彩コソ、彼等米英ノ本性テアルコトヲ已ニ熟知致シテ居ルノデアリマス。假令敵側ノ爲ス所カ如何ナルモノデアルニセヨ、帝國ハ大東亞各國ト相携ヘテ天地ヲ公道ヲ歩ミ、大東亞ヲ米英ノ桎梏ヨリ解放シ、大東亞各國ト協同シテ大東亞ノ復興、興隆ヲ圖ランコトヲ期スルノミデアリマス。今ヤ大東亞諸國家諸民族ノ結集ハ成リ、萬邦共榮ノ理想ニ向ツテ大東亞新建設ノ巨歩ハ堂々發足致シタノデアリマス。

翻ツテ歐洲ノ情勢ヲ見マスルニ、盟邦獨逸ハ愈々國民的結束ヲ鞏固ニシ、必勝ノ信念ヲ以テ米英擊滅ト歐洲建設トニ邁進シツツアリマシテ、洵ニ力強キ限りデアリマス。

大東亞戰爭ハ實ニ破邪顯正ノ聖戰デアリマシテ、大義名分炳乎トシテ我ニ在リ、正義ノ向フ所敵無ク、究極ノ勝利ノ我ニ歸スヘキコトハ我等ノ信シテ疑ハサル所デアリマス。

玆ニ大東亞諸國カ、衷心ヨリ大東亞戰爭ニ協力セラレツツアルコトニ對シマシテ、深甚ナル謝意ヲ表シマスルト共

ニ、今後益々苛烈ノ度ヲ加ヘントスル戰局ニ對處シ、帝國ハ大東亞諸國ト共ニ歐洲盟邦トノ提携ヲ愈々固メ、必勝ノ確信ノ下、不拔ノ鬪志ヲ以テ、如何ナル困難モ之ヲ克服シ、我等ノ共同使命トスル此ノ大東亞戰爭ヲ完遂シ、大東亞建設ヲ完成致シマシテ、眞ノ世界平和ノ確立ニ貢獻センコトヲ固ク期スル次第デアリマス。

中華民國代表汪行政院院長演說

世界史上偉大ナル意義ヲ有スル大東亞會議カ、本日盟邦日本ノ首都ニ於テ舉行セラルルコトニナリマシテ、只今東條總理大臣閣下ノ演說ヲ拜聽シ、大イニ感奮致シタ次第デアリマス。

米英ノ東亞侵略ハ、百年以前ニ既ニ開始セラレタノデアリマシテ、今ヤ斯カル極メテ重大ナル時期ニ於キマシテ、日本ノ軍事力及ヒ政治、經濟、文化、各方面ノ力ニ頼リテコソ、始メテ克ク米英ノ侵略野心ヲ抑制シ、東亞ヲ保全シ、米英ヲシテ割據セシメサルコトカ出來ルノデアリマス。最近更ニ大東亞戰爭勃發シ、米英ノ東亞ニ於ケル侵略勢力ハ破碎セラレ、東太平洋及ヒ南洋一帶ニ於ケル米英ノ陸海軍根據地ハ、漸次日本陸海軍ノ擊破、占領スル所トナツタノデアリマス。日本ハ更ニ一步ヲ進メ、東方道義精神ニ基キ東亞諸國家諸民族ノ共存共榮ヲ圖リ、其ノ獨立自主ヲ援助シ、其ノ愛國的希望ヲ達成セシメ、之ヲシテ各々其ノ部署ニ就カシメ、各々其ノ最大ノ努力ヲ盡サシメ、大東亞戰爭完遂並ニ大東亞建設ノ完成ノ責任ヲ分擔セシムルコトトナツタノデアリマス。私ハ斯カル日本ノ崇高ニシテ偉大ナル抱負及ヒ其ノ光輝アル實績ニ對シ、玆ニ謹ンテ最大ノ敬意ヲ表スルモノデアリマス。

同時ニ夙ニ友好關係ニアル滿、「タイ」兩國並ニ新興「ビルマ」、「フィリピン」兩國及ヒ自由印度假政府カ、各々

鞏固ナル決心ト擔マサル努力トニ依リ、大東亞戰爭及ヒ大東亞建設ノ責任ヲ分擔シテ居ラルルコトニ對シ、謹ンテ最大ノ敬意ヲ表スルモノデアリマス。

中華民國カ東亞ノ一翼トシテ、今回私カ此ノ機會ニ於キマシテ、大東亞戰爭完遂ト大東亞建設ノ方針ニ關スル國民政府ノ決心ト努力トニ付キマシテ申述フルコトヲ得マスルノハ、洵ニ欣快ノ至リト存スル次第デアリマス。

中華民國ノ國父孫先生一生ノ抱負ハ、即チ中國及ヒ東亞ヲシテ米英侵略勢力ノ桎梏ヲ破碎シ、其ノ獨立自主ヲ完成セシムルニ在ツタノデアリマス。斯カル抱負ニ基キ、逝去ノ日ニ至ル迄滿四十年ノ間、異生奮闘ヲ續ケラレタノデアリマシテ、其ノ逝去ノ三ヶ月前、會テ日本ノ神戸ニ於キマシテ二回ニ亙リ演說ヲセラレマシタカ、第一回ハ民國十三年十一月二十八日デアリマシテ、其ノ說夕所ハ即チ大亞細亞主義デアリマス。其ノ中ニ於テ『我々亞細亞ハ世界最古ノ文化ノ發祥地テアルニ拘ラス最近百年以來米英ノ侵略ヲ蒙リ、漸次衰微スルニ至リ、殆ント一トシテ完全ナル獨立國家ノ存在ヲ見サルニ至ツタノテアルカ、其ノ衰微カ極點ニ達シタトキ、突如其ノ轉換期カ到來シタノテアル。是即チ日本ノ維新テアツテ、此ノ日本ノ維新コソ、日本カ亞細亞ニ於テ先進國タルノ原因トナツタノデアリ、同時ニ是カ亞細亞復興ノ出發點トナツタノテアル。亞細亞各國ハ當然先進國日本ト共ニ同心協力、東方ノ王道的文化ニ基キ、西方ノ霸道的文化ニ打勝チ、米英ノ侵略勢力ヲ完全ニ驅逐シ、亞細亞各國ノ團結ニ依リ亞細亞各國ノ獨立自主ヲ完成セシメナケレハナラナイノテアル。斯クノ如クニシテ始メテ克ク亞細亞全體ヲ衰微ヨリ復興ニ導クコトカ出來ルノデアリ』ト謂ハレタノデアリマス。

第二回目ハ同年同月同日ノ演說デアリマシテ、ソレニハ『日本ハ當然中國ヲ援助シ不平等條約ヲ廢棄スヘキデア

ル』ト述ヘラレ、又其ノ中ニ『日支兩國ハ兄弟ト同様デアリ、日本ハ嘗テ不平等條約ノ束縛ヲ受ケタル爲發奮興起シ、始メテ其ノ束縛ヲ打破シ、東方ノ先進國並ニ世界ノ強國トナツタ。中國ハ現在、同様ニ不平等條約廢棄ヲ獲得セントシツツアルモノデアリ、日本ノ十分ナル援助ヲ切望スルモノデアル。中國ノ解放ハ即チ東亞ノ解放デアル。』ト説明セラレタノデアリマス。

以上二回ニ亙ル演說ハ國父孫先生ノ一生ヲ通シ最後の演說トナツタノデアリマシテ、其ノ後國父孫先生ハ間モナク病魔ニ冒サレ、翌年三月十二日北京ニ於テ逝去セラレタノデアリマス。逝去ノ時ニ當リ遺囑ヲ同志ニ遺サレ、同志ハ克ク此ノ遺志ニ從ヒ繼續奮闘シ、以テ其ノ貫徹ヲ期セヨト申サレタノデアリマス。最モ不幸トスル所ハ、國父孫先生逝去後其ノ遺志未タ實現スルコト能ハス、日支ノ關係ハ好轉ヲ見サリシノミナラス、却テ日増シニ惡化シ、遂ニ民國二十六年七月事變ノ發生ヲ見ルニ至ツタコトデアリマス。正ニ國父孫先生逝去後十二年目ニ當ツテ居リマス。

此ノ時、日支ノ關係カ決裂シタル爲、米英ハ好機到レリトナシ、挑撥離間ヲ圖リ、日支事變ノ擴大延長ヲ冀ツタ、デアリマス。我等同志ハ、國父ノ遺志未タ實現セサルヲ見、日支關係ノ日ニ惡化スルヲ見テ、痛心其ノ極ニ達シ、絶望ノ深淵ニ陥ラントシタノデアリマシタカ、幸ヒ日本政府ハ事變ヲ最短期間ニ打切ルヘキ方針ヲ宣布セラレ、其ノ中ニ於テ、日本ノ目的トスル所ハ中國ノ滅亡ニ非スシテ中國ノ興隆ヲ冀ヒ、日本ハ中國カ東亞建設ノ責任ヲ分擔スヘキコトヲ期待シ、又日本カ中國ヲ援助スヘキコトヲ決心シ、其ノ獨立自主ノ願望ヲ達成セシムルコトニ在ルコトヲ闡明セラレマシタ。我々同志ハ、日本カ斯カル眞意ヲ宣布セラレタルコトヲ聞キ、日支關係ノ好轉並ニ國父ノ遺志ヲ完成セシムル希望ノ存スルコトヲ承知シタノデアリマシテ、之ニ依リ先ツ重慶政權ニ對シ抗戰拋棄、和平回復ヲ勸告致シ

マシタカ、聽キ容レラレサリシ爲ニ、已ムヲ得ス重慶ヲ脱出シテ、和平運動ノ爲ニ奔走スルコトニ決シタノテアリマス。聽テ國民政府ハ南京ニ還都シ、正々堂々日支提携、東亞復興ニ最大ノ努力ヲ致スコトニナツタノテアリマス。

只今申上ケマシタ通り、米英ハ日支事變ニ對シ、常ニ挑撥離間ニ努メ、其ノ擴大延長ヲ冀ツタノテアリマス。カ、國民政府還都以後ハ、斯カル手段ハ更ニ強化セラレ、米英ハ重慶ニ對シ、抗戰ノ強化、和平ノ阻止等ニ關シ有ラユル手段ヲ講シタノテアリマス、其ノ後大東亞戰爭勃發スルニ至リ、米英ハ其ノ東亞ニ於ケル勢力カ挫折消失セルニ鑑ミ、益々重慶ヲ利用シテ日本ヲ牽制スルノ方途ヲ強化セルコトハ、既ニ世人ノ俱ニ知ル事實テアリマス。カ、我々ハ敢テ米英ノ斯カル計畫カ間モナク失敗ニ歸スヘキコトヲ斷定スル次第テアリマス。何故ナラハ重慶側ノ將士及ヒ民衆ハ悉ク國父孫先生ノ遺教ニ歸依シテ居ルノテアリマシテ、本年一月九日以來、日本ハ中國ニ對シ早クモ租界ヲ還付シ、治外法權ヲ撤廢シ、殊ニ最近ニ至リ日華同盟條約ヲ以テ日華基本條約ニ代ヘ、同時ニ各種附屬文書ヲ一切廢棄サレタノテアリマス。國父孫先生カ提唱セラレマシタ大亞細亞主義ハ既ニ光明ヲ發見シタノテアリマス。國父孫先生カ日本ニ對シ切望致シマシタ所ノ、中國ヲ扶ケ不平等條約ヲ廢棄スルトイフコトモ、既ニ實現セラレタノテアリマス。假令米英カ如何ニ誘惑シ如何ニ阻止スルト雖モ、重慶側ノ覺醒ヲ阻止スルコトハ出來ナクナツタノテアリマシテ、假令一時的ニ之ヲ束縛シ得タトスルモ、重慶ハ他日必スヤ、米英ニ依存スルコトハ東亞ニ反逆スルコトトナリ、同時ニ國父孫先生ニ反逆スルコトトナルヘキヲ自覺シ、將士及ヒ民衆モ亦悉ク幡然覺醒スル日ノ到來スルコトハ必定ナルヘキコトヲ茲ニ斷言シ得ル次第テアリマス。

國民政府ハ斯カル最モ重要ナル時期ニ於テ、只管既定ノ方針ニ基キ更ニ努力ヲ重ネ、一面重慶將士及ヒ民衆ノ覺醒歸來ヲ促進シ、統一ヲ完成スルト共ニ、一面政治力ノ及ヒ得ル地方ニ於テ一箇ノ模範地區ヲ樹立セントスルモノテアリマシテ、其ノ工作ハ次ノ三ツノ點ニ重點ヲ置クモノテアリマス。即チ第一ニハ思想ノ肅正、第二ニハ治安ノ保障、第三ニハ生産ノ増加是テアリマス。所謂思想ノ肅正トハ、米英ノ個人主義、功利主義的思想ヲ徹底的ニ一掃シ、之ニ代フルニ東方道義精神ヲ以テシ、東亞人ノ自覺心ヲ以テ東亞人ノ本然ノ姿ヲ回復シ、一心一德、東亞人ノ共存共榮ノ爲ニ奮闘スルニ在ルノテアリマス。次ニ所謂治安ノ保障トハ、即チ中國ノ處スル所ハ、大東亞戰爭ノ後方ニ於テ須ク治安ヲ確保シ、始メテ盟邦前線將士ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメ、之ニ依リ更ニ一步ヲ進メテ軍隊ヲ前線ニ輸送シ、些カナリトモ盟邦將士ノ勞苦ヲ分タントスルニ在ルノテアリマス。第三ニ所謂生産ノ増加トハ、一切ノ經濟計畫及ヒ財政計畫ニ重點ヲ持タシメ、總力決戰ノ力量ヲ増加セシムルニ在ルノテアリマス。唯生産増加ト謂ヒマシテモ、事實此處ニハ消費節約、廢物利用ノ意味ヲモ其ノ中ニ包含シテ居ルノテアリマス。

以上三項ハ國民政府カ大東亞戰爭ニ協力セントスル工作ノ重點テアリマシテ。同時ニ國民政府カ體得致シマシタル戰爭即チ建設ノ意味ハ、戰爭中ニ在ツテ同甘共苦、同生共死ノ決心ニ基キ、東亞同胞ト東亞同志トヲ結成シ、外ハ即チ共同ノ敵米英ヲ制禦シ、其ノ侵略勢力ヲ破碎シ、其ノ侵略企圖ヲ消滅セシメ、内ハ即チ刻苦勉勵、勇往邁進ノ精神ヲ以テ、東亞同胞ト共ニ同心協力、東亞ノ建設ヲ擔當セントスルニ在ルノテアリマス。

大東亞戰爭ニ付イテ申スナラハ、我々ノ冀求スル所ハ勝利テアリマシテ、大東亞建設ニ付イテ申セハ、我々ノ冀求スル所ハ共榮テアリマス。具體的ニ申シマスナラハ、東亞各國ハ各々其ノ國ヲ自愛シ、互ニ其ノ隣國ヲ愛シ、共ニ東亞ヲ愛スヘキテアリマシテ、中國ニ付イテ言ヘハ我々ノ「モットー」トスル所ハ中華ノ復興、東亞ノ保衛ニ在リマシ

テ、之ハ中國カ獨立自主ヲ獲得シタルトキニ始メテ東亞保衛ノ責任ヲ分擔スル能力ヲ生シ、同時ニ東亞ノ保衛ヲ獲得シテ始メテ中國ノ自主獨立カ保障サレルノテアリマス。ソレ故、我々ハ努力シ、以テ自己ノ國家ヲ自主獨立ノ國家タラシメ、又自國ヲ東亞ノ強力ナル分子トナスコトヲ要スルノテアリマシテ、東亞各國ハ各々其ノ本然ノ特質ヲ有スルカ故ニ、其ノ獨立自主ヲ確保シ、又互ニ其ノ獨立自主ヲ尊重スルコトヲ要スルノテアリマス。東亞各國家ハ、又其ノ共同ノ目的ヲ有スルカ故ニ、同心協力、共同ノ目的ニ向ツテ、共存共榮ヲ求ムルコトヲ要スル次第テアリマス。先進國タル日本ハ、既ニ其ノ光輝アル獨立自主ヲ世界ニ發揚サレマシタカ、最近ハ尙東亞各國ヲシテ悉ク其ノ獨立自主ヲ獲得セシメ、援助ヲ惜シマス、一致團結セシメ、共同目的ニ向ツテ共ニ努力ヲ致スヤウセラレンコトコソ望マシキ次第テアリマス。私ハ政治上ノ獨立自主ヲ獲得セル後、若シ外交上ニ於ケル方針カ一致シ、軍事上ニ於ケル對敵關係カ一致スルニ於テハ、共同ノ目的ニ到達シ得ルコトハ必然テアルト考ヘル次第テアリマス。

一方、文化面ニ於テハ、先進國タル日本カ、確カニ自己ノ文化ヲ基礎トシ、東方文化ヲ昂揚シ、世界文化ヲ吸收スルトイフ三大要點ヲ成就致サレマシタコトニ對シ、我々ハ深く敬服致シテ居ル次第テアリマス。私ハ斯ク新興國家カ奮闘努力、共ニ前進スルコトヲ深ク信スル次第テアリマス。我カ中國ハ殊ニ其ノ全力ヲ盡シ、文化ノ復興ヲ圖ルヘキテアルト考ヘル次第テアリマシテ、文化ノ融合創造ハ、各民族ヲ親密ニシ、團結セシムル要素テアルト考ヘマス。例ヲ舉ケテ申シマス、印度ト中國トノ兩民族間ニ於テハ、嘗テ佛敎ノ導入ニ依リ其ノ思想ノ交流ヲ圖リ、東方文化史上ニ一異彩ヲ放ツタノテアリマス。

又經濟上ニ於テハ、東亞各國家ハ互惠ノ基調ニ基キ、長短相補ヒ、有無相通シ、種々雙方ヲ利便セシムル方法ヲ考

ヘルヘキテアリマス。之ニ付キ例ヲ申上ケレハ、中國ノ棉花ハ幾多隣邦ノ需要スル所テアリ、南洋各地ノ「ガソリン」、「ゴム」、錫等モ相當隣邦ニ供給シ得ルモノテアリマシテ、我々カ唯互助トイフ見地ニ立ツナラハ、必ス一切解決シ得ルノテアリマス。米英カ過去ニ於テ執リ來リマシタ搾取政策、壟斷政策ヲ根柢ヨリ消滅シ、新タニ一ツノ人道ニ合致シタ新天地ヲ創造スヘキテアリマス。

以上述ヘマシタ所ヲ實現スルコトヲ得ルナラハ、東亞各國家各民族ノ福利ハ無限ニ増進セラレ、嘗ニ東亞共榮ノ確實ナル保障ヲ獲得シ得ルニ止マラス、世界平和亦茲ニ於テ其ノ基礎ヲ奠定スルニ至ルコト疑ヒナイノテアリマス。此等ノ光明ハ實ハ我カ前途ニ横タハツテ居リ、只管ニ我カ東亞各國家各民族カ共ニ手ヲ携ヘテ其處ニ到達センコトヲ待望シテ居ルノテアリマス。

最後ニ附ケ加ヘタキコトハ、中國人ニシテ「タイ」、「ビルマ」、「フィリピン」各國竝ニ日本占領下ニ在ル舊英國及ヒ和蘭ノ各植民地域内ニ在ルモノ總數七、八百萬人ヲ下ラス、此等在留民ハソレソレ所在國政府ノ優遇ヲ受ケ、所在國人民ト肩ヲ並ヘテ活動シ、而モ交通開拓、資源開發ニ對シ、勲カラサル心血ト熱汗トヲ注キ、其ノ心血及ヒ熱汗ノ一滴々々カ、所在國人民トノ結合ニ注カレテ居リ、東亞人ノ自覺ニ大ナル推進力トナツテ居ルコトテアリマシテ、中國人民ハ、素ヨリ缺點モアリマスカ同時ニ又其ノ長所モアリ、和平、信實、勤勞、質朴ニシテ、所在國人民ト其ノ苦樂ヲ偕ニシ、休戚ヲ同シウシテ居ル結果、互ニ其ノ長所ヲ採リ上ケ、缺點ヲ補ツテ、既ニ分離スヘカラサル友好協力關係ヲ形成シテ居ルノテアリマス。私ハ此ノ關係カ、今次ノ大東亞戰爭ヲ經テ、更ニ鍛鍊サレ團結スルニ至ルヘキコトヲ深ク信スルト共ニ、又此ノ關係カ大東亞共榮ニ對シ貢獻スル所アルヲ信スル次第テアリマス。

民國二十九年十一月三十日ヲ回顧スルニ、日滿華三國共同宣言ハ既ニ東亞大陸ニ軸心ヲ樹立シ、今日大東亞會議ニ於テハ更ニ「タイ」、「ビルマ」、「フィリピン」三國ノ参加ヲ得、印度亦陪席セラレマシテ、共榮圈ノ範圍ハ更ニ擴大セラレタノデアリマス。

以上私ノ所見ヲ開陳致シマシタカ、茲ニ更ニ至誠ヲ以テ、會議參加諸國ノ國運興隆ト、人民ノ福祉トヲ祝福スル次第デアリマス。

「タイ」國代表「ワンワイタヤコーン」內閣總理大臣代理殿下演說

「タイ」國政府ハ日本國政府ノ發セラレマシタル今回ノ大東亞會議ニ對スル參加招請ヲ欣然受諾致シマシタ。ソレハ、「タイ」國政府ハ、本會議カ大東亞戰爭ヲ所期ノ如ク完遂セシムルト共ニ、恒久ニシテ繁榮已ムコトナキ大東亞共榮圈ヲ確立スル上ニ於テ最モ有效ナル結果ヲ招來スヘキコトヲ確信スルカラデアリマス。尙「タイ」國內閣總理大臣「ビー・ピブン・ソングラム」元帥閣下ハ、現在ノ健康狀態カ東京ヘノ長途ノ旅行ヲ許サスシテ、自ラ本會議ニ列席出來ナカツタコトヲ頗ル遺憾トシテ居リ、從ツテ元帥ハ私ニ命スルニ其ノ代理トシテ本會議ニ參列スルコトヲ以テシタ次第デアリマス。

大東亞戰爭遂行ト大東亞共榮圈ノ建設ニ關スル「タイ」國政府ノ所見ハ既定ノ方針、特ニ日「タイ」關係ノ基本方針ニ準據セル現在ノ方針ヲ以テ極メテ妥當ナルモノト爲スニ在リマス。當面ノ問題トシテハ、現存ノ友好關係、協力並ニ十分ナル了解ヲ一層増進致シマシテ、物的心的ノ力ヲ結集一體化シ、以テ戰爭遂行ト大東亞共榮圈建設トヲ成功

ヲ以テ完成ニ導クヘキモノト考ヘル次第デアリマス。

私ノ所見ハ大東亞興隆ノ歴史ニ依ツテ裏書サレルモノト考ヘマス。即チ亞細亞大陸ハ人類發達ノ源デアリマシテ、太古ヨリ非常ニ高度ナ發展ヲ遂ケテ來タノデアリマス。而シテ斯クノ如キ發達ハ人類ノ心ニ輝キ、人類ヲシテ平和ト幸福トヲ求メシメル清キ光デアリマシテ、正義ノ基礎ノ上ニ樹立セラレタル友好ト好意トヨリ成ルモノデアリマス。是コソ國教トシテ佛教ヲ信奉スル「タイ」國民ニ固有ナル發展ノ原理デアリマス。而シテ此ノ發展ノ原理ハ、同時ニ一般亞細亞國民ニ依ツテ傳統的ニ保持サレル文化ノ原則テモアリ、換言致シマスレハ、亞細亞ノ原則ニ從テ發展コソ眞ノ文化ナノデアリマス。此ノ事實ハ「光ハ東方ヨリ、法律ハ西方ヨリ」ト云フ諺カアルコトニ依ツテモ明白テアルカ如ク歐洲人ニ依ツテモ認メラレテ居ルコトデアリマス。

歐洲ノ發達ハ之ト異ナツタ形ヲ採ツテ居リマス。即チ物質的進歩ノ促進、言ヒ換ヘルト、國家ト經濟力トノ發展ヲ目的トスル文明ノ形式ヲ採ツテ居リマス。之カ爲ニ近代世界史ノ上ニ於テ、歐洲諸國家ハ歐洲カラ外ヘ發展シタノデアリマス。特ニ一世紀前ヨリ英國ト米國トハ大東亞地域ニ進出シ來リ、或ハ植民地トシ、或ハ原料獲得ノ獨占的地域トシ、或ハ自己ノ製品ノ市場トシテ領土ヲ獲得シタノデアリマス。從ツテ大東亞諸民族ハ、或ハ獨立ト主權トヲ失ヒ、或ハ治外法權ト不平等條約トニ依ツテ其ノ獨立及ヒ主權ニ種々ノ制限ヲ受ケ而モ國際法上ノ互惠的取扱ヲ得ル所カナカツタノデアリマス。斯クシテ亞細亞ハ、政治的ニ結合セル大陸トシテノ性質ヲ喪失シテ、單ナル地理的名稱ニ墮シタノデアリマス。

斯カル事態ヨリ生シタル苦惱ハ、廣ク大東亞諸國民ノ感情ト記憶トニ永ク留ツテ居ルノデアリマス。カ、大日本帝國

ハ先見ノ明ヲ以テ、現代世界ノ進展ハ、其ノ手段ニ於テ西洋文明ニ據ラナケレハナラナイト同時ニ、又東洋的文化原則ニ信倚スル必要ノアルコトヲ洞察セラレタル結果、其ノ發展ノ形式ヲ現代式ニ調整シ、治外法權ヲ撤廢サセ、急速ニ一大強國ノ地位ニ躍進セラレタノデアリマス。「タイ」國モ亦之ト同一ノ道ヲ歩ミ來ツテ居ル次第デアリマシテ、幾年カノ歲月ヲ費シ、不斷ノ努力ヲ以テ治外法權ヲ撤去シ、首尾良ク獨立ト主權トヲ再ヒ獲得シタノデアリマス。併シナカラ亞細亞ニハ、其ノ獨立ヲ回復シ、其ノ主權ヲ再建センカ爲ニ、尙闕フヲ要スル姉妹國カ幾ツカアルノデアリマシテ、此等ノ國ハ、假令完全獨立及ヒ主權獲得ノ目的ヲ達シマシテモ、尙經濟的ニ申シマスレハ自國民ノ公正ナル要求ニ副ツテ發展ヲ遂ケル自由ヲ持タヌ實情ニ在ルノデアリマス。

洵ニ大東亞ハ豐穰ノ沃土デアリ、自給自足ノ原則ニ基キ、此ノ地域ヲ共榮發展セシムルニ足ル自然資源竝ニ産業立地條件ヲ有シテ居ルノデアリマシテ、其ノ結果、日本帝國ハ八紘一字ノ理想ニ遵ヒ共榮國ヲ樹立シ、正義、公正及ヒ平和ノ基礎ノ上ニ立ツ一家ノ如キ結束ヲ齎サントスル政策ヲ採リ、之カ遂行ニ當ツテハ、「タイ」佛印紛争ノ際ノ例ニ見ルカ如ク平和的手段ヲ用ヒテ居ルノデアリマス。即チ「タイ」國ハ領土喪失ニ基ク忿意ヲ除去セル友好關係ヲ兩國間ニ打ち樹ツル爲、喪失領土ノ一部ノ返還ヲ佛國ニ要求シタノデアリマス。幸ニモ日本政府ハ之カ調停ニ同意セラレ、遂ニ正義ニ立脚セル協定ニ達スルヲ得タノデアリマシテ、斯カル日本ノ好意ハ「タイ」國民ノ夢寐ニモ忘れ得サル所デアリマス。

併シナカラ日本ノ斯カル平和的手段ニ依ル國策遂行ハ、米英カ加ヘ來ツタ種々ノ障礙ニ依リ成功ヲ見ス、玆ニ大東亞戰爭勃發ノ已ムナキニ立至ツタノデアリマス。日本皇軍ノ輝カシキ大戰果ハ、牢乎タル土臺ノ上ニ大東亞共榮國ヲ樹立シ得ヘシトノ希望ヲ生シ、全亞細亞民衆ノ胸ヲ歡喜ニ滿チ溢レサセテ居ルノデアリマス。

「タイ」國ハ過去數百年間日本ト密接ナル友好關係ニ在リ、此ノ關係ハ益々緊密ノ度ヲ加ヘ來ツタノデアリマシテ、「タイ」國ハ日本ノ崇高ナル目的ヲ十分ニ了解シ、内閣總理大臣閣下指導ノ下ニ、直チニ日本ノ同盟國トシテ協力シテ來マシタコトハ、大東亞共榮國ノ樹立ト之ヲ妨ケル所ノ不埒ナル勢力ノ一掃トヲ主要目的トシテ日「タイ」兩國カ締結シタル兩國間ノ同盟條約ニ依ツテモ明白デアリマス。該同盟條約ノ根本方針ハ、(一)獨立及ヒ主權ノ相互尊重ヲ基礎トスル同盟關係ノ設定、竝ニ(二)兩國ノ有スル有ラユル政治的、經濟的及ヒ軍事的手段ニ依ル相互援助デアリマス。

軍事的ニハ「タイ」國軍隊ハ日本軍ト協力致シマシテ、克ク勇敢頑強ニ闘ヒ、所期ノ成功ヲ收メタノデアリマシテ、更ニ窮極ノ勝利ヲ獲ル迄戰爭遂行ノ爲ニ種々ノ犠牲ヲ拂フ用意カアルノデアリマス。經濟的ニハ「タイ」國ハ既ニ日本ト十分ニ協力致シテ居リマシテ、此ノ點ニ於テ「タイ」國カ日本ニ援助ヲ求メルトスレハ、ソレハ戰爭完遂ノタメ其ノ經濟力ヲ維持スル上ニ於テ必要トスルモノニ限ラレテ居ルノデアリマス。尙「タイ」國ハ自國ノ文化ヲ宣揚シテ、戰爭遂行ノ爲克ク國民ヲシテ一德一心精神のニ團結セシメ、同時ニ日本ト文化協定ヲ締結シ、兩國國民ノ精神的紐帶ヲ強化セシメタノデアリマス。精神ハ亞細亞文明本來ノ特色デアリマス。而シテ戰爭テ終局ノ勝利ヲ收メル最モ重大ナル要素ノ一ツハ此ノ精神力ナノデアリマス。

政治的ニハ日「タイ」兩國ノ友好關係ハ最モ密接ナル狀態ニ在リマシテ、相互ニ能ク諒解ヲ遂ケテ居リマス。日本國政府ハ宏量、克ク「タイ」國ノ失地回復ト民族力結集ノ國民的要望ニ同情サレタノデアリマス。斯クテ日本政府ハ

「マライ」四州及ヒ「シヤン」二州ノ「タイ」領編入ヲ承認スル條約ヲ締結サレタノテアリマス。是實ニ日本ハ「タイ」國ノ獨立及ヒ主權ヲ尊重スルノミナラス、「タイ」國ノ一致團結ト國力ノ増進トヲ圖ラレタコトヲ證明スルモノテアリマシテ、「タイ」國官民ハ日本國官民ニ對シテ深甚ナル感謝ノ意ヲ表スル次第デアリマス。

日本ハ、「タイ」國ニ對シテ示シタ好意ト同様ナ好意ヲ、大東亞ニ於ケル各國ニ對シテ、ソレトノ事情ニ應ジテ示シテ來タノテアリマス。一例ヲ申上ケレハ、日本ハ中華民國カ完全ナル主權ヲ回復スルノヲ援助シ、滿洲國、「ビルマ」國竝ニ「フィリピン」國ノ獨立ヲ支援シ、更ニ獨立獲得ヲ目的トスル自由印度假政府樹立ヲ援助致サレタノテアリマス。「タイ」國ハ此等ノ成果ヲ欣快トシテ衷心ヨリ支持スル次第デアリマス。何トナレハ「タイ」國ハ長イ間此等ノ諸國ト友好善隣關係ヲ有シ、文化的紐帶ヲ持續シテ來タカラテアリマス。

今ヤ大東亞ハ最早單ナル地理的名稱テナク、確乎タル基礎ノ上ニ立ツ共榮圈ヲ意味スルコトトナツタ以上、大東亞各國民ノ大事業ハ、戰爭遂行上相互ニ協力シ、以テ絶對的成功ヲ收メ、各國民カ其ノ有スル總力ヲ擧ケテ全體ニ共通ノ利益タル共榮圈ノ恒久的確立ノ爲ニ、寄與スルコトデアリマス。

大東亞ニ恒久的繁榮ヲ齎ス根本方針ハ、相互ノ獨立ト主權トヲ尊重シ、互惠ノ基礎ノ上ニ立ツテ相互ノ經濟關係ヲ増進シ、正義ニ基キ相互ニ協力援助シ、以テ物質的的道的及ヒ精神的力ヲ含ム各國ノ國力ヲ最高度ニ増進シ、各國及ヒ大東亞全域ノ平和、幸福及ヒ繁榮ヲ確保スルニ在ルノテアリマス。

斯クノ如クニ致シマシテ、大東亞諸國ハ各々其ノ自國ノ文化ノ線ニ沿ツテ發展ヲ遂クルト同時ニ、本共榮圈ノ福祉及ヒ發展ノ昂揚トイフ共同目的ヲ追求スルコトトナリマセウ。大東亞諸國ト爾餘ノ世界各國トノ關係ニ付イテ申シマ

スナラハ、一般友好關係ニ於テモ、將又通商又ハ文化關係ニ於キマシテモ、以上ノ原則、特ニ獨立及ヒ主權尊重ノ原則竝ニ互惠ノ原則ニ依ルコトカ肝要デアリ、斯クシテこそ世界平和ハ確乎不拔トナルノテアリマス。

科學知識及ヒ近代文明組織ノ手法ヲ利用シ、亞細亞文化ヲ進歩ノ一要素タラシムルコトニ先鞭ヲツケタノハ大日本帝國デアリ、斯クシテ大東亞共榮圈ハ擡頭シテ參ツタノデアリマス。依テ私ハ本國政府ノ名ニ於テ、日本政府ニ對シテ深甚ノ満足ト謝意トヲ表スル次第デアリマス。

最後ニ「タイ」國內閣總理大臣「ビー・ピブン・ソントラム」元帥閣下ノ名ニ於テ、此ノ歴史的會議カ成功裡ニ議事ヲ了シ、以テ大東亞ノ安固ト繁榮トヲ更ニ増進センコトヲ祈願致シマシテ、私ノ所見ヲ結ヒタイト思ヒマス。

滿洲國代表張國務總理大臣演說

本日茲ニ私ハ滿洲帝國代表ノ資格ヲ以テ、大東亞諸國ノ政府首腦各位ト親シク相見エ、苛烈ナル決戰ノサ中ニモ大ナル希望ヲ持ツテ、隔意ナキ意見ヲ交換スルヲ得タルコトハ、私ノ衷心ヨリ欣快トスル所デアリマス。私ハ此ノ歴史的會合ヲ主催セラレタル大日本帝國政府ニ厚ク感謝スルト共ニ、東條總理大臣閣下ヲ初メ、此ノ最モ重大ナル時局ニ當リ國民ノ輿望ヲ擔ツテ日夜國務ニ盡瘁セラレツツアル參會ノ各國政府首腦各位ニ對シ、深キ敬意ヲ表スル次第デアリマス。更ニ又大東亞ヲ繞リ數千里ニ亘ル長大ナル戰線ニ在ツテ、今此ノ瞬時ニ於テモ、敵米英トノ激闘カ續ケラレツツアルコトヲ思ヒ、私ハ大東亞戰後ノ一國トシテノ我カ國ヲ代表シ、大日本帝國ヲ初メ參戰各國及ヒ其ノ將士ノ善謀勇戰ニ對シ、度ミテ感謝ノ誠ヲ捧クルモノデアリマス。

大東亞戰爭開戦以來、日本皇軍ハ戰史ニ比類ナキ赫々タル大戦果ヲ擧ケ、以テ多年ニ亘リ東亞ヲ侵蝕シ其ノ犠牲ニ於テ自ラノ繁榮ヲ維持シ來リタル米英勢力ヲ、隨處ニ擊破驅逐シ去リ、戰爭勃發後二年ヲ出テスシテ、今ヤ曩ニ實現ヲ見タル「ビルマ」國、「フィリピン」國ノ獨立ヲ初メトシ、東亞民族ハ逐次其ノ本然ノ姿ニ還リ、各々其ノ所ヲ得テ洋洋々タル將來ヲ望ミ、數百年來彼ノ貪婪飽クナキ米英帝國主義ノ爲失ハレタル生氣ヲ取戻シツツアルノテアリマス。悲惨ナリシ過去ニ訣別シ、汚辱セラレタル榮譽ヲ回復スヘク、米英支配權力ノ僞瞞ト抑壓トニモ拘ラス、東亞各國ニ脈々トシテ底流シツツアツタ解放ヘノ念願ハ、大日本帝國ノ終始一貫セル道義的政策ト旺盛ナル實行力トニ依リ、大東亞ノ名ニ於テ茲ニ一舉ニ實現セラレントシツツアルノテアリマス。我等ハ此ノ千載一遇ノ好機ニ際會シテ、限リナキ悦ビノ中ニモ、東亞解放ノ爲身命ヲ擲チ、鮮血ヲ流シタル各國幾多ノ先覺烈士ヲ想起シ、肅然襟ヲ正ササルヲ得ナイノテアリマス。

私ハ更ニ此ノ機會ニ、十年前我カ滿洲國カ最初ノ眞ノ東亞的ナル自覺ヲ有スル新興國家トシテ建國セラレタルコトヲ回顧シ、深キ感慨ナキヲ得ナイモノテアリマス。私モ亦抑ヘ難キ熱情ヲ以テ建國ニ參畫シタノテアリマス。當時滿洲ニ於テ最モ缺ケテ居ツタモノハ道義ニ基ク政治テアリマシタ。從ツテ民衆ハ何等理想アル目標ニ指導セラレ組織セラルルコトナク、國土ハ荒廢シ、軍閥ノ封建政治ニ依ル無秩序ナル苛斂誅求カ行ハレ、何等ノ自由性創造性モナキ典型的ナル虐ケラレタル東亞ノ様相ヲ呈シテ居ツタノテアリマス。而シテ當時ノ滿洲ノ支配者トシテ人民ニ飽クナキ搾取ヲ加ヘツツアツタ張學良軍閥カ、米英ノ東亞攪亂政策ニ乘セラレテ露骨ナル反日態度ニ出テタノニ對シ、日本カ敢然起ツテ張軍閥ヲ打倒シタ結果、茲ニ眞ニ國民ヲ向上シ、國土ヲ發展セシムヘキ自主的ナル道義國家ノ樹立ニ、三

千萬民衆ノ總意カ翕然トシテ集ツタノハ當然ノ成リ行キテアリマシタ。而シテ我等ノ意圖スル所ハ、有ラユル國際情勢カ干涉シ來リ、相互ニ紛糾シテ常ニ東亞ノ安定ニ脅威ヲ與ヘテ居ツタ滿洲ヲ、一轉シテ眞ニ古キ東方道義ニ立脚シ、新シキ東亞ニ目醒メタル強ク正シキ國家トシテ、東亞全體ノ安定力ヲラシメントスルニ在ツタノテアリマス。我等ノ信スル所ニ依レハ、東亞カ光輝アル道統ニ立還ツテ、本然ノ姿ニ於テ世界ノ文運ニ貢獻スヘキコトハ、恰モ歐洲諸民族カ歐洲諸民族トシテ生き、米洲各國カ米洲各國トシテ自存スヘキカ如ク、大義ノ明カニ示ス所テアリ、サウシテ東亞カ東亞タルノ自覺ヲ保持スル限リ、ソレハ何モノモ遮リ得サル歴史ノ必然ト考ヘラレタノテアリマス。然ルニ東亞ノ東亞的自覺ヲ好マサル米英ハ、其ノ傀儡機關タル國際聯盟ヲ動カシ、又當時南京ニ在ツタ蔣介石政權ヲ使嗾シ、有ラユル妨害ヲ加ヘテ來ツタノテアリマス。而モ我カ國ノ永久ニ感銘ニ堪ヘナイコトハ、日本カ多大ノ國力ヲ費シテ血ヲ以テ張學良軍閥ヲ驅逐シタルニ拘ラス、何等ノ領土の野心ヲ示サス、公明ナル道義的態度ヲ以テ、我カ獨立ト自主發展トヲ援助シタコトテアリマス。加之、日本ハ、我カ獨立ヲ擁護スルト共ニ、東亞新秩序建設ヲ高調シテ國際聯盟ヲ脫退シ、斷乎タル態度ヲ中外ニ闡明シタノテアリマス。斯ク考ヘルナラハ、滿洲建國コソハ、今日大東亞全域ニ實現セラレツツアル大東亞共榮圈建設ノ最初ノ強力ナル一步ヲ踏ミ固メタルモノテアルト謂フコトカ出來ルノテアリマス。

斯クノ如クニシテ建國セラレタル滿洲國カ此ノ十年間、如何ナル政策ヲ下ニ如何ナル成果ヲ擧ケタカニ付イテハ、特ニ全世界ノ注目ヲ集メテ居ル所テアリマス。私ハ此ノ機會ヲ藉リテ、二三ノ基本問題ニ觸レテ御説明シタイト思ヒマス。

第一ニ民族ノ協和テアリマス。我カ滿洲國ニ於テハ、日滿蒙其ノ他多數ノ民族カ共存シテ居ルノテアリマス。從來一般ニ異民族間ニ見ラレタルカ如キ支配、被支配、搾取、被搾取ノ關係テハナク、相互ニ其ノ特長ヲ發揮シツツ國家目的ノ達成ニ協力シテ行クモノテアリマス。此ノ點米英等帝國主義ノ民族支配トハ根本的ニ相違スルノテアリマシテ、萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメ、兆民ヲシテ各々其ノ塔ニ安ンセシメントスル日本盛國ノ精神ト相照應スルモノトシテ、大ニシテハ大東亞各國ノ共存共榮ノ方式ヲ示唆スルモノト思ヒマス。

第二ニハ、北邊ノ鎮護トイフコトテアリマス。即チ大東亞共榮圈ノ建設ニハ、獨リ我カ國ノ國防ヲ全ウスルトイフニ止マラス、我カ國自體カ大東亞北邊ノ防壁トシテ、之カ遂行ニ些カノ不安ナカラシムコトカ絶對ニ必要ナノテアリマス。我カ國ハ夙ニ之ヲ最モ重大ナル使命ノ一ツトシテ、大日本帝國ト共同防衛ノ盟約ヲ結ビ、鐵壁ノ態勢ヲ執リ、ツツアリ、此ノ點些カモ不安ナキコトヲ明言致スト共ニ、今後モ各位ノ御期待ニ十分應ヘタイト所期シテ居ル次第テアリマス。

第三ニハ、國民生活ノ安定ト強ク正シイ國民ノ鍊成テアリマス。即チ政府ハ建國後直チニ、從來紛亂ヲ極メ收拾最モ困難トセラレテ居ツタ貨幣制度ヲ、極メテ急速ニ統一シテ結果、物價ハ安定シ、延イテハ今日ノ如キ國民生活ノ安定ヲ確保スルニ成功シタノテアリマス。又之ト併行シテ行ハレタノハ治安ノ確立テアリマシテ、建國當時三十萬ノ匪賊カ國內ニ横行シタノニ比ヘ、現在ハ全ク影ヲ潜ムルニ至ツタノテアリマス。加フルニ客年國兵制度確立セラレ、近代兵器ノ裝備ヲ有スル精強ナル國軍ヲ創設シ、完備セル警察制度ト相俟チ、國內ノ隅々迄國民ヲ安居樂業セシメテ居ルノテアリマス。

一方政府ハ、勤勞奉公制度、文教振興方策等有ラユル手段ヲ通シ、國民ノ鍊成ニ力ヲ注キ、國家觀念ヲ培養シ、勤勞尊重ノ風潮ヲ促シ、心身兩面ニ亘リ強壯ニシテ新シキ東亞ノ民タルニ恥カシカラヌ青少年ノ育成ヲ圖リ、今ヤ其ノ數ハ飛躍的増大ヲ見テ居ル次第テアリマス。此ノ第二國民ノ出現ハ、現下ノ戰爭完遂ヘノ協力ノ上ニ於テハ勿論、將來ノ國運發展ノ上ニ期シテ待ツヘキモノカアルト存セラルルノテアリマス。

最後ニ重要ナモノハ、産業ノ開發テアリマス。政府ハ建國第五年度ヨリ産業開發五ヶ年計畫ノ實行ニ着手シ、有ラユル困難ナル客觀的條件ヲ克服シテ、一昨年度ヲ以テ成功裡ニ之ヲ終了シ、更ニ昨年度ヨリ第二次五ヶ年計畫ノ實行ニ入ツタノテアリマス。戰時下特ニ要請セラレル鐵、石炭、非鐵金屬等ノ重工業資源ノ急速開發、輕金屬、化學工業ノ促進等ハ、電力ノ飛躍的増産設備ノ整備ト相俟ツテ、着々躍進ヲ遂ケ、各部門ニ於テ既ニ世界的強國ノ水準ニ達シツツアルノテアリマス。又農産物方面ニ於キマシテモ、本來ノ農本國タルノ特色ヲ發揮シ、目下計畫的増産ニ邁進シツツアリ、東亞ノ有力ナル食糧基地タルノ實ヲ舉ケテ居ル次第テアリマス。

以上ノ如キ建設ノ成果ニ付イテ二、三ノ數字ヲ拾フナラハ、國家財政ハ、建國當初歲入歳出合計二億七千餘萬圓テアツタモノカ、十年後ノ今日ニ於テハ實ニ其ノ十六倍餘タル四十四億五千餘萬圓ニ膨脹シ、又鐵道ノ延長ハ六千「キロ」カ一萬二千「キロ」、初等學校兒童數五十萬人ハ二百五十萬人ニ垂ントシテ居ルノテアリマス。又増産ノ方面テハ、石炭カ四倍ニ、鉄鐵カ五倍ニ、ソレノ飛躍的ナ發展ヲ遂ケテ居ルノテアリマス。尙此ノ外ニ、國民ノ保健衛生施設ノ改善等枚舉ニ遑ナイノテアリマス。其ノ顯著ナル一例ヲ舉ケレハ、米英カ東亞侵略ノ手段ニ用ヒナカラ、今ニ至ツテ人道ノ名ニ於テ惡聲ヲ放ツ所ノ彼ノ阿片吸引ノ弊ノ如キモ、建國當時阿片常用者ハ百三十萬テアツタモノ

カ、今日テハ極メテ僅少ヲ殘スノミトナリ、最近ノ將來ニ於テハ完全ニ跡ヲ絶ツヘキコトヲ期待セラルルノデアリマス。

私ハ平素政府ノ責任者トシテ努力ノ尙足ラサル所ナキヤヲ反省シ、慚愧ヲ感シテ居ル次第デアリマスカ、今此ノ國運ノ隆昌ヲ眼ノアタリニ見テ痛感スルコトハ、大日本帝國ノ終始變ラサル仗義デアリマス。抑々日滿關係ハ、建國ノ由來ヨリシテ當然且必然ニ一德一心關係ニアリ、畏クモ 皇室帝室ニ於カセラレマシテハ、御交誼彌々益々敦睦ヲ加ヘ、率先垂範シ給ヒツツアルノデアリマス。而シテ青史ニ比ナキ我カ十年ノ開發モ、一ニ日本ノ絶大ナル仗義ニ依ル援助ニ負フ所多ク、我カ國トシテモ如何程報ユルモ報イ足ラヌ氣持テ、現ニ大東亞戰爭後方任務完遂ニ當ツテ居ル次第デアリマス。

次ニ大東亞建設ノ方途ニ付イテ些カ所懷ヲ述ヘタイト思ヒマス。曩ニモ述ヘタルカ如ク、我カ滿洲國ハ東亞解放、新秩序樹立ヲ目途トシテ建國セラレタルモノデアリ、有ラユル部面ト機會トニ於テ大東亞共榮圈必成ニ寄與センコトヲ念願シテ居ルモノデアリマス。

而シテ我カ國ノ共榮圈各國トノ關係ハ、大日本帝國トハ夙ニ一德一心、不可分關係ニアルコトハ先程申述ヘタ通りデアリマス。

又曩ニ新生中國ノ指導者汪主席閣下領導ノ下ニ南京國民政府カ樹立セラレ、其ノ基礎ヲ固ムルヤ、日華兩國ト共ニ日滿華間ノ永久ノ共同善隣關係ヲ規定スル三國共同宣言ヲ發表シ、又「タイ」國トモ親密ナル國交關係ヲ結ビ、更ニ支那事變カ大東亞戰爭ニ發展シテヨリ後モ、「ビルマ」國、「フィリピン」國獨立ニ際シテハ直チニ之ヲ承認シ、將來

益々親交ヲ加ヘンコトヲ期シテ居ル次第デアリマスカ、私ハ東亞ニ獨立國六ヲ數ヘ、更ニ又最近自由印度假政府ノ樹立ヲ加ヘ、史上無比ノ殷盛ヲ現出シタル今日コソ、全東亞各國ハ東亞一體、運命共同ノ信念ニ徹スルコトカ大東亞共榮圈建設ノ根本問題デアルト信スルモノデアリマス。而シテ東亞ノ興隆方ニ期スヘキ秋ニ當リ、英米ノ惡逆無道ナル彈壓下ニ呻吟スル印度國內四億ノ民衆ニ、絶大ナル同情ノ意ヲ表スルト共ニ、今尙迷夢醒メサル東亞ノ孤兒重慶政權カ東亞恢弘ノ大義ニ立還ルヘク反省センコトヲ切ニ祈念スル次第デアリマス。

而シテ今後ノ東亞各國ハ、東亞ノ天地ニ過去ノ汚辱ノ永遠ニ再ヒ還ラサルヤウ、一切ノ米英等ノ帝國主義的罪惡ノ痕跡ヲ拂拭シ去リ、有ラユル植民地的性格ヲ脱却シ、其ノ本然ノ姿ニ於テ、凡ソ世界ノ人道ヲ尊重シ、正義ヲ愛スル國家ト提携協調シツツ、全世界ノ正シキ發展創造ニ參セントスル雄渾ナル意圖ヲ持ツヘキデアリマス。私ハ其ノ意味ニ於テ、我等ト共通ノ目標ニ向ヒ、歐洲ニ勇戰奮闘シツツアル獨逸ヲ初メ樞軸諸國ノ勝利ニ依リ、歐洲新秩序ノ成立ノ一日モ早カラントヲ祈リ、且世界ノ到ル處ニ我等ト同調スル新秩序ノ出現ヲ待望セサルヲ得ナイノデアリマス。更ニ將來ノ東亞諸國家間ノ關係ハ、今次世界戰爭ニ於テモ反樞軸諸國間ニ露骨ニ見ラルルカ如キ、利害ニ基キ離合集散スル從來ノ國際關係トハ根本的ニ相容レナイ、東洋道德ノ傳統的特色タル家族血縁ノ情誼ニ基調ヲ置キ、眞ニ東亞一家ノ觀念ノ下ニ、相互ニ永久ノ道義的國交ヲ誓約スヘキモノト信スルノデアリマス。從ツテ各國ハ各々其ノ傳統トシ特質トスル所ニ生ず、且之ヲ相互ニ尊重スヘキハ謂フ迄モナイノデアリマスカ、又一方政治、經濟、文化等有ラユル領域ニ亘ツテ長短相補ヒ、有無相通シ、以テ東亞全體ノ生成發展ニ寄與スヘキデアリマス。國境ノ觀念ノ如キモ、會テノ相互ニ對立スル所ノ非東洋的ナル國家ノ國境ニ非ス、相互ニ協力シ、ヨリ大ナル創造ニ參セントスル、國家間

ノ國境テアルトイフ如ク考へ、從來ノ國境觀念ニ縛ラレ、各國間ノ流通融合ヲ阻止シ來ツタ障壁ハ、一刻モ速カニ撤去スヘキテアラウト思フノデアリマス。

又我等ノ招來セントスル東亞共榮圈ノ建設ハ、光輝アル古キ東亞ノ復興ヲ意味スルト同時ニ、ヨリ多ク新シキ東亞ノ創造ヲ意味スルノデアリマス。故ニ東亞各國ハソレノ新時代ニ即應スル意識ト力量トヲ具備シナケレハナラヌノデアリマス。私カ曩ニ我カ滿洲國ノ會テ滿洲ニ見ラレサリシ全ク新シキ巨大ナル物心兩面ニ亘ル建設ニ付イテ言及致シマシタノモ特ニ斯カル本意ニ出テタルモノデアリマス。尙此ノ際私ハ本年一月第八十一議會ノ施政方針演說ニ於テ東條首相閣下カ『滿洲國ノ今日ノ發展充實ハ取りモ直サス大東亞全域ノ明日ヲ示スモノデアル』ト叫ハレタコトヲ、共感ト感激トヲ以テ想起セサルヲ得ナイノデアリマス。

爾ツテ戰局ヲ大觀スレハ、敵米英ハ緒戰ニ於ケル東亞カラノ全面的敗退ノ後ヲ承ケ、今ヤ全東亞民族カ澎湃トシテ覺醒シ、着々トシテ大東亞建設ノ巨歩ヲ進メツツアルニ焦慮シ、彼等モ亦有ラン限リノ力ヲ揮ツテ我等ニ挑戰シ來リ、戰爭ハ愈々懐愴苛烈ノ度ヲ加ヘ來ツテ居ルノデアリマス。實ニ此ノ戰爭コソハ、彼等カ過去ニ於テ幾度カ東亞ニ對シテ繰返シ來ツタ侵略戰爭ノ最後ノモノデアリマシテ、且最モ大規模ナルモノデアリマス。茲ニ於テ我等ハ今コソ我等ノ熱烈ナル念願タル大東亞共榮ノ達成ノ爲、天カ我等ニ與ケタル唯一ノ機會デアリ、而モ全東亞民族ノ興亡ヲ永遠ニ決定スヘキ秋デアルコトヲ、深刻ニ認識シナケレハナラヌノデアリマス。從ツテ我等今日ノ要務ハ、大東亞各國ノ物心兩面ニ亘ル一切ヲ擧ケテ之ヲ戰力化シ、東亞ノ總力ヲ打ツテ一丸トシテ敵米英ヲ擊摧セントスルノ一語ニ盡キルノデアリマス。

而シテ我等十億ノ民族カ、其ノ傳統タル優越セル精神力ヲ以テ、世界ニ冠絶スル大東亞ノ資源ヲ總動員シ、戰ヒツツ建設シ、建設シツツ戰ヒ、飽ク迄逞マシキ建設戰ヲ推進シテ行クニ於テハ、必スヤ光榮アル最後ノ勝利カ我等ニ歸スヘキハ、何人モ疑ハサル所デアリマス。

我カ滿洲國官民ハ、大東亞戰爭勃發ト共ニ宣示セラレタル大日本帝國ト死生存亡、斷シテ分携セストノ帝旨ヲ奉體シ、國人ヲ擧ケ、國力ヲ盡シ、大東亞戰爭遂行ニ協力シ、北邊鎮護ノ重責ニ任シ來ツタノデアリマスカ、私ハ茲ニ我等ハ愈々此ノ決意ヲ固クスルト共ニ、益々大東亞各國ト相呼應シ、相結束シ、必勝必成ノ信念ヲ以テ、大東亞建設ノ聖業ニ力ヲ竭サンコトヲ誓フモノデアリマス。

「フィリピン」國代表「ラウレル」大統領演說

議長閣下、閣下並ニ各位、僭越乍ラ「フィリピン」共和國ノ代表ト致シマシテ私ハ此ノ劃期的ニシテ光輝アル會議ニ際シ茲ニ一言所見ヲ申述ヘントスルモノデアリマス。私ハ先ツ大東亞共榮圈各國民ノ指導者ヨリ成ル此ノ大會議ヲ主催セラレタル偉大ナル大日本帝國及ヒ其ノ偉大ナル指導者タル内閣總理大臣東條英機閣下ニ對シマシテ、深甚ナル敬意ト感謝トヲ申述ヘルモノデアリマシテ、此ノ會合ニ於テ大東亞諸民族共通ノ安寧ト福祉トノ諸問題カ討論セラレ、又大東亞諸國家ノ指導者各閣下ニ於カレマシテハ親シク相交ハルコトニ依リテ互ニ相識リ、依テ以テ亞細亞民族ノミナラス全人類ノ榮光ノ爲ニ大東亞共榮圈ノ建設及ヒ之カ恒久化ニ拍車ヲ掛ケラルル次第デアリマス。

次イテ私ハ中華民國代表閣下、「タイ」國代表閣下、滿洲國代表閣下、「ビルマ」國代表閣下及ヒ若シ許サルナラ

ハ世界史上ノ一新紀元、即チ印度民衆ノ自由ノ爲ノ亞細亞人ノ鬭争ヲ代表セラルル自由印度假政府首班「スバス・ヤンドラ・ボース」閣下ニ對シ、御挨拶申上ケル次第アリマス。

洵ニ人類ノ文明史ヲ回顧スルトキ、私ハ斯カル大東亞諸民族ノ會議ハ夙ニ開催セラルヘキテアツタト感スルノテアリマス。我々ハ從來全クノ他人トシテ生存セシメラレテ來タノテアリマスカ、大日本帝國ノ多大ノ御努力ニ依リマシテ、有史以來始メテ我々カ一堂ニ會シマシタ此ノ事實ニ私ハ心カラノ感銘ヲ感スル次第テアリマシテ、斯クテ我々ハ今後再ヒ既往ノ如ク離散スルコトナク、壓迫、搾取及ヒ壓政ニ飽ク迄モ抗争シ、十億ノ亞細亞民衆ハ少數西洋強國ノ支配及ヒ搾取ノ犠牲トハ再ヒナラナイコトヲ世界ニ向ツテ宣言シ得ル次第テアリマス。之ニ關聯致シマシテ、私ハ東亞諸民族カ從來斯ク一堂ニ會シ其ノ結束ヲ固メ共通ノ諸問題ヲ檢討シ得ナカツタ理由ト思料セラルル所ノ三點ニ付イテ申述ヘタイト存シマス。

第一西洋列強、殊ニ英米ノ政策ハ常ニ、恐ラク大日本帝國ヲ除ク、大東亞ノ各抑壓國民ノ政治的支配及ヒ經濟的搾取ニ在ツタノテアリマシテ、此ノ搾取、支配ノ政策ニ依リ亞細亞民族ハ弱體化セラレ、其ノ活力ヲ吸收セラレ、從ツテ又其ノ積極性ヲ萎微セシメラレタノテアリ、更ニ英米ノ斯カル政策ノ故ニ夙ニ我等カ相會シ大東亞ノ共通諸問題ヲ討議スルコトカ出來ナカツタノテアリマス。

第二ノ理由ハ、米英ハ以上ノ政策ニ從ヒ、又其ノ結果トシテ、所謂分割統治主義ニ基キ常ニ大東亞諸民族ノ分割ヲ圖リ、以テ大東亞諸民族ノ士氣、活氣及ヒ生活力ヲ弱メントシタコト是テアリマス。米英ハ大東亞諸民族ノ中ニ宗教的、階級的差異ヲ創リ出シ、政治的相剋ヲ促進スルコトニ依リ之ヲ分割シタノテアリマス。彼等ハ尠クトモ我カ「フ

イリピン」國民ヲ分割致シマシタ。又私ハ彼等カ中華民國ヲ分割シ、更ニ其ノ法制及ヒ主權下ニ在ル他ノ諸地域ノ國民ヲ分割シ、斯クノ如ク分割衰退セシメラレタル大東亞諸民族ヲシテ其ノ力ヲ結集シ、東洋ノ名譽ト尊嚴トヲ護ツテ奮起スルノ力ヲ喪ハシメタモノテアルコトヲ確信スルモノテアリマス。

第三ニ舉ケマス理由ハ、生レタハカリノ小國テアル「フィリピン」共和國ノ體驗ニ基クモノテアリマス。米英ハ次ノ如キ口實ヲ構ヘテ我等ニ對日憎惡ヲ鼓吹シタノテアリマス。即チ日本ハ征服慾ニ燃ユタ貪慾ニシテ帝國主義的ナル國家テアリ、權威、聲望ノ擴大ヲ望ム國家テアツテ、我々カ日本ト折衝スルニ於テハ搾取壓迫ハ免レサル所ナリト稱シタノテアリマス。日本ハ其ノ物心兩面ノ偉大ナルカト國民ノ團結トヲ有スルカ故ニ、之ヲ屈服セシメ得サル東洋ニ於ケル唯一ノ國家ナルコトヲ悟リマシタル西洋諸國ハ、外交的謀略ヲ以テ對日憎惡感及ヒ對日猜疑感ノ醸成ニ努メ、我等ヲシテ日本ハ我等ノ朋友同胞ニ非スシテ仇敵ナリト信セシメタノテアリマス。以上申述ヘマシタル所カ即チ大東亞各國民カ其ノ安寧、權威及ヒ名譽ニ關スル共通諸問題ヲ討議スル爲團結シ得ナカツタ理由テアルト私ハ考ヘルノテアリマス。

參加各國代表カ始メテ議長閣下ノ御招待ニ與リマシタル際、私ハ深キ感動ニ打タレタノテアリマス。閣下ノ茶會ヲ催サレマシタ空ニ入りマスヤ否ヤ、私ハ感涙頰ヲ傳フルト共ニ鼓舞セラレ且靈感ヲ受ケタノテアリマシテ、私ハ其ノ時「十億ノ東洋人、十億ノ亞細亞人ヨ、何故ニ御身等ノ多クハ米英ニ、殊更ニ米英兩國ニ斯クモ壓迫支配サレタノテアラウカ」ト叫ンタノテアリマス。從ツテ私カ小タル「フィリピン」共和國ヲ代表シテハルル會議ニ出席致シマシテ、大日本帝國ノ偉大ナル指導者ノ招請ニ應ジ參會セラレタル閣下各位ニ親シク御挨拶申上ケルコトノ出來マスル

コトハ洵ニ私ノ最モ誇リトシ且満足スル所ナリテアリマス。

私ハ議長閣下ノ申サレマシタコトヲ最モ注意深ク熱心ニ傾聴致シタノテアリマス。閣下ノ御許シヲ得マシテ其ノ一節ヲ引用シタイト思フノテアリマス。ソレハ日本ヲ指導者トシテ東洋民族、大東亞民族ノ行爲ヲ指導支配シ、戦争ノ完遂及ヒ共榮圈原則確立ノ日迄我等ヲ前進セシムヘキ根本的指導原理ヲ表示シテ居ルト考ヘラルルモノテアリマス。即チ閣下ハ『大東亞各國ハ互ニ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ、全體トシテ親和ノ關係ヲ確立スヘキモノテアリマス。相手方ヲ單ニ手段トシテ利用スル所ニハ、親和ノ關係ヲ見出スコトハ出來ナイノテアリマス。親和ノ關係ハ、相手方ノ自主獨立ヲ尊重シ、他ノ繁榮ニ依ツテ自ラモ繁榮シ、自他共ニ其ノ本來ノ面目ヲ發揮スル所ニノミ生シ得ルモノト信スルノテアリマス。』ト申述ヘラレタノテアリマス。

換言スレハ、大東亞共榮圈ハ之ヲ形成スル或ル一國ノ利益ノ爲ニ建設セラルルモノテハナイノテアリマス。閣下ノ御言葉ヲ藉レハ、大東亞共榮圈ノ確立ハ各構成國家ノ自主獨立ヲ認め、之ヲ尊重スルコトニ始マルノテアリマシテ、斯ク政治的獨立及ヒ領土主權ヲ承認スルコトニ依ツテ各國ハ各々獨自ノ制度ニ應ジテ發展ヲ遂ケ、而モ發展ノ結果生スル或ル國ノ繁榮ヲ或ル特定國カ獨占スルコトナク、全體ノ繁榮ハ各個ノ繁榮ヲ意味スルモ各個ノ繁榮ハ必スシモ全體ノ繁榮ナラサルノ理ニ基キ、一國ノ福祉ト繁榮トヲ他國ニ及ホスコトヲ以テ其ノ目的トスルモノテアリマス。

換言スレハ、共存、協力及ヒ共榮コソハ大日本帝國ニ依リ唱道セラレ大東亞共榮圈ノ他ノ諸民族諸國民ノ歸依スル神聖ナル理念ノ根柢ヲ爲スニ要道テアリマス。大東亞諸民族諸國民ヲシテ其ノ自然ノ生存權ヲ享受セシメンカ爲ニ、大日本帝國ハ此ノ聖戰ニ生命財産ノミナラス其ノ存立其ノモノヲサヘモ賭シテ居ルノテアリマス。日本ハ單ニ自國民

ノミナラス、大東亞全民族ノ爲ニ戦ヒツツアルノテアリマス。日本ハ獨リ自己ノミカ生存シ東亞ノ同胞カ滅ビ苦シムコトヲ幸福トスルモノテナイコトハ私ノ十分承知シテ居ル所テアリマス。日本ハ勿論生存スルコトヲ望ムテアリマセウ、併シ同時ニ日本ハ其ノ同胞タル東洋諸民族モ共ニ生存スルコトヲ冀フノテアリマス。日本モ、中華民國モ、「タイ」國、滿洲國、「ビルマ」國、印度、「フィリピン」國モ何レモ生存シ、斯クシテ我等ハ中華民國或ハ其ノ他ノ一國乃至一構成國ノ繁榮ヲ達成センカ爲努力ヲ拂フノテナク、全體ノ繁榮ヲ圖リ、更ニ國家ノ存在ニ必要ナル手段ヲ獲得センカ爲ニ努力シ、進ンテ再ヒ西洋諸國ノ支配ヲ受クルコトナク世界ニ於テ正當ナル地位ヲ占メ、國民ハ各自ノ法律及ヒ制度ノ下ニ幸福ニ生活シ、緊密堅固ニ結集シテ、亞細亞及ヒ亞細亞人ノ爲ノミナラス全世界ノ幸福ト福祉トニ寄與スルカ如キ共榮圈確立ノ爲ニ協力セントスルモノテアリマス。

總理大臣閣下ノ優レタル御演說中、私自身ノミナラス恐ラクハ此ノ席ニ招カレタル各位ノ爲ニモ、歸國後國民ニ本會議ノ成果ヲ報告シ之ヲ啓發スル爲ニ、茲ニ引用スルコトヲ御許シ願ヒタイト存スル一節カアリマス。ソレハ東洋的文化、即チ必要性極メテ大ナル東洋民族ノ精神化ニ關スルモノテアリマシテ、私ハ私自身ノ國ノ爲ニ必要トスルカ故ニ特ニ之ヲ引用セントスルモノテアリマス。即チ閣下ハ『由來大東亞ニハ優秀ナル文化カ存シテ居ルノテアリマス。殊ニ大東亞ノ精神文化ハ最モ崇高、幽玄ナルモノテアリマス、今後愈々之ヲ長養醇化シテ廣ク世界ニ及ホスコトハ、物質文明ノ行詰リヲ打開シ、人類全般ノ福祉ニ寄與スルコト尠カラサルモノアリト信スルモノテアリマス。』ト謂ハレテ居リ、斯カル文化ヲ有スル各國ハ相互ニ其ノ光輝アル傳統ヲ尊重スルト共ニ、各民族ノ創造性ト天性トヲ伸張シ、以テ大東亞ノ文化ヲ益々昂揚シナケレハナラナイコトヲ我等ニ教ヘラレタノテアリマス。斯カル精神化、優秀ナ

ル東洋的文化ノ精粹ハ我々カ認識保存シテ次代ヘ傳承スヘキモノテアルハカリテナク、閣下ノ述ヘラレマシタルカ如ク、根本觀念トシテ全東洋人ノ胸中深刻ミ込マルヘキモノテアリマシテ、殊ニ弱小ニシテ不幸ニモ多年ニ亘リ唯物の西洋諸強國ノ支配ト影響トノ下ニ苦惱シ、西班牙ノ治下ニ三百餘年、米國ノ治下ニ四十年呻吟シタル我カ國ノ如キ國民ノ銘記スヘキ所テアリマス。而シテ是即チ各國民、特ニ我カ國民ノ精神化ヲ必要トスル所以テアリマス。洵ニ我等各國ノ指導者タルモノハ各々其ノ教育制度ヲ全面的ニ改革シ、以テ國民ヲシテ東洋人トシテ感受シ、思惟シ且行動セシムルノ要カアルノテアリマシテ、恐ラク此ノコトハ日本カ大東亞各國民ノ精神化ヲ圖ラルル上ニ於テ最良ノ支援トナルテアリマセウ。

軍事の方面ニ關シマシテハ此ノ席ニ於テ私ノ發言ヲ俟ツ迄モアリマセン。日本軍カ今次戰爭ニ於テ窮極ノ勝利ヲ獲ルニ非スンハ我等ハ其ノ自由ヲ享受シ得ス、「ビルマ」國モ「フィリピン」國モ漸クニシテ與ヘラレタル自由ヲ樂シムコトハ出來ナイノテアリマスカラ、自明ノ理テアリマス。我々ハ以上ノ事實ヲ深ク認識シ、種々ノ困難ヲ忍ビツツ大日本帝國カ勝利ノ目的ヲ達成スル日迄堪ヘ進ム決意ヲ固メテ居ルノテアリマス。中華民國ノ戰、「タイ」國ノ戰、否自由ト自主トノ爲ノ大東亞全民族ノ戰モ一ニ懸ツテ日本ノ勝利ニ在ルノテアリマシテ、共榮圈ノ確立モ、大東亞諸民族ノ崇高ナル念願ノ達成モ、其ノ勝利ニ懸ツテ居ルノテアリマス。日本ノ勝利ナクシテ共榮圈ナク、我カ國乃至東亞ニ於ケル如何ナル國ノ自由モナイノテアリマシテ、東洋人ノ聲威ハ興隆スルコトナク、西洋諸強國ハ再び往昔ノ如ク我々ヲ支配シ、疲弊死ニ至ラシメントスルテアリマセウ。

此ノ機會ニ私ハ議長閣下ニ對スル私及ヒ我カ國民ノ支援ヲ誓約スルモノテアリマス。又各代表閣下ニ對シマシテハ

我カ國ノ同情ト協力トヲ誓フモノテアリマシテ、我カ國ハ未タ誕生早々ニシテ弱小テハアリマスカ、尠クトモ一千八百萬ノ「フィリピン」國民ハ激勵ト同情トヲ寄センコトヲ望ムモノテアリ、我カ國民ハ既往ニ於テ物質主義ニ支配セラレマシタカ、事態ノ推移ニ應シ眞ノ東洋的性格ノ自覺ニ目醒メ、神ノ與ヘ賜フ使命ヲ果ス責務ヲ有シテ居ルノテアリマス。

閣下、私ハ唯一ツノ目的ヲ胸中ニ藏シテ本會議ニ列シ得マシタコトヲ誇リトスルモノテアリマシテ、其ノ目的トハ世界ノ此ノ地域ニ於ケル有ラユル民衆ノ覺醒ニ些カ資スル所アラントスルコト是テアリマス。同時ニ又最近「フィリピン」人ニ與ヘラレマシタル獨立ノ榮譽、私ヲシテ本會議ニ參列シテ大東亞諸國民ノ優レタル代表各位ニ面接スルコトヲ可能ナラシメタル此ノ獨立ノ榮譽ニ對シ、茲ニ更メテ我カ國民ノ喜悅ト感謝ノ意ヲ表明セントスルモノテアリマス。

閣下並ニ各位、今日我々カ單ニ物心兩面ノミナラス現戰爭完遂ニ必要ナル有ラユル點ニ於テ團結シテ居ルカ如ク、今次戰爭カ大日本帝國ノ勝利ニ終リタル際ニ於テハ、現ニ互ニ乖離シ擲取ニ委ネラレ居ル五億ノ東洋人カ居住スル國、即チ中華民國カ、現在ノ如ク血ヲ流スコトナク幸福ニ結合セル中國トナリ、日本トノ協力ニ依リ世界ノ此ノ部分ヲ東洋人ノ安居樂業ノ地タラシムル爲ノ決定的要素トナルテアラウコトヲ私ハ切ニ希望スルモノテアリマス。今ヤ我々ハ、我々ノ天命盡キ彼ノ世ニ旅立ツ日カ參リマセウトモ、喜ンテ此ノ世ヲ去ルコトカ出來ルノテアリマス。何故ナラハ我々ハ我々ノ子孫カ再び西洋諸國ノ擲取支配ヲ受ケヌコトヲ十分承知シテ居ルカテアリマス。又私ハ、今ヤ「ボース」氏ノ有力ニシテ熱誠ナル指導下ニ在ル印度モ、再び英國ノ手ニ依リ宗教的政治的ニ分割支配セララルコト

ナク、三億五千萬ノ印度民衆カ再ヒ英國其ノ他如何ナル國ノ影響、壓制、抑壓ニモ禍ヒセラルルカ如キコトナキコトヲ望ムモノデアリマス。更ニ、「ビルマ」國、滿洲國、「タイ」國、中華民國並ニ他ノ大東亞諸國ト利害ヲ異ニスル所ナキ「ジャワ」、「ボルネオ」及ヒ「スマトラ」ノ諸民族ト協力シ、且日本ニ結ヒツキ、總テカ結集シ鞏固ナル組織體トシテ一致團結スルニ於テハ、如何ナル國ト雖モ、十億東洋人カ西洋ノ抑壓的干涉ヲ受クルコトナク自己ノ運命ヲ開拓セントスル自由ニシテ無碍ナル權利ト機會トヲ獲得セントスルコトヲ制止シ又ハ遲延セシムルコトハ不可能デアルトノ信念ヲ表明致シタイノデアリマス。

東洋ハ人類文明ノ搖籃デアリ、西洋ニ對シ其ノ宗教ト文化トヲ與ヘタノデアリマスカ、西洋ハ自己ノ文明ノ發祥地ノ人民ヲ搾取スル爲ニ其ノ同シ文明ヲ利用シタノデアリマス。無限ノ教智ヲ有シ給フ神ハ、日本ヲ見捨テ或ハ大東亞ノ諸國家ヲ見捨テ給フコトナカルヘク、必スヤ天降り來ツテ我等ト共ニ涙シ、我等ノ勇氣ヲ嘉シ給ヒ、我等ヲシテ我等自身ヲ解放スルノミナラス、我等ノ子々孫々ヲ自由、幸福且繁榮ナラシムコトヲ可能ナラシメ給フデアリマセウ。以上ヲ以テマシテ私ノ發言ヲ終ルコトト致シマスカ、御清聴ヲ煩ハシマシタコトニ對シ厚ク感謝スル次第デアリマス。

「ビルマ」國代表「バー・モー」內閣總理大臣演說

議長閣下並ニ各代表閣下、茲ニ卑見ヲ開陳スルニ當リマシテ、私ハ些カタメラヒヲ感スルモノデアリマス。蓋シ本會議ノ如キ場合ニ於テハ、我々一同ノ胸中ニハ唯一ツノ考ヘノミカアルコトハ寧ロ當然デアリマシテ、言ヒ現ハス言

葉ハ色々デアリマセウカ、我々ニハ同一ノ心、同一ノ意思、同一ノ目的カラ生レ出ル唯一ノ考ヘカアルノミデアリマス。從ツテ私ノ所見中ニハ既ニ各代表ニ依リ開陳セラレマシタ思想ナリ、感情ナリ、事實ナリカ屢々繰返サレルデアラウコトモ是亦當然ノコトデアリマス。併シ、ソレテモ私ハ其ノヤウニ繰返シ申述ヘルコトニ意義アリト考ヘルモノデアリマシテ、ソレハ蓋シ「ビルマ」國モ亦同一ノ考ヘヲ有スルコトヲ明カニシナケレハナラナイカラデアリマス。

或ル意味ニ於テ私ハ既ニ各代表カ述ヘラレマシタノト同シ言葉ヲ語り、同シ所見ヲ御傳ヘセンカ爲ニ本國ヨリ參ツタトモ申シ得ルノデアリマシテ、ソレハ結局我々一同カ同シ所見ヲ有シテ居ルカラデアリマス。此ノ席ニ起ツテ周圍ヲ眺メマストキ、私ノ胸ニ浮ンテ參リマスノハ過去ニ於テ政治情勢ノ然ラシムル所ニ依リ西洋ニ於テ出席ヲ餘儀ナクセラレタル諸會議ノ想出デアリマス。ナルホト此等ノ會議ニ於キマシテ千多數ノ人々カ相集ヒ、互ニ鄭重ニ取扱ヒ、談笑ヲ交シ、各種ノ事柄、就中天候其ノ他ニ付イテ論議致シマシタ、併シナカラ私ハ常ニ他處者カ他處者ノ中ニ在ル感シヲ免レルコトカ出來ス、恰モ古代羅馬ニ於ケル希臘人奴隸ノ如キ感ヲ懷クノカ常テアツタノデアリマス。

本日此ノ會議ニ於ケル空氣ハ全ク別箇ノモノデアリマス。此ノ會議カラ生レ出ル感情ハ之ヲ如何ヤウニ言ヒ現ハシテモ誇張シ過キルコトハアリ得ナイノデアリマス。多年「ビルマ」ニ於テ私ハ亞細亞ノ夢ヲ夢ニ見續ケテ參リマシタ。私ノ亞細亞人トシテノ血ハ常ニ他ノ亞細亞人ニ呼ビ掛ケテ來タノデアリマス。晝トナク、夜トナク、私ハ自分ノ夢ノ中テ亞細亞カ其ノ子供ニ呼ビ掛ケル聲ヲ聞クノヲ常トシマシタカ、今日此ノ席ニ於テ私ハ、始メテ夢ニ非サル亞細亞ノ呼聲ヲ現實ニ聞イタ次第デアリマス。我々亞細亞人ハ此ノ呼聲、我々ノ母ノ聲ニ應ヘテ茲ニ相集ウテ來タノデアリマス。私ハ此ノ議場ニ於テ述ヘラレマシタ各國代表閣下ノ所見ニ對シ滿腔ノ感動ヲ以テ耳ヲ傾ケタノデアリマ

ス。此等ノ所見ハ總テ記憶ニ留ムヘキモノテアリ、感動ニ滿チタモノチアリマシテ、稍誇大ニ言フコトヲ許サレルナ
 ラハ、私ハ其ノ中ニ子供ヲ呼ビ集メル亞細亞ノ聲ヲ聞クヤウナ氣カシタノテアリマス。何かトウテアラウトモ、各代
 表カ何ヲ述ヘラレヨウトモ、又如何ナル地方色カ加ヘラレヨウトモ、其ノ底ニ流レルモノハ唯一ツノ「聲」テアリマ
 シテ、有ラユル所見ヲ通シテ、ソコニハ企畫ト目的ト精神ノ統一カアリ、之ヲシモ私ハ我等ノ亞細亞ノ血ノ呼聲ト稱
 スルノテアリマス。今ヤ我々ハ心ヲ以テ考フル時期テハナク、將ニ血ヲ以テ考フヘキ時テアリ、私カハルハ「ビル
 マ」ヨリ日本ヘ參リマシタノモ此ノ血ヲ以テ考ヘル考ヘノ致ス所ナノテアリマス。

既ニ述ヘラレタル幾ツカノ記憶スヘキ演說中ニアツテモ、最モ牢記スヘキハ議長閣下ノ御所見テアリマス。議長閣
 下ハ常ノ如ク闊ノ演說ヲ行ハレマシタカ、本日ノソレハ闊ノ演說以上ノモノテアリマシテ、實ニ生躍スル演說テアリ
 マス。閣下ハ恰モ眞ノ武士カ其ノ武器ヲ選フカ如ク一語々々ヲ選定セラレ、其ノ言葉ヲ流線化シ、一ツノ究極目的ノ
 爲ニ配置セラレタノテアリマシテ、此ノ點ニ付キ私ハ代表各位ト共ニ議長閣下ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表明スルモノテ
 アリマス。

世界ノ動キノ速カナルコト洵ニ急湍ノ如キモノカアリマシテ、大東亞戰爭前ニ於テハ今日ノ如キ會合ハ到底考ヘ及
 ハナカツタ所ト思ハレマス。當時ニ於キマシテハ、亞細亞人カ今日ノ如ク一堂ニ會スルコトハ出來ナカツタノテアリ
 マス。ソレカ今ヤ我々ハ此處ニ斯ク相集ツテ居ルノテアリマス。私ノ心眼ニハ新世界ノ創造セラレ行クサマカサマ
 サト映シテ居リマス。私ハ議長閣下ノ御演說ノ中ニ、新シイ世界、亞細亞人ノ爲ノ亞細亞的世界ノ機構カ現實ニ形成
 サレツツアルノヲ見ル次第テアリマス。

僅々數年前ニ於キマシテモ、亞細亞人ハ互ニ分割疏隔セラレ、相互ニ識ラス、又之ヲ識ラウトスルコトモナク、恰
 モソレノ別箇ノ世界ニ住メルカ如キ感カアツタノテアリマス。當時ニ於テハ郷土トシテノ亞細亞ハ存在セス、亞細
 亞ハ「一」ニ非スシテ「多」テアリ、而モ亞細亞ヲ分割セル敵ト數ヲ同シウシ、亞細亞ノ大部分ハ此等敵國ノ何レカ
 ニ影ノ如クニ追隨シテ居ツタノテアリマス。

過去ニ於テ、我々ニトツテハ實ニ待遠シイ期間テアツタ過去ニ於テハ、今日我々カ一堂ニ會シテ居リマスマウニ、
 亞細亞ノ各國民カ會合スルコトハ到底考ヘラレナカツタノテアリマス。如何テセウ、其ノ不可能カ實現シタノテアリ
 マス。ソレモ我々ノ中ノ最モ大膽ナル夢想家テサヘモ夢想シ得ナカツタ形テ現實化サレタノテアリマス。

今日大東亞會議ハ東亞ノ首都ニ開催サレテ居リマス。斯クシテ新シイ世界、新シイ秩序、新シイ國籍カ生レタノテ
 アリマス。有史以來始メテ東亞ノ國民ハ、東亞ハ一ヒシテ分離スヘカラストイフ眞理ニ基ク、自由ニシテ平等ナル同
 胞トシテ、會合シテ居ルノテアリマス。

併シ、本日ノ東亞國民ノ會合ハ無カラ生シタノテハアリマセン。手品師ノ使フ空ノ帽子カラ突然飛ヒ出シテ來タモ
 ノテハアリマセン。東亞ニ於テ一ツノ世界ヲ滅シ他ノ世界ヲ創造シタ、長イ間ノ種々ノ事件ノ結果トシテ生レタモノ
 テアリマス。既ニ述ヘマシタ通り、此等ノ事件ハ非常ニ大キク又其ノ影響スル所ハ頗ル廣イノテアリマシテ、日本ニ
 依ル亞細亞指導權ノ把握、無敵日本軍ノ電撃的作戰ニ依ル東亞ノ席捲及ヒ反亞細亞勢力ノ擊擄、歴史ニ例ナキ日本ヲ
 中心トスル全東亞國民ノ共同ノ敵ニ對スル結集、更ニ亞細亞進展ノ一轉機ヲ劃スル「ビルマ」國及ヒ「フィリピン」
 國ノ獨立等々カ即チ之ニ該當スルモノテアリマス。實ニ未タ會テ之ヨリ偉大ニシテ重要ナル事件カ東洋ニ起ツタコト

ハナイノテアリマス。

一四六

私ノ所見ヲ之以上進メマス前ニ、他ノ代表カ既ニ述ヘラレタ考ヘテハアリマスカ、私ヨリモ一言述ヘタイト思ヒマス、蓋シ「ビルマ」國モ亦此ノ考ヘラ述ヘル光榮ヲ持ツヘキテアルカラテアリマス。

私カ既ニ申述ヘマシタ東洋ヲ全然變貌致シマシタ種々ノ事件ハ、日本ナクシテハ到底起リ得ナカッタモノテアリマス。我々多クノ者カ長イ間彷徨ヒ、救ヒヲ求メテ與ヘラレナカッタ荒野カラ我々ヲ救ヒ出シテクレタノハ東洋ノ指導國家日本テアリマス。全東亞ハ日本ニ負フ所實ニ多大テアリ、私ハ全東亞カ欣然トシテ日本ニ對シテ大ニ報ユル所ノアルコトニ付キマシテハ完全ナル確信ヲ有スルモノテアリマス。

私ハ敢テ申シマス。本日ノ會合ハ洵ニ意義深キ行事テアリマス。議長閣下ノ述ヘラレマシタルカ如ク、我々正義、平等、互惠ニ基キ、他ヲ生カシムルコトニ依リ、我モ亦生クトイフ大原則ノ下ニ新シイ世界ヲ創造シツツアルノテアリマス。有ラユル見地カラ見マシテ、東亞ハソレ自體一箇ノ世界ヲ成シテ居ルモノテアリマス。即チ物質的ニハ自給自足、否寧ロ溢フルルハカリニ豐テアリ、戰略的ニハ不敗ニシテ如何ナル敵ヲモ擊摧出來、精神的ニハ完成セラレタル「一」テアリ、自ラ別天地ヲ形成シテ居リマス。然ルニ我々亞細亞人ハ幾世紀モノ長イ間、以上ノ事實ヲ忘却シテ居ツタカ爲ニ、多大ノ損失ヲ蒙ツタノテアリマス。即チ其ノ結果亞細亞人ハ遂ニ亞細亞ヲ喪失スルニ至ツタノテアリマス。今ヤ、日本ノ御蔭ヲ以テ我々ハ以上ノ事實ニ氣カツキ、之ニ依ツテ行動ヲ開始シタ次第テアリマスカラ、亞細亞人ハ必スヤ亞細亞ヲ回復スルニ相違ナク、此ノ簡單ナル眞理ノ中ニ亞細亞ノ全運命カ横タハツテ居ルノテアリマス。

私ハ此ノ教訓ヲ非常ニ高價ナル代價ヲ拂ツテ得シタ國カラ參ツタ者トシテ所見ヲ述ヘテ居ルノテアリマス。多數ノ國家國民モ此ノ教訓ヲ得ル爲ニ苦イ目ニ遇ツテ來マシタ。「ビルマ」ニ付イテ申シマスレハ、我々ハ慈悲モ正義心モナイ敵ニ對シテ代價ヲ拂ツタノミナラス、今尙有ラユル形式ニ於テ、死ト破壊トノ代價ヲ拂ツテ居ル次第テアリマス。僅ニ一千六百萬ノ「ビルマ」人カ獨力テ國家トシテ生レ出ツル爲ニ鬪争シタトキハ、常ニ失敗ニ終リマシタ。何代ニモ互ツテ我々ノ愛國者ハ奮起シ、民衆ヲ率キ、打倒英國ニ邁進シタノテアリマスカ、我々カ亞細亞ノ一部ニ過キナイコト、一千六百萬ノ人間カ爲シ得ナイコトモ十億ノ亞細亞人カ團結スルナラハ容易ニ成就シ得ルコト、此等ノ基礎的事實ヲ認識スルニ至ラナカツタカ爲ニ、我々ノ敵ニ對スル有ラユル反抗ハ假借スル所ナク蹂躪サレタノテアリマス。斯クテ今ヨリ二十年前ニ起ツタ全國的叛亂ノ際ニハ、「ビルマ」ノ村々ハ燒キ拂ハレ、婦女子ハ虐殺サレ、志士ハ或ハ投獄サレ、或ハ絞殺サレ、又ハ追放サレタノテアリマス。併シナカラ、此ノ叛亂ハ敗北ニ終ツタトハ謂ヘ、此ノ火焰、亞細亞ノ火焰ハ「ビルマ」人全部ノ心中ニ燃エ續ケタノテアリマシテ、反英運動ハ次カラ次ヘト繰返ヘサレ、此ノヤウニシテ鬪争ハ續ケラレタノテアリマス。而シテ遂ニ、今日漸クニシテ遂ニ、我々ノ力ハ一千六百萬ノ「ビルマ」人ノ力ノミテナクシテ、十億ノ東亞人ノ力テアル日カ到來シタノテアリマス。即チ東亞カ強力テアル限り、「ビルマ」ハ強力テアリ不敗テアル日カ到來シタノテアリマス。

以上私ハ東亞ヲ全體トシテ所見ヲ申述ヘテ參リマシタカ、實ハ東亞ハ今尙全體トシテ纏マルニ至ツテハ居ラナイノテアリマス。我々ハ東亞國カ尙不完全テアリ、此處彼處ニ間隙ノアルコトヲ認メサルヲ得ナイノテアリマス。ソレハ特ニ印度ヲ意味シテ斯ク申上ケルノテアリマス。何人ト雖モ印度ヲ除外シテ東洋ヲ考ヘルコトハ出來ス、此ノ點ニ付

キマシテハ別ニ理由ヲ申述ヘル必要ハナイト思ヒマス。是迄私ハ屢々自由ナル印度ナクシテ自由ナル「ビルマ」ナシト申シテ参リマシタカ、今日私ハ一步ヲ進メマシテ、自由ナル印度ナクシテ自由ナル亞細亞ナシト率直ニ斷言致スモノデアリマス。

印度ハ亞細亞ニ於ケル反亞細亞侵略ノ武器庫デアリ、寶庫デアリ、足場デアリマス。故ニ侵略者ヲ印度カラ、此ノ無盡藏ノ寶物ヲ有シ、資源ヲ有シ、人力物力ヲ有スル印度カラ、放逐シナケレハナラナイデアリマス。我々ハ此等ノ印度ノ資源ヲ敵ノ手カラ奪ヒ取ラネハナラナイデアリマス。是即チ私カ印度ノ獨立ハ亞細亞ノ獨立ニ缺クヘカラスル要素デアリ、印度ノ鬭争ハ實ニ亞細亞ノ鬭争デアリ、我々ノ鬭争デアリ、我々ノ鬭争デアルト斷定スル私ノ所見ニ閣下各位カ御同感デアルコトヲ確信スル所以デアリマス。

私ハ、必スヤ、「スバス・チャンドラ・ボース」氏カ、私ノ所言カ些カノ誇張モナイ文字通りノモノデアリ、而モ絶對的信念ヲ以テ申述ヘテ居ルコトヲ御認メニナルモノト信シテ疑ヒマセン。

扱テ、次ニ大東亞戰爭及ヒ東亞的秩序ニ付イテ申述ヘタイト存シマス。實ハ此ノ點ニ付キマシテハ、代表各位カ既ニ述ヘラレタル所ニ對シ私ヨリ附加シ得ルコトハ殆ントナイデアリマスルカ、極メテ概念的ニ申上ケテ見タイト思ヒマス。我々ニトツテ今次ノ戰爭ハ絶體絶命ノモノデアリマス。東亞ハ此ノ戰爭ヲ勝チ拔キ永ラフルカ、然ラスンハ戰ヒ敗レ滅亡スルノ外ナク、他ニ選フヘキ途ハナイデアリマス。實ニ東亞ト東亞民族トニ取ツテハ生存其ノモノノ爲ノ戰デアリ、將來千年ニ亙ル東亞ノ獨立、平和竝ニ繁榮ノ爲ノ戰デアリマス。

現實ヲ勇敢ニ直視シテ見タラ如何ナル狀態デアリマセウカ、「ビルマ」ハ現ニ恐ルヘキ事實ニ直面シテ居リマス。

故ニ私モ率直ニ申述ヘテ居ルノデアリマスカ、同時ニ私ハ茲ニ代表セラルル全東亞各國ニ代ツテ述ヘテ居ルモノト信スルモノデアリマス。若シ東亞カ一體トナリ、強力トナリ、自給自足ノ境地ニ到達スルニ於テハ何事モ成ラサルハナク、十億ノ東亞民族カ結束シテ起ツトキハ、如何ナル戰、如何ナル平和ヲモ克チ得ルノデアリマス。

東亞ノ新秩序竝ニ經濟ニ關シテハ、既ニ申述ヘマシタル通り、私ハ議長閣下ノ明瞭ニシテ論議ノ餘地ナキ御聲明ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表スルモノデアリマス。議長閣下ハ其ノ獨自ノ勇邁ト決斷トヲ以テ、其ノ根本原則ハ正義、互惠竝ニ獨立及ヒ主權ノ相互尊重ナルヘキコトヲ宣言セラレマシタカ、右ハ洵ニ明瞭確乎タル御言葉デアリ、東亞憲章、即チ東亞ノ新秩序ノ存スル限り存續スル憲章トシテ、永遠ニ遺ルデアリマセウ。又、此等ノ諸原則ニ基礎ヲ置ク東亞ノ新秩序ハ、巖ノ如ク、永久ニ揺クコトナク存續スルデアリマセウ。此ノ東亞ノ新世界ハ、其ノ安定ノ爲必要トスル物質的條件ハ既ニ之ヲ具備シテ居リマス。曩ニ申述ヘマシタル通り、自然ハ我等ノ新世界ニ對シ物質的資源ヲ惜シミナク惠ンテクレテ居リマス。從ツテ、物質的ニハ我等ノ世界ヲ敵ニ對シ安定セル鞏固ナルモノト爲ス上ニ於テ、何ノ缺タル所モナイデアリマス。併シナカラ、右ヲ以テ十分ナリトハ絶對ニ言ヒ得ナイデアリマシテ、此ノ物質的結集ニ加フルニ、理解ト寛容トニ基キ、個ハ全體ノ爲ニシテ全體ハ個ノ爲ナリ、トノ根本意識ヲ基礎トスル精神の結集カナケレハナラナイデアリマス。即チ、個々ノ國家主義ト竝ンテモツト廣イ意味ニ於ケル國家主義カ必要デアリ、個々ノ領域的天地ト竝ンテ單一ノ東亞的天地ヲ必要トスルデアリマス。是ハ單ナル感情乃至言葉テハナク、我々ハ絶對ニ之ヲ完遂シナケレハナラス、然ラスンハ我々ハ雄圖ノ半ニシテ滅亡スルノ外ハナイデアリマス。

以上ハ現ニ我々ノ直面スル問題ニ對スル一般のノ見解デアリマス。代表各位カ強調セラレタルカ如ク、我々各國民

ハ各々獨自ノ道ヲ歩ミ、各獨自ノ軌道ヲ運行シ、各自ニ自強ノ途ヲ講スルノ要カアリ、先ツ自國ニ於テ各々善良ナル國民タルノ資格ヲ備ヘ、延イテハ善良ナル亞細亞人、善良ナル隣人トナラネハナラナイノテアリマス。今日迄ニ私カ屢々述ヘテ居リマス通り、「ビルマ」國ノ東亞ニ貢獻スル最善ノ途ハ強力ナル「ビルマ」國ヲ建設スルコトテアリマス。「ビルマ」國ノ力ハ即チ東亞ノ力ナノテアリマシテ、此ノコトハ亦中華民國、「タイ」國、滿洲國及ヒ「フィリピン」國並ニ最後ニ齊シク印度ニ付イテモ同様テアリマス。而シテ東亞ノ力ハ此等各國、即チ自由ニシテ平等ナル彼等自身ノ世界ニ於テ躍動シ、活動シ、且協力スル此等各國ノ個々ノ力ノ結集セラレタルモノテナケレハナラナイノテアリマス。

以上申述ヘマシタ東亞ノ原則ヲ現實ニ起リツツアル事態ニ適用シテ見タイト存シマス。私ノ祖國「ビルマ」國ニ付イテ述ヘマスレハ、御承知ノ通り「ビルマ」ハ實ニ大東亞戰爭ノ第一線テアリマス。トイフコトカ如何ナル困苦、如何ナル恐怖ヲ意味シ、如何ニ多數ノ人命及ヒ家庭力喪ハレ、今日生ケルモノカ明日ハ既ニ此ノ世ニ在ラサル状態ヲ意味スルモノテアルコトハ各位ノ能ク御承知ノ通りテアリマス。既ニ申述ヘマシタル通り、「ビルマ」國カ此等ノ慘禍ニ直面シテ居ルノハ、自國ノ爲ノミテハナク全東亞ノ爲テアリ、共同戦線ノ一部ヲ防衛スルコトニ依リ東亞ノ他ノ地域ノ防衛ニ當ツテ居ルノテアリマス。私ハ「ビルマ」國カ最後迄第一線ヲ守リ、通ステアラウコトヲ確言スルモノテアリマス。同時ニ私ハ他ノ大東亞各國カ、現ニ「ビルマ」ニ行ハレツツアル激戦ハ彼等自身ノ戰テアリ、此ノ戰ハ一體一家ノ原則ノ下ニ戰ハナケレハナラス、且大東亞ノ總力ヲ以テ戰ヒ拔カナケレハナラナイモノテアルコトヲ銘記セラレンコトヲ望ムモノテアリマス。我々ハ全大東亞防衛ノ爲、如何ナル國、如何ナル戦線ニ於テモ運用シ得ル如ク

全戦力及ヒ全資源ヲ結集シナケレハナラナイノテアリマシテ、換言スレハ東亞カ一體ナルカ如ク、其ノ努力、經濟及ヒ企畫モ一體テナケレハナラス、而モ物質的ニモ精神的ニモ一體テアルコトヲ要スルノテアリマス。萬一自己ノ爲ニ孤立主義ヲ採ルモノアラハ、ソレハ最大ノ裏切り行爲ト申スヘク、我々ヲ滅亡ニ導クモノニ外ナラナイノテアリマス。カ、何ヨリモ先ツ彼等孤立主義者自身カ破滅ニ陥ルコトテアリマセウ。繰返シ申述ヘマスレハ、「ビルマ」ハ今後モ東亞ノ第一線タルヘク、我々ハ亞細亞人トシテ、亞細亞ノ爲ニ、此ノ戰爭ヲ戰ヒ拔ク決心ヲ有シテ居リマス、ト同時ニ他ノ東亞各國モ之ニ倣ハンコトヲ當然期待スルモノテアリマス。

私カ「ビルマ」ノ戦況ニ付キ多クヲ語り過キタトセハ、各位ノ御寛恕ヲ請フ次第テアリマス。私カ自國ノ領域内ニ於テ現實ニ總力戰ニ從事シテ居ル國民ノ代表トシテ出テ來タモノテアルコトヲ御諒解願ヒタイノテアリマス。「ビルマ」國民カ現ニ第一線の状態ノ下ニ生活シテ居リ、其ノ家庭モ、生命モ、財産モ、其ノ他人生ニ價値アリト考ヘラレル總テノモノカ、日々敵ノ攻撃ニ曝サレテ居ルコトモ御諒解願ヘルコトト存シマス。是即チ私カ、忌憚ナク申セハ胸中ニ彈丸飛ヒ交フ火線ノ心情ヲ懷イテ此處ニ參ツタ所以テアリマス。「ビルマ」國民カ常ニ一大闘士テアツタコトハ、史上ニ明カナル所テアリマシテ、現在ノ「ビルマ」國民モ其ノ祖先名ヲ辱メヌモノナルコトハ私ノ確信シ得ル所テアリマス。今ヨリ二年前、我カ「ビルマ」ノ青年ハ武器ナクシテ戰ヒマシタ。武器ヲ獲ル爲ニハ先ツ敵ヲ斃サネハナラナカツタノテアリマス。我等ハ敢然トシテ之ヲ遣リ遂ケタノテアリマス。今日「ビルマ」國ニ於ケル士氣ハ頗ル旺盛テアリマシテ、何物ト雖モ之ヲ破ルコトハ不可能テアリマス。何故ナラハ總テノ「ビルマ」人ハ、己ノ貴シトスル總テノモノノ爲ニ戰ヒツツアルコトヲ知悉シテ居ルカラテアリマス。

私ハ東亞ノ一體タルヘキコト、此ノ戰爭ヲ東亞人トシテ借ニ戰ヒ、東亞人トシテ借ニ世界ヲ建設スヘキコトニ付イテハ既ニ十分ニ述ヘ盡シマシタ。我々ハ此ノ事業ノ正シキ端緒ヲ本會議ニ於テ開イタノデアリマス。併シナカラ、我々ハ單ニ此ノ事業ヲ續ケテ行クノミナラス、本日成功裡ニ開始セラレタル此ノ事業ヲ、大東亞戰爭ノ全作戰地域ニ及ホシ且將來ノ平和ノ爲ニ展開シテ行カナケレハナラナイノデアリマス。換言スレハ、東亞共同ノ運命ヲ綜合計畫化シテ導イテ行クヘキ、恒久的ナル東亞中央組織體ノ存在ヲ必要トスルノデアリマシテ、之ニ依リ始メテ我々ノ結集ハ現實化シ、效果的トナリ、平時ニモ戰時ニモ有力ナル武器トナルノデアリマス。此ノ組織體カ自由ニシテ平等ナル大東亞各國ヲ代表スルモノデアアルコトハ言フ俟タサル所デアリマス。故ニ途ハ自ラ明カデアリ、我々ハ今其ノ緒ヲ擱ンタハカリテアリマスカ、是カラ目的ニ向ツテ我々ノ前進カ開始サレル次第デアリマス。一度亞細亞民族カ結集シ、統一ト指導トヲ得ルトキハ、常ニ如何ナル世界ノ涯迄モ前進シ得ルモノデアアルコトハ歴史ノ示ス所デアリマス。

過去ニ於テ、東洋ハ一再ナラス其ノ敵ニ對シ進軍シ、之ヲ滅シタノデアリマスカ、唯、亞細亞人カ亞細亞ヲ忘却シタトキニ限り敵ニ敗レタノデアリマス。併シナカラ、今ヤ偉大ナル大日本帝國ノ御蔭ニ依リ、我々ハ再び亞細亞人タルノ自覺ヲ取戻シ、亞細亞ノ血ヲ再發見シタノデアリマシテ、此ノ亞細亞ノ血コソハ、亞細亞ヲ我々ノ手ニ回復セシムルモノデアリマス。今コソ我々ハ示サレタル途ノ最後迄進撃ヲ續ケヨウテハアリマセンカ。十億ノ東亞民族トシテ新シイ世界、我々東亞民族カ始メテ永遠ノ自由ト繁榮トヲ獲得シ、永住ノ地ヲ見出スコトノ出來ル新シイ世界ニ向ツテ進軍シヨウテハアリマセンカ。

滿洲國代表張國務總理大臣ノ此ノ種會議開催方希望ニ關スル發言

滿洲國代表ト致シマシテ、議長閣下竝ニ各代表閣下ノ御許シヲ得マシテ茲ニ一言述ヘサセテ戴キタイト思ヒマス。滿洲國代表ト致シマシテ一言述ヘタイト思ツテ居リマシタコトカアリマシタ處、只今發言ノ機會ヲ與ヘラレマシタコトヲ深く感謝致シマス。私ノ申述ヘタイトイフノハ、今次ノ大東亞會議ハ、大東亞建設ニ對シ多大ノ貢獻ヲ致シ、極メテ有意義且有益テアツタコトハ、各國代表ノ齊シク御認識セラレタル所ト確信致シマス。就キマシテハ、此ノ機會ニ於テ、私ハ此ノ種ノ會議カ將來ニ於テモ隨時今次ノ如キ形式ヲ以テ開催セラルルコトヲ希望スルモノデアアルコトヲ申述ヘテ置キタイト存シマス。

「ビルマ」國代表「バー・モウ」內閣總理大臣ノ自由印度

假政府支援ニ關スル發言

議長閣下竝ニ各代表閣下、今ヤ大東亞會議ノ主タル議事カ終結致シマシタルニ付キマシテハ、私ハ我々ヲ影ノ如ク追跡シ來ツタ我々ト不可分ノ問題ニ付キマシテ、各位ノ注意ヲ喚起致シタイト存シマス。ソレハ即チ印度問題デアリマスカ、本席上ニハ自由印度假政府首班閣下モ陪席シテ居ラレマスルノテ、本問題ニ關スル私ノ如何ナル發言モ閣下ノ御陪席ニ依リ十分裏書サレルモノト思料スル次第デアリマス。

私ハ昨日申述ヘマシタ私ノ所見ノ中ニ於キマシテ、印度ノ自由ナクシテ亞細亞ノ自由ナシト斷言致シマシタ。從ツ

テ、本日ハ此ノ所言ヲ論理的ニ展開スル義務カアルト考ヘルノテアリマス、議長閣下並ニ各代表閣下、「ビルマ」國代表テアル私ハ、印度問題ヲ論スルニ特ニ相應シキ地位ニ在ルモノテアルト考ヘマス、我カ友「ボース」氏モ亦發言ノ機會ヲ與ヘラレルヤニ承ツテ居リマスカ、然リトセハ同氏モ亦本問題ニ付キ所見ヲ述ヘラレルコトト存シマス、斯クテ今私カ申上ケヨウトスルコトハ、印度指導者テアル「ボース」氏ノ發言ニ對スル前置トモ申スヘキモノテアリマス。

「ビルマ」ハ印度問題ヲ語ルニ付イテハ特殊ノ地位ニ立ツテ居ルノテアリマス。一世代ニ互リ歴史ノ波ノ間ニ「ビルマ」ト印度トハ共ニ苦難ノ途ヲ歩イテ來タノテアリマス。有ラユル部面ニ於テ結ビツケラレタル我々ハ、共同ノ敵ニ對シ共同ノ戰ヲ續ケ來ツタノミナラス、目的ト行動ト目標トヲ常ニ一ニセサルヲ得ナカツタノテアリマス。私ハ「ビルマ」ノ政治的理念ト政治的手段乃至技術ノ大部分ハ、印度カラ教ヘラレタモノテアルト申シテ憚リマセン。「ビルマ」ハ過去ニ於テ宗教上ノ理念ヲ印度カラ受ケ容レタノテアリマスカ、私ハ自國民ノ指導者トシテ「ビルマ」ハ現在ニ於テ政治理念ノ大部分ヲ印度カラ受ケ容レテ居ルコトヲ認メルモノテアリマス。

「ビルマ」ト印度トハ久シキニ互リ、手ヲ携ヘテ相共ニ闘ハサルヲ得ナカツタノテアリマスカ、斯ク申シマスル私ノ言葉ノ眞ノ意味ヲ理解セラルル向ハ尠カラウカト存シマス。此ノ闘争タルヤ世界ニ於テ最モ強力且無慈悲ニシテ、最モ掠奪的ナル敵ヲ向フニ廻シタ戰テアリマシテ、實ニソレハ人ト銃トノ戰テアツタノテアリマス。而シテ常ニ銃カ勝利ヲ占メタコトハ勿論テアリマス。我々カ幾度厥起シマシテモ、銃ハ常ニ我々ヲ蹂躪シタノテアリマス。私ハ此ノ絶對的ニ優勢ナル敵トノ戰ノ中ニ於テ、現實主義者タルヘキコトヲ學ンタノテアリマス。即チ理念ニ付イテ、正邪ニ

付イテ、其ノ他有ラユルコトニ付イテ我々カ何ヲ言ハウトモ、最後ノ決ヲ下スモノハ、常ニカテアルトイフコトヲ學ンタノテアリマス。

我カ國民カ重ナル失敗ニモ懲リス、幾度カ起チ上ツタコトヲ誇リトスルモノテアリマス。併シ幾度厥起シテモ、常ニ武力ヲ以テ抑壓サレタノテアリマス。私ハ嘗テ英國ニ於テ或ル英國人ニ向ヒ、一千六百萬ノ武器ナキ人民ヲ抑壓スルコトハ容易テアルカ、若シ私ニ武器ヲ與ヘ、私ニ十萬ノ武装セル兵力ヲ與フルナラハ英國全體ヲモ倒シ得ルテアラウト申シタノテアリマスカ、不幸ニシテ銃ハ常ニ敵ノ手ニ在リ、我々ハ徒手空拳テアツタノテアリマス。

印度ト「ビルマ」トノ英國ニ對スル共同抗爭ノ實體ハ、一言ニシテ申セハ斯クノ如キモノテアツタノテアリマス。此ノ抗爭ト間斷ナキ革命ノ烽火ノ中カラ、偉大ナル人物カ、私心ナキ人物カ、而シテ指導者達カ現ハレタノテアリマシテ、彼等ハ其ノ生命、其ノ地位ヲ初メ、其ノ有スル總テヲ母國ノ爲ニ捧ケタノテアリマス。其ノ偉大ニシテ世界ニ存在ヲ認メラレタ指導者ノ中ノ一人カ、此處ニ陪席シテ居ラレマスル「スパス・チャンドラ・ボース」氏ニ外ナラナイノテアリマス。

「ボース」氏ニ關スル數々ノ物語ハ、我々ノ夙ニ傳ヘ知ツテ居ル所テアリマス。即チ「ボース」氏コソハ印度、割キ破カレ、割キ分ケラレツツモ尙且解體スルコトナク存續スル、偉大ナル悲劇ノ國印度ノ復活ト革命トノ精神ヲ象徴セラルル人物テアリマス。而シテ今ヤ「ボース」氏カ我々ト共ニ在ツテ其ノ抗爭ヲ續ケンテ準備セラレ居リ、而モ今ヤ印度民衆ノミナラス、東亞十億ノ民族ヲ背後ニ控ヘテ起タントセラレツツアルコトハ洵ニ喜ハシキコトト謂ハサルヲ得ナイノテアリマス。私ハ茲ニ自由ナル印度ナクシテ自由ナル亞細亞ハ存在シ得ナイコトヲ重ネテ強調シタイト思

ヒマス。私ハ文字通りノコトヲ申述ヘテ居ルノテアリマシテ、願レハ過去百年間、英國ハ印度ノ力ト、印度ノ資源トヲ以テ、西ハ「アデン」ヨリ東ハ「新嘉坡」、香港ニ亙ツテ、其ノ植民政策ヲ遂行シテ來タノテアリマシテ、英國カ其ノ掠奪ニ依ル帝國ヲ建設シ得タノモ、外敵ノ脅威ニ遇フヤ常ニ之ヲ防禦シ得タノモ、全ク印度ノ人カト資源トノ御蔭ニ依ルモノニ外ナラナイノテアリマス。

私ハ「ビルマ」ノ經驗ニ基イテ申述ヘテ居ル次第テアリマス。英國ハ其ノ傳統的的政策ニ遵ヒ、印度ノ兵隊ヲ以テ「ビルマ」ト戦ヒ、以テ「ビルマ」ヲ滅シタノテアリマス。即チ彼等ノ常套手段タル、我々東亞民族ノ戰鬥力ヲ以テ戰爭ヲ遂行スル例ニ倣ヒ、印度人ヲ用ヒテ「ビルマ」ト戦ヒ、「ビルマ」ヲ滅シタノテアリマス。此ノ度ノ世界大戰ニ於キマシテモ、英國ハ恐ラク「ソヴィエト」人、佛蘭西人、亞米利加人及ヒ印度人ノ最後ノ一人迄動員シテ戦フテアリマセウカ、英國自身ハ其ノ人カト資源トノ浪費ヲ最少限ニ止メルトイフ其ノ傳統的的政策ヲ守ルコトテアリマセウ。英國ハ此ノ政策ヲ忠實ニ踏襲シ、印度ノ力ヲ用ヒテ「ビルマ」ニ來リ、「ビルマ」ヲ見、而シテ「ビルマ」ヲ征服シタノテアリマス。既ニ申述ヘマシタ通り英國ハ何處ニ於テモ同様ノコトヲ行ツテ來タノテアリマシテ、ソレハ印度カ亞細亞ノ要塞テアリ、英帝國ハ印度ヲ中心トシテ亞細亞ヲ右ニ左ニ放射線的ニ形成セラレタモノテアルカラテアリマシテ、實ニ印度コソハ英國帝國主義ヲ可能ナラシメ且英國植民政策ノ道具テアツタノテアリマス。

以上ニ依リ各位ハ貪慾ナル英帝國ヲ倒シ、反亞細亞的ナル帝國主義ヲ倒サント欲セハ、亞細亞ニ於ケル其ノ要塞テアル印度ヨリ英國ヲ驅逐シナケレハナラヌト申ス私ノ言葉ヲ了解セラルルコトテアリマセウ。洵ニ印度ニ對スル英國ノ支配ヲ打破ラサル限り英帝國ノ解體ハ望ミ得ナイノテアリマス。

私ハコレ以上言葉ヲ費サウトハ思ヒマセン。本席ハ論議スヘキ場所テハナイノテアリマス。印度ノ偉大ナル指導者「ボース」氏ハ印度問題ニ付イテ例ニ依リ明快ニ而モ力強く述ヘラレルコトテアリマセウ。私ノ申シマシタ所ハ豫メ御斷リ致シマシタ通り其ノ前置ニ過キス、唯私ハ茲ニ我々ハ印度ノ獨立ニ對シ、又自由印度假政府首班トシテ印度ノ獨立ヲ目指シ、他日印度獨立軍ト共ニ「デリー」ニ入城シ印度ヲ解放セント準備セラレツツアル「スバス・チャンドラ・ボース」閣下ニ對シ、完全ナル支援ヲ與フルモノナルコトヲ嚴肅ニ宣言センコトヲ本會議ニ提唱スルモノテアリマス。

自由印度假政府「ボース」首班ノ發言

議長閣下、閣下竝ニ各位、此ノ歴史的會議ニ陪席者トシテ出席スルコトヲ許サレマシタルコトハ、私及ヒ私ノ同僚ノ光榮且恩惠トスル所テアリマシテ、茲ニ其ノ御厚意ニ對シ自由印度假政府ヲ代表致シマシテ深甚ナル感謝ノ意ヲ表スル次第テアリマス。殊ニ閣下各位カ其ノ御所見中ニ表明セラレマシタル深キ御同情竝ニ我々ノ將來ニ對シ協力援助ヲ確約セラレマシタルコトニ對シマシテ、私ハ衷心ヨリ感謝ヲ捧クルモノテアリマス。更ニ又「ビルマ」國代表閣下御提議ノ下ニ、全會一致ヲ以テ採擇セラレマシタル決議ニ對シマシテモ滿腔ノ謝意ヲ表スルモノテアリマス。議長閣下、此ノ決議ハ此ノ殿堂ノ壁ヲ越エテ遙カ我カ同胞幾億ニ希望ト激動ト感激トヲ齎スト同時ニ、心疚シキ所アル總テノ者ノ胸中深ク恐怖ヲ與フルモノナルコトハ、私ノ信シテ疑ハサル所テアリマス。

我々自由印度假政府竝ニ其ノ指導下ニ在ル總テノ者ハ將ニ米英帝國主義ニ對シ最後ノ決戰ヲ開始セントシテ居ルモ

ノテアリマシテ、我々ノ背後ニハ嘗ニ無敵日本ノ強キカノミナラス東亞ノ解放セラレタル各國民ノ總意ト決意アリトノ自覺ノ下ニ、今ヤ我々ハ不俱戴天ノ仇敵擊滅ニ進軍セントシテ居ル次第デアリマス。

議長閣下、私カ昨日及ヒ本日此處ニ在ツテ此ノ大會議ノ議事ヲ傾聴致シテ居リマス際、私ノ眼前ニハ「パノラマ」ノ如ク世界ノ歴史カ去來シタノデアリマス。私ハ過去百餘年間ニ開催セラレマシタ數多ノ國際會議ヲ回想シタノデアリマス。即チ「ナポレオン」帝國没落後一八一五年ニ開催セラレタル維納會議、「クリミア」戰爭後一八五六年ニ開催セラレタル巴里會議、「ベルカン」ニ於ケル露土戰爭後一八七八年ニ開催セラレタル柏林會議、前世界大戰ノ終決ヲ告ケタル一九一九年ノ「ヴェルサイユ」講和會議、太平洋及ヒ極東ニ於ケル米英ノ支配ヲ確保センカ爲一九二二年ニ開催セラレタル華府會議及ヒ獨逸國民ノ手足ヲ巧ミニ永久ニ拘束スヘク一九二五年ニ開催セラレタル「ロカルノ」會議ニ想ヲ馳セ、更ニ又、嘗テ私カ印度ノ自由ノ爲ノ叫ビニ耳ヲ傾クル者ヲ求メテ久シク其ノ堂内ヲ彷徨シタコトノアル彼ノ國際聯盟ノ會議ヲ想起シタノデアリマス。

而シテ更ニ此ノ歴史の會議ノ議事ヲ聽キツツ、私ハ此ノ會議ト嘗テ世界史上ニ現ハレタル類似ノ諸會議トノ間ニ、如何ニ懸隔アルカニ想ヲ致シタノデアリマス。

議長閣下、本會議ハ戰勝者間ノ戰利品分割ノ會議テハナイノデアリマス。ソレハ弱小國家ヲ犠牲ニ供セントスル陰謀、謀略ノ會議テモナク、又弱小ナル隣國ヲ瞞着セントスル會議テモナイノデアリマシテ、此ノ會議コソハ解放セラレタル諸國民ノ會議デアリ、即チ正義、主權、國際關係ニ於ケル互惠主義及ヒ相互援助等ノ尊嚴ナル原則ニ基イテ世界ノ此ノ地域ニ新秩序ヲ創建セントスル會議ナノデアリマス。私ハ斯カル會議カ此ノ日出ツル國ニ開催サレタノハ偶

然ノ事テハナイト考ヘルモノデアリマス。蓋シ世界カ光明ト指導トヲ東洋ニ求メタルコトハ之ヲ以テ嚆矢トハシナイカラデアリマス。世界新秩序建設ハ、既往ニ於テ且他ノ地域ニ於テ、一再ナラス試ミラレ來ツタノデアリマスカ總テ失敗ニ終ツタノデアリマス。ソレハ全ク新秩序創建ノ指導的立場ニ立ツヘキ者ニ利己慾、貪婪及ヒ猜疑心カアツタカ爲デアリマス。故ニ茲ニ世界カ再ヒ光明ヲ東亞ニ仰カナケレハナラナイコトニ立至ツタノハ洵ニ當然ノ理デアリ歴史の必然ナノデアリマス。

議長閣下、自由ニシテ繁榮ニ充チタル新東亞ノ建設ニ當リ、日本國政府竝ニ國民カ指導的役割ヲ努ムヘキコトハ歴史上定メラレタル所デアルコトヲ私ハ信スルモノデアリマシテ、日本國政府竝ニ國民ノ斯カル使命ハ夙ニ一九〇五年ニ亞細亞ノ一國カ西洋ノ侵略ニ抗シテ驟起シタル時ニ青史ニ鏤刻セラレタノデアリマス。

今日迄ニ屢々申シタルコトノアリマス通り、當時我カ國ヨリ遙カ彼方ニ於テ生起シツツアツタ種々ノ事件ニ對シ、幼少テアツタ私及ヒ幾億ノ我カ老幼印度同胞カ如何ニ歡喜ト熱情トヲ注イタカハ今尙私ノ記憶ニ新タナルモノカアリマス。是ハ印度人、印度兒童ノミナラス世界ニ散在スル全亞細亞人ノ經驗シタ所デアルト信スル次第デアリマス。爾來亞細亞民族ハ結集セル亞細亞、自由ナル亞細亞ヲ夢見タノデアリ、我々印度民衆モ亦一九〇五年以來之ヲ憧憬シ來ツタノデアリマス。其後、特ニ前世界大戰以後、斯カル夢想ナリ思想ナリハ汎亞細亞聯盟ノ形ニ於テ具體化シタノデアリマス。

其ノ後二十餘年ニ互リ印度民衆カ不斷ニ汎亞細亞聯盟ヲ思慕憧憬シ來ツタコトハ何人ニ取ツテモ驚クニ當ラナイ所ト考ヘテレルノデアリマシテ、是ハ全ク既往ノ傳統及ヒ文化ニ合致スルモノナノデアリマス。

閣下各位ノ既ニ御承知ノ如ク元來印度思想竝ニ文化ハ普遍主義ヲ以テ其ノ特色トスルモノテアリマシテ、遠キ昔ニアツテハ印度ハ佛教及ヒ之ヲ中心トスル有ラ、爾文化ヲ通シ全亞細亞ニ光被シ、次イテ回教勢力カ印度ニ達シタルトキニ於テモ、普遍主義の傾向ハ依然存續スル一方回教ヲ通シテ西亞細亞ト新タニ紐帶ヲ結ンタノテアリマス。

併シナカラ、悲シムヘキコトニハ中世紀ニ入ツテ、印度ハ謬マレル普遍主義ヲ發展セシメ、其ノ結果歐洲列國ノ印度侵入ヲ招來シ、遂ニハ容易ニ印度征服ヲ成シ遂ケシメタルコトヲ茲ニ告白シナケレハナラナイノテアリマス。併シ我々ハ斯カル悲哀、苦惱及ヒ屈辱ヲ通シテ、今ヤ眞ノ國際主義ト謬マレルソレトヲ判別スルコトヲ知得シタノテアリマシテ、今コソ我々ハ國家主義ヲ無視セス、却テ深ク之ニ根サシタル國際主義カ眞ノ國際主義ナルコトヲ識ツタノテアリマス。

我々ハ又歐洲其ノ他ノ地域ニ於テ再三行ハレタル國際新秩序建設ノ試ミヲ多大ノ興味ヲ以テ研究シ、斯カル試ミ及ヒ其ノ終局ノ失敗カラ多ク學フ所カアツタノテアリマス。從ツテ我々ハ斯カル企圖ニ付イテハ遙カニ賢明トナツテ居ルノテアリマシテ、今ヤ諸國家間ノ國際的結集ノ創建ハ私ノ所謂地域の聯盟、例ヘハ大東亞共榮圈ノ如キモノノ建設ヨリ始メルトキニ於テノミ可能ナリト確信スルモノテアリマス。

議長閣下、私ハ茲ニ、大東亞共榮圈ノ建設ハ單ニ東亞民族ノミナラス、謂フヲ得ヘクンハ全亞細亞民族竝ニ全人類ニ取ツテ重大關心事タルコトヲ指摘致シタイノテアリマス。

私ハ「アフガニスタン」ヨリ「チュニス」、「アルジェリア」及ヒ「モロッコ」ニ跨カル地域ヲ親シク識ルモノテアリ殊ニ右地域ニ住ム被抑壓國民ト個人的接觸ヲ有スルモノテアリマスカ、實ハ印度ハ久シキニ互リ東亞ト西亞トヲ結

フ橋梁テアツタノテアリマス。從ツテ西亞、即チ「アフガニスタン」ヨリ「アルジェリア」及ヒ「モロッコ」ニ至ル地域ノ諸國民カ東亞ノ諸事象ヲ深甚ナル關心ヲ以テ注視シテ居ルコトハ私ノ確言シ得ル所テアリマス。殊ニ私ハ多年英國ノ帝國主義ノ專制、支配、抑壓ノ下ニ呻吟シ來レル西亞及ヒ阿弗利加ノ民族ニ付キ謂ハントスルモノテアリマスカ、尠クトモ此等諸民族ノ將來ノ解放ハ日本及ヒ其ノ與國カ今次戰爭ニ勝利及ヒ成功ヲ克チ得ルヤ否ヤニ懸ル所大ナリト謂ヒ得ルノテアリマス。印度ヨリ英米帝國主義ヲ拂拭スルニ非スンハ、抑壓セラレタル回教國民カ英國ノ桎梏ヲ脱シ、喪ハレタル自由ヲ克復スルコトハ至難テアリマシテ、恐ラクハ不可能トモ謂ヒ得ルノテアリマセウ。大東亞共榮圈ノ確立ハ汎亞細亞聯盟ヘノ道ヲ拓クモノテアリマシテ、更ニ亞細亞人ノ爲ノ亞細亞、換言スレハ全亞細亞共榮圈ノ確立カ究極ニ於テ世界聯盟ヘノ途、即チ壽府ニ於テ見ラレタルカ如キ強奪者ノ聯盟ニ非スシテ、眞ノ國家共同體ヘノ途ヲ拓クモノテアルコトハ私ノ微塵モ疑ハサル所テアリマス。

議長閣下、併シナカラ總テ斯カル新世界、新亞細亞、自由ニシテ繁榮ナル新大東亞ノ理想ノ達成ハ一ニ懸ツテ我々カ現戰爭ニ勝利ヲ占メ得ルヤ否ヤニ在ルトイフコトハ忘レ得ナイ所テアリマシテ、印度ノ關スル限り我等ノ運命ハ今次戰爭ニ於ケル日本及ヒ其ノ與國ノ運命ト不可分關係ニ在ルノテアリマス。萬一我カ與國カ没落スルコトアラハ、印度ハ尠クモ向後百年間ハ自由ヲ得ル望ミハナイテアリマセウ。併シナカラ今次戰爭ニ當リテハ神龍我ニ在ルノテアリマス。而シテ斯カル國際的危機ヲ生涯賭ケテ待望シ來タレル我々印度民衆ハ此ノ好機ヲ徹底的ニ利用シ、最後のナル祖國解放ヲ達成セント決意シテ居ルモノナルコトヲ、茲ニ私ハ議長閣下竝ニ閣下各位ニ確言スル次第テアリマス。印度ニ取リマシテハ英帝國主義ニ對スル徹底的の抗争以外ニ途ハナイノテアリマス。假令他國ハ英國トノ妥協ヲ考慮シ得

ルト致シマシテモ勢クトモ印度民衆ニ取ツテハ斯カルコトハ全ク問題ニナラナイノテアリマシテ、即チ對英妥協ハ奴隸化トノ妥協ヲ意味スルモノテアリ我々ハ斯カル奴隸化トノ妥協ハ決シテ之ヲ行ハサル決意ヲ有スルモノテアリマス。

故ニ我々ハ今後如何ナルコトカ起ラウトモ、又其ノ闘力如何ニ長期且困難ヲ極メヨウトモ、更ニ又闘争ニ伴フ苦惱及ヒ犠牲力如何ナルモノナルニセヨ、我等ノ究極ノ勝利ヲ確信シ、英刺ノ途ヲ最後迄戦ヒ抜ク決意ニ燃ユルモノナルコトヲ、閣下各位ニ對シ確約致シタイノテアリマス。併シ私ハ我々ノ前途ニ横タハル事業ノ重大サヲ輕視スルモノテモナケレハ、敵ノ戦力ヲ過小評價スルモノテモアリマセン。私ハ五歳ノ幼時ヨリ英國人ヲ熟知シテ居ルモノテアリマス。彼等ヲ斯ク熟知シ、印度ニ於ケル敵ノ力ト弱點トヲ識ルカ故ニ、私ハ究極ニ於テ勝利者タルコトヲ確信スル次第テアリマス。

併シナカラ我々ハ自由獲得ノ爲ニハ當然其ノ代價ヲ支拂ハナケレハナラナイノテアリマス。印度ニ取りマシテ此ノ問題ハ閣下各位ニ對スルトハ全ク趣ヲ異ニスルノテアリマス。閣下各位ハ聽テ敵力加ヘ來ルヘキ攻撃ヲ排除シ、現ニ保有セラルルモノヲ確保シ、各位自身ノ自由ヲ保持セラルレハ足ルノテアリマス。印度民衆ハ更ニ戦ヒ、己カ自由ヲ戦ヒ取ラナケレハナラナイノテアリマス。故ニ茲ニ繰返シ申述フレハ我々ハ決ジテ我々ノ前途ニ横タハル事業ノ重大サヲ輕視スルモノテハナイノテアリマス。洵ニ、私カ此ノ席上ニ在ツテ新東亞、新亞細亞、新世界ヲ想像致シテ居リマス間ニモ、胸中ニハ聽テ我々カ印度ノ國域或ハ平原ニ於テ戦フヘキ數々ノ戰鬪ノ場景カ彷彿致スノテアリマス。彼ノ強力ニシテ假借ナキ敵トノ戦ニ赴クモノノ中、又我カ印度國民軍將士ノ中ノ幾何カ來ルヘキ戦ニ生キ残り得ル

ヤヲ豫想スルコトハ出來ナイノテアリマス。我等個々ノ生死、戦ニ勝チ残り印度ノ自由ヲ目撃シ得ルヤ否ヤハ我々ノ意トスル所テハナイノテアリマシテ、我々ノ重大關心事ハ印度カ自由ヲ獲得シ、印度ヨリ英米帝國主義ヲ驅除シ、現ニ東亞全域ニ低迷スル脅威ヲ永久ニ芟除スルコト、其ノコトニ在ルノテアリマス。

議長閣下、私ハ多クノ人々カ英國及ヒ其ノ與國ノ實力ニ關シ誇張セラレタル觀念ヲ有シテ居ルコトヲ承知シテ居リマス。先刻申述ヘマシタ通り我々ハ英國人ヲ熟知シテ居リマス。我々ハ彼等ノ長所短所ヲ熟知シテ居リマス。故ニ、前途ニ横タハル困難深刻ナルヘキ闘争ヲモ樂觀的氣持ヲ以テ待チ設ケテ居ル次第テアリマス。日本ノ如キ無敵ノ友ニ支援セラレ、閣下各位ノ寛大ナル支援ノ御言葉ヲ得タル以上、我々ハ我々ノ解放ノ日近キコトヲ確信シテ戰場ニ赴カントスルモノテアリマス。

閣下各位、正義、主權、互惠及ヒ相互援助ノ至高原則ニ基ク新秩序創建ノ事業ヲ始メラルルコトニ依リ各位ハ人類ノ考ヘ得ル最モ崇高ナル事業ヲ遂行セラレツアルノテアリマシテ、茲ニ私ハ各位ノ崇高ナル御努力カ成功ノ榮冠ヲ克チ得、岡倉覺三及ヒ孫逸仙ノ理想カ實現ニ移サレンコトヲ祈ルト共ニ、更ニ、本日午後此ノ歴史の會議ニ於テ滿場一致ヲ以テ採擇セラレタル大東亞共同宣言カ東亞各國民ノ憲章テアリ、更ニハ全世界ノ被抑壓國民ノ憲章タランコトヲ祈ル次第テアリマス。本大東亞共同宣言カ本年以後自由ノ新憲章トシテ世界史上ニ遺ランコトヲ祈念シテ已マナイ次第テアリマス。

議長閣下、閣下各位ニ帝國政府カ我々ニ對スル誠心誠意ヲ最モ雄辯ニ證據立テラレタル崇高ナル態度ニ對シ、茲ニ私ハ衷心ヨリ敬祝ノ意ヲ表セントスルモノテアリマス。日本ハ「ビルマ」國及ヒ「フィリピン」國ニ對シ獨立ヲ許與

シ、人類全人口ノ約五分ノ一ヲ代表スル自由印度假政府ヲ承認シ、更ニ中華民國トノ間ニハ最モ榮譽アル條約ヲ締結セラレタノテアリマス。而モ尙最モ重視スヘキハ、日本ハ有力ニシテ假借ナキ敵國ト生死ノ戰ヲ行ヒツツアル一方ニ於テ、着々トシテ再建ノ事業ニ邁進セラレツツアルコトテアリマシテ、私ハ日本ノ新自由亞細亞創建ノ使命カ十二分ニ完遂セラレンコトヲ祈ル次第テアリマス。終リニ臨ミ、私ノ希望スルカ如ク閣下竝ニ閣下ノ優レタル同僚各位カ此ノ使命ヲ達成セラレタル曉ニ於テハ、各位ハ嘗ニ新日本ノ建設者、新東亞、更ニ新亞細亞ノ建設者トシテノミナラス、實ニ新世界ノ創造建設者トシテ、永ク其ノ名ヲ青史ニ止メラルルテアラウコトヲ私ハ確信スルモノテアリマス。

日本國代表東條內閣總理大臣ノ「アングマン」諸島及

「ニコバル」諸島歸屬ニ關スル發言

只今印度ノコトニ付キマシテ、「ベルマ」國代表閣下竝ニ自由印度假政府首班閣下カラ御發言カアリマシタ。之ニ關聯致シマシテ此ノ際帝國代表ト致シマシテ發言致シタイト存シマス。

印度四億ノ民衆ノ宿望テアリマスル自由、獨立及ヒ繁榮ノ獲得ノ爲ニ、自由印度假政府ノ下ニ憂國ノ印度人ハ起テ上リ、其ノ印度ヲ思ヒ、亞細亞ヲ思フ熱情ノ切々タルモノカアリマスルコトハ、只今自由印度假政府首班閣下ノ御演說ニ於キマシテモ、之ヲ明カニセラレタ所テアリマシテ、印度ノ爲、將又大東亞ノ爲洵ニ力強キ限リテアリマス。

帝國ハ印度ヲ米英ノ桎梏ヨリ解放シ、其ノ宿望達成ノ爲ニ、有ラユル支援ヲ送ルノ熱意ヲ有シマスルコトハ、累次

ノ聲明ニ依ツテ明カナル所テアリマスルカ、自由印度假政府ノ基礎愈々確立シ、同政府ノ下ニ蹶起セル同士ノ初志貫徹ノ氣魄烈々トシテ、結束頓ニ鞏固ヲ加フルノ現状ニ鑑ミマシテ、茲ニ印度獨立ノ第一階梯トシテ、帝國政府ト致シマシテ、目下帝國軍ニ於テ占領中ノ印度領元アリマスル「アングマン」諸島及ヒ「ニコバル」諸島ヲ、近ク自由印度假政府ニ歸屬セシムルノ用意アル旨ヲ本席上ニ於テ闡明致ス次第テアリマス。

「萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンセシムル」帝國肇國ノ大理想ハ、着々トシテ具現セラレテ參ツテ居ルノテアリマス。此ノ機會ニ、帝國ハ愈々印度獨立ノ爲ニ全幅ノ協力ヲ致ス決意ヲ更ニ鞏固ニ致シマスルト共ニ、印度ノ人々ノ一層ノ奮起ヲ切望シテ已マナイモノテアリマス。而シテ大東亞ノ各國ハ、帝國ト其ノ志ヲ同シウシテ印度獨立ノ爲ニ最善ノ力ヲ致シ、之カ支援ヲ送ラレツツアリマスルコトハ、昨日及ヒ本日、本會議ノ席上ニ於キマシテ各國代表閣下ヨリ烈々タル御意見トシテ之ヲ承ツタノテアリマシテ、私ハ洵ニ力強ク存シテ居ル次第テアリマス。

而シテ私ハ此ノ上トモ更ニ印度獨立ノ爲ニ強力ナル御支援ヲ賜ハラントヲ確信シ、且切望致ス次第テアリマス。

日本國代表東條內閣總理大臣閉會ノ挨拶

茲ニ議長及ヒ帝國代表ト致シマシテ閉會ノ御挨拶ヲ申述ヘタイト思ヒマス。

本會議ニ列席ヲ賜ハリマシタ各國代表閣下ニ於カレマシテハ、本會議兩日ニ互リマシテ、終始最モ眞剣ニ、而モ極メテ友好的ナル氣圍氣ノ中ニ、議題ノ審議ヲ遂ケラレマシテ、其ノ間ソレソレ本國政府ノ高邁ナル見解ヲ率直ニ、力

強ク闡明セラレクノテアリマス。斯クノ如キハ東亞ノ歴史ニ、否人類ノ歴史ニ、始メテ見ル盛觀テアリマシテ、全世界ノ視聽カ舉ケテ此ノ會議ニ集注セラレマシタコト亦當然ト存スル次第テアリマス。是本會議ノ成果ノ第一點テアリマス。

次ニ斯クノ如キ隔意ナキ意見交換ノ結果、關係各國ノ大東亞戰爭完遂ノ決意竝ニ大東亞ノ建設、延イテハ世界平和ノ確立ニ對シマスル理想ト熱意トハ、其ノ根本ニ於テ完全ニ一致スルモノテアルコトヲ、此ノ機會ニ相互ニ確認スルコトヲ得マシテ、各國ハ益々相信シ、相和シ、相倚リ、相扶ケテ其ノ共同ノ理想及ヒ共通ノ使命達成ニ向ツテ邁進スルコトト期待セラレルノテアリマス。是本會議ノ成果ノ第二點テアリマス。

第三ニ、而シテ特ニ重要ナル成果ハ、申ス迄モナク、斯クノ如キ各國政府ノ完全ナル見解ノ一致カ齎シマシタ所ノ大東亞共同宣言ノ採擇ヲ見ルニ至ツタコトテアリマス。本宣言コソハ、大東亞各國ノ戰爭觀及ヒ平和建設ノ理念ヲ、全世界ニ向ツテ簡潔強力ニ宣布スル大憲章テアリマシテ、世界ノ歴史ノ新タナル一章ハ茲ニ書キ下サレタノテアリマス。

大東亞各國及ヒ各國民ト致シマシテハ、更メテ茲ニ明確ナル共通ノ目標カ得ラレマシタルコトヲ欣ビ、愈々提携以テ目標ノ達成ニ奮勵スルニ至ルヘク、志向ヲ同シウスル全世界ノ諸國家諸民族ハ、大東亞各國ノ戰爭及ヒ建設ヲ通スル努力ニ對シ、尊敬ト同情トヲ表シ、大東亞建設ノ理念ニ對スル理解ヲ深メルコトトナルモノト信シマスシ、敵ノ戰爭目的ハ本宣言ノ發出ニ依リマシテ、愈々晦冥トナルハ必定テアリマス。

大東亞會議ハ、斯クノ如クニシテ所期ノ目的ヲ十二分ニ果シマシテ閉會ヲ告ケントスルノテアリマス。此ノ成功ニ

對シマシテ御同慶ニ堪ヘヌモノカアリマスカ、是偏ヘニ本會議ニ列席セラレマシタル關係國代表各閣下ノ御精勵ノ賜物テアリマスルト共ニ、關係各國民ノ本會議ニ對シマスル熱意ノ結晶テアリマシテ、御推舉ニ依リ議長席ニ着席致シマシタ不肖ト致シマシテ、茲ニ深甚ナル敬意ト、又深厚ナル謝意トヲ申述ヘタイト存スルノテアリマス。尙又主催國日本ヲ代表致シマシテ一言申添ヘタイト存シマス。時局柄特ニ國務極メテ御多端テアラセラレル所ノ各閣下ヲ御招キ申上ケマシタルニモ拘リマセス、議場ノ設備萬端意ニ任セス、甚タ恐縮ニ存シテ居ル次第テアリマス。不行届ノ點ハ何卒御海容ノ程ヲ御願ヒ致シタイト存シマス。

中華民國代表汪行政院院長ノ謝辭

議長閣下竝ニ各代表閣下、私ハ中華民國代表ト致シマシテ、皆様ノ御許シヲ得テ一言述ヘサセテ戴キタイト思ヒマス。

本大東亞會議カ、連日ニ互リ、東條總理大臣閣下ノ御指導ト各代表閣下竝ニ各位ノ御協力トニ依リ、茲ニ滯リナク終了シ、絶大ナル成果ヲ擧ケ得マシタコトニ對シマシテ、洵ニ慶賀ニ堪ヘナイ次第テアリマス。

大東亞共同宣言ハ既ニ世界ニ公表セラレマシタ。此ノ宣言ノ特色トスル所ハ東亞ノ道義精神ヲ昭ニ明示シ、歐米ノ功利主義の見解ヲ一掃シタコトニ在ルノテアリマス。之ヲ詳細ニ申述ヘマスレハ、米英ノ飽クナキ略奪ト搾取トヲ傳統トスル政策ヲ根柢ヨリ一掃シ、新タニ共存共榮ニ基ク東亞ノ新天地ヲ開拓シ、東亞諸國ヲシテ各々其ノ獨立自主ヲ確保シ、相互ニ其ノ獨立自主ヲ尊重セシメ、文化的ニハ各々其ノ固有ノ特質ヲ發揮セシムルト共ニ、緊密ナル協力ノ

下ニ融合ト創造トニ努メシムルニ在リ、又經濟的ニハ互惠ヲ以テ基調ト爲シ、長短相補ヒ、有無相通スルコトヲ實行スルニ在ルノテアリマス。斯クシテ大東亞諸國ハ必スヤ愈々其ノ團結ヲ固メ、國利民福ヲ一層増進セシメ得ルト共ニ、世界平和モ亦必スヤ是ヨリ發足スルモノト信スル次第テアリマス。即チ東亞ノ道義精神ハ、一視同仁ニシテ毫モ人種的偏見ナク、世界ノ平和ハ、之ニ依リ其ノ基礎ト方途トヲ見出シ得ルノテアリマシテ、米英ノ如キ人種的偏見ヲ懷クモノニハ全ク夢想タニシ得サル所ナノテアリマス。

私ハ微力ナカラ中華民國ノ代表トシテ、此ノ振古未曾有ノ盛大ナル會議ニ列スルノ光榮ニ浴シ、感激措ク能ハサルモノカアリマス。此ノ上ハ唯々國民ヲ領導シテ先進國日本ニ倣ヒ、且既ニ友好關係ニアル「タイ」國、滿洲國並ニ新興ノ「ビルマ」國、「フィリピン」國及ヒ自由印度假政府ト同心協力、大東亞共同宣言ヲ履行シ、以テ大東亞共存共榮ノ建設ヲ實現セシメントスルノミテアリマス。又私ハ中國尙未タ統一ヲ見ス、且中國ニシテ一日早ク統一セラレハ即チ一日早ク全國ノ心力、物力ヲ結集シ得、以テ大東亞ノ責任ヲ分擔シ得ルコトニ思フ致シ、只管全能ヲ盡シテ誘導ニ努メントスルモノテアリマス。

茲ニ謹ンテ誠意ヲ披瀝シ、東條議長閣下ノ御指導並ニ各代表閣下各位ノ御協力ヲ感謝シ、併セテ大東亞戰爭ノ必勝並ニ大東亞建設ノ成功ヲ祝福スルモノテアリマス。

附 錄 大東亞會議事務局發表

昭和十八年十一月五日及六日ノ兩日東京ニ於テ大東亞會議ヲ開催セリ同會議ニ出席ノ各國代表者左ノ通り

日 本 國

內閣總理大臣 東 條 英 機閣下

中 華 民 國

國民政府行政院院長 汪 兆 銘閣下

「タ イ」 國

內閣總理大臣「ビー・ピブン・ソングラム」元帥閣下ノ名代トシテ

「ワンワイタヤコーン」殿下

滿 洲 國

國務總理大臣 張 景 惠閣下

「フィリピン」共和國

大 統 領 「ホセ・ベ・ラウレル」閣下

「ビルマ」國

同會議ニ於テハ大東亞戰爭完遂ト大東亞建設ノ方針トニ關シ各國代表ハ隔意ナキ協議ヲ遂ケタル處全會一致ヲ以テ左ノ共同宣言ヲ採擇セリ

大東亞共同宣言

抑々世界各國カ各其ノ所ヲ得相倚リ相扶ケテ萬邦共榮ノ樂ヲ借ニスルハ世界平和確立ノ根本要義ナリ
然ルニ米英ハ自國ノ繁榮ノ爲ニハ他國家他民族ヲ抑壓シ特ニ大東亞ニ對シテハ飽クナキ侵略擄取ヲ行ヒ大東亞隸屬化ノ野望ヲ逞ウシ遂ニハ大東亞ノ安定ヲ根柢ヨリ覆サントセリ大東亞戰爭ノ原因茲ニ存ス

大東亞各國ハ相提携シテ大東亞戰爭ヲ完遂シ大東亞ヲ米英ノ桎梏ヨリ解放シテ其ノ自存自衛ヲ全ウシ左ノ綱領ニ基キ大東亞ヲ建設シ以テ世界平和ノ確立ニ寄與センコトヲ期ス

- 一、大東亞各國ハ協同シテ大東亞ノ安定ヲ確保シ道義ニ基ク共存共榮ノ秩序ヲ建設ス
- 一、大東亞各國ハ相互ニ自主獨立ヲ尊重シ互助敦睦ノ實ヲ擧ケ大東亞ノ親和ヲ確立ス
- 一、大東亞各國ハ相互ニ其ノ傳統ヲ尊重シ各民族ノ創造性ヲ伸暢シ大東亞ノ文化ヲ昂揚ス
- 一、大東亞各國ハ互惠ノ下緊密ニ提携シ其ノ經濟發展ヲ圖リ大東亞ノ繁榮ヲ増進ス
- 一、大東亞各國ハ萬邦トノ交誼ヲ篤ウシ人種的差別ヲ撤廢シ普ク文化ヲ交流シ進ンテ資源ヲ開放シ以テ世界ノ進運ニ貢獻ス

三六、大東亞新聞大會ニ於ケル天羽情報局總裁挨拶 (十一月十七日)

今回大東亞地域ノ新聞代表者ノ方々カ多數參集セラレ、茲ニ大東亞新聞大會カ開催セラレマシタコトハ誠ニ慶賀ニ堪ヘヌトコロテアリマス。東亞ニオケル新聞大會ハ皇紀二千六百年ニ當リソノ第一回ヲ東京ニテ開キ、翌年廣東ニテ第二回ヲ舉行シ、昨年滿洲建國十周年ニ當リ第三回ヲ新京ニテ開催シタノテアリマス。コレハ何レモ日滿華三國代表ノミノ會合テアリ全東亞ノ代表ヲ網羅シ得ナカツタノテ常ニ殘念ニ思フテ居タノテアリマス。

然ルニ今回日滿華ハモトヨリ速ク「タイ」、「フィリピン」、「ビルマ」、香港、「ボルネオ」、「マライ」、「ジャワ」、「セレベス」、「セラム」、「スマトラ」ヨリ多數代表ノ御參集ヲ得テ、茲ニ曠古ノ大會カ開カルコトハ先日開催セラレマシタ大東亞會議ト共ニ、大東亞興隆ノ象徴トシテ洵ニ同慶ニ堪ヘナイ次第テアリマス。又コノ機會ニ於テ皆様ニ所懷ノ一端ヲ述ヘ得マス事ハ私ノ最モ欣快トスルトコロテアリマス。

我々ハ今大東亞ヲ米英ノ侵略ヨリ防衛シテ大東亞ノ平和ヲ確保シ、大東亞ヲ米英ノ桎梏ヨリ解放シテ本然ノ姿ニ還シ、以テ大東亞ノ復興興隆ヲ圖ランカ爲ニ戰ツテキルノテアリマス。各位ニ於カレマシテモ新聞ニ依ル報道言論ヲ以テ、大東亞戰爭ノ完遂、大東亞ノ建設ニ日夜ヲ頌タス懸命ノ御奮闘ヲ續ケテ居ラレマス。コトハ私共ノ衷心ヨリ敬意ヲ表スルトコロテアリマス。

惟フニ過去數百年ノ永キニ亘ル英、米ノ東亞侵略ニ於テ彼等ノ最モ有力ナ武器トナツテキタモノハ實ニ謀略宣傳テ